



Agile Product Lifecycle Management

Product Collaboration ユーザー・ガイド

v9.3.0.2

部品番号 B61295-01

2011年2月

オラクル社の著作権について

Copyright © 1995, 2010, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントが、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供される場合は、次の Notice が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、このソフトウェアを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことによりして損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

このソフトウェアおよびドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することができます。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても、一切の責任を負いかねます。

目次

| | |
|---|------------|
| オラクル社の著作権について | ii |
| Product Collaborationのユースケース | xiv |
| アイテム | 1 |
| アイテム・オブジェクト | 1 |
| ライフサイクル・フェーズ | 3 |
| 「タイトル・ロック」タブ | 3 |
| 「タイトル・ロック」タブのフィールド | 4 |
| 「変更」タブ | 5 |
| 「BOM」タブ | 5 |
| 共通BOMを作成する | 6 |
| 拠点別のBOMを作成する | 6 |
| 「製造元」タブ | 7 |
| 「製造元」タブから製造元部品を表示する | 7 |
| 「拠点」タブ | 7 |
| 「価格」タブ | 8 |
| 「品質」タブ | 8 |
| 「適合性」タブ | 8 |
| 「サプライヤ」タブ | 8 |
| 「関係」タブ | 8 |
| 「添付ファイル」タブ | 9 |
| アイテム・オブジェクトでサムネイルを使用する | 10 |
| 「履歴」タブ | 10 |
| アイテムのリビジョンを処理する | 10 |
| 他のリビジョンを表示する | 11 |
| 初版リビジョン | 11 |
| 空白のリビジョン | 11 |
| リビジョン・リストの機能 | 12 |
| リビジョンと添付ファイルの機能 | 12 |
| リビジョン・リストおよび拠点リストの決定方法 | 14 |
| 保留中のリビジョンを処理する | 14 |
| 保留中のリビジョンの添付ファイル | 14 |
| スマートルール ファイルをリビジョンにコピーする | 14 |
| 保留中のリビジョンを作成する | 15 |
| 保留中のリビジョンを変更する | 15 |
| Agileアイテムを作成する | 16 |

| | |
|--------------------------|----|
| Webクライアントでアイテムを作成する | 16 |
| 「名前を付けて保存」を使用してアイテムを作成する | 17 |
| Javaクライアントでアイテムを作成する | 18 |
| 追加コマンドでアイテムを作成する | 19 |
| 保留中のリビジョンを作成する | 19 |
| 保留中のリビジョンを変更する | 20 |
| Agileアイテムを編集する | 20 |
| 未リリース・アイテムを編集する | 20 |
| リリース済アイテムを編集する | 21 |
| リリース済アイテムの「説明」フィールドを編集する | 21 |
| アイテムのサブクラスを変更する | 22 |
| Agileアイテムをリリースする | 22 |
| アイテムを未リリースにする | 23 |
| アイテムを確定する、未確定にする | 23 |
| ファイル・フォルダと添付ファイルの概要 | 24 |
| 確定の概要 | 24 |
| アイテムを事前確定する | 25 |
| アイテムを確定する | 25 |
| アイテムを未確定にする | 26 |
| 属性履歴レポート | 26 |
| 「使用箇所」タブ | 27 |
| 拠点と「使用箇所」タブ | 27 |
| アイテムを削除する | 28 |
| アイテムのタブを印刷する | 28 |
| 拠点および分散型製造 | 29 |
| Agile分散型製造とは | 29 |
| 拠点とは | 31 |
| 拠点の使用方法 | 32 |
| 拠点ごとに異なるAML | 32 |
| 拠点ごとに異なるBOM | 32 |
| 拠点ごとに異なる有効日および対応策 | 33 |
| 拠点の機能 | 33 |
| BOMおよびAML上の拠点情報 | 33 |
| アイテムの「拠点」タブ | 33 |
| 変更と拠点 | 34 |
| 拠点へのアクセスを管理する | 34 |
| BOM/AMLの共通セクション | 34 |

| | |
|-------------------------------------|----|
| 拠点に関する記載箇所..... | 35 |
| 拠点オブジェクト..... | 35 |
| 「一般情報」タブ - 拠点..... | 36 |
| 「一般情報」タブのフィールド - 拠点..... | 36 |
| 拠点のライフサイクル・フェーズ..... | 37 |
| 「購入にAMLが必須」フィールド..... | 37 |
| 「拠点AMLの許可」フィールド..... | 38 |
| 「添付ファイル」タブ | 39 |
| 「履歴」タブ | 39 |
| 拠点を作成する..... | 39 |
| 「名前を付けて保存」機能を使用して拠点を作成する..... | 40 |
| 拠点をアイテムに関連付ける | 40 |
| 「拠点」タブのフィールド..... | 40 |
| 「アイテムの拠点」タブの「内製/購入」フィールドを変更する | 41 |
| 「拠点」タブに拠点を追加する | 41 |
| 「拠点」タブから拠点を削除する | 42 |
| 拠点オブジェクトを削除する..... | 43 |
| 拠点を編集する..... | 43 |
| 拠点を印刷する..... | 44 |
| 製造オブジェクト..... | 45 |
| Agile AMLとは..... | 45 |
| Agile AMLの機能 | 45 |
| 製造オブジェクトについて | 46 |
| Agile AMLにおける多対一の関係 | 46 |
| 拠点とAMLデータ | 47 |
| 製造データを設定する | 47 |
| 製造オブジェクト: 製造元と製造元部品 | 48 |
| 製造オブジェクトのタブ | 48 |
| 「使用箇所」タブ | 49 |
| 拠点と製造元部品の「使用箇所」タブ | 50 |
| 「製造元部品価格」タブ | 50 |
| 「使用箇所」タブとディスカバリ権限 | 50 |
| 読み取り権限 | 50 |
| 製造元について | 51 |
| 製造元のライフサイクル・フェーズ | 51 |
| D-U-N-S番号 | 51 |
| 製造元部品について | 51 |
| 製造元部品のライフサイクル・フェーズ | 52 |
| 製造オブジェクトを作成および管理する | 52 |
| 製造元を作成する | 52 |

| | |
|-----------------------------|-----------|
| 「名前を付けて保存」機能を使用して製造元を作成する | 53 |
| 製造元部品を作成する | 55 |
| Webクライアントで製造元部品を作成する | 55 |
| Javaクライアントで製造元部品を作成する | 56 |
| 「名前を付けて保存」機能を使用して製造元部品を作成する | 58 |
| 製造オブジェクトを変更する | 60 |
| 製造オブジェクトを削除する | 61 |
| アイテムの「製造元」タブ | 61 |
| 「製造元」タブのボタン | 61 |
| 「製造元」タブのフィールド | 62 |
| 拠点ごとにAML情報を表示する | 63 |
| 製造元部品を対応するアイテムに関連付ける | 63 |
| 製造元オブジェクトを使用する際の重要な注意事項 | 64 |
| プレリミナリ・アイテムの製造データを使用する | 64 |
| 「製造元」タブに製造元部品を追加する | 64 |
| 「製造元」タブから製造元部品を削除する | 66 |
| 「製造元」タブの製造元部品を変更する | 66 |
| 「レッドライン」タブから製造データを変更する | 67 |
| 製造元データのレッドラインの概要 | 67 |
| 「製造元のレッドライン」タブ | 67 |
| 「製造元のレッドライン」タブに製造元部品を追加する | 69 |
| 「レッドライン」タブに存在しない製造元部品を追加する | 69 |
| 「レッドライン」タブから製造元部品を削除する | 70 |
| 「製造元のレッドライン」タブの製造元部品情報を編集する | 70 |
| 「製造元のレッドライン」テーブルの変更を元に戻す | 71 |
| 製造オブジェクトとAMLを印刷する | 72 |
| 部品構成表 (BOM) | 73 |
| 部品構成表 (BOM) について | 73 |
| 「BOM」タブ | 73 |
| Agile管理者が管理する内容について | 74 |
| 「BOM」タブのボタン | 74 |
| 「BOM」タブのボタン (Webクライアント) | 75 |
| 「BOM」タブのボタン (Javaクライアント) | 76 |
| BOMテーブルのフィールド | 76 |
| WebクライアントのBOMテーブル・フィールド | 77 |
| JavaクライアントのBOMテーブル・フィールド | 78 |
| BOMの共通および拠点別の部分 | 79 |
| 拠点ごとにBOMを表示する | 80 |
| BOMのアイテムを開く | 80 |

| | |
|--|-----|
| 「BOM」タブから部品、アセンブリ、ドキュメントを開く | 80 |
| アセンブリを展開、縮小する | 81 |
| BOMジャンプを使用する | 82 |
| 「展開されたBOM表示」ウィンドウ、Webクライアント | 83 |
| BOMのリビジョン表示 | 84 |
| ECOの影響を受けるアイテムのBOM | 84 |
| BOMテーブルの変更について | 84 |
| プレリミナリ・アイテムのBOMで拠点別の部分を変更する | 85 |
| Webクライアント、プレリミナリ・アイテムのBOMテーブルにアイテムを追加する | 86 |
| Webクライアント、BOMテーブルに追加するアイテムの番号を入力する | 86 |
| Webクライアント、簡易検索してBOMテーブルにアイテムを追加する | 87 |
| Webクライアント、新規作成してBOMテーブルにアイテムを追加する | 88 |
| Webクライアント、保存された検索を実行してBOMテーブルにアイテムを追加する | 88 |
| Webクライアント、カスタム検索してBOMテーブルにアイテムを追加する | 89 |
| Webクライアント、BOMテーブルにプレースホルダ行を追加する | 90 |
| Javaクライアント、プレリミナリ・アイテムのBOMテーブルにアイテムを追加する | 92 |
| Javaクライアント、BOMテーブルに追加するアイテムの番号を入力する | 92 |
| Javaクライアント、BOMテーブルに追加するアイテムの検索 | 93 |
| Javaクライアント、BOMテーブルに空の行を追加する | 94 |
| Javaクライアント、空の行を編集する | 95 |
| Javaクライアント、BOMテーブルの空の行を完成する | 96 |
| Javaクライアント、存在しないアイテムをBOMテーブルに追加する | 97 |
| プレリミナリ・アイテムのBOMテーブルを変更する | 97 |
| アイテムをBOMテーブルから削除する | 98 |
| 参照指示を使用する | 99 |
| 参照指示を表示する | 99 |
| 「参照指示の範囲の展開縮小を許可する」プリファレンス設定 | 99 |
| Webクライアントで参照指示を表示する | 100 |
| Javaクライアントで参照指示を表示する | 100 |
| 参照指示を追加する | 100 |
| 参照指示入力形式のガイドライン | 101 |
| 参照指示の先行ゼロ | 102 |
| 複数セグメントの参照指示入力形式のガイドライン | 102 |
| 参照指示フィールドを編集する | 105 |
| 重複した参照指示と拠点 | 105 |
| 参照指示を削除する | 106 |
| 参照指示を変更する | 106 |
| リリース済アイテムのBOMをレッドラインする | 107 |
| BOMレッドラインの概要 | 108 |
| 「BOMのレッドライン」タブ | 108 |
| 「BOMのレッドライン」タブのボタン | 110 |
| レッドラインBOMテーブルからアイテムを削除する | 111 |

| | |
|---|------------|
| レッドラインBOMテーブルにアイテムを追加する..... | 111 |
| レッドラインBOMテーブルのアイテム情報を編集する..... | 112 |
| 「BOMのレッドライン」テーブルの変更を取り消す..... | 113 |
| BOMデータを印刷する..... | 114 |
| 変更..... | 115 |
| 変更クラス | 115 |
| 変更サブクラス | 115 |
| 変更オブジェクト..... | 117 |
| 「カバー・ページ」タブ | 118 |
| 「カバー・ページ」タブのフィールド | 118 |
| 「カバー・ページ」タブのステータス | 120 |
| 「対象アイテム」タブ | 121 |
| 「ワークフロー」タブ | 122 |
| 「ワークフローの概要」セクション | 122 |
| Webクライアントの「ワークフロー」タブ、「基本」ビュー | 123 |
| Webクライアントの「現在のサインオフ・ステータス」ビュー | 123 |
| Javaクライアントの「ワークフロー」タブの「要約」テーブル | 124 |
| Javaクライアントの「ワークフロー」タブの「サインオフ履歴」テーブル | 125 |
| サインオフ期間 | 125 |
| ユーザー・アクション・タイムスタンプ | 126 |
| 「関係」タブ | 126 |
| 「添付ファイル」タブ | 127 |
| 「履歴」タブ | 127 |
| ワークフロー・ルーティング受信トレイ | 129 |
| 変更と製造拠点..... | 129 |
| 変更によって影響を受ける拠点の情報 | 130 |
| 拠点とECO | 131 |
| 拠点とMCO | 131 |
| 拠点毎変更 | 131 |
| 拠点別の有効日と破棄日 | 132 |
| 変更とアイテムのリビジョンとの関係 | 132 |
| 変更を作成する | 132 |
| 拠点毎変更 (SCO) での名前を付けて保存 | 133 |
| 変更を修正する | 133 |
| Agile変更管理ワークフロー | 134 |
| ECO、MCO、SCOによってレッドラインする | 134 |
| ECOによってレッドラインする | 134 |
| MCOをレッドラインする | 135 |
| SCOによってレッドラインする | 135 |

| | |
|--|------------|
| 変更を削除する | 135 |
| 変更のタブを印刷する | 135 |
| ルーティング管理者: 変更分析者とコンポーネント・エンジニア | 136 |
| 変更の対象アイテム | 137 |
| 「対象アイテム」タブ | 137 |
| 「対象アイテム」タブのボタン | 138 |
| 「対象アイテム」タブのフィールド | 140 |
| 「対象アイテム」テーブルの「拠点」フィールド | 141 |
| 古いアイテムの説明とアイテムの説明 | 141 |
| リビジョン | 142 |
| 破棄日および有効日 | 143 |
| ライフサイクル・フェーズおよび旧ライフサイクル・フェーズ | 143 |
| 製造拠点別の対象アイテム | 144 |
| 拠点別の値が許可されるフィールド | 144 |
| 拠点別の有効日と破棄日 | 145 |
| ECO (設計変更指示) またはSCO (拠点毎変更) の部品の処分を表示する | 145 |
| 「対象アイテム」タブにアイテムを追加する | 145 |
| Webクライアント、「対象アイテム」テーブルにアイテムを追加する | 146 |
| Webクライアント、「対象アイテム」テーブルに追加するアイテムの番号を入力する | 146 |
| Webクライアント、簡易検索して「対象アイテム」テーブルにアイテムを追加する | 147 |
| Webクライアント、新規作成して「対象アイテム」テーブルにアイテムを追加する | 147 |
| Webクライアント、保存された検索を実行して「対象アイテム」テーブルにアイテムを追加する | 148 |
| Webクライアント、カスタム検索して「対象アイテム」テーブルにアイテムを追加する | 148 |
| 対象アイテム追加ウィザードを使用する | 149 |
| 一括変更を実行する | 150 |
| BOM一括変更の概要 | 150 |
| 製造元部品 (AML) 一括変更の概要 | 154 |
| 対象アイテム・テーブルを使用する | 157 |
| ECOおよびMCOの「タイトル・ブロック」レッドライン・タブ | 158 |
| 変更制御下の属性 | 158 |
| ECO (設計変更指示) に関する特記事項 | 158 |
| ECO (設計変更指示) のリリースに必要なフィールド | 159 |
| MCO (製造元変更) に関する特記事項 | 160 |
| SCO (設計変更) に関する特記事項 | 160 |
| ECR (設計変更要求) に関する特記事項 | 161 |
| 期限付き変更指示に関する特記事項 | 162 |
| 出荷停止に関する特記事項 | 162 |
| 「対象アイテム」タブからアイテムを削除する | 163 |
| 「対象アイテム」タブの行を編集する | 163 |
| Webクライアントで「対象アイテム」タブの行を編集する | 164 |

| | |
|--|------------|
| Webクライアントのテーブルでの上方へコピーと下方へコピーの使用 | 164 |
| Javaクライアントで「対象アイテム」タブの行を編集する | 165 |
| Javaクライアントの「行を上方へコピー」ボタンおよび「行を下方へコピー」ボタン | 165 |
| 対象アイテムのレッドラインを表示する | 166 |
| 製品レポートとプロセス・レポートを使用する | 167 |
| Agileレポートについて | 167 |
| 製品レポートとプロセス・レポートについて | 168 |
| 製品レポートとプロセス・レポートにアクセスする | 168 |
| Agile製品レポート概要 | 168 |
| Agileプロセス・レポート概要 | 169 |
| 製品レポート | 170 |
| アセンブリ・コスト（アイテム・マスター）レポート | 170 |
| BOM展開レポート | 172 |
| 統合BOMレポート | 173 |
| 有効なBOM展開レポート | 174 |
| アイテムの状況レポート | 175 |
| アイテム属性比較レポート | 176 |
| 製造元BOMレポート | 177 |
| 使用箇所レポート | 179 |
| BOM比較レポート | 180 |
| 単一レベルのみのレガシーBOM比較レポート | 182 |
| アイテム属性履歴レポート | 183 |
| アイテム製造元レポート | 184 |
| プロセス・レポート | 185 |
| 変更状況レポート | 186 |
| 変更バックログ・レポート | 187 |
| 変更サイクル時間レポート | 189 |
| ユーザー・サインオフ期間レポート | 191 |
| 変更パッケージ・レポート | 192 |
| IP転送レポート | 193 |
| 変更メトリックス・レポート | 194 |
| パワー・ユーザーのためのヘルプ | 197 |
| 「ディスカバリ」権限と「読み取り」権限の詳細について | 197 |
| 表示不可能なフィールドを表示する | 198 |
| 部品とドキュメントの区別 | 198 |
| アイテムのサブクラスを変更する | 200 |
| ワークフローの照合基準について | 201 |

| | |
|--|------------|
| BOM上のリビジョン表示の詳細..... | 202 |
| スマート・オブジェクトURLを使用したAgileオブジェクトへの簡易アクセス..... | 203 |
| Agile生成の簡易アクセス・オブジェクトURL..... | 203 |
| ユーザー生成スマート・オブジェクトURLのフォーマット..... | 204 |
| 簡易アクセス・オブジェクトURLを使用する..... | 204 |
| Agileオブジェクトを削除する..... | 207 |
| オブジェクトをソフト削除する..... | 208 |
| オブジェクトの削除を取り消す..... | 208 |
| オブジェクトをハード削除する..... | 209 |
| 特定のAgileオブジェクト・タイプの削除に関する注意..... | 209 |
| アイテム・オブジェクトの削除に関する注意..... | 209 |
| 変更オブジェクトの削除に関する注意..... | 210 |
| 転送オブジェクトの削除に関する注意..... | 211 |
| PSRオブジェクトまたはQCRオブジェクトの削除に関する注意..... | 211 |
| ソーシング・プロジェクト、見積依頼オブジェクトおよび見積依頼回答オブジェクトの削除に関する注意..... | 212 |
| パッケージ・オブジェクトの削除に関する注意..... | 212 |
| 製造元オブジェクトの削除に関する注意..... | 212 |
| 拠点オブジェクトの削除に関する注意..... | 213 |
| ユーザー・オブジェクトの削除に関する注意..... | 213 |
| ユーザー・グループ・オブジェクトの削除に関する注意..... | 214 |
| PG&Cオブジェクトの削除に関する注意..... | 214 |
| Agile管理者におけるProduct Collaborationの設定..... | 215 |
| 参照指示のプリファレンス..... | 215 |
| 参照指示範囲の展開縮小を許可する..... | 216 |
| 編集モード: 参照指示の編集が「展開」、「縮小」の設定によって受ける影響..... | 216 |
| 参照指示範囲のインジケータ..... | 216 |
| デフォルト以外の参照指示範囲のインジケータを選択する理由..... | 216 |
| 先行ゼロを使用する参照指示..... | 217 |
| 複数セグメントの参照指示..... | 217 |
| アイテムの説明を改訂する..... | 218 |
| 変更指示オブジェクトを設定する..... | 219 |
| 各方法に適切な変更権限マスクを設定する..... | 219 |
| アイテム・オブジェクトの「説明」フィールドの変更..... | 219 |
| リビジョン管理、すべてのアイテム..... | 220 |
| リビジョン管理、すべてのアイテム..... | 222 |
| Product Collaborationオブジェクト・タブの設定についての注意事項..... | 223 |
| Product Collaborationに影響するAgile PLM設定についての注意事項..... | 223 |

| | |
|---------------------|-----|
| 拠点を設定する: 分散型製造..... | 224 |
| 変更制御下の属性とは..... | 226 |
| 変更制御下の属性を設定する..... | 227 |

はじめに

Agile PLMマニュアル・セットにはAdobe® Acrobat PDFファイルが含まれます。[Oracle Technology Network \(OTN\) Webサイト](http://www.oracle.com/technology/documentation/agile.html) (<http://www.oracle.com/technology/documentation/agile.html>) には、Agile PLMの最新版のPDFファイルがあります。このWebサイトのマニュアルは、その場で表示することもダウンロードして使用することもできます。また、使用しているネットワーク上のAgile PLMマニュアル・フォルダにAgile PLMマニュアル (PDF) ファイルが格納されている場合もあります。詳細は、Agile管理者にお問い合わせください。

注意 PDFファイルを表示するには、Adobe Acrobat Readerのバージョン 7.0 以降（無料）を使用する必要があります。このプログラムは、[Adobe社のWebサイト](http://www.adobe.com) (<http://www.adobe.com>) からダウンロードできます。

[Oracle Technology Network \(OTN\) Webサイト](http://www.oracle.com/technology/documentation/agile.html) (<http://www.oracle.com/technology/documentation/agile.html>) は、Agile WebクライアントとAgile Javaクライアントのいずれの場合も、「ヘルプ」→「マニュアル」の順に選択してアクセスできます。さらに疑問点がある場合やサポートが必要な場合は、My Oracle Support (<https://support.oracle.com>) にお問い合わせください。

注意 Agile PLM マニュアルに関する問題について Oracle サポートにお問い合わせいただく前に、タイトル・ページにある部品番号をご準備ください。

Oracle サポート・サービスへの TTY アクセス

アメリカ国内では、Oracle サポート・サービスへ 24 時間年中無休でテキスト電話 (TTY) アクセスが提供されています。TTY サポートについては、(800) 446-2398 にお電話ください。アメリカ国外からの場合は、+1-407-458-2479 にお電話ください。

Readme

Agile PLMの最新情報は、すべて[Oracle Technology Network \(OTN\) Webサイト](http://www.oracle.com/technology/documentation/agile.html) (<http://www.oracle.com/technology/documentation/agile.html>) にあるReadmeファイルに記載されています。

Agile トレーニング支援

Agile トレーニングの講義内容詳細は、[Oracle University Webページ](http://www.oracle.com/education/chooser/selectcountry_new.html) (http://www.oracle.com/education/chooser/selectcountry_new.html) にアクセスしてください。

ドキュメント内のサンプル・コードのアクセシビリティについて

スクリーン・リーダーは、ドキュメント内のサンプル・コードを正確に読めない場合があります。コード表記規則では閉じ括弧だけを行に記述する必要があります。しかし JAWS は括弧だけの行を読まない場合があります。

このドキュメントにはオラクル社およびその関連会社が所有または管理しない Web サイトへのリンクが含まれている場合があります。オラクル社およびその関連会社は、それらの Web サイトのアクセシビリティに関しての評価や言及は行っておりません。

Product Collaborationのユースケース

このセクションでは、次の Product Collaboration タスクの実行の詳細を検索する場所に関するリンクや情報について説明します。

□ アイテムの検索

- Agile PLM には、簡易検索、Agile 管理者が設定するアイテム属性のリストを使用するカスタム検索、および使用箇所検索を含む複雑な検索を定義できる詳細検索が用意されています。
- Web クライアントのナビゲーション・ウィンドウ・ツールバーで、「ヘルプ」ボタン? ▾をクリックし、「クイック・ツアー」を選択して、検索機能についての簡単なビデオを表示できます。
- Web クライアントと Java クライアントにおける検索の定義、保存および実行の詳細は、『Agile PLM スタート・ガイド』の「Agile データを検索する」を参照してください。

□ アイテムの作成

- [Web クライアントでアイテムを作成する](#) (16ページ)
- [Java クライアントでアイテムを作成する](#) (18ページ)
- [追加コマンドでアイテムを作成する](#) (19ページ)
- [「名前を付けて保存」を使用してアイテムを作成する](#) (17ページ)

□ プレリミナリ BOM へのアイテムの追加

- [Web クライアント、プレリミナリ・アイテムのBOMテーブルにアイテムを追加する](#) (86ページ)
- [Java クライアント、プレリミナリ・アイテムのBOMテーブルにアイテムを追加する](#) (92ページ)
- [プレリミナリ・アイテムのBOMテーブルを変更する](#) (97ページ)

□ BOM の展開表示

- [アセンブリを展開、縮小する](#) (80ページ)
- [「展開されたBOM表示」ウィンドウ、Web クライアント](#) (83ページ)
- [BOMジャンプを使用する](#) (82ページ)

□ アイテムに対する変更の作成

- [アセンブリを展開、縮小する](#) (80ページ)
- [「展開されたBOM表示」ウィンドウ、Web クライアント](#) (83ページ)
- [変更を作成する](#) (132ページ)

□ 変更指示のルート

- 『Agile PLM スタート・ガイド』の「ワークフローを使用してオブジェクトをルートする」を参照してください。

□ 変更指示のリリース

- [Agile アイテムをリリースする](#) (22ページ)
- 『Agile PLM スタート・ガイド』の「ワークフローを使用してオブジェクトをルートする」を参照してください。

□ 変更への対象アイテムの追加

- [「対象アイテム」タブにアイテムを追加する](#) (145ページ)

- [Webクライアント、「対象アイテム」テーブルにアイテムを追加する](#) (146ページ)
- [Javaクライアント、対象アイテムの追加ウィザードを使用する](#) (149ページ)
- プレリミナリ・アイテムへの製造元部品の追加
 - [「製造元」タブに製造元部品を追加する](#) (64ページ)
- BOM および AML のレッドライン
 - [リリース済アイテムのBOMをレッドラインする](#) (107ページ)
 - [「製造元のレッドライン」タブ](#) (67ページ)
- アイテム属性のレッドライン
 - [ECOおよびMCOの「タイトル・ブロック」レッドライン・タブ](#) (158ページ)
 - [変更制御下の属性とは](#) (226ページ)
- アイテム、変更、製造元部品、製造元に対する添付ファイルのチェックアウトとチェックイン
 - 『Agile PLM スタート・ガイド』の「添付ファイルを操作する」を参照してください。

アイテム

この章のトピック

| | |
|--------------------------|----|
| ■ アイテム・オブジェクト | 1 |
| ■ アイテムのリビジョンを処理する | 10 |
| ■ Agileアイテムを作成する | 16 |
| ■ Agileアイテムを編集する | 20 |
| ■ Agileアイテムをリリースする | 22 |
| ■ アイテムを確定する、未確定にする | 23 |
| ■ 属性履歴レポート | 26 |
| ■ 「使用箇所」タブ | 27 |
| ■ アイテムを削除する | 28 |
| ■ アイテムのタブを印刷する | 28 |

アイテム・オブジェクト

アイテムとは部品またはドキュメントのことです。一般に、ドキュメントが製品の一部として出荷されるか製品に関連するコストがある場合、部品オブジェクトとして作成します。ドキュメントが社内の文書、手順、または参考資料である場合、ドキュメントはドキュメント・オブジェクトとして作成します。(場合によっては、ドキュメントを部品として作成するほうが適切な場合もあります。) 詳細は、198ページの「[部品とドキュメントの区別](#)」を参照してください。

このセクションでは次のトピックについて説明します。

- [ライフサイクル・フェーズ](#) (3ページ)
- [「タイトル・ブロック」タブ](#) (3ページ)
- [「変更」タブ](#) (5ページ)
- [「BOM」タブ](#) (5ページ)
- [「製造元」タブ](#) (6ページ)
- [「拠点」タブ](#) (7ページ)
- [「価格」タブ](#) (7ページ)
- [「品質」タブ](#) (8ページ)
- [「適合性」タブ](#) (8ページ)
- [「サプライヤ」タブ](#) (8ページ)
- [「関係」タブ](#) (8ページ)
- [「使用箇所」タブ](#) (27ページ)
- [「添付ファイル」タブ](#) (8ページ)
- [「履歴」タブ](#) (10ページ)

アイテムを検索して開くには、『Agile PLM スタート・ガイド』にある手順に従います。

Web クライアントでアイテムを表示した場合、アイテムについての情報は右側のコンテンツ・ウィンドウのタブに表示されます。

Java クライアントでアイテムを表示した場合、アイテムについての情報はアイテム・ウィンドウ内のタブに表示されます。

次の表に、アイテム・タブを表示します。

Agile 管理者はタブやセクションを追加できます。これらは、デフォルトでは「ページ2」、「ページ3」という名前になっています。これらのタブやセクションには、管理者が定義したカスタム・フィールドが含まれています。

| アイテム・タブ名 | タブ情報の内容 |
|------------------------|---|
| 「タイトル・ロック」タブ (3ページ) | アイテムの一般情報、Agile 管理者が定義した固有のクラスおよびサブクラス・フィールド |
| 「変更」タブ (5ページ) | アイテムに対する保留中またはリリース済の変更 |
| 「BOM」タブ (5ページ) | アイテムの部品構成表 (BOM) |
| 「製造元」タブ (6ページ) | 部品のソースに関する製造元と製造元部品情報 |
| 「拠点」タブ (7ページ) | アイテムを使用する製造拠点 |
| 「価格」タブ (7ページ) | アイテムに関連付けられた価格 Product Cost Management (PCM) の詳細は、『Product Cost Management ユーザー・ガイド』を参照してください。 |
| 「品質」タブ (8ページ) | このアイテムに関連付けられている Product Quality Management (PQM) オブジェクトに関する情報。製品サービス依頼 (PSR) は、そのアイテムに関する PR (問題レポート) または NCR (不具合レポート) です。 PQM の詳細は、『Product Quality Management ユーザー・ガイド』を参照してください。 |
| 「適合性」タブ (8ページ) | アイテムに関連する材料規定の適合性に関する情報です。 Product Governance & Compliance (PG&C) の詳細は、『Agile Product Governance & Compliance ユーザー・ガイド』を参照してください。 注意: 「適合性」タブは Web クライアントでのみ表示されます。Agile PG&C は Web クライアントベースのソリューションです。 |
| 「サプライヤ」タブ (8ページ) | アイテムの承認済サプライヤに関する情報です。このタブは、PG&C と PCM 両方のソリューションで使用されます。 PG&C の詳細は、『Agile Product Governance & Compliance ユーザー・ガイド』を参照してください。 PCM の詳細は、『Product Cost Management ユーザー・ガイド』を参照してください。 注意: 「サプライヤ」タブは Web クライアントでのみ表示されます。Agile PG&C と Agile PCM は Web クライアントベースのソリューションです。 |

| アイテム・タブ名 | タブ情報の内容 |
|----------------------|---|
| 「関係」タブ (8ページ) | 「関係」タブでは、他の Agile オブジェクトとの関係、および現在のアイテム・オブジェクトと他のルーティング可能なオブジェクト間の依存関係を作成できます。 関係の詳細は、『Agile PLM スタート・ガイド』のビジネス・オブジェクトの使用に関する章を参照してください。 |
| 「使用箇所」タブ (27ページ) | アイテムの使用箇所 |
| 「添付ファイル」タブ (8ページ) | 添付図面とファイル |
| 「履歴」タブ (10ページ) | アイテムに対して実行されたアクション (たとえば添付ファイルの追加/削除) |

ライフサイクル・フェーズ

アイテムのオブジェクト・ウィンドウの右上にあるライフサイクル・フェーズ名は、そのアイテムの製造ライフサイクル・フェーズを示します。(Agile 管理者が組織用にライフサイクル名をカスタマイズした場合は、異なる名前が表示されることがあります。)

ライフサイクル・フェーズ名は、アイテムの「タイトル・ブロック」タブの「ライフサイクル・フェーズ」フィールドにも表示されます。3ページの「[「タイトル・ブロック」タブ](#)」を参照してください。

次の表にデフォルトのライフサイクル・フェーズを示します。

| ライフサイクル・フェーズ名 | ライフサイクルの定義 |
|---------------|---------------------------------------|
| プレリミナリ | アイテムはリリースされていません。保留中の変更が存在する可能性があります。 |
| プロトタイプ | アイテムは試作として限られた数量の組み立てのためにリリースされています。 |
| パイロット | アイテムは限られた初期数量の組み立てのためにリリースされています。 |
| 製造 | アイテムは通常の製造のためにリリースされています。 |
| 停止 | アイテムは一時的に使用されておらず、再開される可能性があります。 |
| 破棄 | アイテムは使用されていません。 |

「タイトル・ブロック」タブ

「タイトル・ブロック」タブには、一般的な書類でタイトル・ブロックに記載されるような情報を入力するフィールドが表示されます。一部のフィールドは自動的に入力されるため、残りを入力します。一部のフィールドの内容は編集できない場合があります。割り当てられている役割と権限によって、編集可能なエントリが決定されます。

アイテムの編集の詳細は、20ページの「[未リリース・アイテムを編集する](#)」と 21ページの「[リリース済アイテムを編集する](#)」を参照してください。

「タイトル・ブロック」フィールドの詳細は、3ページの「[「タイトル・ブロック」タブのフィールド](#)」を参照してください。

「タイトル・ブロック」タブのフィールド

デフォルトでは、アイテム・オブジェクトの「タイトル・ブロック」タブには次の表に示すフィールドが含まれます。Agile 管理者は「タイトル・ブロック」タブで使用可能および表示可能にするフィールドを決定します。

Web クライアントでは、「タイトル・ブロック」に「ページ 2」と「ページ 3」と呼ばれるセクションをデフォルトで追加できます。Java クライアントでは、これらは別々のタブとなります。Agile 管理者はカスタム・クラス・フィールドを「ページ 2」セクションに追加したり、顧客のサブクラス・フィールドを「ページ 3」セクションに追加できます。Agile 管理者は、これらのセクションを有効化するかどうか、何と呼ぶかを決定します。

| フィールド | 定義 |
|--|---|
| 番号 | アイテムの番号です。アイテムの番号は、アイテムが作成されると入力されます。Agile システムの設定によって、番号が自動生成されるか、ユーザーが番号を入力します。 |
| 説明 | アイテムを説明するテキストです。デフォルトでは、説明は 240 文字以内で、空白と改行もカウントされます（改行は空白 2 文字としてカウント）。 |
| サイズ | 図面のサイズです。リストから選択します。 |
| 製品ライン | アイテムが属する製造グループです。リストから選択します。 |
| ライフサイクル・フェーズ | 「プロトタイプ」、「製造」などの、表示されているリビジョンのアイテムのライフサイクル・フェーズです。詳細は、3 ページの「 ライフサイクル・フェーズ 」を参照してください。 |
| リビジョン確定日 | アイテムが確定された日です。アイテムが確定されると自動的に入力されます。 |
| リビジョン・リリース日 | アイテムがリリースされた日です。アイテムがリリースされると自動的に入力されます。 |
| 部品タイプ | アイテムのサブクラスです。アイテムが作成されると入力されます。Agile システムの設定によって、「部品タイプ」フィールドに自動入力されるか、ユーザーが部品タイプを選択します。詳細は、22 ページの「 アイテムのサブクラスを変更する 」を参照してください。 |
| 部品カテゴリ | アイテムを含むカテゴリです。リストから選択します。 |
| 有効日 | リビジョンが有効になる日付を表示します。この日付は、リビジョンをリリースした変更の「対象アイテム」タブで指定します。132 ページの「 拠点別の有効日と破棄日 」も参照してください。 |
| アイテム・グループ | このフィールドが有効な場合、現在のアイテムが属しているアイテム・グループが表示されます。 |
| 出荷可能アイテム ロールアップから除外 適合判定日付 部品ファミリ 質量 | これらのフィールドは Agile PG&C に関連しています。Product Governance & Compliance (PG&C) の詳細は、『Agile Product Governance & Compliance ユーザー・ガイド』を参照してください。 また、『Agile 管理者ガイド』と『Agile PLM スタート・ガイド』も参照してください。 |

| フィールド | 定義 |
|-------|----|
| 全体適合性 | |

「変更」タブ

アイテム・オブジェクトの「変更」タブには、表示しているアイテムに関する変更のリストが2つのテーブルに表示されます。このタブの情報は自動的に入力されます。並び替えの条件にする列見出しをクリックすると、テーブルを並び替えることができます。たとえば、説明別に並べ替えるには、「説明」という列の見出しをクリックします。

注意 変更のディスカバリ権限がない場合、その変更は「変更」タブには表示されません。表示されない変更の数を示すメッセージが表示されます。詳細は、197ページの「[「ディスカバリ」権限と「読み取り」権限の詳細について](#)」を参照してください。ディスカバリ権限または読み取り権限について質問がある場合は、Agile管理者に問い合わせてください。

上の表「保留中の変更」には、中断されている変更を含む保留中の変更が表示されます。下の表「変更履歴」には、リリース済変更とキャンセル済変更が表示されます。

「拠点」欄には、変更の「対象アイテム」タブに入力されている拠点が表示されます。「対象アイテム」タブに複数の拠点が表示されている場合は、変更は拠点ごとに一度表示されます。

注意 名前は類似していますが、「履歴」タブにはアイテムに対して実行されたアクションが表示され、「変更」タブの「変更履歴」テーブルにはアイテムのリリース済変更とキャンセル済変更が表示されます。

「変更」タブの変更を開くには

- Web クライアントで、変更番号をクリックします。
- Java クライアントで、今すぐ変更をダブルクリックします。

変更が開き、「カバー・ページ」タブが最前面に表示されます。

「BOM」タブ

「BOM」タブでは、部品構成表 (BOM) にあるすべてのアイテムが一覧されます。「BOM」タブの詳細は、73ページの「[部品構成表 \(BOM\)](#)」を参照してください。

注意 アイテムのディスカバリ権限がない場合、そのアイテムは「BOM」タブに表示されません。表示されないアイテムの数を示すメッセージが表示されます。詳細は、197ページの「[「ディスカバリ」権限と「読み取り」権限の詳細について](#)」を参照してください。

BOM に拠点別アイテムがある場合、共通アイテムと拠点別アイテムは一緒にグループ化されます。共通アイテムが最初にリストされ、共通アイテムの「拠点」欄は空白となります。拠点別アイテムの「拠点」欄には、関連する拠点名が表示されます。

注意 新規にアイテムを作成し、そのアイテムが変更の対象アイテム・テーブルに追加される前であれば、BOMテーブルを直接編集できます。6ページの「[共通BOMを作成する](#)」および6ページの「[拠点別のBOMを作成する](#)」を参照してください。

BOM の共通セクションには、親アイテムが関連付けられているすべての拠点に関連したアイテムが一覧表示されます。BOM の共通セクションは、リビジョン変更でのみ変更できます。

BOM の拠点セクションには、選択された拠点に固有のアイテムが一覧表示されます。BOM の拠点セクションは、リビジョン変更またはSCO（拠点毎変更）でのみ変更できます。拠点を BOM のセクションに表示させるには、そのサイトが親アイテムに関連付けられている必要があります。

注意 各拠点に色を割り当てることで、「**BOM**」タブの拠点セクションをカラー・コードできます。

すべての拠点のコンポーネントをすべて表示する場合は、「**拠点**」ドロップダウン・メニューから「すべて」を選択します。

「**BOM**」タブに表示されたアイテムを開く手順は次のとおりです。

- Web クライアントで、アイテム番号をクリックします。アイテムが開き、「タイトル・ロック」タブが手前に表示されます。
 - Java クライアントで、今すぐアイテムをダブルクリックします。アイテムが開き、「タイトル・ロック」タブが手前に表示されます。
- または、アイテム行を右クリックして「開く」を選択し、タブを選択します。アイテムが開き、選択したタブが最前面に表示されます。

共通BOMを作成する

新規にアイテムを作成し、そのアイテムが変更の「対象アイテム」テーブルに追加される前であれば、アイテム・オブジェクトの BOM テーブルを直接編集できます。

「**BOM**」タブにアイテムを追加する手順の詳細は、次を参照してください。

- [Webクライアント、プレリミナリ・アイテムのBOMテーブルにアイテムを追加する](#) (86ページ)
- [Javaクライアント、プレリミナリ・アイテムのBOMテーブルにアイテムを追加する](#) (92ページ)

BOM テーブルの共通部分にアイテムを追加すると、「拠点」の欄は空白となり、そのアイテムが BOM に割り当てられたすべての拠点に関連付けられていることが示されます。

拠点別のBOMを作成する

新規にアイテムを作成し、そのアイテムが変更の「対象アイテム」テーブルに追加される前であれば、アイテム・オブジェクトの BOM テーブルを直接編集できます。

注意 拠点別の BOM を作成するための拠点が「**拠点**」リストに表示されていない場合は、アイテムの「**拠点**」タブを通して、アイテムをその拠点に関連付ける必要があります。

「**BOM**」タブにアイテムを追加する手順の詳細は、次を参照してください。

- [Webクライアント、プレリミナリ・アイテムのBOMテーブルにアイテムを追加する](#) (86ページ)
- [Javaクライアント、プレリミナリ・アイテムのBOMテーブルにアイテムを追加する](#) (92ページ)

BOM テーブルの拠点別の部分にアイテムを追加すると、「**拠点**」の欄には、関連付けられた拠点として、「**拠点**」リストで選択された拠点が自動的に入力されます。

「製造元」タブ

「**製造元**」タブには、拠点別の製造元部品などの、アイテムで使用される製造元部品が表示されます。このタブの情報は、関連する製造オブジェクトから作成されます。Agile の AML 機能を使用していく、適切な権限がある場合、このタブでアイテムの承認済製造元リスト (AML) を作成できます。

「**製造元**」タブでは、並べ替え可能なテーブルに次の情報が表示されます。

- その部品を製造した製造元
- 製造元が供給する製造元部品（次を含む）
 - 製造元部品が推奨部品かまたは代替部品か
 - 製造元が現在その部品のアクティブな製造元であるか
 - Agile PLM の部品に対応する製造元の部品番号
- 製造元部品が適用される製造拠点（製造元部品は適用可能な拠点ごとに表示されます）。「**製造元**」タブの「**AML 分割**」欄では、選択した拠点の AML に割り当てるパーセント（%）を定義できます。

注意 製造元に対し「ディスカバリ」権限がない場合、「**製造元**」タブに表示されません。表示されない製造元の数を示すメッセージが表示されます。詳細は、197ページの「[「ディスカバリ」権限と「読み取り」権限の詳細について](#)」を参照してください。

「製造元」タブから製造元部品を表示する

アイテム・オブジェクトの「**製造元**」タブから製造元部品を開く手順は次のとおりです。

- Web クライアントで、製造元部品番号をクリックします。
 - Java クライアントで、今すぐ製造元部品をダブルクリックします。
- または、製造元部品行を右クリックして「**開く**」を選択し、タブを選択します。製造元部品が開き、選択したタブが最前面に表示されます。

「拠点」タブ

アイテムの「**拠点**」タブには、そのアイテムを使用する製造拠点や、そのアイテムに関連する拠点固有の情報を含む製造拠点がすべて一覧表示されます。

アイテムを拠点別 BOM および AML で使用可能にするには、該当する拠点をそのアイテムの「**拠点**」タブに追加する必要があります。たとえば、India 拠点のユーザーが部品の拠点固有の情報を追加できるようにするには、その部品の「**拠点**」タブに「India」を追加します。必要な権限があれば、「**拠点**」タブの情報を追加、編集、削除できます。

「**拠点**」タブの使用方法など、製造拠点の詳細は、40ページの「[「拠点をアイテムに関連付ける」](#)」を参照してください。

「価格」タブ

アイテム・オブジェクトの「価格」タブには、そのアイテムに関連付けられた価格に関する情報が表示されます。

価格管理と「価格」タブの詳細は、『Agile PLM スタート・ガイド』または『Product Cost Management ユーザー・ガイド』を参照してください。

「品質」タブ

アイテム（部品またはドキュメント）の「品質」タブには、そのアイテムを参照する製品サービス依頼（PSR）が一覧表示されます。PSR には、不具合レポート（NCR）と問題レポート（PR）が含まれます。ただし、企業の Agile 管理者によって、これら以外のタイプの PSR が定義されている場合があります。このタブは自動的に入力されます。「品質」タブおよび PQM 機能の詳細は、『Product Quality Management ユーザー・ガイド』を参照してください。

「適合性」タブ

アイテム・オブジェクトの「適合性」タブは Agile PG&C と関連しており、アイテムに関連する適合性のデクリレーションを表示します。詳細は、『Agile Product Governance & Compliance ユーザー・ガイド』を参照してください。

注意 「適合性」タブは Web クライアントでのみ表示されます。Agile PG&C は Web クライアントベースのソリューションです。

「サプライヤ」タブ

アイテム・オブジェクトの「サプライヤ」タブは Agile PG&C に関連しており、サプライヤとアイテムを関連付けることができます。詳細は、『Agile Product Governance & Compliance ユーザー・ガイド』を参照してください。

注意 「サプライヤ」タブは Web クライアントでのみ表示されます。Agile PG&C は Web クライアントベースのソリューションです。

「関係」タブ

アイテム・オブジェクトの「関係」タブでは、アイテム・オブジェクトと、他のビジネス・オブジェクト（ライフサイクル・オブジェクトとルーティング可能なオブジェクトの両方）との関係を作成できます。また、アイテム・オブジェクトとルーティング可能なオブジェクトとの間の依存関係（ルール）を作成できます。

注意 2 つのライフサイクル・オブジェクト（たとえば 2 つのアイテム）間の関係を作成できますが、2 つのライフサイクル・オブジェクト間の関係にはルールを追加できません。すべてのルールにおいて、少なくとも 1 つのオブジェクトはルーティング可能なオブジェクトである必要があります。詳細は、『Agile PLM スタート・ガイド』を参照してください。

「ルール」カラムには、関連するライフサイクル・オブジェクトのライフサイクル・フェーズが、ルーティング可能なオブジェクトのワークフロー進行にどのような影響を及ぼすかを定義したルールが表示されます。関連する両方のオブジェクトがルーティング可能なオブジェクトであるような関係においては、ルールによって、一方のルーティング可能なオブジェクトのワークフロー進行が、他方のルーティング可能なオブジェクトのワークフロー進行にどのような影響を及ぼすかが定義されます。

関係にルールが指定されていない場合は、関連するいずれかのオブジェクトのワークフロー進行またはライフサイクル・ステータスが制限されたり、影響を受けることはありません。ルールが指定されていない関係を使用すると、現在のアイテム・オブジェクトと関連はあるが、依存関係はないオブジェクトを記録できます。

関係およびこのタブの使用方法の詳細は、『Agile PLM スタート・ガイド』のビジネス・オブジェクトの使用に関する章を参照してください。

変更オブジェクトのすべてのタブの詳細は、117ページの「[変更オブジェクト](#)」を参照してください。

「添付ファイル」タブ

「添付ファイル」タブはすべてのオブジェクトにあります。「添付ファイル」タブでは、ファイル・フォルダ・オブジェクト内のファイルと URL を参照することによって、ファイルと URL をオブジェクトに添付できます。「添付ファイル」タブでは、適切な権限があれば、添付ファイルの表示、コピー（取出し）、または印刷が可能です。

添付された個々のファイルは、ファイル・フォルダ・オブジェクトに保存され、複数のオブジェクトに添付できます。ファイル・フォルダ・オブジェクトのファイルには、図面、スキャンした画像、ドキュメント、表示できないファイル、圧縮ファイルなどがあります。

フォルダ・オブジェクトの使用、および「添付ファイル」タブの詳細は、『Agile PLM スタート・ガイド』を参照してください。

確定済のアイテムの「添付ファイル」タブは変更できません。確定済アイテムの詳細は、23ページの「[アイテムを確定する、未確定にする](#)」を参照してください。

アイテムの「添付ファイル」タブの操作（追加、削除、編集）はリビジョン・ベースとなっています。添付ファイルは特定のECOによって作成されたリビジョン・アイテム（リビジョンA、リビジョンBなど）へ追加または削除されます。ECOによって作成されたアイテム・リビジョンには、添付ファイル機能があります。MCOやSCOは特定のアイテム・リビジョンに基づいていますが、それぞれ独自のリビジョンは持っていないため、添付ファイル機能はありません。アイテム・リビジョンと添付ファイルの詳細は、12ページの「[リビジョンと添付ファイルの機能](#)」を参照してください。

注意 添付ファイルは、アイテムのすべての製造拠点に適用されます。拠点別の添付ファイルはありません。

Web クライアントで共通の「添付ファイル」タブを操作する手順は次のとおりです。

- AutoVue for Agile でのファイルの表示 - ファイル名のリンクをクリックします。添付ファイルが AutoVue for Agile で表示できない場合、ファイルを作成したアプリケーションがコンピュータにインストールされていれば、そのアプリケーションで開きます。
- ファイルのローカル・コピーを取得 - 1つ以上の行を選択して、「**取出し**」ボタンをクリックします。

Java クライアントで共通の「添付ファイル」タブを操作する手順は次のとおりです。

- AutoVue for Agile でのファイルの表示 - 「添付ファイル」テーブルで行を選択し、「**ファイルの表示**」ボタンをクリックします。
- ネイティブ・アプリケーションでのファイルの表示 - 「添付ファイル」テーブルで行を選択し、「**ファイルを開く**」ボタンをクリックします。
- ファイルのローカル・コピーの取出し - 「添付ファイル」テーブルで行を選択し、「**ファイルの取出し**」ボタンをクリックします。

アイテム・オブジェクトでサムネイルを使用する

「履歴」タブ

「履歴」タブには、そのオブジェクトに対して実行されたアクションの要約（アクションの説明、アクションを実行したユーザー、日付、その他）が表示されます。

注意 オブジェクトの読み取り権限がない場合、「履歴」タブのフィールドの内容は表示できません。197ページの「[「ディスカバリ」権限と「読み取り」権限の詳細について](#)」を参照してください。

アイテムについて記録されるアクションのタイプは、次のとおりです。

- アイテムの作成
- 添付ファイルに関するアクション: 表示、開く、追加、削除、取り出し、チェックイン、チェックアウト、チェックアウトのキャンセル、確定、未確定、フィールド変更
- 名前を付けて保存
- 送信
- 印刷
- リリース済アイテムのサブクラスまたはフィールドの変更
- 確認通知の変更と共有

リリースされていないプレリミナリ・アイテムのフィールドの変更は、「関係」タブおよび「添付ファイル」タブへの変更についてのみ記録されます。他のプレリミナリ・アイテムのフィールドへの変更は、記録されません。

リリース済アイテムへの変更については、リビジョン情報が「リビジョン」列の履歴テーブル行に記載されます。

アイテムのリビジョンを処理する

アイテム・タブの上にある「拠点」と「リビジョン」フィールドには、製造拠点およびリビジョンに基づいたアイテム情報を表示できます。

アイテムを開いたとき、「リビジョン」フィールドには最新のリリース済バージョンが表示されます。

注意 変更指示の「対象アイテム」タブからアイテムを開くと、その変更指示に関連するリビジョンが表示されます。

このセクションでは次のトピックについて説明します。

- [他のリビジョンを表示する](#) (11ページ)
- [初版リビジョン](#) (11ページ)

- [空白のリビジョン](#) (11ページ)
- [リビジョン・リストの機能](#) (12ページ)
- [リビジョン・リストおよび拠点リストの決定方法](#) (14ページ)
- [保留中のリビジョンを処理する](#) (14ページ)
- [保留中のリビジョンの添付ファイル](#) (14ページ)

他のリビジョンを表示する

他のリビジョンを表示する手順は次のとおりです。

1. 特定の製造拠点に関するリビジョンを表示するには、その拠点を「拠点」ドロップダウン・リストから選択します。

注意 「拠点」ドロップダウン・リストから「すべて」を選択した場合、「リビジョン」リストのデフォルト値は、そのアイテムの最新のリリース済変更になります。

2. タブの上部にある「リビジョン」ドロップ・ダウン・リストからリビジョンを選択します。リビジョンを選択すると、対応する有効日が表示されます。

他のリビジョンを選択すると、選択したリビジョンの情報がすべてのタブに表示されます。たとえば、「BOM」タブでリビジョン C をリビジョン B に変更すると、他のタブにもリビジョン B の情報が表示されます。

注意 すべてのタブがリビジョン固有なわけではありません。たとえば、「使用箇所」タブと「履歴」タブはリビジョン固有ではありません。リビジョン固有でないタブを表示する場合、「リビジョン」ドロップ・ダウン・リストは無効化されています。

初版リビジョン

アイテムの最初のリビジョン（新しく作成された、リリースされていないアイテムのリビジョン）は、「初版」と表示されます。初版リビジョンに対する変更はなく、リビジョン文字は割り当てられていません。初版段階のアイテムは変更管理下にないため、直接変更できます。

初版リビジョンは、リリース済リビジョンと同様に扱われます。初版リビジョンは、「使用箇所」および「オブジェクト」の検索、「使用箇所」タブ、変更、「名前を付けて保存」機能では、基本リビジョンと見なされます。

「初版」は最も古いバージョンですので、リスト下方の「リビジョン」ドロップダウン・リストに表示されます。これは、リストの中で唯一、変更に関係していないバージョンです。

12ページの「[リビジョン・リストの機能](#)」も参照してください。

空白のリビジョン

「初版」ではないがリビジョン文字が割り当てられていないリビジョンがリストに表示されることがあります。これらを「空白のリビジョン」と呼びます。

空白のリビジョンは、あるアイテムを ECO がリリースする前にそのアイテムに対して MCO がリリースされた場合に表示されます。リリースする MCO によって、空白のリビジョンが作成されます。同様に、新しい ECO リビジョンが作成される前に行われた後続の変更によっても、空白のリビジョンが作成されます。「リビジョ

ン」リストには、リビジョン文字ではなく、MCO 番号が表示されます。次の例では、「リビジョン」リストに MCO M00001 によって作成された空白のリビジョンが表示されています。

(A) C00004
M00001

初版

リビジョン・リストの機能

上で説明したように、「リビジョン」リストの「初版」というリビジョンは、保留中の変更がない、オブジェクトの最初のリビジョンを示します。オブジェクトが変更時に一覧表示されると、リビジョンの文字が順番に表示されます。

リリース済リビジョンの場合、リリースする ECO の番号が、該当するリビジョンの横に表示されます。（アイテムは ECO によってのみ改訂できません）。たとえば、ある部品の ECO E54321 がリビジョン C のリリースであるとすると、「リビジョン」ドロップダウン・リストでリビジョン C が読み取られます。

C E54321

括弧内のリビジョン番号または文字は、そのリビジョンが保留中でありまだリリースされていないことを示します。

(A) C00004

「初版」ではないがリビジョン文字が割り当てられていないリビジョンがリストに表示されることがあります。これらを「空白のリビジョン」と呼びます。

空白のリビジョンは、あるアイテムを ECO がリリースする前にそのアイテムに対して MCO がリリースされた場合に表示されます。リリースする MCO によって、空白のリビジョンが作成されます。同様に、新しい ECO リビジョンが作成される前に行われた後続の変更によっても、空白のリビジョンが作成されます。「リビジョン」リストでは、リビジョン文字のかわりに MCO の番号が表示されます。

M00001

MCO と SCO はアイテム・リビジョンに基づいていますが、どちらも部品の新しいリビジョンは作成できず、それゆえに、どちらも添付機能は持っていない。 「リビジョン」ドロップダウン・リストで選択可能な MCO と SCO の変更は、それが基本となっている ECO 作成リビジョンまたは初版リビジョンの添付ファイルを継承します。

「リビジョン」ドロップダウン・リストの対応するリビジョンの横に MCO または SCO 番号が表示されます。たとえば、部品のリビジョン B に対して保留中の MCO M12345 がある場合、「リビジョン」ドロップダウン・リストのリビジョン B の表示は「(B) M12345」になります。

リビジョンと添付ファイルの機能

アイテム添付ファイルの操作（追加、削除、編集）はリビジョン・ベースとなっています。添付ファイルは、ECO 作成リビジョンまたは初版リビジョンからのみ追加または削除が可能です。 MCO や SCO はアイテム・リビジョンに基づいていますが、それぞれ独自のリビジョンは持っていないため、添付ファイル機能はありません。「リビジョン」ドロップダウン・リストで選択可能な MCO と SCO の変更は、それが基本となっている ECO 作成リビジョンまたは初版リビジョンの添付ファイルを継承します。

注意 ECO 作成リビジョンまたは初版リビジョンが確定していない場合、添付ファイルを追加または削除することはできず、添付ファイル・テーブルは編集できません。アイテムの確定の詳細は、23 ページの「[アイテムを確定する、未確定にする](#)」を参照してください。

8ページの「[「添付ファイル」タブ](#)」も参照してください。添付ファイルとファイル・フォルダの詳細は、『Agile PLMスタート・ガイド』の「添付ファイルの使用」に関する章を参照してください。ECOレッドラインの添付ファイルについては、『Agile Viewer付録』を参照してください。

下表は、アイテムの「リビジョン」ドロップダウン・リストにおける異なるエントリに対する添付ファイルの機能（追加、削除、編集）を示しています。

| リビジョン・リスト・エントリ | 添付ファイル機能 |
|----------------|--|
| (C) ECO-356 | はい、これは保留中の ECO によって作成されたリビジョンであるため、添付ファイル機能があります。 |
| B SCO-444 | いいえ、添付ファイル機能はありません。これは、リビジョン B がベースになっており、リビジョン B の添付ファイルを継承しています。 |
| B ECO-233 | はい、これは ECO によって作成されたリビジョンであるため、添付ファイル機能があります。 |
| A MCO-888 | いいえ、添付ファイル機能はありません。これは、リビジョン A がベースになっており、リビジョン A の添付ファイルを継承しています。 |
| A ECO-222 | はい、これは ECO によって作成されたリビジョンであるため、添付ファイル機能があります。 |
| 初版 | はい、これは初版リビジョンであるため、添付ファイル機能があります。初版リビジョンには、ECOによって作成されたリビジョンと同じ機能があります。11ページの「 初版リビジョン 」を参照してください。 |

| リビジョン・リスト・エントリ | 添付ファイル機能 |
|----------------|--|
| (B) MCO-934 | いいえ、添付ファイル機能はありません。保留中の MCO は、リビジョン B がベースになっており、リビジョン B の添付ファイルを継承しています。 |
| B ECO-572 | はい、これは ECO によって作成されたリビジョンであるため、添付ファイル機能があります。 |
| A SCO-444 | いいえ、添付ファイル機能はありません。これは、リビジョン A がベースになっており、リビジョン A の添付ファイルを継承しています。 |
| A MCO-788 | いいえ、添付ファイル機能はありません。これは、リビジョン A がベースになっており、リビジョン A の添付ファイルを継承しています。 |
| A ECO-333 | はい、これは ECO によって作成されたリビジョンであるため、添付ファイル機能があります。 |
| MCO-766 | いいえ、添付ファイル機能はありません。これは、初版リビジョンがベースになっており、初版リビジョンの添付ファイルを継承しています。 |
| 初版 | はい、これは初版リビジョンであるため、添付ファイル機能があります。初版リビジョンには、ECOによって作成されたリビジョンと同じ機能があります。11ページの「 初版リビジョン 」を参照してください。 |

リビジョン・リストおよび拠点リストの決定方法

すべてのリビジョンは、デフォルトの拠点や拠点へのアクセスに関係なく、すべてのユーザーに対して表示されます。ただし、アイテムを開いたとき、「リビジョン」ドロップダウン・リストは、デフォルトの拠点に対して最後に行われた変更に設定されています。

表示されるアイテムのデフォルトのリビジョンは、デフォルトの拠点に基づきます。「**拠点**」ドロップダウン・リストから別の拠点を選択した場合でも、デフォルトのリビジョンにはデフォルトの拠点の情報が反映されたままになります。

保留中のリビジョンを処理する

アイテムについて保留中のリビジョンを作成できます。アイテムに対して ECO を作成すると、その ECO によってアイテムの保留中のリビジョンが作成されます。保留中リビジョンにより、その BOM テーブルおよび製造元テーブルを変更するレッドラインを含め、変更管理の下でアイテムを変更できます。保留中リビジョンの添付ファイル・マークアップも作成できます。

保留中のリビジョンには、(A) のように「リビジョン」フィールドのリビジョン番号に括弧が付いています。

保留中アイテム・リビジョンの確定については、23ページの「[アイテムを確定する、未確定にする](#)」を参照してください。

保留中のリビジョンの添付ファイル

デフォルトでは、保留中のリビジョンが作成されると、現在のデフォルトのリビジョンに添付されているものと同じ添付ファイル・リストが継承されます。その後、現在のデフォルトのリビジョンにファイルが追加されるか、ファイルが削除されると、それらの変更は保留中のリビジョンの「添付ファイル」タブには反映されません。添付ファイルとアイテムのリビジョン・レベルに関する追加情報は、『Agile PLM スタート・ガイド』を参照してください。

163ページの「[「対象アイテム」タブからアイテムを削除する](#)」も参照してください。

スマートルール ファイルをリビジョンにコピーする

スマートルール「ファイルをリビジョンにコピーする」設定は、保留中リビジョンのアイテム添付ファイルがどのように作成および参照されるかを決定します。Agile 管理者は、新しい保留中リビジョンへの添付ファイル・リストのコピー、警告付きコピー、参照、警告付き参照、またはコピー禁止を設定します。

アイテムを保留中 ECO の「対象アイテム」テーブルに追加すると、アイテムの保留中リビジョンが作成されます。Agile PLM の「リビジョンリストにファイルをコピー」スマートルール設定により、保留中リビジョンの添付ファイルは次のように処理されます。

- **コピー** - アイテムの新しい保留中リビジョンに対して、Agile PLM は新規ファイル・フォルダを作成し、添付ファイルの新しいコピーを作成し、これを新規ファイル・フォルダに保存します。
- **参照** - Agile PLM は既存のファイル・フォルダを使用し、新しい保留中リビジョンの「添付ファイル」タブにこのファイル・フォルダに対する新規参照を作成します。
- **不可** - 新しいアイテムの保留中リビジョンが添付ファイルなしで作成されます。
- **警告付きでコピー** - コピーの設定と同じで、新しい保留中リビジョンに添付ファイルを選択しないというオプションがあります。

アイテムを保留中 ECO に追加すると、追加している各アイテムの行が記載された警告ダイアログが表示されます。

- アイテムを追加して添付ファイルをコピーするには、「**追加**」と「**添付ファイル**」チェック・ボックスの両方を選択します。

- 添付ファイルなしでアイテムを追加するには、「追加」チェック・ボックスのみを選択します。
- 警告付きで参照 - 参照**の設定と同じで、新しい保留中リビジョンに添付ファイルを選択しないというオプションがあります。
アイテムを保留中 ECO に追加すると、追加している各アイテムの行が記載された警告ダイアログが表示されます。
- アイテムを追加して既存の添付ファイルを参照するには、「追加」と「添付ファイル」チェック・ボックスの両方を選択します。
- 添付ファイルなしでアイテムを追加するには、「追加」チェック・ボックスのみを選択します。

スマートルールが「参照」または「警告付きで参照」に設定されていて、添付ファイルに複数のバージョンがある場合は、最新バージョンに対する参照のみが保留中リビジョンの新しい参照に使用されます。

たとえば、「部品 456」に対する ECO を作成する場合、「リビジョン C」（これによって、保留中「リビジョン D」を作成）、「リビジョン C」に添付されたすべての添付ファイルは保留中「リビジョン D」にも添付されます（リリース済「リビジョン C」の「添付ファイル」タブでは参照用のファイルとファイル・フォルダが保留中「リビジョン D」の「添付ファイル」タブで複製されます）。ECO の作成後に「リビジョン C」または「リビジョン C」「添付ファイル」変更（たとえば、ファイル・フォルダ・バージョン番号を変更）の「添付ファイル」タブに追加された添付ファイルはすべて、保留中「リビジョン D」にコピーされません。

注意 オブジェクトが変更に関連付けられた後に(それにより、「リビジョン A がリリース済になります」)「初版」リビジョンに追加された添付ファイルはそれ以降のリビジョンにコピーされません。MCO (製造元変更) と SCO (拠点毎変更) には独立した新しいリビジョンが作成されないため、このスマートルールは MCO と SCO には影響しません。

保留中のリビジョンを作成する

あるアイテムに対して保留中の ECO を作成すると、そのアイテムの保留中のリビジョンが作成されます。保留中のリビジョンには、(A) のように「リビジョン」フィールドのリビジョン番号に括弧が付いています。

保留中のリビジョンを作成する手順は次のとおりです。

- アイテムを作成します。
- ECO を作成します。
- アイテムを変更の「対象アイテム」タブに移動します。
- 対象アイテムにリビジョン番号を付けます。

注意 SCO は拠点別の変更のみを対象としています。SCO が共通の拠点情報に影響を与えることはなく、リビジョン番号を進めることもありません。SCO を使用して、まだリリースされていない、新規に作成されたアイテムの保留中のリビジョンは作成できません。

変更の作成の詳細は、115ページの「[変更](#)」を参照してください。

保留中のリビジョンを変更する

保留中のリビジョンは、他のオブジェクトと同様に変更します。保留中のリビジョンを変更すると、リリース済リビジョンに影響する可能性があるため、「タイトル・ロック」、「ページ 2」、「ページ 3」フィールドを変更するための権限が必要です。プレリミナリ・アイテムを変更する権限を持つユーザーは、アイテムの保留中リビジョンのフィールドを変更できます。リリース済アイテムを変更する権限のみを持ち、プレリミナリ・

アイテムの変更権限を持たない場合、アイテムの保留中リビジョンのフィールドを変更できません。割り当てられている変更権限について質問がある場合は、Agile 管理者に問い合わせてください。

21ページの「[リリース済アイテムを編集する](#)」も参照してください。

Agile アイテムを作成する

アイテムを作成するには、アイテムの作成権限が必要です。

Web クライアントでは、「新規作成」→「アイテム」コマンド、または「アクション」→「名前を付けて保存」コマンドによって、アイテムを作成できます。

Java クライアントでは、「ファイル」→「新規作成」→「アイテム」コマンド、または「新規オブジェクト」ボタンを使用してアイテムを作成できます。または、「さらに多くのアクション」メニュー（オブジェクト・ウィンドウ上部で「詳細」ボタンをクリック）および右クリックで表示されるショートカット・メニューの「名前を付けて保存」コマンドから作成することもできます。

親アイテムの「BOM」タブまたは変更の「対象アイテム」タブに追加して、アイテムの作成もできます。

このセクションでは次のトピックについて説明します。

- [Web クライアントでアイテムを作成する](#) (16ページ)
- [「名前を付けて保存」を使用してアイテムを作成する](#) (17ページ)
- [Java クライアントでアイテムを作成する](#) (18ページ)
- [追加コマンドでアイテムを作成する](#) (19ページ)

アイテムの最初のリビジョン（新しく作成された、リリースされていないアイテムのリビジョン）は、「初版」と表示されます。初版リビジョンの詳細は、11ページの「[初版リビジョン](#)」を参照してください。

一度アイテムを作成すると、そのアイテムは削除するまで残ります。新規アイテムを作成した後で不要になつた場合は、必ず削除してください。削除しないと、そのアイテムはデータベースに残り、番号が再利用できません。207ページの「[Agile オブジェクトを削除する](#)」を参照してください。

Web クライアントでアイテムを作成する

ウィザードを使用すると、プロセスを追ってアイテムを作成し、BOM、製造拠点、製造元、添付ファイルを指定できます。

Web クライアントでアイテムを作成、完成する手順は次のとおりです。

1. 「新規作成」メニュー・ボタンを使用して、作成するオブジェクト・クラスを選択します。例:
「新規作成」→「アイテム」→「部品」
「新規作成」→「アイテム」→「ドキュメント」
2. 「新規作成」ダイアログ・ボックスで、「タイプ」ドロップダウン・リストを使用して、作成するアイテムのタイプ（サブクラス）を選択します。

3. アイテムに番号を割り当てます。これには、提供された自動採番号を使用するか、または「自動採番」ボタン (123) を押して次の番号を使用するか、または番号を入力します。

アイテム番号を入力するために「自動採番」ボタン (123) をクリックすると、自動採番の選択肢のリストが表示されることがあります。自動採番フォーマットとシーケンスは、Agile 管理者が決定します。また、自動採番の使用が必須であるかオプションであるかも、Agile 管理者が決定します。

4. 必須フィールドを入力します。

5. 「保存」をクリックします。

右側のコンテンツ・ウィンドウにアイテムが表示され、タイトル・ページ・タブが編集モードで表示されます。

6. 必要に応じてタイトル・ページ・フィールドを編集して、「保存」をクリックします。

「変更」タブ、「使用箇所」タブ、「履歴」タブには情報を入力しません。これらのタブは自動的に入力されます。

18ページの「[Javaクライアントでアイテムを作成する](#)」、17ページの「[「名前を付けて保存」を使用してアイテムを作成する](#)」、および19ページの「[追加コマンドでアイテムを作成する](#)」も参照してください。

「名前を付けて保存」を使用してアイテムを作成する

「名前を付けて保存」機能により、既存のアイテムに似たアイテムを簡単に作成できます。

拠点別アイテムの場合、元のアイテムの製造拠点が新規アイテムにコピーされます。「BOM」タブおよび「製造元」タブの共通部分と拠点別部分にあるすべてのコンポーネントおよび製造元部品もコピーされます。（権限がない拠点はコピーされません）。「拠点」ドロップダウン・リストと「名前を付けて保存」で特定の拠点を選択している場合、選択した拠点のデータのみが新たに作成されたアイテムにコピーされます。

注意

一般に、クラスやサブクラス（タイプ）が元のオブジェクトと異なるオブジェクトを作成する場合は、「名前を付けて保存」は使用しないでください。クラスやサブクラスが違うと、タブや定義されるフィールドが異なる場合があり、新しく作成したオブジェクトの一部のデータにアクセスできなくなることがあります。

たとえば、部品には通常「BOM」タブがあります。デフォルトでは、ドキュメントに「BOM」タブはありません。部品をドキュメントとして保存すると、Agile 管理者がドキュメントで BOM を許可するようにシステムを設定していないかぎり、保存したドキュメントには部品の BOM を表示できません。

注意

既存のアイテムの BOM リスト上のアイテムに対するディスカバリ権限がない場合、「名前を付けて保存」を使って、検索できない BOM リスト・アイテムを含め、新規アイテムを作成できます。また、新たに作成されたアイテム上で、これらの BOM リスト・アイテムは検出できません。

Agile 管理者によって適切な属性が設定されている場合、オプションの「ページ2」セクションと「ページ3」セクションのフィールドが新規アイテムにコピーされます。使用中の Agile PLM システムにおける「ページ2」フィールドと「ページ3」フィールドの動作については、Agile 管理者にお問い合わせください。

アイテムに1つ、または複数の添付ファイルがある場合、新規アイテムの添付ファイルは Agile 管理者が Agile システム・プリファレンスで指定した方法により作成されます。

- 「ファイルの新規コピーを作成」- Agile は新規ファイル・フォルダを作成し、添付ファイルの新しいコピーを作成し、これを新規ファイル・フォルダに保存します。

- 「既存ファイルを参照」 - Agile は既存のファイル・フォルダを使用し、新規アイテムの「添付ファイル」タブにこのファイル・フォルダに対する新規参照を作成します。
- 「ファイルをコピーしない」 - 新しいアイテムは添付ファイルなしで作成されます。
- 「プロンプト」 - 前述の 3 つの方法のいずれかを選択するよう指示されます。アイテムに添付ファイルがない場合、プロンプトは表示されません。

「名前を付けて保存」では、既存のオブジェクトのフィールドから新規オブジェクトの同じフィールドにデータがコピーされます。既存のオブジェクトのフィールドまたはリストの値が新規オブジェクトで使用できない場合、そのフィールドまたはリストの値は新規オブジェクトにコピーされません。

拠点を使用するアイテムの場合

- 元のアイテムに複数の拠点があった場合でも、新規アイテムには、新規アイテムに関連付けられたデフォルトの拠点しかありません（「名前を付けて保存」操作の実行時に「拠点」ドロップダウン・リストで選択した拠点）。新規アイテムに新たな拠点が必要な場合は、手動で追加する必要があります。
- 元のアイテムの「拠点」ドロップダウン・リストから「すべて」を選択して「名前を付けて保存」操作を実行すると、元のアイテムのすべての拠点が新規アイテムにコピーされます。
- 元のアイテムにデフォルトの拠点がない場合、「名前を付けて保存」操作によって作成された新規アイテムにもデフォルトの拠点はありません。

Java クライアントでは、「ファイル」-「名前を付けて保存」コマンド、「その他のアクション」メニューの「名前を付けて保存」コマンド（オブジェクト・ウィンドウ上の「その他」ボタン  をクリック）、またはショートカット・メニューを右クリックして、アイテムを作成できます。

Web クライアントでは、「アクション」-「名前を付けて保存」コマンドを使用してアイテムを作成できます。

「名前を付けて保存」を使用してアイテムとその他のオブジェクトを作成する方法の詳細は、『Agile PLM スタート・ガイド』を参照してください。

18ページの「[Java クライアントでアイテムを作成する](#)」、16ページの「[Web クライアントでアイテムを作成する](#)」および19ページの「[追加コマンドでアイテムを作成する](#)」も参照してください。

Java クライアントでアイテムを作成する

新規オブジェクトを作成するプロセスには、主に 2 つの手順があります。まず空のオブジェクトを作成してから、そのオブジェクトに固有の情報をオブジェクトのタブに入力します。

Java クライアントでアイテムを作成、完成する手順は次のとおりです。

1. 「ファイル」メニューから、作成するオブジェクト・クラスを選択します。例:
「ファイル」→「新規作成」→「アイテム」→「部品」
「ファイル」→「新規作成」→「アイテム」→「ドキュメント」
2. 「新規作成」ダイアログ・ボックスで、「タイプ」ドロップダウン・リストを使用して、作成するアイテムのタイプ（サブクラス）を選択します。
3. アイテムに番号を割り当てます。これには、提供された自動採番号を使用するか、または「自動採番」ボタン  を押して次の番号を使用するか、または番号を入力します。

複数の自動採番形式が使用できる場合は、「自動採番」ボタンをクリックしたときに、使用可能な自動採番形式がリスト内に表示されます。使用する自動採番形式を選択します。

自動採番フォーマットとシーケンスは、Agile 管理者が決定します。また、自動採番の使用が必須であるかオプションであるかも、Agile 管理者が決定します。

- 必須フィールドを入力します。

- 「OK」をクリックします。

新規のアイテムが「タイトル・ブロック」タブに表示されます。

- 必要に応じて、アイテムのタブに情報を入力します。

「変更」タブ、「使用箇所」タブ、「履歴」タブには情報を入力しません。これらのタブは自動的に入力されます。

16ページの「[Webクライアントでアイテムを作成する](#)」、17ページの「[「名前を付けて保存」を使用してアイテムを作成する](#)」、および19ページの「[追加コマンドでアイテムを作成する](#)」も参照してください。

追加コマンドでアイテムを作成する

アイテムや変更の特定のタブ（「対象アイテム」タブや「BOM」タブなど）で「追加」ボタンをクリックすると、新規アイテムが作成されタブに追加されます。

新しいアイテムを作成することによって BOM テーブルにアイテムを追加するには、次を参照してください。

- [Webクライアント、新規作成してBOMテーブルにアイテムを追加する](#) (88ページ)
- [Javaクライアント、存在しないアイテムをBOMテーブルに追加する](#) (97ページ)

18ページの「[Javaクライアントでアイテムを作成する](#)」、16ページの「[Webクライアントでアイテムを作成する](#)」、および17ページの「[「名前を付けて保存」を使用してアイテムを作成する](#)」も参照してください。

保留中のリビジョンを作成する

あるアイテムに対して保留中の ECO を作成すると、そのアイテムの保留中のリビジョンが作成されます。保留中のリビジョンには、(A) のように「リビジョン」フィールドのリビジョン番号に括弧が付いています。

保留中のリビジョンを作成する手順は次のとおりです。

- アイテムを作成します。
- ECO を作成します。
- アイテムを変更の「対象アイテム」タブに移動します。
- 対象アイテムにリビジョン番号を付けます。

注意 SCO は拠点別の変更のみを対象としています。SCO が共通の拠点情報に影響を与えることはなく、リビジョン番号を進めることもありません。SCO を使用して、まだリリースされていない、新規に作成されたアイテムの保留中のリビジョンは作成できません。

変更の作成の詳細は、115ページの「[変更](#)」を参照してください。

保留中のリビジョンを変更する

保留中のリビジョンは、他のオブジェクトと同様に変更します。保留中のリビジョンを変更すると、リリース済リビジョンに影響する可能性があるため、「タイトル・ロック」、「ページ2」、「ページ3」フィールドを変更するための権限が必要です。プレリミナリ・アイテムを変更する権限を持つユーザーは、アイテムの保留中リビジョンのフィールドを変更できます。リリース済アイテムを変更する権限のみを持ち、プレリミナリ・アイテムの変更権限を持たない場合、アイテムの保留中リビジョンのフィールドを変更できません。割り当てられている変更権限について質問がある場合は、Agile管理者に問い合わせてください。

21ページの「[リリース済アイテムを編集する](#)」も参照してください。

Agileアイテムを編集する

プレリミナリ・アイテムとリリース済アイテムは、異なる方法で編集できます。プレリミナリ・アイテムは直接編集できますが、リリース済アイテムは変更指示により編集します。

このセクションでは次のトピックについて説明します。

- [未リリース・アイテムを編集する](#) (20ページ)
- [リリース済アイテムを編集する](#) (21ページ)
- [アイテムのサブクラスを変更する](#) (22ページ)

未リリース・アイテムを編集する

アイテムが未リリースの場合、アイテムの「タイトル・ロック」タブの番号やその他の多くの情報を編集できます。未リリース・アイテムの編集の詳細は、14ページの「[保留中のリビジョンを処理する](#)」と84ページの「[BOMテーブルを変更するには](#)」を参照してください。

注意　別のアイテムの子である部分の番号を変更しても、親と子の関連は保持されています。親アイテムがリリースされている場合、続行するかどうかを尋ねる警告が表示されます。

アイテムがリリース済か未リリースかに関係なく、「使用箇所」タブ、「変更」タブ、「履歴」タブなどの、自動的に入力されるアイテム・タブは編集できません。

たとえば、Webクライアントを使用して未リリースのアイテムの番号を変更するには次の操作を実行します。

1. アイテムを開きます。
2. 「**編集**」をクリックします。
3. 「**番号**」フィールドの番号を選択して、新規番号を入力します。
または、**123** ボタンをクリックして自動的に新しい自動採番を割り当てます。
4. 変更が完了したら、「**保存**」をクリックして変更を保存するか、「**キャンセル**」をクリックして変更を保存せずに「**編集**」ページを閉じます。

他のフィールドも同様の方法で変更します。オブジェクト・フィールドの編集の詳細は、『Agile PLM スタート・ガイド』の「[Agile Web クライアントの操作](#)」を参照してください。

たとえば、Javaクライアントを使用して未リリースのアイテムの番号を変更するには次の操作を実行します。

1. アイテムを開きます。
 2. 「番号」フィールドの番号を選択して、新規番号を入力します。
- または、をクリックして自動的に新しい自動採番を割り当てます。
3. 変更が完了したら、「保存」をクリックして変更を保存するか、「閉じる」をクリックして変更を保存せずにオブジェクト・ウィンドウを閉じます。

他のフィールドも同様の方法で変更します。

他のフィールドも同様の方法で変更します。オブジェクト・フィールドの編集の詳細は、『Agile PLM スタート・ガイド』の「Agile Java クライアントの操作」を参照してください。

リリース済アイテムを編集する

十分な権限がある場合、アイテムのリリース後であっても、アイテム・オブジェクトの「タイトル・ロック」タブのほとんどのフィールドを編集できます。次に例を示します。

- 「番号」フィールド
20ページの「[未リリース・アイテムを編集する](#)」を参照してください。
- 「説明」フィールド
21ページの「[リリース済アイテムの「説明」フィールドを編集する](#)」を参照してください。

リリース済アイテムの編集の詳細は、107ページの「[リリース済アイテムのBOMをレッドラインする](#)」を参照してください。

適切な権限があれば、アイテムのリリース後に添付ファイルを追加または変更することもできます（「添付ファイル」タブで）。

注意 権限について質問がある場合は、Agile 管理者にお問い合わせください。

リリース済アイテムの「説明」フィールドを編集する

注意 Agile 管理者が、変更指示の「対象アイテム」タブからのみリリース済アイテムの「説明」フィールドに変更を加えられるよう、Agile PLM を設定している可能性があります。

十分な権限がある場合、アイテムの最新リリース済リビジョンまたは保留中 ECO リビジョンの「説明」フィールドを編集できます。

- リリース済アイテムの「説明」フィールドを編集する場合、アイテムの最新リリース済バージョンにのみ、新しい説明が表示されます。
- 「説明」フィールドが何回も変更されている場合、一番最近の変更のみがアイテムの「説明」フィールドに表示されます。
- アイテムに保留中リビジョンがある場合、警告メッセージが表示され、新しい説明を保留中リビジョンにもコピーするかどうかを選択できるようになります。

注意 保留中リビジョンの変更指示「対象アイテム」タブに「古いアイテムの説明」（最新リリース済バージョン）と「新しいアイテムの説明」（保留中リビジョン）の両方が表示される場合、「対象アイテム」テーブルの「古いアイテムの説明」は、最新のリリース済バージョンにおける実際のアイテム説明を反映して更新されます。「対象アイテム」テーブルの「新しいアイテムの説明」（保留中リビジョン）は未変更のままとなります。

- 保留中リビジョンの「説明」フィールドを変更するには、次のいずれかの方法を使用します。Agile システムで利用可能な方法は、Agile 管理者がどのように Agile システムを設定し、あなたにどのような権限が与えられているかにより異なります。
 - アイテムを開き、「リビジョン」ドロップダウン・リストで保留中リビジョンを選択します。「説明」フィールドを編集し、編集を保存します。（適切な権限が必要です。）
 - 変更指示の「対象アイテム」タブを使用します。「対象アイテム」テーブルのアイテムの行を選択し、「編集」をクリックします。（新しい）アイテムの説明フィールドを編集し、内容を保存します。（適切な権限が必要です。）
- 「説明」フィールドへの変更は、アイテムがリリースされた後、アイテムの「履歴」タブに記録されます。

重要 アイテムの「説明」フィールドはMCOからは変更できません。MCOは新規アイテム・リビジョンを作成しません。MCOはECOリビジョンまたは初版リビジョンから、そのベースとなっている「説明」フィールドを使用します。

アイテムのサブクラスを変更する

管理者が追加サブクラスを作成した場合、適切な権限があれば、アイテムのサブクラスを変更できます。たとえば、あるドキュメントのサブクラスを含有基準からデータ・シートに変更できます。

アイテムのサブクラスの変更方法は、200ページの「[アイテムのサブクラスを変更する](#)」を参照してください。

Agile アイテムをリリースする

アイテムが直接リリースされて製造フェーズに切り替えられるわけではありません。そのかわりに、アイテムに対する変更（ECO）が作成され、その変更が変更管理プロセスを経てリリースされます。詳細は『Agile PLM スタート・ガイド』を参照してください。ECOおよびその他のAgile変更の詳細は、115ページの「[変更](#)」を参照してください。

アイテムをリリースする手順は次のとおりです。

1. 132ページの「[変更を作成する](#)」の手順に従って、アイテムをリリースするためのECOを作成します。
2. 115ページの「[変更](#)」の説明に従ってECOをルートします。
3. 必要なステータスを変更が通過すると、リリース可能な状態となります。通常、少なくとも1つの「レビュー」ステータス・タイプで、ユーザーが変更をサインオフします。

自動昇格が設定されている場合、変更がサインオフされてリリースの有効化に必要なすべての値が入力されると、自動的にリリースされます。

自動昇格が設定されていない場合、「[次のステータス](#)」ボタン（Java クライアントでは）をクリックして変更をリリースします。

注意 適切な権限があれば、「ワークフロー」タブを使用して、変更を直接ワークフローの「リリース済」ステータス・タイプに移動できます。

変更がリリースされると、アイテムもリリースされます。

ワークフローの処理の詳細は、『Agile PLM スタート・ガイド』を参照してください。

アイテムを未リリースにする

適切な権限があり、ワークフローで許可されていれば、リリース済アイテムを未リリースにできます。

注意: Agile ChangeCAST または Agile Content Service (ACS) を使用する場合は、アイテムを未リリースにしないでください。

アイテムを未リリースにする手順は次のとおりです。

1. アイテムを開きます。
2. 「**変更**」タブをクリックします。
3. アイテムをリリースした変更を開きます。
(アイテムに対してその後変更があった場合、それらの変更を作成順とは逆の順番で未リリースにする必要があります。)
4. 「**ワークフロー**」タブのステータス・チャートで、「**保留中**」ステータス・タイプを選択します。

注意 一度「リリース済」ステータスとなった変更のワークフローを、リリース前のステータス・タイプにすると、変更が未リリースとなります。変更が未リリースとなり、アイテムも未リリースとなります。変更のステータス・フローチャートに選択可能ステータスとしてそのようなステータス（「**保留中**」、「**提出**」、「**レビュー**」または「**中断**」タイプ）が表示されない場合は、そのステータスを選択して変更を未リリースにするために必要な権限がないか、変更に割り当てられたワークフローで変更を未リリースにする動作が許可されていないかのどちらかです。（ワークフローの一連のステータスを表示する方法の詳細は、『Agile PLM スタート・ガイド』の「**ワークフローを使用してオブジェクトをルートする**」を参照してください。）

「**ステータスの変更**」ダイアログが開きます。

5. 「**通知**」フィールドに情報を入力します。
6. 「**コメント**」フィールドにコメントを入力します。
7. 「**完了**」（Web クライアント）または「**OK**」（Java クライアント）をクリックします。

アイテムを確定する、未確定にする

適切な権限があれば、アイテムを確定できます。アイテムを確定すると、添付ファイルがロックされ、許可なく変更できなくなります。添付ファイルのないアイテムを確定した場合、添付ファイルは追加できません。

このセクションでは次のトピックについて説明します。

- [ファイル・フォルダと添付ファイルの概要](#) (24ページ)
- [確定の概要](#) (24ページ)
- [アイテムを事前確定する](#) (25ページ)

- [アイテムを確定する](#) (25ページ)
- [アイテムを未確定にする](#) (25ページ)

ファイル・フォルダと添付ファイルの概要

注意 添付ファイルとファイル・フォルダ・オブジェクトの詳細は、『Agile PLMスタート・ガイド』の「添付ファイルを操作する」と「ファイル・フォルダを操作する」を参照してください。8ページの「[添付ファイルタブ](#)」と12ページの「[リビジョンと添付ファイルの機能](#)」も参照してください。

「添付ファイル」タブはすべてのオブジェクトにあります。「添付ファイル」タブでは、ファイル・フォルダ・オブジェクト内のファイルやURLを参照することによって、ファイルやURLをアイテムに添付できます。添付された個々のファイルは、ファイル・フォルダ・オブジェクトに保存され、複数のオブジェクトに添付できます。アイテムの「添付ファイル」タブを開くと、各添付ファイル・テーブルにファイル・フォルダ・バージョンが表示されます。アイテムの「添付ファイル」タブからチェックアウトまたはチェックインするたびに、ファイル・フォルダ・バージョンは1つずつ増えています。適切な権限があれば、添付ファイル・テーブルを編集し、またファイル・フォルダの特定バージョンも選択できます。

アイテムを含む複数のオブジェクトが同じファイル・フォルダを参照できるため、異なるアイテムが同じファイル・フィルだの異なるバージョンを参照することもあります。アイテム123はファイル・フォルダのFF444のバージョン3を参照し、アイテム987はFF444のバージョン6を参照することが考えられます。

確定の概要

アイテム・バージョンを確定する場合、アイテムの添付ファイルを、現在アイテムの「添付ファイル」タブに表示されている特定のファイル・フォルダ・バージョンにロックできます。確定は、アイテム・オブジェクトにのみ適用されるアクションです。アイテム以外のビジネス・オブジェクト（ファイル・フォルダ・オブジェクトを含む）は確定できません。

注意 確定できるのは、ECOによって作成されたリビジョンおよび初版リビジョンのみです。添付ファイルとアイテム・リビジョンの詳細は、12ページの「[リビジョンと添付ファイルの機能](#)」を参照してください。

たとえば、アイテムの添付ファイルがSPEC.docというファイルであり、FF004に保存されているとします。アイテムの「添付ファイル」タブのファイル・フォルダ・バージョンはバージョン3です。このアイテムを確定すると、アイテムの添付ファイルはFF004のバージョン3にロックされます。同じように、アイテムの「添付ファイル」タブで選択されたバージョンが「**最新-4**」の場合、このアイテム・バージョンを確定すると、ファイル・フォルダ・バージョンはバージョン4に戻り、確定されたアイテムのバージョンにロックされます。アイテムが複数のファイル・フォルダに複数の添付ファイルを持っている場合、確定を実行すると、すべてのファイル・フォルダ・バージョンはロックされます。

重要 ファイル・フォルダにいくつのバージョンがあっても、アイテム・バージョンを一度確定すると、常にロックされたファイル・フォルダ・バージョンを参照するようになります。

同じファイル・フォルダを参照するすべてのオブジェクト「添付ファイル」タブから、チェックアウトやチェックイン・アクションを実行でき、またファイル・フォルダ・オブジェクト自身の「ファイル」タブでもチェックアウトやチェックイン・アクションを実行できるため、ファイル・フォルダが変更され、追加のファイル・フォルダ・バージョンが作成される可能性もあります。

アイテムが一度確定されると、その添付ファイルをアイテムの「添付ファイル」タブからチェックアウトできなくなります。添付ファイルのコピーを作成し、表示および使用することはできますが、未確定にすることな

く、アイテムのそのバージョンで添付ファイルは変更できません。（アイテムの添付ファイルの変更には、添付ファイルの追加や削除、添付ファイル・テーブルで表示されたファイル・フォルダ・バージョンの変更を含みます。）同様に、ファイルが1つでもチェックアウトされているアイテムは確定できません。

確定済アイテムに添付ファイルや、確定済アイテムに参照されているファイル・フォルダ・バージョンを追加したり添付ファイルを編集したりする前に、アイテムを未確定にする必要があります。変更を行った後、アイテムを再び確定済にできます。アイテムを確定または未確定にするには、適切な権限が必要です。

「確定済」および「未確定」ステータスは、特定のリビジョンのアイテムのすべての添付ファイルに適用されます。アイテムを確定すると、当該リビジョンとその添付ファイルのみが確定されます。たとえば、あるアイテムに3つの未確定リビジョンがある場合（リビジョン C、D、E）、リビジョン D を確定すると、リビジョン C と E は未確定のままとなります。

添付ファイルとファイル・フォルダ・オブジェクトの詳細は、『Agile PLM スタート・ガイド』を参照してください。

23ページの「[アイテムを確定する、未確定にする](#)」も参照してください。

アイテムを事前確定する

保留中の変更があるアイテムは、リリースする前に確定できます。その場合、アイテムは「事前確定済」となります。アイテムを事前確定することによって、リビジョンを暫定完了と指定し、添付ファイルのチェックアウトを「凍結」できます。（添付ファイルのコピーを「取り出す」ことはできますが、確定済アイテム・リビジョンに添付されたファイルは変更できません。）

事前確定は確定と同様に行いますが、未リリースのアイテムに対して実行します。手順は、25ページの「[アイテムを確定する](#)」を参照してください。

23ページの「[アイテムを確定する、未確定にする](#)」も参照してください。

アイテムを確定する

添付ファイルが1つでもチェックアウトされているアイテムは確定できません。

Webクライアントを使用してアイテムを確定する手順は次のとおりです。

1. アイテムを開きます。
2. 「アクション」→「確定」を選択します。

Javaクライアントを使用してアイテムを確定する手順は次のとおりです。

1. アイテムを開きます。
2. オブジェクト・ウィンドウ情報の「その他」ボタン  をクリックして「他のアクション」を表示し、「確定」を選択します。
または、ウィンドウを右クリックし、ショートカット・メニューから「確定」を選択します。

アイテムがリリースされる前に確定されると、確定プロセスは同様に実行されますが、その場合は事前確定と呼ばれます。25ページの「[アイテムを事前確定する](#)」を参照してください。

23ページの「[アイテムを確定する、未確定にする](#)」も参照してください。

アイテムを未確定にする

アイテムを未確定にすると、その特定のリビジョンのみが未確定になります。

Webクライアントを使用してアイテムを未確定にする手順は次のとおりです。

1. アイテムを開きます。
2. 「アクション」 → 「未確定」を選択します。

Javaクライアントを使用してアイテムを未確定にする手順は次のとおりです。

1. アイテムを開きます。
2. オブジェクト・ウィンドウ情報の「その他」ボタン  をクリックして「他のアクション」を表示し、「未確定」を選択します。
または、ウィンドウを右クリックし、ショートカット・メニューから「未確定」を選択します。

23ページの「[アイテムを確定する、未確定にする](#)」も参照してください。

属性履歴レポート

Web クライアントでは、「アクション」メニューを使用して、表示しているアイテムのアイテム属性履歴レポートを実行できます。詳細は、次も参照してください。

- [アイテム属性履歴レポート](#) (183ページ)
- [アイテム属性レポートの比較](#) (176ページ)
- [変更制御下の属性とは](#) (226ページ)

アイテム属性履歴レポートを実行する手順は次のとおりです。

1. 「アクション」メニューで、「属性履歴レポート」を選択します。「アイテム属性履歴レポートの実行」ウィザードが表示されます。
2. 「レイアウトと環境設定の選択」 ウィザード手順で、ドロップダウン・リストから必要なレイアウトを選択するか、 「編集」ボタンを使用して既存のレイアウトを編集するか、または  「作成」ボタンを使用して新しいレイアウトを作成します。
レイアウトに関する詳細情報は、『Agile PLM スタート・ガイド』の「Agile レポートを使用する」の章を参照してください。
3. レポートの出力形式を PDF、WORD、EXCEL または HTML から選択します。
4. 「次へ」をクリックします。「アイテムの選択」 ウィザード手順が表示されます。
5. 現在表示しているアイテムが事前に選択されています。
必要に応じて、事前に選択されているアイテムを削除して、異なるアイテムを選択できます。テキスト・フィールドに入力するか、または  をクリックして、簡易検索を実行します。
6. 「変更タイプ」フィールドで、ドロップダウン・リストを使用してレポートに含める変更を「変更指示」、「製造元変更」または「両方」から選択します。

- 「完了」をクリックし、レポートを実行して表示します。

選択した形式でレポートをダウンロードするよう求めるメッセージが表示されます。

「使用箇所」タブ

アイテム・オブジェクトの「**使用箇所**」タブには、そのアイテムを使用するすべてのアセンブリが一覧表示されます。このタブの情報は自動的に入力されます。

「**使用箇所**」タブには、2つのテーブルが含まれています。

- 「**使用箇所**」 - アイテムが使用されているアセンブリの最新リリース済のリビジョンを表示します。アセンブリがリリースされていない場合は、初版リビジョンが表示されます。詳細は、11ページの「[初版リビジョン](#)」を参照してください。
- 「**使用箇所の保留中変更**」 - 関連する変更番号を含め、アイテムが使用されているアセンブリの保留中のリビジョンを表示します。

Webクライアントで「保留中使用箇所」テーブルの表示/非表示を切り替える手順は次のとおりです。

Web クライアントの「**使用箇所**」タブで、表示するサブタブをクリックします。

- 「**使用箇所の保留中変更**」
- 「**使用箇所**」

Webクライアントを使用して「使用箇所」タブからアイテムを表示する手順は次のとおりです。

アイテム番号をクリックします。

Javaクライアントで「使用箇所の保留中変更」テーブルの表示/非表示を切り替える手順は次のとおりです。

「表示」ドロップダウン・リストを使用して、「保留中を表示」または「保留中を非表示」を選択します。

注意 「**使用箇所**」タブを最初に表示するとき、「**使用箇所の保留中変更**」テーブルはデフォルトで非表示になっています。

Javaクライアントを使用して「使用箇所」タブからアイテムを表示する手順は次のとおりです。

アイテムの行をダブルクリックします。

注意 アイテムのディスカバリ権限がない場合、そのアイテムは「**使用箇所**」タブには表示されません。表示されないアイテムの数を示すメッセージが表示されます。詳細は、197ページの「[「ディスカバリ」権限と「読み取り」権限の詳細について](#)」を参照してください。

「**使用箇所**」テーブルに表示される拠点情報の詳細は、27ページの「[拠点と「使用箇所」タブ](#)」を参照してください。

拠点と「使用箇所」タブ

アイテム・オブジェクトの「**使用箇所**」テーブルには、そのアイテムを使用するすべてのアセンブリが表示されます。アセンブリは、拠点ごとに一度、複数回表示されることがあります。「**使用箇所**」テーブルの「**拠点**」欄には、そのアイテムが含まれている BOM の共通部分（空白）と拠点別の部分が表示されます。

「**使用箇所**」テーブルの詳細は、27ページの「[「使用箇所」タブ](#)」を参照してください。

アイテムを削除する

アイテムの削除の詳細は、207ページの「[Agileオブジェクトを削除する](#)」を参照してください。

アイテムのタブを印刷する

Agile PLM システムから、オブジェクトのタブやその他のデータを印刷できます。現在のタブまたはすべてのタブを印刷できます。添付ファイルは、ファイルが作成されたアプリケーションまたは AutoVue for Agile ビューアから印刷します。

Web クライアントでは、オブジェクトを開いた状態で、「アクション」→「印刷」を選択します。

Java クライアントでは、オブジェクトを開いた状態で「印刷」ボタンを使用します。

オブジェクトの印刷の詳細は、『Agile PLM スタート・ガイド』を参照してください。

拠点および分散型製造

この章のトピック

| | |
|-----------------------|----|
| ▪ Agile分散型製造とは | 29 |
| ▪ 拠点とは | 31 |
| ▪ 拠点の使用方法 | 32 |
| ▪ 拠点の機能 | 33 |
| ▪ 拠点に関する記載箇所 | 35 |
| ▪ 拠点オブジェクト | 35 |
| ▪ 拠点を作成する | 39 |
| ▪ 拠点をアイテムに関連付ける | 40 |
| ▪ 拠点オブジェクトを削除する | 43 |
| ▪ 拠点を編集する | 43 |
| ▪ 拠点を印刷する | 44 |

Agile分散型製造とは

注意 Agile 複数拠点製造の導入および設定の詳細は、『管理者ガイド』を参照してください。

Agile 管理者が Agile PLM 拠点ライセンスを有効にすると、Agile 拠点オブジェクトおよび Agile PLM 複数拠点製造機能が使用可能になります。Agile 複数拠点製造機能は、複数の場所で製品を製造する会社を支援するためには使用されます（分散型製造）。この機能を使用する前に、Agile PLM 複数拠点製造と ERP システムとの統合方法を決定および計画する必要があります。

警告 Agile PLM 複数拠点製造機能は、ERP の拠点や組織とは異なる方法で構築されています。Agile 拠点オブジェクトと ERP の拠点や組織は似ていますが、同じではありません。Agile 拠点ライセンスを有効にする前に、オラクル社コンサルティングの Agile 担当コンサルタントと協力して、Agile PLM と ERP の統合について計画する必要があります。Agile PLM で追跡する情報のタイプ、および Agile PLM でその情報を記録する方法は、ERP システムにどのように製品情報が保存されるかに応じて異なる場合があります。

Agile 複数拠点製造では、製造プロセスに固有の部品やドキュメントを複数の場所で使用できるため、複数の場所で製品を製造する会社にとって便利です。Agile PLM では、リビジョンはグローバルなアイテム属性です。ある部品が 2 箇所の製造拠点で使用されている場合、その部品は同じリビジョン・レベルを共有している必要があります。ただし、有効日と対応策設定は異なる内容に設定できます。

Agile 複数拠点製造機能を使用すると、製品データに 3 種類の拠点関係の注釈を設定できます。

□ アイテム・オブジェクトと拠点の関係

アイテムの「**拠点**」タブの「**拠点**」テーブルに拠点オブジェクトを追加することによって、1つのアイテムを1つ以上の拠点に関連付けることができます。アイテムと拠点の関係は、ERPにおけるアイテムと拠点の関係と似ていますが、同じではありません。部品の「**拠点**」タブを表示することによって、いずれかの拠点で Agile 部品が有効になっているかどうかを確認できます。

- いずれの拠点でもリリースされていない部品には、グローバルなアイテムの有効日と対応策のみが設定されます。
- 拠点でリリースされた部品には、拠点別アイテムの有効日と対応策、およびグローバルなアイテムの有効日と対応策の両方を設定できます。

□ BOM の行と拠点の関係

BOM の行と拠点の関係は、Agile PLM 固有の関係となります。子部品と親部品の関係は、拠点関係がない場合と、1つ以上の特定の拠点を経由する場合とがあります。BOM の各行には、拠点との関係がないか、または1つの拠点との関係があります。同じ子部品に対する複数の拠点関係を表現するには、複数の行を使用し、各行で1つの拠点を表現します。

- 親部品に属する子部品のうち、BOM の行と拠点の特定の関係が設定されているものは、共通部品と見なされます。つまり、すべての製造拠点に共通の部品であると見なされます。
- 親部品に属する子部品のうち、BOM の行と拠点の関係が設定されているものは、拠点別部品です。つまり、関係がある製造拠点に固有の部品です。

□ AML テーブルの行と拠点の関係

部品の「**製造元**」タブでは、拠点別 AML（承認済製造元リスト）を指定できます。部品製造元テーブルの行は、共通（拠点の指定なし）または拠点別（部品の「**拠点**」タブに表示された拠点との関連付けあり）にできます。BOM の行と拠点の関係および AML の行と拠点の関係は、相互に独立しています。

- AML の行と拠点の特定の関係を持たない製造元部品は共通製造元部品であり、任意の製造拠点で使用できます。
- AML の行と拠点の関係を持つ製造元部品は拠点別製造元部品であり、指定された製造拠点で使用できます。

他の重要な Agile PLM 拠点と ERP 拠点の違いは次のとおりです。

- 多くの ERP システムでは、部品は様々な拠点で表示され、そのリビジョンは独立しています。Agile PLM では、リビジョンは部品のグローバル属性であると見なされます。したがって、Agile PLM では、拠点ベースのリビジョンはサポートされていません。このニーズに対応するには、SJC-P1000 や NYC-P100 のように、部品番号に一意の文字列を接頭辞または接尾辞として追加します。これらはグローバルなリビジョンを持つ一意の部品ですが、これらの部品は他の拠点では使用されないため、これらのリビジョンは拠点固有であるように見えます。
- アイテムと拠点の関係および BOM の行と拠点の関係は相互に独立しているため、最初に部品に拠点を追加することなく、拠点別 BOM 行として部品を BOM に追加できます。一般的な ERP システムとは異なり、Agile では、部品を拠点別 BOM 行に追加する前に拠点で部品をリリースしておく必要がありません。
- BOM 行を追加するとき、子にない拠点が親にある場合は、Agile PLM によって、子に拠点を追加するように求められます。この操作は、オーサリング・モード（部品の直接編集）またはレッドライン・モード（レッドラインの変更による部品の変更）で、BOM 行を最初に追加するときにのみ求められます。ユーザーは、BOM 行を追加するとき、子に拠点を「**コピー**」することのみを選択できます。「**閉じる**」を選択すると、BOM 行は追加されません。後で追加の拠点が親に追加された場合、新しく追加された拠点は自動的には子にコピーされません。拠点が子から削除された場合、親と子の拠点の間の整合性チェックは行われません。

- 部品のリリース時に、リリース検証によって、スマートルール「アイテムを最初にリリースする」が実行されます。親部品のリリース時に、このルールによって、BOM コンポーネントの拠点関連付けおよび BOM コンポーネントもリリースされているかどうかがチェックされます。リリース検証によって、拠点の追加後にアイテムが変更または製造元変更によってリリースされているかどうかが検証されます。このスマートルールで合格と判定されるには、拠点の追加後にアイテムがリリースされている必要があります。

拠点とは

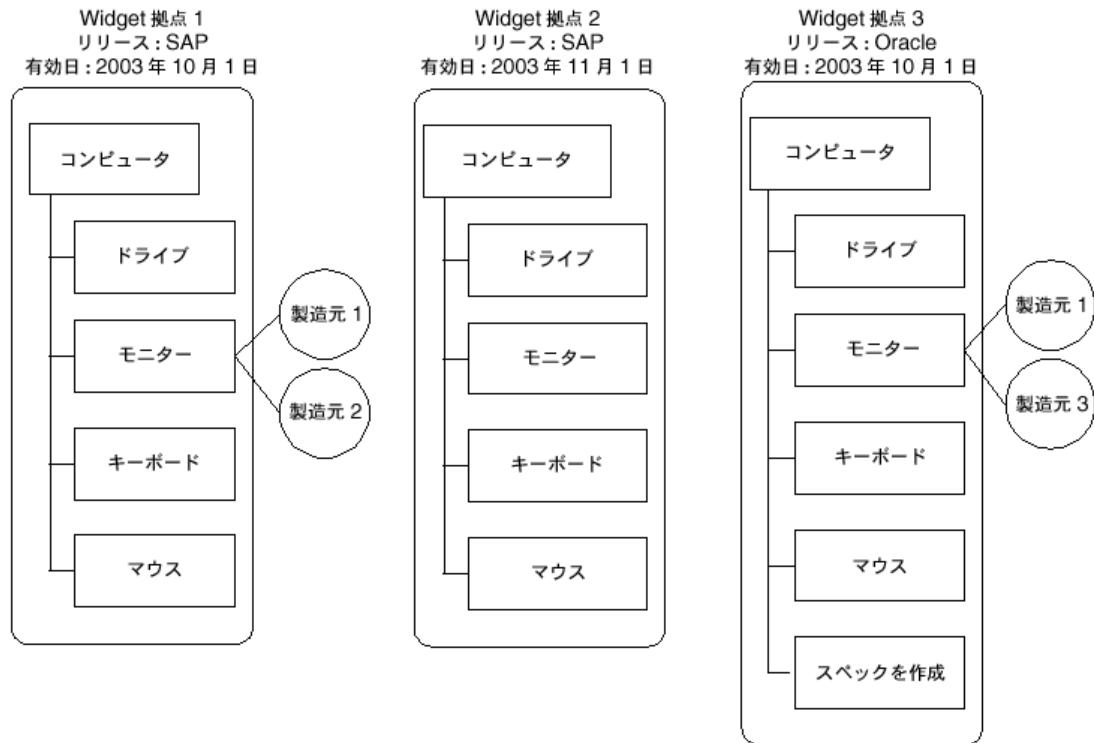
Agile PLM では、拠点オブジェクトは製造拠点を表します。分散型製造を実践している企業は、自社の製品を複数箇所の製造拠点で製造しています。たとえば、Widget Corporation は自社製品を本社所在地のテキサス州オースティンで製造していますが、台湾、シンガポール、メキシコシティ、およびカリフォルニア州ミルピタスの製造工場でも製造しています。

拠点オブジェクトにより、製造のニーズに関連した情報のみが確実に各 ERP に含まれるようになります。たとえば、企業は社内製造/購入拠点の関連付けにおいて、各社内 ERP または下請業者に送付されるものを管理できます。

拠点オブジェクトにより、ある製造拠点から別の製造拠点への製造の移行が容易になります。たとえば、Widget Corporation が、台湾のプロトタイプ拠点からメキシコシティの製造拠点に製品全体を移行するとします。そのためには、台湾の BOM にある部品でメキシコシティの BOM にはない部品すべてに対して製造拠点の関連付けを追加してから、その BOM を設計変更指示 (ECO) または拠点毎変更 (SCO) によってメキシコシティに送付します。

また、拠点オブジェクトにより、提案された有効日変更 (SCO) をユーザーが部品のリビジョンに対して作成できるようにし、拠点有効プロセスを正式なものにすることもできます。たとえば、拠点製造日を変更して遅らせる必要がある場合は、その部品に対する SCO により、有効日変更の承認と理由に関する簡単な記録が作成されます。

次の図は、Agile PLM での拠点の使用方法を示しています。この図に示されている 3 つの拠点では、ERP システム、有効日、製造元が異なります。また、拠点 3 では拠点固有の製造手順が追加されています。



拠点の使用方法

拠点を使い、拠点別の AML、BOM、および有効日を記録および管理できます。

このセクションでは次のトピックについて説明します。

- [拠点ごとに異なるAML](#) (32ページ)
- [拠点ごとに異なるBOM](#) (32ページ)
- [拠点ごとに異なる有効日および対応策](#) (33ページ)

拠点ごとに異なるAML

多くの場合、製造する製品が同じであっても、拠点が異なれば、使用する製造元や製造元部品も異なります。このような違いが生じる理由としては、コスト（近くの製造元を利用したほうがその拠点にとって費用効果が高い場合など）や製造元のステータスなどがあげられます。1つのアセンブリの AML には、多様な製造拠点向けに異なる製造元部品を含めることができます。

33ページの「[拠点の機能](#)」も参照してください。

拠点ごとに異なるBOM

1つのアセンブリの BOM には、特定の拠点のみに関連するアイテムを含めることができます。共通の BOM に

は、コア・アセンブリを構成するすべてのアイテムがリストされます。そのBOMはすべての拠点で同じですが、各製造拠点に割り当てられた適切なユーザーは、拠点別アイテムをそのBOMに追加できます（この操作により、BOMの拠点別の部分が作成されます）。多くの場合、追加のアイテムはドキュメントであり、拠点での製造方法に固有のアセンブリ手順などが例としてあげられます。

33ページの「[拠点の機能](#)」も参照してください。

拠点ごとに異なる有効日および対応策

アイテムの有効日と対応策は、拠点ごとに異なるものとできます。これにより、たとえば、オースティン拠点ではあるアイテムのリビジョンBの使用を開始する一方、シンガポール拠点では在庫がなくなるまでリビジョンAの使用を継続するということが可能になります。

有効日および対応策は、ECOやSCOの「[対象アイテム](#)」タブで指定します。新しい有効日または対応策を割り当てる際に新規リビジョンを作成する場合は、ECOを使用します。リビジョンを進めずに拠点別の有効日および対応策を割り当てるには、SCOを使用します。

33ページの「[拠点の機能](#)」も参照してください。

拠点の機能

拠点オブジェクトには、製造元オブジェクトと同様に、各拠点の情報を保持されます。適切な権限のあるユーザーは、追加の拠点を作成できます。

このセクションでは次のトピックについて説明します。

- [BOMおよびAML上の拠点情報](#) (33ページ)
- [アイテムの「拠点」タブ](#) (33ページ)
- [変更と拠点](#) (34ページ)
- [拠点へのアクセスを管理する](#) (34ページ)
- [BOM/AMLの共通セクション](#) (34ページ)

BOMおよびAML上の拠点情報

アイテムのBOMまたはAML（「[製造元](#)」タブ）を表示する場合、すべての拠点のものを表示するか特定の拠点のものを表示するかを選択できます。特定の拠点のBOMまたはAMLを表示した場合、共通のBOMまたはAMLがリストに含まれます。

33ページの「[拠点の機能](#)」、79ページの「[拠点ごとにBOMを表示する](#)」および63ページの「[拠点ごとにAMLを表示する](#)」も参照してください。

アイテムの「拠点」タブ

各アイテムには「[拠点](#)」タブがあります。「[拠点](#)」タブには、そのアイテムを使用できる拠点のリストが表示されます。ある拠点が、あるアイテムの「[拠点](#)」タブに表示されていない場合、そのアイテムがBOM内のその拠点固有の部分に表示されることはありません。親BOMのすべての拠点が、あるアイテムの「[拠点](#)」タブに表示されていない場合、そのアイテムがBOM内の共通部分に表示されることはありません。詳細は、34ページの「[BOM/AMLの共通セクション](#)」を参照してください。

33ページの「[拠点の機能](#)」と 32ページの「[拠点の使用方法](#)」も参照してください。

変更と拠点

アイテムのすべての拠点または特定の拠点を対象として、変更を反映できます。「**対象アイテム**」タブで、対象アイテムを追加する際に対象となる拠点を選択できます。また、拠点毎変更 (SCO) を使用して、リビジョンを変更せずにアイテムに対する拠点別の変更を作成できます。

33ページの「[拠点の機能](#)」、129ページの「[変更と製造拠点](#)」および 131ページの「[拠点毎変更](#)」も参照してください。

拠点へのアクセスを管理する

拠点の使用は、次の項目によって管理されます。

- 組織のライセンス
- 割り当てられた役割と権限
- ユーザー・プロファイルで割り当てられている「拠点」プロパティ
- デフォルトで表示される拠点を決定する、ユーザー・プロファイルに割り当てられた「デフォルトの拠点」プロパティ

また、拠点は、望む数だけ作成できます。

組織によっては、ユーザーが特定の拠点に関する情報のみにアクセスできるように、拠点を設定している場合があります。

ユーザー・プロファイルの「**拠点**」リストは、どの拠点オブジェクトを Agile データベースで検出できるか、またそのアイテム拠点関連の行（「**BOM**」タブ、「**製造元**」タブ）を検出できるかを管理します。拠点オブジェクト属性を読み取る能力は、「**読み取り**」権限で管理されます。

管理者権限のあるユーザーは、ユーザーの「ユーザー・プロファイル」属性を変更する際に、すべての拠点を割り当てることができます。ただし、Web クライアントまたは Java クライアントで拠点を検索する際、管理者ユーザーがディスカバリーできるのは自分のユーザー・プロファイルの「**拠点**」リストに表示されている拠点のみです。

32ページの「[拠点の使用方法](#)」と 33ページの「[拠点の機能](#)」も参照してください。

BOM/AMLの共通セクション

BOM の共通セクションは、アイテムの「**拠点**」タブに表示されているすべての拠点間で共有される情報を識別します。あるアセンブリの BOM の共通セクションにあるすべての部品は、そのアセンブリの「**拠点**」タブに表示されているすべての拠点を、部品の「**拠点**」タブに表示させているはずです。よって、それらの部品は拠点を共有していることになります。

たとえば、アセンブリ 234 の BOM の Milpitas 固有の部分に部品 300 を表示させる場合、部品 300 とアセンブリ 234 の両方の「**拠点**」タブに拠点「Milpitas」と表示されている必要があります。アセンブリ 234 の「**拠点**」タブに 3 つの拠点（Milpitas、India、San Jose）がある場合に、アセンブリ 234 の BOM の共通部分に部品 300 が表示されるようにするには、部品 300 の「**拠点**」タブにも少なくともそれら 3 つの拠点（Milpitas、India、San Jose）が含まれている必要があります。つまり、2 つの部品は 3 つの拠点を共有しなければならないことになります。（部品 300 の「**拠点**」タブには、アセンブリ 234 に関連のない拠点も追加できます。）リリース時に Agile

でアイテムの BOM コンポーネントの拠点の関連付けが適切かどうかをチェックするか否かが、スマートルール（アイテムを先にリリース）によって制御されます。ECO、SCO、またはMCO がアセンブリをリリースする際には、スマートルールへの準拠が確認されます。また、変更「検証リリース」機能によって、リリース前にスマートルールへの準拠も確認できます。

6ページの「[共通BOMを作成する](#)」と 6ページの「[拠点別のBOMを作成する](#)」も参照してください。

拠点に関する記載箇所

拠点に関する情報は、次のセクションに記載されています。

| トピック | セクションまたは章 |
|---------------|--|
| 拠点オブジェクト | この章の残りの部分 |
| アイテムの「拠点」タブ | この章および第1章「 アイテム 」(1ページ) |
| 拠点別情報の表示 | 次の章: 第1章「 アイテム 」(1ページ) 第4章「 部品構成表 (BOM) 」(73ページ) 第6章「 変更の対象アイテム 」(137ページ) 第3章「 製造オブジェクト 」(45ページ) |
| 拠点別 BOM | 第4章「 部品構成表 (BOM) 」(73ページ) |
| 拠点別 AML | 第3章「 製造オブジェクト 」(45ページ) |
| SCO | 第5章「 変更 」(115ページ) および第6章「 変更の対象アイテム 」(137ページ) |
| 拠点に対する変更の反映 | 第5章「 変更 」(115ページ) および第6章「 変更の対象アイテム 」(137ページ) |
| 拠点別情報のレッドライン | 第6章「 変更の対象アイテム 」(137ページ) |
| 拠点別の有効日および対応策 | 第6章「 変更の対象アイテム 」(137ページ) |

拠点オブジェクト

拠点オブジェクトには、拠点に関する一般的な情報が含まれます。アイテムとは異なり、拠点はリリース・プロセスを通過する必要はありません。

このセクションでは次のトピックについて説明します。

- [「一般情報」タブ - 拠点](#) (36ページ)
- [「添付ファイル」タブ](#) (38ページ)
- [「履歴」タブ](#) (39ページ)

アイテムを検索して開くには、『Agile PLM スタート・ガイド』にある手順に従います。

次の表に、拠点のタブを表示します。

Agile 管理者によって、「タイトル・ブロック」または「一般情報」タブにセクションが追加されている場合があります。これらは、デフォルトでは「ページ 2」、「ページ 3」（Web クライアント）という名前になっています。Java クライアントでは、これらは別々のタブとなります。これらのタブやセクションには、管理者が定義したカスタム・フィールドが含まれています。

| 拠点のタブ名 | タブ情報の内容 |
|--------|------------------------------------|
| 一般情報 | 拠点に関する一般情報 |
| 添付ファイル | 添付された図面、ファイル、および拠点に関連する URL |
| 履歴 | 拠点に対して実行されたアクション（たとえば添付ファイルの追加/削除） |

「一般情報」タブ - 拠点

「一般情報」タブには、拠点についての基本情報を含むフィールドがあります。一部のフィールドは自動的に入力されるため、残りを入力します。一部のフィールドの内容は編集できない場合があります。

このセクションでは次のトピックについて説明します。

- [「一般情報」タブのフィールド - 拠点](#) (36ページ)
- [拠点のライフサイクル・フェーズ](#) (37ページ)
- [「購入にAMLが必須」フィールド](#) (37ページ)
- [「拠点AMLの許可」フィールド](#) (38ページ)

「一般情報」タブのフィールド - 拠点

拠点オブジェクトの「一般情報」タブには、デフォルトで、次の表に示すフィールドが含まれます。

| フィールド | 定義 |
|--|---|
| 名前 | 拠点の名前。このフィールドには固有の値を入力する必要があります。 |
| タイプ | 拠点オブジェクトのサブクラス（タイプ） |
| ライフサイクル・フェーズ | 拠点の現在の状態: 「有効」または「無効」。 |
| 拠点の ERP コード | 拠点で使用されている ERP システム（該当する場合）。 |
| 住所、所在地、都道府県、国/地域、市町村、郵便番号、電話番号、URL、ファックス | 拠点の連絡先情報。 |
| 担当者 | 拠点の担当者の名前。 |
| 電子メール | 連絡先担当者の電子メール・アドレス。 |
| バイヤー | その拠点におけるアイテムのバイヤーコード。拠点に割り当てられているコードのリストからいずれかのコードを選択します。 |

| フィールド | 定義 |
|-------------|--|
| プランナ | その拠点におけるアイテムのプランナコード。拠点に割り当てられているコードのリストからいざれかのコードを選択します。 |
| 色 | その拠点に関連付けた色。色のリストから選択します。この色は、共通アイテムを拠点別アイテムと区別するために「BOM」、「製造元」および「対象アイテム」タブで使用します。複数の拠点に同じ色を使用できます。 |
| 拠点 AML の許可 | 「購入」と指定されているアイテムに関して、拠点固有の製造元の値が必須、可、不可のいざれであるかを示します。 |
| 購入に AML が必須 | その拠点に対してアイテムが「購入」（反対は「製造」）と指定されている場合に、そのアイテムで製造元の値が必須かどうかを示します。アイテムが「購入」か「製造」かは、そのアイテムの「拠点」タブの「内製/購入」フィールドに表示されます。 |

35ページの「[拠点オブジェクト](#)」、37ページの「[拠点のライフサイクル・フェーズ](#)」、37ページの「[「購入に AML が必須」フィールド](#)」および38ページの「[「拠点 AML の許可」フィールド](#)」も参照してください。

拠点のライフサイクル・フェーズ

- 拠点は、次のいざれかの状態になります。これは、拠点の「一般情報」タブの「ライフサイクル・フェーズ」フィールドに表示されます。
- **有効** - 拠点が有効の場合、ユーザーは拠点自体のすべての拠点プロパティを定義できます。また、拠点をアイテムに関連付け、アイテム - 拠点プロパティを定義し、拠点別の BOM および AML を作成し、拠点別アイテムに対して変更を作成することも可能です。
- **無効** - 拠点が最初に作成されたときにすべての拠点が無効になります。拠点が無効の場合、ユーザーは拠点別の BOM、AML、変更を作成できません。ただし、拠点が無効になっている場合でも、検索結果やレポートには表示されます。無効にされた拠点を含む進行中の変更はすべてリリースを通して続行を許可されますが、ユーザーは無効にされた拠点の拠点別「対象アイテム」テーブル行を編集できず、また拠点が無効にされている場合、進行中の変更に対してレッドラインの追加や変更を行うこともできません。

拠点のライフサイクル・フェーズを変更するには、ドロップダウン・リストからライフサイクル・フェーズを選択します。

36ページの「[「一般情報」タブのフィールド - 拠点](#)」も参照してください。

「購入に AML が必須」フィールド

拠点の「購入に AML が必須」フィールドは、アイテムが特定の拠点に対して「購入」と指定されている場合に、そのアイテムで AML が必須かどうかを決定します。

注意 アイテムが「購入」と指定されているかどうかは、そのアイテムの「拠点」タブの「内製/購入」フィールドの値によって決まります。

アイテムがリリースされると、そのアイテムがどの拠点に対してリリースされているのかがシステムによって確認されます。これは、リリースする変更の「対象アイテム」タブに表示されています。次に、アイテムの「拠点」タブの「内製/購入」フィールドがチェックされ、「購入」と指定されている拠点がないかどうかが確認されます。あるアイテムがすべての拠点に対して「製造」と指定されている場合、このルールは無視されます。

「購入に AML が必須」の値として使用できるのは、「はい」または「いいえ」（デフォルト）です。

- 「いいえ」 - デフォルト値です。リリース時に、Agile PLM システムはアイテムに拠点の AML があるかどうかを確認しません。この場合でも、アイテムをリリースすることは可能です。ただし、Agile PLM システムでは、「**拠点 AML の許可**」プロパティの設定についての追加のチェックを実行します。
- 「はい」 - リリースされているアイテムには、共通の AML か、そのアイテムの「購入」拠点として指定されている拠点に固有の AML のどちらかが必要です。
「**購入に AML が必須**」が「はい」に設定されている場合、自動昇格によってアイテムのリリースが試行（変更を介して）されたとしても、適切な拠点の拠点別 AML がそのアイテムにないと、昇格は失敗し、担当者に通知されます。

36ページの「[「一般情報」タブのフィールド - 拠点](#)」も参照してください。

「**拠点 AML の許可**」フィールド

このフィールドは、アイテムが特定の拠点に対して「購入」と指定されている場合に使用され、アイテムの AML が次のいずれの状態になるかを決定します。

- 拠点に固有でなければならない
- 特定の拠点に対して変更できる
- 共通拠点 AML のみを使用できる

注意 アイテムが特定の拠点に対して「購入」と指定されているかどうかは、そのアイテムの「**拠点**」タブの「**内製/購入**」フィールドの値によって決まります。

アイテムがリリースされると、そのアイテムがどの拠点に対してリリースされているのかがシステムによって確認されます。これは、リリースする変更の「対象アイテム」テーブルに表示されています。次に、拠点の「**拠点 AML の許可**」フィールドがチェックされ、拠点別 AML のためにそれらの拠点のいずれかが必須であるか、または許可されているかが確認されます。

「**拠点 AML の許可**」の値として使用できるのは、「可」（デフォルト）、「必須」および「不可」です。

- 「**可**」 - リリースされているアイテムにはその拠点用の拠点別 AML が許可されていますが必須ではありません。アイテムはリリースできます。
- 「**必須**」 - リリースされているアイテムには、そのアイテムの「購入」拠点として指定されている拠点用の拠点別 AML が必要です。この条件が満たされるまで、アイテムはリリースできません。
自動昇格によってアイテムのリリースが試行（変更を介して）されたとしても、適切な拠点の拠点別 AML がそのアイテムにない場合には、昇格は失敗し担当者に通知されます。
- 「**不可**」 - リリースされているアイテムは、その拠点用の拠点別 AML を持つことはできません。アイテムに拠点別 AML がある場合にはリリースできません。
自動昇格によってアイテムのリリースが試行（変更を介して）されたとしても、アイテムに拠点別 AML がある場合には、昇格は失敗し担当者に通知されます。

AML の変更またはレッドラインによってアイテムに拠点別 AML が作成される場合、アイテムがリリースされると、拠点の「**拠点 AML の許可**」フィールドがシステムによってチェックされ、「**拠点 AML の許可**」が「不可」に設定されている拠点がないかどうかが確認されます。ある拠点が「不可」の場合、ユーザーはその拠点の拠点別 AML をリリースできません。

36ページの「[「一般情報」タブのフィールド - 拠点](#)」も参照してください。

「添付ファイル」タブ

「添付ファイル」タブはすべてのオブジェクトにあります。「添付ファイル」タブでは、ファイル・フォルダ・オブジェクト内のファイルとURLを参照することによって、ファイルとURLをオブジェクトに添付できます。「添付ファイル」タブでは、適切な権限があれば、添付ファイルの表示、コピー（取出し）、または印刷が可能です。

添付された個々のファイルは、ファイル・フォルダ・オブジェクトに保存され、複数のオブジェクトに添付できます。ファイル・フォルダ・オブジェクトのファイルには、図面、スキャンした画像、ドキュメント、表示できないファイル、圧縮ファイルなどがあります。

フォルダ・オブジェクトの使用、および「添付ファイル」タブの詳細は、『Agile PLM スタート・ガイド』を参照してください。

35ページの「[拠点オブジェクト](#)」も参照してください。

「履歴」タブ

「履歴」タブには、そのオブジェクトに対して実行されたアクションの要約（アクションの説明、アクションを実行したユーザー、日付、その他）が表示されます。

注意 オブジェクトの読み取り権限がない場合、「履歴」タブのフィールドの内容は表示できません。197ページの「[「ディスカバリ」権限と「読み取り」権限の詳細について](#)」を参照してください。

拠点について記録されるアクションのタイプは、次のとおりです。

- 拠点の作成
- 添付ファイルに関するアクション: 表示、開く、追加、削除、取出し
- 名前を付けて保存
- 送信
- 印刷
- サブクラスの変更
- 拠点の任意のフィールドの変更

35ページの「[拠点オブジェクト](#)」も参照してください。

拠点を作成する

新規オブジェクトを作成するプロセスには、主に2つの手順があります。まず空のオブジェクトを作成してから、そのオブジェクトに固有の情報をオブジェクトのタブに入力します。

拠点を作成するには、拠点の作成権限が必要です。

Web クライアントでは、「**新規作成**」→「**拠点**」コマンドまたは「**アクション**」→「**名前を付けて保存**」コマンドにより、拠点を作成できます。

Java クライアントでは、「ファイル」→「新規作成」→「拠点」コマンド、または「新規オブジェクト」ボタンを使用して拠点を作成できます。または、「さらに多くのアクション」メニュー（オブジェクト・ウィンドウ上部で「詳細」ボタンをクリック）および右クリックで表示されるショートカット・メニューの「名前を付けて保存」コマンドから作成することもできます。

注意 拠点番号が拠点に固有であるのと同じように、拠点名は、拠点に固有である必要があります。

共通アイテムを拠点別アイテムと区別するために「BOM」、「製造元」、「変更」、および「対象アイテム」タブで使用する色を選択します。Java クライアントでは、拠点の色はアイテムの「使用箇所」タブにも表示されます。拠点の色の詳細は、36ページの「[「一般情報」タブのフィールド - 拠点](#)」を参照してください。

拠点を作成すると自動的に、その拠点に固有の情報にアクセスできるようになります。新規の拠点は、ユーザー・プロファイルの「拠点」フィールドに入れられます。

「名前を付けて保存」機能を使用して拠点を作成する

「名前を付けて保存」機能により、既存の拠点に似た拠点を迅速に作成できます。

すべての「一般情報」および「ページ 2」フィールド値および「ページ 3」（Agile システム設定によります）フィールド値は新しい拠点にコピーされます。新規拠点のライフサイクル・フェーズは「無効」になります。「添付ファイル」は、Agile 管理者が選択した推奨方法を使用して作成されます（新規作成、既存を参照、ファイルをコピーしない、または昇格を使用。詳細は 17 ページの「[「名前を付けて保存」を使用してアイテムを作成する](#)」を参照）。元の拠点の「履歴」タブには、元の拠点から新規拠点がコピーされたことが反映されます。

「名前を付けて保存」を使用して拠点を作成する方法の詳細は、『Agile PLM スタート・ガイド』を参照してください。

39 ページの「[拠点を作成する](#)」も参照してください。

拠点をアイテムに関連付ける

このセクションでは次のトピックについて説明します。

- [「拠点」タブのフィールド](#) (40 ページ)
- [「拠点」タブに拠点を追加する](#) (41 ページ)
- [「拠点」タブから拠点を削除する](#) (42 ページ)

アイテムを拠点別 BOM で使用可能にするには、拠点をそのアイテムの「拠点」タブに追加する必要があります。ある拠点が、あるアイテムの「拠点」タブに表示されていない場合、そのアイテムの拠点別 BOM または AML は定義できません。1 つの拠点は、「拠点」タブに一度のみ表示できます。

「拠点」タブは変更管理下にはないため、このテーブルの情報を修正するために変更を作成する必要はありません。

「拠点」タブのフィールド

次の表には、アイテムの「拠点」タブにあるデフォルトのフィールドが一覧されています。

| フィールド | 定義 |
|-----------------|---|
| 拠点名 | 拠点の名前。「拠点」タブから編集することはできません。 |
| バイヤー | その拠点におけるアイテムのバイヤーコード。拠点に割り当てられているコードのリストからいずれかのコードを選択します。 |
| プランナ | その拠点におけるアイテムのプランナコード。拠点に割り当てられているコードのリストからいずれかのコードを選択します。 |
| 内製/購入 | その拠点がアイテムを製造するか購入するかを示します。 |
| コスト | 「はい」または「いいえ」。この拠点については、アイテムに関連付けられたコストがあるかどうかを示します。 |
| 見積形式 | リストから選択。拠点については、アイテムの見積形式（たとえばアセンブリやコンポーネント）が表示されます。 |
| 通貨 | この拠点のデフォルトの通貨。 |
| 標準コスト | アイテムに対するこの拠点の標準コスト。 |
| 目標コスト | アイテムに対して設定された、この拠点の目標コスト。 |
| 最初のリリース済の変更 | この拠点に対し最初にアイテムをリリースした変更。アイテムのリリース時に自動入力されます。「拠点」タブから編集することはできません。 |
| 拠点のライフサイクル・フェーズ | 拠点の現在の状態: 「有効」または「無効」。「拠点」タブから編集することはできません。 |
| 拠点のタイプ | 拠点のサブクラス。「拠点」タブから編集することはできません。 |

41ページの「[「拠点」タブに拠点を追加する](#)」と42ページの「[「拠点」タブから拠点を削除する](#)」も参照してください。

「アイテムの拠点」タブの「内製/購入」フィールドを変更する

適切な変更権限を持っている場合、アイテムがリリース済の場合であっても、アイテムの「拠点」テーブルで「内製/購入」フィールドを変更できます。ただし、「内製/購入」の設定はリビジョン固有ではありません。任意のアイテム・リビジョンの「内製/購入」の設定を変更すると、すべてのリビジョンの設定が変更されます。「内製/購入」の設定を変更する際、次の制約が適用されます。

- アイテムが変更指示の対象アイテム・テーブルに含まれる場合、リリースの検証で、そのリビジョンについて拠点の「**拠点 AML の許可**」および「**購入に AML が必須**」の設定とアイテムの「拠点」タブの「内製/購入」の設定が検証されます。以前のリビジョンは検証されません。（変更指示のリリース時には、リリース検証が自動的に実行されます。）
- 「内製/購入」の設定はリビジョン固有ではなく、変更指示を使用せずに変更できるため、「内製/購入」の変更による検証違反があった場合、違反はアイテムの最新のリリース済リビジョンに残され、次回アイテムが変更指示に追加され、その変更指示がリリース検証されるまで検出されない可能性があります。

詳細は、37ページの「[「購入に AML が必須」フィールド](#)」と38ページの「[「拠点 AML の許可」フィールド](#)」を参照してください。

「拠点」タブに拠点を追加する

アイテムの「拠点」タブに拠点を追加するときは、リストから拠点を選択します。リストには、アクセスできるすべての有効な拠点（ユーザー・プロファイルの「拠点」フィールドに含まれている、ライフサイクル・フェー

ズが「有効」の拠点)が表示されます。「無効」の拠点は、アイテムの「拠点」タブに追加できないため、リストには表示されません。

アイテムの「拠点」タブに拠点を追加した後、「拠点」テーブルの他のフィールドに値を入力して、テーブルを編集できます。「拠点」テーブルの「拠点名」の値は変更できません。リストに表示される拠点を変更するには、拠点を削除し、新しい拠点を追加します。

42ページの「[「拠点」タブから拠点を削除する](#)」も参照してください。

Webクライアントで「拠点」タブに拠点を追加する手順は次のとおりです。

1. 「追加」ボタンをクリックするか、または[Ctrl]キーを押しながら[I]キーを押して、検索ポップアップを開きます。
2. 追加する拠点を選択する場合は、拠点名を入力できます。
 - a. 必要な拠点の名前を把握している場合は、ポップアップ・フィールドに、名前をセミコロンで区切って入力します。
 - b. ポップアップ・フィールドに拠点名を入力し始めると、Agile PLMによって、入力された文字に一致する拠点のリストが表示されます。
 - c. 上矢印キーおよび下矢印キーを使用して、必要な拠点をハイライトします。
 - d. [Tab]キーを押して、ポップアップ・フィールドに拠点を追加します。
 - e. この操作を繰り返して、追加の拠点を追加します。
 - f. [Enter]キーを押して、テーブルにオブジェクトを追加します。
- キヤンセルするには、[Esc]キーを押して、検索ポップアップを閉じます。
3. 追加する拠点を検索することもできます。
 - a. ポップアップ「検索」ボタンをクリックして、「拠点検索」パレットを開きます。
 - b. 検索条件を入力します。
 - c. [Enter]キーを押すか、または「検索」ボタンをクリックして、検索を実行します。
 - d. 検索結果行をダブルクリックして、テーブルに拠点を追加します。
 - e. 新しい検索条件を入力して、別の検索を実行します。
 - f. 終了したら、[Enter]キーを押して、「拠点検索」パレットを閉じます。

アイテムの「拠点」タブに拠点を追加した後、「拠点」テーブルのセルをダブルクリックして編集を開始し、「拠点」テーブルの他のフィールドに値を入力できます。

Javaクライアントで「拠点」タブに拠点を追加する手順は次のとおりです。

1. アイテムの「拠点」タブでは、2とおりの方法で「追加」ボタンを使用できます。
 - 「追加」ボタンをクリックしてダイアログ・ボックスを表示します。ここでは複数の拠点を選択できます。選択が完了したら、「OK」をクリックします。
 - 「追加」ボタンのドロップダウンの矢印部分をクリックして、ドロップダウン・リストから拠点名を選択します。

拠点を追加した後、「拠点」テーブルの拠点行を選択し、「拠点」テーブルの他のフィールドに値を入力して、テーブルを編集できます。

「拠点」タブから拠点を削除する

アイテムが拠点に対してリリースされておらず、ユーザーに適切な権限があるかぎり、アイテムの「拠点」タブから拠点を削除できます。アイテムを拠点にリリースすると、アイテムの「拠点」タブから拠点を削除でき

なくなります。「**拠点**」タブから拠点を削除しても、拠点オブジェクトはデータベースから削除されません。

拠点別 BOM または AML によって参照されている拠点を削除しようとすると、警告が表示されます。そのような拠点を削除すると、対応する拠点別 BOM または AML、および拠点別「対象アイテム」テーブル行と変更時の拠点別レッドラインも削除されます。

アイテムで拠点がリリースされると、拠点は削除できなくなります。

Webクライアントでアイテムの「拠点」タブから拠点を削除する手順は次のとおりです。

1. 削除する拠点を選択します。
2. 「**拠点**」タブの「**削除**」ボタンをクリックします。

Javaクライアントでアイテムの「拠点」タブから拠点を削除する手順は次のとおりです。

1. 削除する拠点を選択します。
2. 「**拠点**」タブの「**削除**」ボタンをクリックします。

41ページの「[「拠点」タブに拠点を追加する](#)」も参照してください。

拠点オブジェクトを削除する

拠点オブジェクトの削除の詳細は、207ページの「[Agileオブジェクトを削除する](#)」を参照してください。

拠点を編集する

必要な権限を持つユーザーは、拠点に入力された値を変更できます。拠点は変更管理プロセスを通過する必要がないため、すべての変更はすぐに適用されます。

Webクライアントで拠点を編集する手順は次のとおりです。

1. 拠点の「**一般情報**」タブを表示します。
2. 「**編集**」をクリックします。
3. 必要な変更を加えます。
4. 「**保存**」をクリックします。

Javaクライアントで拠点を編集する手順は次のとおりです。

1. 拠点の「**一般情報**」タブを表示します。
2. 必要な変更を加えます。
3. 「**保存**」をクリックします。

「**一般情報**」タブの一部のフィールドについては、次の点に注意してください。

- 「**名前**」 - 拠点名を変更すると、その拠点が表示されているアイテムの「**拠点**」タブ、およびその拠点が表示されている「**BOM**」タブなどの他のタブに、変更が反映されます。拠点名を別の拠点と同じ名前には変更できません。

- 「バイヤー」または「プランナ」 - アイテムの「拠点」テーブルに表示されている場合、バイヤーまたはプランナは削除できません。
- 「購入に AML が必須」および「拠点 AML の許可」 - 「購入に AML が必須」または「拠点 AML の許可」を編集しても、リリース済のアイテムは影響を受けません。新しいアイテムおよび新たにリリースされた変更には、新しい値が使用されます。

39ページの「[拠点を作成する](#)」も参照してください。

拠点を印刷する

Agile PLM システムから、オブジェクトのタブやその他のデータを印刷できます。現在のタブまたはすべてのタブを印刷できます。添付ファイルは、ファイルが作成されたアプリケーションまたは AutoVue for Agile ビューアから印刷します。

Web クライアントでは、オブジェクトを開いた状態で、「アクション」→「印刷」を選択します。

Java クライアントでは、オブジェクトを開いた状態で「印刷」ボタンを使用します。

オブジェクトの印刷の詳細は、『Agile PLM スタート・ガイド』を参照してください。

製造オブジェクト

この章のトピック

| | |
|---------------------------------|----|
| ■ Agile AMLとは | 45 |
| ■ 製造データを設定する | 47 |
| ■ 製造オブジェクト: 製造元と製造元部品 | 48 |
| ■ 製造オブジェクトを作成および管理する | 52 |
| ■ 製造オブジェクトを削除する | 61 |
| ■ アイテムの「製造元」タブ | 61 |
| ■ 抱点ごとにAML情報を表示する | 63 |
| ■ 製造元部品を対応するアイテムに関連付ける | 63 |
| ■ 製造元オブジェクトを使用する際の重要な注意事項 | 64 |
| ■ プレリミナリ・アイテムの製造データを使用する | 64 |
| ■ 「レッドライン」タブから製造データを変更する | 67 |
| ■ 製造オブジェクトとAMLを印刷する | 72 |

Agile AMLとは

このセクションでは、次のトピックについて説明します。

- [Agile AMLの機能](#) (45ページ)
- [製造オブジェクトについて](#) (51ページ)
- [Agile AML における多対一の関係](#) (46ページ)

Agile承認済製造元リスト(AML)ソリューションを使用すると、組織で製造元や製造元部品に関連する情報を管理できます。

Agile AMLの機能

Agile PLMでは、アイテムと製造元の関係を追跡し、承認済製造元リスト(AML)を作成できます。つまり、特定の部品を製造している製造元、その部品に対するID情報、部品がどこで使用されるか、製造元の連絡先情報などを即座に検索できます。

アイテムのAMLは、そのアイテムの「製造元」タブにある行情報で表されます。各行が各製造元部品を表します。61ページの「[アイテムの「製造元」タブ](#)」を参照してください。

さらに、MCO(製造元変更)を使用して製造データを変更できます。

注意 抱点毎変更(SCO)を使用して、抱点別製造データを変更することもできます。

製造オブジェクトについて

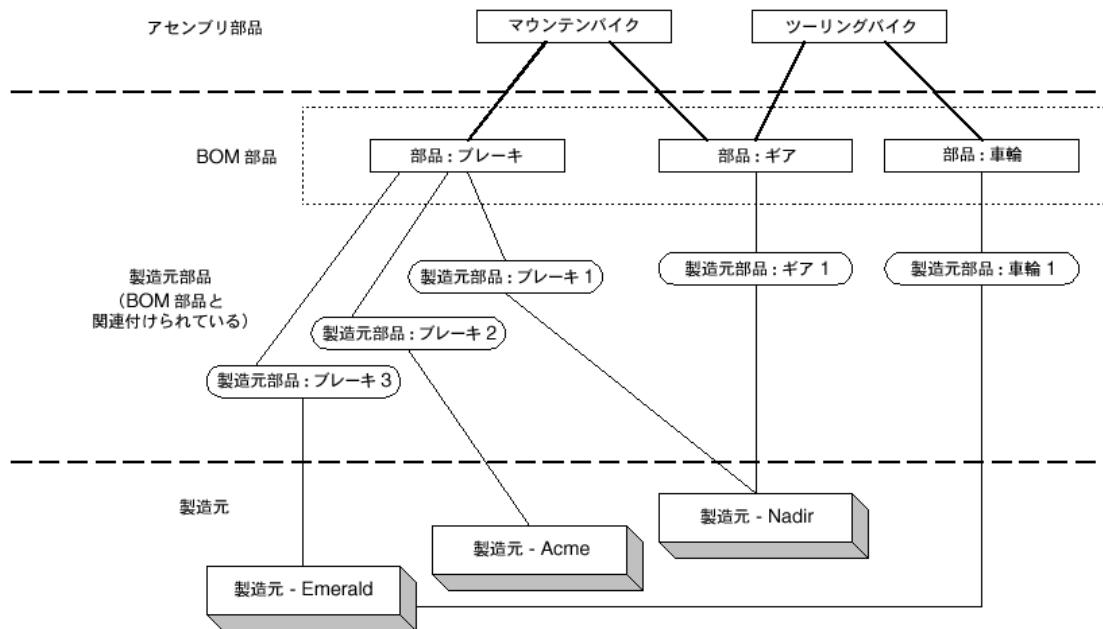
AML 機能を使用すると、次の製造オブジェクトを扱うことができます。

- **製造元** - このオブジェクトには連絡先情報や、アセンブリのどこでそれらの部品が使用されるかなど、製品の製造元についてのデータが保存されています。
- **製造元部品** - このオブジェクトでは製品部品が製造元の観点から説明されています。提供される情報には、製造元での部品番号や部品名、アセンブリのどこでその部品が使用されるか、その製造元部品の製造拠点の場所などがあります。

製造オブジェクトの詳細は、48ページの「[製造オブジェクト: 製造元と製造元部品](#)」を参照してください。

Agile AMLにおける多対一の関係

AML 機能を使用すると、複雑な多対一の関係を追跡できます。次の図は、実際の製造でよく見られるより複雑な状況の例を示しています。



この例では、1つの部品が複数の製造元部品で構成されています。また、一部の製造元は複数の製造元部品を提供しています。

注意 「[製造元部品に複数アイテム](#)」スマートルールの Agile 管理者設定によっては、製造元部品を1つのアイテムの「[製造元](#)」タブにのみ追加できるように Agile PLM システムが設定されていることがあります。複数のアイテムに関連付けられる製造元部品について質問がある場合は、Agile 管理者にお問い合わせください。

拠点とAMLデータ

製造元部品は、製品の組立を行う拠点が複数でも1つでも、すべての製造拠点で利用される可能性があります。AMLリストのAML情報の共通部分は、そのアイテムを扱うすべての拠点で共有します。各拠点で、拠点固有の製造情報(近くにあるという理由でその拠点が使用している製造元など)をAMLテーブルに追加できます。また、ある拠点で「推奨」とされている製造元部品が、他の拠点では「代替」とされることもあります。複数の拠点で使用する製造元部品は、AMLタブでは複数回、各拠点に対しては一度、表示されます。

拠点の「購入にAMLが必須」フィールドでは、あるアイテムが特定の拠点で「購入」と指定されたときに、そのアイテム用に製造元部品が必要かどうかを決定します。「購入にAMLが必須」フィールドの詳細は、37ページの「購入にAMLが必須 フィールド」を参照してください。

注意 アイテムが「購入」と指定されているかどうかは、そのアイテムの「拠点」タブの「内製/購入」フィールドの値によって決まります。

製造データを設定する

Agile PLMで製造データを追跡するには、まずデータベースに製造元を設定して、次にアセンブリで使用する(製造元が製造する)製造元部品を作成する必要があります。

この場合、順序が重要です。製造元部品は、対応する製造元を作成した後で初めて作成できます。

処理は、次の順序で実行します。

1. 製造元を作成します。
たとえば、「Acme」という製造元を作成します。
2. 製造元部品を作成します。
Acmeを製造元として指定して、製造元部品番号AM230PSを作成します。
3. 製造元部品を社内部品の「製造元」タブに追加します。
たとえば、部品P001232の「製造元」タブに移動してAcme AM230PSを追加します。

一度関係が確立されると、製造データの動きを簡単に追跡できます。

この時点から、製造データをレッドライン・プロセスを通じて管理できます。これについては、134ページの「ECO、MCO、SCOによってレッドラインする」に説明されています。

注意 製造オブジェクトは変更管理プロセスの対象ではなく、必要な権限を持つすべてのユーザーが作成、編集、削除できます。これらの変更はすぐに有効になります。

データベースに製造データを設定する手順は次のとおりです。

1. 製造元を作成します。これは、購入部品の製造元です。
52ページの「製造オブジェクトを作成および管理する」を参照してください。
2. 製造元部品を作成します。これは、その製造元が製造した部品です。
52ページの「製造オブジェクトを作成および管理する」を参照してください。

3. アイテムの「**製造元**」タブに製造元部品を追加して、製造元部品と対応するアイテムを一致させます。

64ページの「[「製造元」タブに製造元部品を追加する](#)」を参照してください。

製造オブジェクト: 製造元と製造元部品

このセクションでは、次のトピックについて説明します。

- [製造オブジェクトのタブ](#) (48ページ)
- [製造元について](#) (50ページ)
- [製造元部品について](#) (51ページ)

製造オブジェクトのタブ

製造オブジェクトにはアイテムと同じタブ（「**使用箇所**」、「**添付ファイル**」、「**関係**」および「**履歴**」）がありますが、異なるものもあります。たとえば、「**タイトル・ブロック**」タブのかわりに「**一般情報**」タブがありますが、「**変更**」タブまたは「**BOM**」タブはありません。

下の表はこれら 2 つの製造オブジェクトのタブにあるデフォルトのフィールドを示しています。

Agile 管理者はタブ（Java クライアント）やセクション（Web クライアント）を追加できます。これらは、デフォルトでは「**ページ 2**」と「**ページ 3**」という名前になっています。これらのタブやセクションには、管理者が定義したカスタム・フィールドが含まれています。

製造元オブジェクトのタブ:

| タブ | フィールドの内容 |
|------------------------------|---|
| 「 一般情報 」タブ | 「名前」、「ライフサイクル・フェーズ」、「製造元タイプ」、「担当者」、「URL」、「D-U-N-S 番号」、連絡先情報 |
| 「 使用箇所 」タブ (49ページ) | 「アイテム番号」、「アイテムの説明」、「製造元部品番号」、「製造元部品ライフサイクル・フェーズ」 |
| 「 添付ファイル 」タブ | 「添付ファイル番号」、「添付ファイルの説明」、「ファイル名」、「ファイルのバージョン」、「ファイル・サイズ」、「ファイル・タイプ」、「変更日」、「最終表示日」、「チェックアウトしたユーザー」、「チェックアウト日付」、「チェックアウト・フォルダ」 添付ファイルの詳細は、『Agile PLM スタート・ガイド』を参照してください。 |
| 「 履歴 」タブ | 「アクション」、「ユーザー」、「クライアント現地時間」、「ユーザー・アクション・タイム」（オプション）、「コメント」、「詳細」 |

製造元部品オブジェクトのタブ:

| タブ名 | フィールドの内容 |
|-------------------|---|
| 「一般情報」タブ | <p>「製造元名」、「製造元部品番号」、「製造元部品タイプ」、「ライフサイクル・フェーズ」</p> <p>「アイテム・グループ」: このフィールドが有効な場合、現在のアイテムが属しているアイテム・グループが表示されます。</p> <p>PG & C フィールド: 次のフィールドは Agile PG&C に関連しています。詳細は『Agile Product Governance & Compliance ユーザー・ガイド』を参照してください。</p> <p>「適合判定日付」、「部品ファミリ」、「質量」、「全体適合性」。</p> |
| 「使用箇所」タブ (49ページ) | <p>「使用箇所」タブの内容</p> <p>「アイテムの拠点」、「アイテム番号」、「アイテムの説明」、「「製造元」タブ推奨ステータス」、「「製造元」タブ参照メモ」</p> <p>「使用箇所の保留中変更」テーブルには、これらと同じフィールドに加えて、次のフィールドが含まれています。</p> <p>「保留中の変更」</p> |
| 「添付ファイル」タブ | <p>「添付ファイル番号」、「添付ファイルの説明」、「ファイル名」、「ファイルのバージョン」、「ファイル・サイズ」、「ファイル・タイプ」、「変更日」、「最終表示日」、「チェックアウトしたユーザー」、「チェックアウト日付」、「チェックアウト・フォルダ」</p> <p>添付ファイルの詳細は、『Agile PLM スタート・ガイド』を参照してください。</p> |
| 「履歴」タブ | <p>「アクション」、「ユーザー」、「クライアント現地時間」、「ユーザー・アクション・タイム」(オプション)、「コメント」、「詳細」</p> |
| 「価格」タブ | <p>このタブは Agile PCM に関連しています。</p> <p>詳細は、『Product Cost Management ユーザー・ガイド』を参照してください。</p> |
| 適合性タブ サプライヤのタブ | <p>これらのタブは Agile PG&C に関連しています。</p> <p>詳細は、『Agile Product Governance & Compliance ユーザー・ガイド』を参照してください。</p> |

「使用箇所」タブ

製造元の「使用箇所」タブには、製造元部品が使用している製造元およびアイテムのすべての製造元部品番号が表示されます。このタブの情報は自動的に入力されます。

製造元部品の「使用箇所」タブには、その製造元部品を使用するすべてのアイテムが表示されます。このタブの情報は自動的に入力されます。

「使用箇所」タブには、2つのテーブルが含まれています。

- 「使用箇所」- 製造元部品が使用されているアイテムの最新リビジョンを表示します。最新リビジョンは、初版リビジョンまたは最新リリース済バージョンです。
- 「使用箇所の保留中変更」- 保留中の変更番号を含め、製造元部品が使用されているアイテムの保留中のリビジョンを表示します。

注意 「使用箇所」タブを最初に表示するとき、「使用箇所の保留中変更」テーブルはデフォルトで非表示になっています。

Webクライアントで「使用箇所の保留中変更」テーブルの表示/非表示を切り替える手順は次のとおりです。

「使用箇所」タブで、「使用箇所の保留中変更」サブタブをクリックします。

Webクライアントを使用して「使用箇所」タブからアイテムを表示する手順は次のとおりです。

アイテム番号をクリックします。

Javaクライアントで「使用箇所の保留中変更」テーブルの表示/非表示を切り替える手順は次のとおりです。

「表示」ドロップダウン・リストを使用して、「保留中を表示」または「保留中を非表示」を選択します。

Javaクライアントを使用して「使用箇所」タブからアイテムを表示する手順は次のとおりです。

アイテムの行をダブルクリックします。

拠点と製造元部品の「使用箇所」タブ

製造元部品の「使用箇所」タブには、アイテム番号と製造拠点に応じて使用箇所情報がテーブルに表示されます。

33ページの「[拠点の機能](#)」も参照してください。

「製造元部品価格」タブ

注意 企業に必要なライセンスがあり、必要な権限が与えられている場合は、ここに説明されている「価格」タブのプロセスを実行できます。

「価格」タブには、製造元部品の価格情報が表示されます。このタブの情報は自動的に入力されます。価格オブジェクト番号（「番号」列内）をクリックすると、その価格オブジェクトが開きます。詳細は、『Product Cost Management ユーザー・ガイド』を参照してください。

「使用箇所」タブとディスカバリ権限

アイテム、拠点、または製造オブジェクトのディスカバリ権限を持っていない場合、そのオブジェクトは「使用箇所」タブには表示されません。Agile管理者は、いくつのオブジェクトが表示されていないかを伝える警告メッセージを表示するかどうかを指定できます。（拠点については、製造元部品の「使用箇所」タブにのみ適用されます。製造元の「使用箇所」タブには、拠点情報の欄は含まれていません。）詳細は、197ページの「[\[ディスカバリ\] 権限と「読み取り」権限の詳細について](#)」を参照してください。

読み取り権限

読み取り権限とフィールド・レベルでの読み取り実行権限によって、表示できるフィールドが決定されます。詳細は、197ページの「[\[ディスカバリ\] 権限と「読み取り」権限の詳細について](#)」を参照してください。

製造元について

製造元オブジェクトには、組織が提携する製造元についての情報が含まれています。

Agile PLM データベースに新しい製造元部品を追加するには、まず製造元を作成する必要があります。製造元を作成した後で、その製造元に関連する製造元部品を作成します。製造元部品をアイテムに関連付けると、製造元の「**使用箇所**」タブに製造元部品が反映されます。

必要な権限があれば、いつでも製造元オブジェクトを直接変更できます。製造元は変更管理下にありません。

Agile PLM データベース内の製造元は、他のオブジェクトと同様のプロセスで検索できます。検索の詳細は、『Agile PLM スタート・ガイド』を参照してください。

51ページの「[製造元のライフサイクル・フェーズ](#)」および51ページの「[D-U-N-S 番号](#)」も参照してください。

製造元のライフサイクル・フェーズ

製造元のライフサイクル・フェーズは、製造元オブジェクトの「**一般情報**」タブのライフサイクル・フェーズ・フィールドによって表されます。次の表にデフォルトの製造元のライフサイクル・フェーズを示します。Agile PLM 管理者は、ユーザーの Agile PLM システム用にカスタマイズされたライフサイクル・リストを定義できます。

| ライフサイクル名 | ライフサイクルの定義 |
|----------|-------------------------|
| 承認済 | 承認済の製造元を示します。 |
| 不適格 | 適格な製造元として使用できないことを示します。 |
| 破棄 | 製造元として使用できないことを示します。 |

52ページの「[製造元部品のライフサイクル・フェーズ](#)」も参照してください。

D-U-N-S番号

「D-U-N-S 番号」フィールドを使用して、サプライヤの DUNS リストをシステム内に作成できます。

DUNS は Data Universal Numbering System (データ・ユニバーサル・ナンバリング・システム) の略称です。DUNS 番号は固有の 9 衔配列の番号で、組織を特定します。

48ページの「[製造オブジェクトのタブ](#)」も参照してください。

製造元部品について

製造元部品オブジェクトには、製造元の部品番号、ライフサイクル・フェーズ、使用箇所、製造元部品を対象としたアクションの履歴など、特定の製造元によって製造される部品についての情報が表示されます。

製造元名と製造元部品番号の組み合わせは、対象の製造元部品に固有である必要があります。つまり、同じ製造元に対して同じ製造元部品番号を使用して、別の製造元部品は作成できません。ただし、Agile PLM は、異なる製造元による同一の部品番号の使用をサポートしています。

必要な権限があれば、いつでも製造元部品オブジェクトを直接変更できます。製造元部品は変更管理下にありません。

Agile PLM データベース内の製造元部品は、他のオブジェクトと同様のプロセスで検索できます。検索の詳細は、『Agile PLM スタート・ガイド』を参照してください。

製造元部品の作成後は、対応する部品の「製造元」タブに追加できます。製造元部品の取扱いの詳細は、52ページの「製造オブジェクトを作成および管理する」を参照してください。

製造元部品のライフサイクル・フェーズ

製造元部品のライフサイクル・フェーズは、製造元部品オブジェクトの「一般情報」タブのライフサイクル・フェーズ・フィールドによって表されます。次の表にデフォルトの製造元部品のライフサイクル・フェーズを示します。Agile PLM 管理者は、ユーザーの Agile PLM システム用にカスタマイズされたライフサイクル・リストを定義できます。

| ライフサイクル名 | ライフサイクルの定義 |
|----------|----------------------|
| アクティブ | 製造元部品が使用できることを示します。 |
| 破棄 | 製造元部品が使用できないことを示します。 |

51ページの「製造元のライフサイクル・フェーズ」も参照してください。

製造オブジェクトを作成および管理する

このセクションでは、次のトピックについて説明します。

- 製造元を作成する (52ページ)
- 製造元部品を作成する (54ページ)
- 製造オブジェクトを変更する (60ページ)

製造元を作成する

Web クライアントの場合は、「新規作成」→「製造元」コマンドまたは「アクション」→「名前を付けて保存」コマンドで製造元を作成できます。

Java クライアントでは、「ファイル」→「新規作成」→「製造元」コマンド、または「新規オブジェクト」ボタンを使用して製造元を作成できます。または、「さらに多くのアクション」メニュー（オブジェクト・ウィンドウ上部で「詳細」ボタンをクリック）および右クリックで表示されるショートカット・メニューの「名前を付けて保存」コマンドから作成することもできます。

アイテムとは異なり、製造元はリリース・プロセスを通過する必要はありません。すぐに使用できるようになります。

注意 アイテム番号がアイテムに固有であるのと同じように、製造元名は、製造元に固有である必要があります。

異なる製造元が同じ製造元部品番号は使用できますが、製造元と製造元部品番号の組み合わせは、1つの製造部品に対して固有である必要があります。

新規オブジェクトを作成するプロセスには、主に2つの手順があります。まず空のオブジェクトを作成してから、そのオブジェクトに固有の情報をオブジェクトのタブに入力します。

Webクライアントを使用して製造元を作成する手順は次のとおりです。

1. 「新規作成」 → 「製造元」 の順に選択します。
2. 「新規作成」ダイアログ・ボックスで、「タイプ」ドロップダウン・リストを使用して、作成する製造元のタイプ（サブクラス）を選択します。
3. 製造元の固有の名前を入力します。
4. 必須フィールドを入力します。
5. 「保存」をクリックします。

コンテンツ・ウィンドウに新しい製造元が表示され、「一般情報」タブが編集モードで表示されます。

6. 「一般情報」タブに情報を入力して、「保存」をクリックします。
7. 残りの製造元のタブに適宜情報を入力してください。

「使用箇所」タブおよび「履歴」タブには情報を入力しません。これらのタブは自動的に入力されます。

Javaクライアントを使用して製造元を作成および入力する手順は次のとおりです。

1. 「ファイル」 → 「新規作成」 → 「製造元」 の順に選択します。
2. 「新規作成」ダイアログ・ボックスで、「タイプ」のドロップダウン・リストから作成する製造元のタイプ（サブクラス）を選択します。
3. 製造元の固有の名前を入力します。
4. 必須フィールドを入力します。
5. 「OK」をクリックします。

新しい製造元が「一般情報」タブに表示されます。

6. 「製造元」タブに適宜情報を入力してください。

「使用箇所」タブおよび「履歴」タブには情報を入力しません。これらのタブは自動的に入力されます。

60ページの「[製造オブジェクトを変更する](#)」も参照してください。

「名前を付けて保存」機能を使用して製造元を作成する

「名前を付けて保存」機能により、既存の製造元と類似の製造元を簡単に作成できます。

Web クライアントでは、「アクション」 → 「名前を付けて保存」コマンドを使用して製造元を作成できます。

Java クライアントでは、「ファイル」 → 「名前を付けて保存」、「さらに多くのアクション」メニューの「名前を付けて保存」コマンド（オブジェクト・ウィンドウ上部の「詳細」ボタン  をクリック）、またはショートカット・メニューを右クリックして「名前を付けて保存」を選択し、製造元を作成できます。

注意 一般に、クラスやサブクラス（タイプ）が元のオブジェクトと異なるオブジェクトを作成する場合は、「名前を付けて保存」は使用しないでください。クラスやサブクラスが違うと、タブや定義されるフィールドが異なる場合があり、新しく作成したオブジェクトの一部のデータにアクセスできなくなることがあります。

Webクライアントで「名前を付けて保存」コマンドを使用して製造元を作成する手順は次のとおりです。

1. 既存の製造元を選択して開きます。
2. 「アクション」→「名前を付けて保存」の順に選択します。
3. 必要に応じて、リストから他の製造元のタイプ（サブクラス）を選択します。
4. 新規製造元名を入力します。
5. 必須フィールドを入力します。
6. 「保存」をクリックします。

コンテンツ・ウィンドウに新しい製造元が表示され、「一般情報」タブが編集モードで表示されます。

7. 必要に応じて「一般情報」タブの情報を編集して、「保存」をクリックします。

Javaクライアントで「名前を付けて保存」コマンドを使用して製造元を作成する手順は次のとおりです。

1. 既存の製造元を選択して開きます。
2. 「ファイル」→「名前を付けて保存」の順に選択します。
3. 必要に応じて、リストから他の製造元のタイプ（サブクラス）を選択します。
4. 新規製造元名を入力します。
5. 必須フィールドを入力します。
6. 「OK」をクリックします。

新規製造元が「一般情報」タブの上に表示されます。

Webクライアントで「名前を付けて保存」コマンドを使用して製造元を作成する手順は次のとおりです。

1. 既存の製造元を選択して開きます。
2. 「アクション」→「名前を付けて保存」の順に選択します。
3. 必要に応じて、リストから他の製造元のタイプ（サブクラス）を選択します。
4. 新規製造元名を入力します。
5. 必須フィールドを入力します。
6. 「保存」をクリックします。

コンテンツ・ウィンドウに新しい製造元が表示され、「一般情報」タブが編集モードで表示されます。

7. 必要に応じて「一般情報」タブの情報を編集して、「保存」をクリックします。

60ページの「[製造オブジェクトを変更する](#)」も参照してください。

製造元部品を作成する

製造元部品を作成するには、製造元部品作成権限が必要です。

Web クライアントの場合は、「**新規作成**」→「**製造元部品**」コマンドを使用して、製造元部品を作成できます。開いた製造元オブジェクトから、「**アクション**」→「**製造元部品の作成**」コマンドで、製造元部品を作成できます。また、製造元部品が開いている場合は「**アクション**」→「**名前を付けて保存**」コマンドも使用できます。

Java クライアントの場合は、「**ファイル**」→「**新規作成**」→「**製造元部品**」コマンド、または「**新規オブジェクト**」ボタンを使用して製造元部品を作成できます。また、製造元部品が開いている場合は「**ファイル**」→「**名前を付けて保存**」コマンドも使用できます。

アイテムの「**製造元**」タブに情報を追加して、製造元部品の簡易作成もできます。

アイテムとは異なり、製造元部品はリリース・プロセスを通過する必要はありません。すぐに使用できるようになります。

注意 異なる製造元が同じ製造元部品番号は使用できますが、製造元と製造元部品番号の組み合わせは、1つの製造部品に対して固有である必要があります。

次の項目も参照してください。

- [Web クライアントで製造元部品を作成する](#) (55ページ)
- [Java クライアントで製造元部品を作成する](#) (56ページ)
- [「名前を付けて保存」機能を使用して製造元部品を作成する](#) (53ページ)
- [製造オブジェクトを変更する](#) (60ページ)

Web クライアントで製造元部品を作成する

Web クライアントを使用して製造元部品を作成する手順は次のとおりです。

1. 「**新規作成**」→「**製造元部品**」の順に選択します。（製造元の中から「**アクション**」→「**製造元部品の作成**」も選択できます。）
2. 「**新規作成**」ダイアログ・ボックスで、「**タイプ**」のドロップダウン・リストから作成する製造元部品のタイプ（サブクラス）を選択します。
3. 次のいずれかの方法を使用して、新しい製造元部品の製造元を選択します。

先行入力検索:

- 「**製造元**」フィールドで、製造元の名前の入力を開始します。Agile PLM によって、入力した文字で始まる製造元名が検索されます。
- 入力中に、Agile PLM によって、一致する値のリストがアルファベット順に表示され、最初の一致する値が自動的に「**製造元**」フィールドに表示されます。
- 上矢印キーおよび下矢印キーを使用して、リスト内の特定の値をハイライトします。[Return]キーを押して、ハイライトされた値を選択します。
- または、リスト内の値をクリックして選択します。

簡易検索:

-  パレットの起動ボタンをクリックします。
- 検索条件を入力して、「検索」をクリックします。Agile PLM によって、指定されたテキストを含む製造元名が検索されます。
- 検索結果テーブルで、必要な製造元の名前をダブルクリックします。
- [Esc]キーを押して、検索パレットを閉じます。

作成して追加:

-  「作成して追加」ボタンをクリックします。
 - 「新規作成」ダイアログで、「タイプ」ドロップダウン・リストを使用して、製造元サブクラスを選択します。
 - 新しい製造元の名前を入力します。
 - 「保存」をクリックします。
4. 製造元部品の番号を入力します。
5. 必須フィールドを入力します。
6. 「保存」をクリックします。

右側のコンテンツ・ウィンドウに製造元部品が表示され、「一般情報」タブが編集モードで表示されます。

7. 必要に応じて「一般情報」タブのフィールドを編集して、「保存」をクリックします。

「使用箇所」タブおよび「履歴」タブには情報を入力しません。これらのタブは自動的に入力されます。

Javaクライアントで製造元部品を作成する

Javaクライアントを使用して製造元部品を作成および入力する手順は次のとおりです。

1. 「ファイル」→「新規作成」→「製造元部品」の順に選択します。
2. 「新規作成」ダイアログ・ボックスで、「タイプ」ドロップダウン・リストから作成する製造元部品のタイプ（サブクラス）を選択します。
3. 新規製造元部品の製造元を選択します。
4. 「製造元名」フィールドに、製造元名の一部または全部を入力します。[Tab]キーを押すか、「検証」チェックマーク  をクリックします。
 - 有効な一意の製造元名を入力した場合、その製造元名が選択され、「検証」チェックマークは無効になります。「Tab」キーを押して、次のステップに進みます。
 - 有効な一意の製造元名を入力しなかった場合、解決のダイアログが表示されます。

解決のダイアログで目的の製造元をクリックし、「OK」をクリックします。

目的の製造元が検索結果に表示されない場合、新たな検索を実行するか、新しい製造元を作成できます。

- **検索** - 解決のダイアログで、検索方法を選択します。簡易検索を実行する場合は、検索する値を入力し、「検索」をクリックします。さらに、詳細検索を設定したり、保存された検索を実行したり、ブックマークや最近開いた製造元（ショートカット）も選択できます。（検索の詳細は、『Agile PLM スタート・ガイド』を参照してください。）検索結果で目的の製造元をクリックし、「OK」をクリックします。

- **作成** - 製造元部品に対して新規製造元を作成する必要がある場合は、解決のダイアログ・ボックスの  「作成」ボタンをクリックします。ダイアログ・ボックスが開き、ここで「タイプ」ドロップダウン・リストから製造元のタイプを選択し、製造元名を入力します。「OK」をクリックします。解決のダイアログが閉じて、新たに作成された製造元が選択されます。

詳細は、57ページの「[製造元名の自動検証の使用方法](#)」を参照してください。

5. 製造元部品の番号を入力します。
6. 必須フィールドを入力します。
7. 「OK」をクリックします。

新しい製造元部品が「**一般情報**」タブに表示されます。

8. 「製造元部品」タブに適宜情報を入力してください。

「**使用箇所**」タブおよび「**履歴**」タブには情報を入力しません。これらのタブは自動的に入力されます。

Javaクライアントでの製造元名の自動検証

製造元部品を作成するたび、またはアイテムの「**製造元**」タブのテーブルへの追加または編集を行うたびに、Agile PLM では指定する製造元を簡易検索して選択するための自動検索/検証プロセスが実行されます。

このセクションでは次のトピックについて説明します。

- [Javaクライアントでの製造元名の自動検証の使用箇所](#) (57ページ)
- [Javaクライアントでの製造元名の自動検証の使用方法](#) (57ページ)

Javaクライアントでの製造元名の自動検証の使用箇所

Agile PLM Java クライアントでは、製造元部品を作成するたび、または製造元部品情報を編集するたびに製造元名の自動検証機能が使用されます。

適切な権限がある場合、Agile PLM の次の機能を使用して製造元部品を作成できます。

- オブジェクト作成: 「**ファイル**」 → 「**新規作成**」または  「**新規作成**」ボタン
- 作成による製造元部品の追加: アイテム・オブジェクトの「**製造元**」タブ
- 作成による追加: 変更オブジェクトの「**対象アイテム**」タブ、「**製造元のレッドライン**」タブ
- 製造元部品変更オブジェクトの一括変更プロセス: 「**対象アイテム**」タブ

適切な権限がある場合、次のタブで製造元部品情報を編集できます。

- アイテム・オブジェクトの「**製造元**」タブ
- 変更オブジェクトの「**対象アイテム**」タブ、「**製造元のレッドライン**」タブ
- 製造元部品変更オブジェクトの一括変更プロセス: 「**対象アイテム**」タブ

Javaクライアントでの製造元名の自動検証の使用方法

製造元名の自動検証を使用する場合には、次のステップを実行します。

1. 作成または編集ダイアログの「**製造元名**」フィールドに、検索する製造元名の一部または全部を入力します。

有効な一意の製造元名を入力した場合、その製造元名が選択され、「検証」チェックマークは無効になります。「Tab」キーを押して、ダイアログの次のフィールドに移動します。

注意 「製造元名」フィールドを空白のままにすることもできます。解決のダイアログが表示されたら、検索オプションを使用して目的の製造元を検索するか、新規製造元を作成します。

たとえば、製造元名 **Motorola** を検索する場合、次のいずれかのテキスト文字列を入力して検索を開始できます。ユーザーが入力した文字で始まる製造元名を求めて「先頭から一致する」検索が実行されます。

mot

motorla

mo

注意 Agile では、テキスト文字列の末尾にアスタリスク文字 * が自動的に追加されます。

2. 「製造元名」フィールドの外にカーソルを移動すると、検証プロセスが開始され、「検証」ダイアログが表示されます。次のいずれかの方法で、名前フィールドの外にカーソルを移動できます。

- 「Tab」キーを押します。
- 「製造元名」フィールドの「検証」チェックマーク をクリックします。
- ダイアログで別のフィールドをクリックします。
- 「保存」（Web クライアント）または「OK」（Java クライアント）をクリックして、編集ダイアログを終了します。
- 「続行」または「完了」（Web クライアント）、あるいは「OK」（Java クライアント）をクリックして、「作成」ダイアログを終了します。

3. 解決のダイアログで、検索結果の製造元名を選択して「OK」をクリックします。解決のダイアログが閉じて、選択した製造元名が作成または編集ダイアログの「製造元名」フィールドに表示されます。

目的の製造元名が検索結果に表示されない場合、次の処理を行うことができます。

- 新たな検索を実行します。
検索方式を選択します。簡易検索を実行する場合は、検索する値を入力し、「検索」をクリックします。さらに、詳細検索を設定したり、保存された検索を実行したり、ブックマークや最近開いたアイテム（ショートカット）も選択できます。（検索の詳細は、『Agile PLM スタート・ガイド』を参照してください。）
- 新規製造元オブジェクトを作成します。
解決のダイアログで「作成」ボタンをクリックして、製造元オブジェクトを作成します。52ページの「製造元を作成する」を参照してください。

57ページの「製造元名の自動検証の使用箇所」も参照してください。

「名前を付けて保存」機能を使用して製造元部品を作成する

「名前を付けて保存」機能により、既存の製造元部品と類似の製造元部品を簡単に作成できます。

注意

一般に、クラスやサブクラス（タイプ）が元のオブジェクトと異なるオブジェクトを作成する場合は、「名前を付けて保存」は使用しないでください。クラスやサブクラスが違うと、タブや定義されるフィールドが異なる場合があり、新しく作成したオブジェクトの一部のデータにアクセスできなくなることがあります。

Webクライアントで「名前を付けて保存」コマンドを使用して製造元部品を作成する手順は次のとおりです。

- 既存の製造元部品を選択して開きます。
- 「アクション」→「名前を付けて保存」の順に選択します。「名前を付けて保存」ダイアログが表示されます。
- 必要に応じて、リストから他の製造元部品タイプ（サブクラス）を選択します。
- 必要に応じて、新規製造元部品の製造元を選択します。

注意

同一の製造元を使用する場合は、「製造元名」フィールドを変更する必要はありません。

- 新しい製造元部品に異なる製造元を選択するには、次のいずれかの方法を使用します。

先行入力検索:

- 「製造元」フィールドで、製造元の名前の入力を開始します。Agile PLM によって、入力した文字で始まる製造元名が検索されます。
- 入力中に、Agile PLM によって、一致する値のリストがアルファベット順に表示され、最初の一一致する値が自動的に「製造元」フィールドに表示されます。
- 上矢印キーおよび下矢印キーを使用して、リスト内の特定の値をハイライトします。[Return]キーを押して、ハイライトされた値を選択します。
- または、リスト内の値をクリックして選択します。

簡易検索:

- 🔍 パレットの起動ボタンをクリックします。
- 検索条件を入力して、「検索」をクリックします。Agile PLM によって、指定されたテキストを含む製造元名が検索されます。
- 検索結果テーブルで、必要な製造元の名前をダブルクリックします。
- [Esc]キーを押して、検索パレットを閉じます。

簡易作成:

- *ボタンをクリックします。
 - 「新規作成」ダイアログで、「タイプ」ドロップダウン・リストを使用して、製造元サブクラスを選択します。
 - 新しい製造元の名前を入力します。
 - 「保存」をクリックします。
 - 新しい製造元部品番号を入力します。
 - 必須フィールドを入力します。
 - 「保存」をクリックします。
- 新規製造元部品が「一般情報」タブの上部に表示されます。
- 他のタブに必要な変更を加えます。

Javaクライアントで「名前を付けて保存」コマンドを使用して製造元部品を作成する手順は次のとおりです。

1. 既存の製造元部品を選択して開きます。
2. 「ファイル」→「名前を付けて保存」の順に選択します。
3. 必要に応じて、リストから他の製造元部品タイプ（サブクラス）を選択します。
4. 新規製造元部品の製造元を選択します。

注意 同一の製造元を使用する場合は、「製造元名」フィールドを変更する必要はありません。

「製造元名」フィールドに、製造元名の一部または全部を入力します。[Tab]キーを押すか、「検証」チェックマークをクリックします。

- 有効な一意の製造元名を入力した場合、その製造元名が選択され、「検証」チェックマークは無効になります。[Tab]キーを押して、次のステップに進みます。
- 有効な一意の製造元名を入力しなかった場合、解決のダイアログが表示されます。

解決のダイアログで目的の製造元をクリックし、「OK」をクリックします。

目的の製造元が検索結果に表示されない場合、新たな検索を実行するか、新しい製造元を作成できます。

- **検索** - 解決のダイアログで、検索方法を選択します。簡易検索を実行する場合は、検索する値を入力し、「検索」をクリックします。さらに、詳細検索を設定したり、保存された検索を実行したり、ブックマークや最近開いた製造元（ショートカット）も選択できます。（検索の詳細は、『Agile PLM スタート・ガイド』を参照してください。）検索結果で目的の製造元をクリックし、「OK」をクリックします。
- **作成** - 製造元部品に対して新規製造元を作成する必要がある場合は、「オブジェクトの選択」ダイアログ・ボックスの「作成」リンクをクリックします。ダイアログ・ボックスが開き、ここで「タイプ」ドロップダウン・リストから製造元のタイプを選択し、製造元名を入力します。「OK」をクリックします。解決のダイアログが閉じて、新たに作成された製造元が選択されます。

詳細は、57ページの「[製造元名の自動検証の使用方法](#)」を参照してください。

56ページの「[Javaクライアントで製造元部品を作成する](#)」および55ページの「[Webクライアントで製造元部品を作成する](#)」も参照してください。

製造オブジェクトを変更する

必要な権限とライセンスを持つユーザーは、製造オブジェクトの情報を変更できます。製造オブジェクトは変更管理プロセスを通過する必要がないため、すべての変更はすぐに適用されます。

注意 製造元部品番号または製造元名を変更すると、これらの変更は製造元または製造元部品が一覧されているアイテムの「製造元」タブと「使用箇所」タブなど製造元が一覧されている他のタブに自動的に適用されます。

52ページの「[製造元を作成する](#)」および54ページの「[製造元部品を作成する](#)」も参照してください。

製造オブジェクトを削除する

製造オブジェクトの削除の詳細は、207ページの「[Agileオブジェクトを削除する](#)」を参照してください。

アイテムの「製造元」タブ

このセクションでは次のトピックについて説明します。

- [「製造元」タブのボタン](#) (61ページ)
- [「製造元」タブのフィールド](#) (62ページ)

「製造元」タブには、関連する製造オブジェクトからの情報が表示されます。詳細は、6ページの「[「製造元」タブ](#)」を参照してください。

64ページの「[プレリミナリ・アイテムの製造データを使用する](#)」および67ページの「[「レッドライン」タブから製造データを変更する](#)」も参照してください。

「製造元」タブのボタン

次の表には、アイテムの「製造元」タブにあるボタンが一覧されています。

| ボタンまたはアクション、 Web クライアント | 説明 |
|--|--|
| 編集モード: 任意の編集可能なテーブルのセルをダブルクリックして、編集モードを開始します。 保存 キャンセル | Web クライアントのテーブル編集機能を使用して、AML テーブルを編集できます。編集可能なフィールドの形式は、テキスト・ボックス、リスト・ボックスなどです。 「保存」および「キャンセル」ボタンを使用して編集内容を保存またはキャンセルします。 |
| 削除 | 選択した行をテーブルから削除します。 |
| 追加 | Web クライアントのテーブル追加ツールが表示されます。このツールでは、先行入力検索、簡易検索または新規製造元部品の作成によって、AML テーブルに追加する製造元部品を選択できます。 アイテムに対して ECO または MCO が作成されていない場合に、このボタンを使用できます。 |

| ボタン、Java クライアント | 説明 |
|--|--|
|  編集 (Java クライアント) | 編集モードで選択した行を表示させ、AML 行を編集できます。編集可能なフィールドの形式は、テキスト・ボックス、リスト・ボックスなどです。 |

| ボタン、Java クライアント | 説明 |
|--|---|
|  削除 (Java クライアント) | 選択した行をテーブルから削除します。 |
|  「追加」→「作成」 (Java クライアント)  「追加」→「検索」 (Java クライアント) | 製造元部品をテーブルの最後に追加します。対象となるのは、既存の製造元部品または追加中に作成する製造元部品です。（下のドロップダウン・リストを使い、「検索」または「作成」のどちらかの追加方法を選択します。）アイテムに対して ECO または MCO が作成されていない場合に、このボタンを使用できます。 |
|  レッドラインの表示 (Java クライアント) | 選択した行に対して、関連付けられている変更オブジェクトが開き、「製造元のレッドライン」タブが表示されます。 |

64ページの「[プレリミナリ・アイテムの製造データを使用する](#)」も参照してください。

「製造元」タブのフィールド

次の表には、アイテムの「製造元」タブにあるデフォルトのフィールドが一覧されています。Agile 管理者によって追加フィールドが作成されている場合があります。

| フィールド名 | 説明 |
|--|---|
|  | 添付ファイルがあります。 このアイコンは、製造元部品に添付ファイルがあることを示します。 このアイコンをクリックし、製造元部品を開いて、「添付ファイル」タブを表示します。 |
| 製造元名 | 製造元の名前です。 |
| 製造元部品番号 | 部品の製造元が製造元部品に割り当てた番号です。 |
| 製造元部品説明 | 部品の製造元が製造元部品に付けた説明です。 |
| 製造元部品ライフサイクル・フェーズ | 製造元が、その部品に対してアクティブかどうかを示します。 |
| 推奨ステータス | その部品の製造元として推奨される製造元か、代替的に使われるべき製造元かを示します。 |
| 拠点 | その製造元部品を使用している拠点を一覧表示します。 |
| 参照メモ | 製造元についてのメモを示します。 |
| 適合性の要約 | 適合性情報です。詳細は、『Product Governance & Compliance ユーザー・ガイド』を参照してください。 |
| AML 分割 (Agile 管理者が有効にした場合にかぎり表示されます) | 選択した拠点に製造元部品を配分する割合を決定します。詳細は、『Product Cost Management ユーザー・ガイド』を参照してください。 |

64ページの「[プレリミナリ・アイテムの製造データを使用する](#)」、67ページの「[「レッドライン」タブから製造データを変更する](#)」および63ページの「[拠点ごとにAML情報を表示する](#)」も参照してください。

拠点ごとにAML情報を表示する

特定の拠点の AML は、タブの上の「**拠点**」ドロップダウン・リストから拠点を選択して表示させることができます。リストに含まれている拠点は、そのアイテムの「**拠点**」タブで指定されており、ユーザー・プロファイルの「**拠点**」フィールドにも一覧されています。

拠点を選択すると、「**製造元**」タブには共通の AML に加え、選択した拠点の AML も表示されます。すべての拠点の AML を一括で表示させるには、「**拠点**」リストで「すべて」を選択します。

選択した拠点に関連するアイテムについてのみ、アクションを実行できます。たとえば、「**拠点**」ドロップダウン・リストでサンフランシスコを選択すると、共通部分および AML のサンフランシスコの部分に該当する製造元部品がすべて表示されます。

「**リビジョン**」ドロップダウン・リストと「**拠点**」ドロップダウン・リストは、独立して機能します。詳細は、10ページの「[アイテムのリビジョンを処理する](#)」を参照してください。

製造元部品を対応するアイテムに関連付ける

製造元と製造元部品を作成した後、Agile PLM システムでそれらを部品に関連付けます。これは、プレリミナリ・アイテムについてのみ、製造元部品を Agile 部品の「**製造元**」タブに追加することで行います。それ以外のアイテムは、MCO、ECO、または SCO で変更を行う必要があります。この作業によって、自社の部品と製造元の部品の間のリンクを確立し、システムで部品の使用を追跡できるようになります。

同じ製造元または複数の製造元から複数の製造元部品を一覧できます。たとえば、アセンブリに使用する 2 つの部品を製造元が製造する場合、1 つの部品を「推奨」、もう 1 つの部品を「代替」としてマーク付けできます。（2 つの異なる製造元が 1 つの部品を供給する場合でも同じことができます。）

注意 ある製造元部品を特定の拠点に適用する場合は、その製造元部品を「**製造元**」タブに追加する前に、タブ上部にある「**拠点**」ドロップダウン・リストからその拠点を選択します。

アイテムの状態（およびユーザーのライセンスと権限）に応じて、次のいずれかの方法により「**製造元**」タブのデータを変更できます。

- アイテムの「**製造元**」タブに直接追加または変更を行います。これは保留中またはリリース済のECOまたはMCOがないプレリミナリ・アイテムに対する方法です。64ページの「[「製造元」タブに製造元部品を追加する](#)」を参照してください。
- ECO、MCO、またはSCOを使用して「レッドライン」タブの製造データを変更します。これは保留中のECOまたはMCOがないリリース済アイテムに対する方法です。69ページの「[「製造元のレッドライン」タブに製造元部品を追加する](#)」を参照してください。

製造元オブジェクトを使用する際の重要な注意事項

製造オブジェクトがアイテムの「製造元」タブで使用されると、製造オブジェクトに加える変更はアイテムの「製造元」タブにも適用されます。製造オブジェクトは変更管理プロセスを通過する必要がないため、すべての変更はすぐに適用されます。これらの変更は「変更」の方法を使用しないため、ChangeCAST や Agile Content Service によって ERP システムに送られません。Agile PLM と ERP システム間の問題を避けるため、アイテムの「製造元」タブで使用中の製造オブジェクトに変更を加える場合は、この点に注意する必要があります。

67ページの「[「レッドライン」タブから製造データを変更する](#)」も参照してください。

プレリミナリ・アイテムの製造データを使用する

次のセクションで、保留中リビジョンのない未リリース・アイテムの「製造元」タブで直接データを変更する方法について説明します。

- [「製造元」タブに製造元部品を追加する](#) (64ページ)
- [「製造元」タブから製造元部品を削除する](#) (65ページ)
- [「製造元」タブの製造元部品を変更する](#) (66ページ)

「製造元」タブに製造元部品を追加する

アイテムの「製造元」タブに製造元部品を追加できます。

Webクライアントで「製造元」タブに製造元部品を追加するには

1. 「製造元」タブで、「拠点」ドロップダウン・リストから追加する製造元部品を選択します。
2. 「追加」ボタンをクリックします。「製造元部品番号」カラムの横に、テーブル追加パレットが表示されます。
3. 次のいずれかの方法を使用して、製造元部品を選択します。

先行入力検索:

- オブジェクトの「拠点」ドロップダウン・リストで拠点を選択していない場合は、ここでパレットのドロップダウン・リストから拠点を選択できます。
- 「製造元部品番号」フィールドで、製造元部品番号の入力を開始します。Agile PLM によって、入力した文字で始まる製造元部品番号が検索されます。
- 入力中に、Agile PLM によって、一致する値のリストがアルファベット順に表示され、最初の一致する値が自動的に「製造元部品番号」フィールドに表示されます。
- 上矢印キーおよび下矢印キーを使用して、リスト内の特定の値をハイライトします。[Return]キーを押して、ハイライトされた値を選択します。
- または、リスト内の値をクリックして選択します。

簡易検索:

-  パレットの起動ボタンをクリックします。
- オブジェクトの「拠点」ドロップダウン・リストで拠点を選択していない場合は、ここでパレットのドロップダウン・リストから拠点を選択できます。

- 検索条件を入力して、「検索」をクリックします。Agile PLM によって、指定されたテキストを含む製造元部品番号が検索されます。
- 検索結果テーブルで、必要な製造元部品の名前をダブルクリックします。または、検索結果行をハイライトして、[Enter]キーを押します。
- [Esc]キーを押して、検索パレットを閉じます。

新規作成:

- 「 作成して追加」ボタンをクリックします。
- 「新規作成」ダイアログで、「タイプ」ドロップダウン・リストを使用して、製造元サブクラスを選択します。
- 新しい製造元の名前を選択します。
- 製造元部品番号を入力します。
- オブジェクトの「拠点」ドロップダウン・リストで拠点を選択していない場合は、ここでパレットのドロップダウン・リストから拠点を選択できます。
- 「追加」をクリックします。

Javaクライアントで「製造元」タブに製造元部品を追加するには

- 「製造元」タブで、「拠点」ドロップダウン・リストから追加する製造元部品を選択します。
- 「追加」ボタンのドロップダウン・リストで、「追加」→「作成」 または「追加」→「検索」 を選択します。
- 「追加」→「作成」 を選択した場合:
 - 「新規作成」ダイアログ・ボックスに必要な情報を入力します。52ページの「[製造元を作成する](#)」を参照してください。

すでに存在する製造元部品の情報を入力すると、ステップ c で「OK」をクリックしたときに、既存の製造元部品を使用するかどうか尋ねるメッセージが表示されます。
 - このアイテムについて、製造元部品を関連付ける拠点をまだ選択していない場合は、選択します。アイテムを割り当てられたすべての拠点について、このアイテムにこの製造元部品を関連付ける場合は、「共通」を選択します。
 - 「OK」をクリックします。
- 「追加」→「検索」 を選択した場合:
 - 「オブジェクトの検索」ダイアログ・ボックスで、既存の製造元部品を検索する検索方法を選択するか、またはブックマークされた製造元部品や最近開いた製造元部品(ショートカット)を選択します。簡易検索を実行する場合は、検索する値を入力します。(検索の詳細は、『Agile PLM スタート・ガイド』を参照してください。)
 - このアイテムについて、製造元部品を関連付ける拠点をまだ選択していない場合は、選択します。アイテムを割り当てられたすべての拠点について、このアイテムにこの製造元部品を関連付ける場合は、「共通」を選択します。
 - 「OK」をクリックします。

67ページの「[「レッドライン」タブから製造データを変更する](#)」も参照してください。

「製造元」タブから製造元部品を削除する

Webクライアントでプレリミナリ状態にあるアイテムの「製造元」タブから製造元部品を削除する手順は次のとおりです。

1. 「製造元」タブで、削除する製造元部品行を選択します。
2. 「製造元」タブの「削除」ボタンをクリックします。

Javaクライアントでプレリミナリ状態にあるアイテムの「製造元」タブから製造元部品を削除する手順は次のとおりです。

1. 「製造元」タブで、削除する製造元部品行を選択します。
2. 「製造元」タブで「削除」ボタンをクリックします。

67ページの「[「レッドライン」タブから製造データを変更する](#)」も参照してください。

「製造元」タブの製造元部品を変更する

アイテムがプレリミナリ状態にあり、まだリリースされておらず、そのアイテムに対して保留中の ECO または MCO がない場合は、そのアイテムの「製造元」タブから製造元部品の情報を直接編集できます。

Webクライアントで製造元部品の値を編集する手順は次のとおりです。

1. 編集するアイテムを開きます。
2. 「製造元」タブで、レッドラインの「製造元」テーブル内の任意の編集可能なセルをダブルクリックして、フィールドを編集します。これでテーブルが編集モードになります。
3. [Tab]キーまたは矢印キーを押して、フォーカスを次の編集可能なセルに移動します。
4. タブ・ツールバー・ボタン（「追加」、「削除」、「詳細」）およびテーブル編集機能を使用して、必要な変更を行います。
5. 「保存」をクリックして、変更内容を保存します。

Javaクライアントで製造元部品の値を編集する手順は次のとおりです。

1. 編集するアイテムを開きます。
2. 「製造元」タブで、編集する行を選択します。
3. 「編集」ボタンをクリックし、「編集」ダイアログ・ボックスで必要に応じてデータを変更します。開いている「編集」ダイアログ・ボックスのナビゲーション・ボタンを使用して、他の編集する行を選択できます。
4. 「OK」をクリックします。

67ページの「[「レッドライン」タブから製造データを変更する](#)」も参照してください。

「レッドライン」タブから製造データを変更する

適切な権限があり、Agile システムのスマートルール設定で許可されている場合は、ECO、MCO、または SCO の「製造元のレッドライン」タブで AML 情報を変更できます。

このセクションでは次のトピックについて説明します。

- [製造元データのレッドラインの概要 \(67ページ\)](#)
- [「製造元のレッドライン」タブ \(67ページ\)](#)
- [「製造元のレッドライン」タブに製造元部品を追加する \(69ページ\)](#)
- [「レッドライン」タブに存在しない製造元部品を追加する \(69ページ\)](#)
- [「レッドライン」タブから製造元部品を削除する \(70ページ\)](#)
- [「製造元のレッドライン」タブの製造元部品情報を編集する \(70ページ\)](#)
- [「製造元のレッドライン」テーブルの変更を元に戻す \(71ページ\)](#)

製造元データのレッドラインの概要

一部の Agile PLM システムでは、Agile 管理者による設定に基づいて、ECO、SCO、および MCO から製造元部品のレッドラインを変更できます。MCO では製造元部品データのレッドライン、ECO では製造元部品データと BOM および添付ファイルのレッドライン、SCO では特定の拠点にかぎり製造元部品データと BOM のレッドラインを行うことができます。

対象アイテムのリビジョンは、MCO と SCO では展開されませんが、ECO では展開されます。

ECO または SCO から製造データをレッドラインする作業には、MCO からの場合と同じプロセスを使用します。ただし、製造データ、BOM、または添付ファイルをレッドラインする ECO が使用できるため、ECO レッドラインには「BOM のレッドライン」タブ、「製造元のレッドライン」タブ、および「添付ファイルのレッドライン」タブが含まれます。SCO レッドラインには、「BOM のレッドライン」タブおよび「製造元のレッドライン」タブが含まれます。

注意 複数の製造拠点から作成されたレッドライン変更が矛盾している場合、それらの矛盾するレッドラインは関連する拠点すべての BOM および製造元テーブルから削除されます。

変更の詳細は、115ページの「[変更](#)」を参照してください。

「製造元のレッドライン」タブ

ECO、MCO、または SCO の「対象アイテム」タブから「製造元のレッドライン」タブを開きます。

WebクライアントでアイテムのAMLのレッドラインを開く手順は次のとおりです。

1. アイテムの AML をレッドラインするための変更を開きます。
2. 「対象アイテム」テーブルで、レッドラインするアイテムを選択します。

「表示」リストで拠点情報を除外した表示を選択した場合（たとえば「拠点を非表示行」）、アイテムは「対象アイテム」テーブルに一度のみ表示されます。「表示」リストで拠点情報を含む表示を選択した場

合（たとえば「基本ビュー」）、アイテムは各拠点ごとに一度ずつ、複数回表示されます。このテーブルで1つの行を選択してください。必要に応じて、「**製造元のレッドライン**」タブで異なる拠点の設定を選択できます。

- 「対象アイテム」タブの下のレッドライン・ウィンドウに、「**製造元**」タブが表示されます。

「対象アイテム」テーブルで拠点別の行を選択した場合は、その行のみがレッドラインの「**製造元**」タブに表示されます。「対象アイテム」テーブルで拠点共通の行を選択した場合は、共通製造元部品行と拠点別製造元部品行の両方がレッドラインの「**製造元**」タブに表示されます。

- レッドラインの「**製造元**」テーブル内の任意の編集可能なセルをダブルクリックして、フィールドを編集します。これでテーブルが編集モードになります。
- タブ・ツールバー・ボタン（「追加」、「削除」、「レッドライン取消し」、「詳細」）およびテーブル編集機能を使用して、必要な変更を行います。
- 「**保存**」をクリックして、変更内容を保存します。詳細は、次の表を参照してください。

| Web クライアントのボタン | アクション |
|------------------------------------|---|
| 編集可能なセルをダブルクリックして、テーブル編集モードを開始します。 | Web クライアントの編集機能を使用して、テーブルのセルを編集します。[Tab] キーまたは矢印キーを押して、フォーカスを次の編集可能なセルに移動します。 |
| 「 詳細 」メニュー | テーブル編集モードで、「コピー」、「貼付け」、「下方へコピー」、「下方へコピー(選択されたセル)」、「上方へコピー」、「上方へコピー(選択されたセル)」を選択します。 |
| 保存 | テーブル編集モードで行った変更内容を保存します。 |
| 削除 | レッドラインの「 製造元 」テーブルから選択した行をレッドライン削除します。 |
| レッドライン取消し | 選択した行からレッドラインを削除します。71ページの「 「製造元のレッドライン」テーブルの変更を元に戻す 」を参照してください。 |
| 追加 | アイテムに製造元部品のレッドライン追加ができます。 |

JavaクライアントでアイテムのAMLのレッドラインを開く手順は次のとおりです。

- アイテムの AML をレッドラインするための変更を開きます。
 - 「対象アイテム」テーブルで、レッドラインするアイテムを選択します。
- 「**表示**」ドロップダウン・リストには、「拠点を非表示」と「拠点を表示」の2つの設定があります。「拠点を非表示」を選択すると、そのアイテムは「対象アイテム」テーブルに一度だけ表示されます。「拠点を表示」を選択すると、そのアイテムは拠点ごとに一度、複数回表示されます。このテーブルで1つの行を選択してください。必要に応じて、「**製造元のレッドライン**」タブで異なる拠点の設定を選択できます。
- 「対象アイテム」タブの下のウィンドウに、「**製造元のレッドライン**」タブが表示されます。
 - 「**拠点**」ドロップダウン・リストで、製造元部品情報をレッドラインする拠点を選択してください。そのアイテムの拠点に対して、すべての製造元部品情報をレッドラインするには「すべて」を選択します。
 - 「**製造元のレッドライン**」テーブルで行を選択し、ボタンを使用して必要な変更を行ってください。詳細は、次の表を参照してください。

| Java クライアントのボタン | アクション |
|-----------------|---|
| 製造元のレッドライン | 「製造元のレッドライン」ダイアログ・ボックスで選択された行が表示され、編集可能なフィールドにレッドラインできるようになります。このテーブルで他の行を表示したり、編集したりするには、左上隅にあるボタンを使用します。完了したら、「OK」をクリックします。 |
| 「追加」 → 「作成」 | アイテムに製造元部品のレッドライン追加ができます。 |
| 「追加」 → 「検索」 | |
| 削除 | 「製造元のレッドライン」テーブルから選択した行をレッドライン削除します。 |
| レッドライン取消し | 選択した行からレッドラインを削除します。71ページの「 「製造元のレッドライン」テーブルの変更を元に戻す 」を参照してください。 |

テーブルの行の各セルに赤いラインがある場合、これは製造元部品が「製造元」テーブルから削除されたことを示します。セルのいくつかにのみ短い赤いラインが表示されている場合は、「製造元」テーブルの属性が変更されたことを示します。変更されたセルには古い値の上に赤いラインが引かれ、新しい値が赤で表示されています。

115ページの「[変更](#)」と137ページの「[変更の対象アイテム](#)」も参照してください。

「製造元のレッドライン」タブに製造元部品を追加する

Webクライアントで「製造元のレッドライン」タブに製造元部品を追加する手順は次のとおりです。

- 67ページの「[「製造元のレッドライン」タブ](#)」の手順に従います。
- レッドラインの「製造元」タブが表示されたら、「追加」ボタンをクリックし、Web クライアントのオブジェクト選択パレット機能を使用して、必要な製造元部品を検索および選択します。
- 64ページの「[「製造元」タブに製造元部品を追加する](#)」の説明に従って手順を続行します。

Javaクライアントで「製造元のレッドライン」タブに製造元部品を追加する手順は次のとおりです。

- 67ページの「[「製造元のレッドライン」タブ](#)」の手順に従います。
- 「製造元のレッドライン」タブが表示されたら、「追加」ボタンのドロップダウン・リストを使用し、「追加」 → 「検索」 を選択して製造元部品を検索します。
- 64ページの「[「製造元」タブに製造元部品を追加する](#)」の説明に従って手順を続行します。

「レッドライン」タブに存在しない製造元部品を追加する

新しい製造元部品を作成して「製造元」タブに追加する手順は次のとおりです。

- Web クライアントでは、「追加」ボタンを使用して、検索パレットで 「作成して追加」ボタンをクリックします。
- Java クライアントでは、「追加」ボタンのドロップダウン・リストを使用して、「追加」 → 「作成」 を選択します。

このオプションを使用する場合、既存の製造元のリストから製造元を選択するか、または必要に応じて新しい製造元も作成できます。64ページの「[「製造元」タブに製造元部品を追加する](#)」を参照してください。

「レッドライン」タブから製造元部品を削除する

製造元部品のレッドライン削除では、次のような動作が行われます。

- 選択した行の文字色が赤の場合、レッドライン削除でその行が削除されます。
- 選択した行の文字色が黒の場合、レッドライン削除でその行に赤いラインが引かれます。

Webクライアントで製造元部品を削除する手順は次のとおりです。

1. 削除する行を選択します。
2. レッドラインの「製造元」タブの「削除」ボタンをクリックします。

Javaクライアントで製造元部品を削除する手順は次のとおりです。

1. 削除する行を選択します。
2. 「製造元のレッドライン」タブの「削除」ボタン~~X~~をクリックします。

67ページの「[製造元データのレッドラインの概要](#)」も参照してください。

「製造元のレッドライン」タブの製造元部品情報を編集する

アイテムの承認済製造元リスト (AML) はアイテム・オブジェクト「製造元」タブの情報の行によって表されます。AMLテーブルの各行が各製造元部品を表します。アイテムがまだリリースされていない場合、アイテム「製造元」タブのこのテーブルを編集できます。たとえば、製造元部品を追加または削除したり、Agile管理者が有効にした編集可能なカスタム・フィールドを含め、編集可能なフィールドを変更できます。割り当てられた役割と権限は、どのAMLテーブルのフィールドを編集許可されているかを決定します。66ページの「[「製造元」タブの製造元部品を変更する](#)」を参照してください。

アイテムがリリースされている場合、またはリビジョンを保留している場合、「製造元のレッドライン」タブを使用してアイテムの AML（「製造元」タブ）を変更する必要があります。ECO または MCO の「対象アイテム」タブから「製造元のレッドライン」タブを開きます。

「製造元のレッドライン」タブで、Agile 管理者が有効にした編集可能なカスタム・フィールドの変更を含め、未リリース・アイテムの「製造元」タブで行うことを許可されたのと同じ変更を行えます。

Agile 管理者がそれらの変更を有効にしている場合、アイテム「製造元」タブには、読み取りフィールドも含まれます。このフィールドには、たとえば製造元住所フィールドや製造元部品の「ページ 2」フィールドなど、製造元オブジェクトまたは製造元部品オブジェクトから作成された追加情報が表示されます。アイテム「製造元」タブと「製造元のレッドライン」タブで、読み取りフィールドには製造元または製造元部品による属性データの読み取り専用コピーが含まれます。

注意 アイテム「製造元」タブや「製造元のレッドライン」タブを使用して読み取りフィールドを変更したり、製造元部品オブジェクトの属性を変更したりすることはできません。「製造元」タブと「製造元のレッドライン」タブは、アイテムの AML（アイテムと製造元部品の関係）を定義する場合にのみ使用されます。

製造元または製造元部品の属性を変更するには、製造元または製造元部品を開きそれを編集機能で変更する必要があります。60ページの「[製造オブジェクトを変更する](#)」を参照してください。

読み取りフィールドおよび「**製造元**」タブの編集可能なフィールドの詳細は、『管理者ガイド』を参照してください。

注意 割り当てられた役割と権限は、どの属性を編集許可されているかをも決定します。

Webクライアントで「レッドライン」タブのフィールドを編集する手順は次のとおりです。

1. レッドラインの「**製造元**」テーブル内の任意の編集可能なセルをダブルクリックして、フィールドを編集します。これでテーブルが編集モードになります。
2. タブ・ツールバー・ボタン（「追加」、「削除」、「レッドライン取消し」、「詳細」）およびテーブル編集機能を使用して、必要な変更を行います。
3. 「**保存**」をクリックして、変更内容を保存します。

Javaクライアントで「レッドライン」タブのフィールドを編集するには

1. 編集する1つ以上の行を選択し、「**製造元のレッドライン**」ボタンをクリックします。
2. 「**製造元のレッドライン**」ダイアログ・ボックスで、必要なフィールドの変更を行います。このテーブルで他の行を表示したり、編集したりするには、左上隅にあるボタンを使用します。
3. 完了したら、「**OK**」をクリックします。

Agile PLMにより、以前の情報に赤い線が引かれ、新規情報が以前の情報の下に赤で入力されます。

115ページの「[変更](#)」と137ページの「[変更の対象アイテム](#)」も参照してください。

「**製造元のレッドライン**」テーブルの変更を元に戻す

「**レッドライン取消し**」ボタンを使用すると、「**レッドライン**」タブの変更を元に戻すことができます。「**レッドライン取消し**」ボタンでは、選択した行から赤いエレメントが削除されます。

削除（全体に赤いラインが引かれている行）を取り消す手順は次のとおりです。

1. 削除された行を選択します。
2. 「**レッドライン取消し**」ボタンをクリックします。
Web クライアント: 「**レッドライン取消し**」ボタン
Java クライアント: ボタン
3. 確認ダイアログに応答します。
Web クライアント: 「**元に戻す**」をクリックします。
Java クライアント: 「**はい**」をクリックします。

変更（Agile PLMで短い赤いラインが引かれた変更された値）を取り消す手順は次のとおりです。

1. 変更された行を選択します。
2. 「**レッドライン取消し**」ボタンをクリックします。
Web クライアント: 「**レッドライン取消し**」ボタン
Java クライアント: ボタン

3. 確認ダイアログに応答します。

Web クライアント: 「元に戻す」をクリックします。

Java クライアント: 「はい」をクリックします。

67ページの「[「レッドライン」タブから製造データを変更する](#)」も参照してください。

製造オブジェクトとAMLを印刷する

Agile PLM システムから、オブジェクトのタブやその他のデータを印刷できます。現在のタブまたはすべてのタブを印刷できます。添付ファイルは、ファイルが作成されたアプリケーションまたは AutoVue for Agile ビューアから印刷します。

Web クライアントでは、オブジェクトを開いた状態で、「アクション」→「印刷」を選択します。

Java クライアントでは、オブジェクトを開いた状態で「印刷」ボタンを使用します。

オブジェクトの印刷の詳細は、『Agile PLM スタート・ガイド』を参照してください。

部品構成表 (BOM)

この章のトピック

| | |
|--------------------------------|-----|
| ■ 部品構成表 (BOM) について | 73 |
| ■ 「BOM」タブ | 73 |
| ■ BOMのアイテムを開く | 80 |
| ■ BOMのリビジョン表示 | 84 |
| ■ BOMテーブルの変更について | 84 |
| ■ 参照指示を使用する | 99 |
| ■ リリース済アイテムのBOMをレッドラインする | 107 |
| ■ BOMデータを印刷する | 114 |

部品構成表 (BOM) について

部品構成表 (BOM) には、親アセンブリを構成するサブアセンブリ、部品、および原料がすべて表示されます。この表には、アセンブリを製造するために必要な各部品の数量が示されます。部品構成表 (BOM) のアイテムは、単体のアイテムの場合も、複数のアイテムから成るアセンブリの場合もあります。

ドキュメントの場合、ご使用のシステムの設定により、BOM がある場合とない場合があります。

BOM アイテムは、製品の組立を行う拠点が複数でも 1 つでも、すべての製造拠点で利用される可能性があります。BOM の共通部分には、拠点間でアセンブリが共有するすべての部品が表示されます。各拠点は、拠点別のその他のオブジェクト、たとえばその拠点での組立て方法に固有のアセンブリ手順を含むドキュメントを BOM テーブルに追加できます。「BOM」タブで「拠点を表示」を選択すると、複数の拠点で使用されている BOM アイテムは各拠点に対して 1 回ずつ、複数回「BOM」タブに表示されます。

29 ページの「[拠点および分散型製造](#)」も参照してください。

「BOM」タブ

このセクションでは次のトピックについて説明します。

- [Agile管理者が管理する内容について](#) (74 ページ)
- [「BOM」タブのボタン](#) (74 ページ)
- [「BOM」テーブルのフィールド](#) (76 ページ)

「BOM」タブには、BOM にあるすべてのアイテムが表示されます。

BOM テーブルには、BOM のアイテムがグラフィックを使用した階層図で表示されます。この階層図では、アイテム番号が表す内容がアイコンを使用して次のように区別されています。



部品

-  ドキュメント
-  アセンブリ

Agile管理者が管理する内容について

Agile管理者は、次の権限をユーザーに割り当てることができます。

- **ディスカバリ権限** - Agile PLM データベースで検索または検出できる Agile オブジェクトを決定し、制限します。
- **読み取り権限** - 検出された Agile オブジェクトのうち、開いたり、読み取り可能なオブジェクトを決定、制限します。また開いたり、読み取り可能な Agile オブジェクトで、表示可能な特定のフィールドを決定し、制限します。
- **拠点** - BOM と AML で表示および修正できる、拠点別的情報を決定し、制限します。

アイテムに対するディスカバリ権限がない場合、Agile管理者により選択されたスマートルールの設定によっては、そのアイテムが BOM テーブルに表示されない場合もあります。BOM テーブルの場合、スマートルールの設定は読み取り権限のないフィールドに対しても適用されます。

ディスカバリ権限のない BOM のアイテムや読み取り権限のない BOM テーブルのフィールドは、次のいずれかの方法で示されます。

- アイテム番号とリビジョンのみが BOM テーブルに表示されます。ディスカバリ権限がない場合はアイテムを開くことができません。
- アイテムの説明のみが BOM テーブルに表示されます。ディスカバリ権限がない場合はアイテムを開くことができません。
- アイテムは BOM テーブル内に表示されません。BOM テーブルの上部に、まだ表示されていないアイテムの数を示すメッセージが表示されます。

表示不可の拠点情報に対するインジケータはありません。

ディスカバリ権限、読み取り権限、または割り当てられている拠点について質問がある場合は、Agile管理者にお問い合わせください。

80ページの「[BOMのアイテムを開く](#)」も参照してください。

「BOM」タブのボタン

このセクションでは次のトピックについて説明します。

- [「BOM」タブのボタン \(Webクライアント\)](#) (74ページ)
- [「BOM」タブのボタン \(Javaクライアント\)](#) (76ページ)

76ページの「[「BOM」テーブルのフィールド](#)」も参照してください。

「BOM」タブのボタン（Webクライアント）

次の表では、Web クライアントに表示される「BOM」タブのボタンについて説明します。

注意 「アクション」メニューを使用すると、印刷、電子メール送信、エクスポートなどの処理を行ったり、「BOM」タブからその他の操作を実行できます。

| ボタンまたはモード | 説明 |
|------------------------------------|--|
| 編集可能なセルをダブルクリックして、テーブル編集モードを開始します。 | Web クライアントの編集機能を使用して、テーブルのセルを編集します。[Tab]キーまたは矢印キーを押して、フォーカスを次の編集可能なセルに移動します。 |
| 削除 | 選択した行を BOM テーブルから削除します。 |
| 追加 | <p>「追加」 - BOM テーブルにアイテムまたは空白の行を追加します。選択したオプションに基づき、以下が表示されます。</p> <p>既存のアイテムの番号の入力を開始して、表示された先行入力検索のリストから選択します。</p> <p>簡易検索を実行して、既存のアイテムを検索します。</p> <p>「既知の番号の入力」既存のアイテムの既知の番号を 1 つ、または複数入力します。</p> <p>「作成」追加する際にアイテムを作成します。</p> <p>一時アイテムの追加: 後で入力できる行を BOM テーブルに追加します。</p> <p>デフォルトでは、新しいアイテムまたは行の見出し番号は 0、数量は 1 です。</p> |
| 展開された表示 | <p>表示する BOM レベル数を選択して、別の「展開された BOM 表示」ウィンドウに展開された BOM を表示できます。</p> <p>「展開された BOM 表示」ウィンドウには、「移動」および「レベルの表示」コントロールと、「印刷」および「コピー」コマンドが含まれています。</p> |
| 移動 | <p>「ジャンプ」ダイアログ・ボックスに入力した条件に基づいて、特定の BOM アイテムへ移動します。</p> <p>「ジャンプ」検索は、特定の BOM カラムおよび指定したレベル数に制限できます。たとえば、レベル 3 を指定するとレベル 1、2、および 3 を検索します。</p> |
| ? | このセルをダブルクリックすると、セル編集モードが開始されて、一時アイテムのプレースホルダ行に入力できます。 |
| ☒ ナビゲータ | <p>オブジェクト・ページの左のナビゲーション・ウィンドウに BOM ツリーを表示します。サブアセンブリを展開したり、縮小したりでき、アイテム番号をクリックすると、そのアイテムが開きます。このボタンは、「アイテム」タブの上に表示され、どのタブが表示されていても、常に表示されます。</p> <p>BOM ツリーの表示は、BOM テーブルに一致するように自動的に更新されます。たとえば、BOM テーブルを展開する場合、ナビゲーション・ウィンドウの BOM ツリーは BOM ツリー管理を使用するまで縮小されたままになっています。</p> |

76ページの「[「BOM」テーブルのフィールド](#)」と 76ページの「[「BOM」タブのボタン（Javaクライアント）](#)」も参照してください。

「BOM」タブのボタン (Javaクライアント)

「BOM」タブから印刷、送信、エクスポートなどのアクティビティを実行できます。「その他のアクション」メニュー（「その他」ボタン  をクリック）など、オブジェクト・ウィンドウ上部にあるボタンを使います。または、アイテム・ウィンドウを右クリックしてショートカット・メニューを開き、希望のコマンドを選択します。

次の表では、Java クライアントに表示される「BOM」タブのボタンについて説明します。

| ボタン | 説明 |
|---|--|
|  | 「ジャンプ」 - 「ジャンプ」ダイアログ・ボックスで入力した条件に基づいて特定の BOM アイテムを検索し、ハイライト表示します。 「ジャンプ」検索は、特定の BOM カラムおよび指定したレベル数に制限できます。たとえば、レベル 3 を指定するとレベル 1、2、および 3 を検索します。 |
|  | ツリーの展開またはすべて縮小 - メニューから選択します。BOM ですべてのサブアセンブリを展開または縮小します。展開すると、すべてのレベルの BOM が表示されます。 |
|  | 「編集」 - BOM の選択された行を編集可能にします。見出し番号、数量、参照指示、または BOM メモを編集できます。まだリリースされておらず、保留中の変更のない初版段階のアイテムではこのボタンが利用可能です。 |
|      | 「追加」 - BOM テーブルにアイテムまたは空白の行を追加します。選択したオプションに基づき、以下が表示されます。 「作成」追加する際にアイテムを作成します。 「検索」既存のアイテムを検索します。 「既知の番号の入力」既存のアイテムの既知の番号を 1 つ、または複数入力します。 「空の行の追加」 - BOM テーブルに空の行が追加されます。この行は、後で入力できます。デフォルトでは、新しいアイテムまたは行の見出し番号は 0、数量は 1 です。 |
|  | 「削除」 - 選択した行を BOM テーブルから削除します。 |
|  | 「レッドラインの表示」 - アイテムのこのリビジョンをリリースした変更を開き、「対象アイテム」タブおよび「レッドライン」タブを表示します。このボタンは保留中のリビジョンでは無効になります。 |
|  | 「BOM アイテムの選択」 - この記号の付いた空の行をダブル・クリックし、アイテム番号を選択または作成して空の行に入力します。 |

76ページの「[「BOM」テーブルのフィールド](#)」と 74ページの「[「BOM」タブのボタン \(Webクライアント\)](#)」も参照してください。

BOMテーブルのフィールド

BOM テーブルには、BOM アイテムのフィールドが複数のカラムとして表示されます。Agile 管理者は、自社のニーズに合うように BOM テーブルのフィールドを設定します。Agile PLM システムに表示されるカラムは、ここに示す BOM テーブルのフィールド一覧とは異なる場合があります。BOM テーブルのフィールドについて質問がある場合は、Agile 管理者にお問い合わせください。

WebクライアントのBOMテーブル・フィールド

Web クライアントの BOM テーブル・フィールドやアイコンは、次の表に示すとおりに表示されます。

| Web クライアントの BOM カラム名またはアイコン | 説明 |
|---|---|
|  | <p>添付ファイルがあります。</p> <p>このカラムのドット・アイコン  は、アイテムに添付ファイルがあることを示しています。</p> <p>ドット・アイコン  をクリックし、BOM アイテムを開いて、「添付ファイル」タブを表示します。</p> |
|  | <p>承認済製造元があります。</p> <p>このカラムのドット・アイコン  は、アイテムに製造元データが含まれていることを示しています。</p> <p>ドット・アイコン  をクリックし、BOM アイテムを開いて、「製造元」タブを表示します。</p> |
|  | <p>保留中の変更があります。</p> <p>このカラムのドット・アイコン  は、アイテムに保留中の変更があることを示しています。</p> <p>ドット・アイコン  をクリックし、BOM アイテムを開いて、「変更」タブを表示します。</p> |
| アイテム番号 | <p>「アイテム番号」フィールドには、アイテムの番号が表示されます。アイテム番号をクリックしてアイテムのページを開きます。</p> |
|  | <p>製品サービス依頼があります。</p> <p>このカラムのドット・アイコン  は、アイテムに未終了の PSR (製品サービス依頼) または QCR (品質変更要求) があることを示しています。</p> <p>ドット・アイコン  をクリックし、BOM アイテムを開いて、「品質」タブを表示します。</p> |
| アイテムの説明 | <p>「アイテムの説明」フィールドには、アイテムの説明が表示されます。</p> |
| アイテム・リビジョン | <p>「アイテム・リビジョン」フィールドには、BOM アイテムのリビジョン番号が表示されます。最新のリリース済リビジョンが表示されます。</p> |
| 数量 | <p>「数量」フィールドには、アセンブリまたはサブアセンブリで使用されるアイテムの数量が表示されます。</p> |
| 見出し番号 | <p>「見出し番号」フィールドには、Agile BOM 内でのアイテムの検索に使用される社内番号が表示されます。</p> |
| 参照指示 | <p>「参照指示」フィールドには参照指示が表示されます。</p> |
| 拠点 | <p>「拠点」フィールドは、どの製造拠点にそのアイテムが関連付けられているかを表示します。複数の拠点に関連付けられているアイテムは、拠点ごとに BOM に一覧表示されます。</p> |
| BOM メモ | <p>「BOM メモ」フィールドには、アイテムについてのメモが表示されます。</p> |

| Web クライアントの BOM カラム名またはアイコン | 説明 |
|--------------------------------|---|
| | <p>価格があります。</p> <p>このカラムのドット・アイコン は、アイテムに公表価格があることを示しています。</p> <p>ドット・アイコン をクリックし、BOM アイテムを開いて、「価格」タブを表示します。</p> |
| | <p>保留中のデクラレーションがあります。</p> <p>このカラムのドット・アイコン は、アイテムに保留中のデクラレーションがあることを示しています。</p> <p>ドット・アイコン をクリックし、BOM アイテムを開いて、「適合性」タブを表示します。</p> |

注意 「開始日」の日付は、「タイトル・ロック」タブの「リビジョン・リリース日」フィールドの日付とは異なります。リビジョン・リリース日は、アイテムの現在のリビジョンをリリースした ECO (設計変更指示) がリリースされた日付です。

Java クライアントの BOM テーブル・フィールド

Java クライアントの BOM テーブル・フィールドやアイコンは、次の表に示すとおりに表示されます。

| フィールド名 | 説明 |
|------------|---|
| | <p>添付ファイルがあります。</p> <p>このアイコンは、アイテムに添付ファイルがあることを示します。</p> <p>このアイコンをクリックし、「添付ファイル」タブを表示しながら BOM アイテムを開きます。</p> |
| | <p>このアイコンは、アイテムに製造データが含まれていることを示します。</p> <p>このアイコンをクリックし、「製造元」タブを表示しながら BOM アイテムを開きます。</p> |
| | <p>このアイコンは、アイテムに保留中の変更があることを示します。</p> <p>このアイコンをクリックし、「変更」タブを表示しながら BOM アイテムを開きます。</p> |
| アイテム番号 | <p>「アイテム番号」フィールドには、アイテムの番号が表示されます。アイテム番号をクリックしてアイテムのページを開きます。</p> |
| | <p>このアイコンは、アイテムに未終了の PSR (製品サービス依頼) または QCR (品質変更要求) があることを示しています。</p> <p>このアイコンをクリックし、「品質」タブを表示しながら BOM アイテムを開きます。</p> |
| アイテムの説明 | 「アイテムの説明」フィールドには、アイテムの説明が表示されます。 |
| アイテム・リビジョン | 「アイテム・リビジョン」フィールドには、BOM アイテムのリビジョン番号が表示されます。最新のリリース済リビジョンが表示されます。 |
| 数量 | 「数量」フィールドには、アセンブリまたはサブアセンブリで使用されるアイテムの数量が表示されます。 |

| フィールド名 | 説明 |
|--------|---|
| 見出し番号 | 「見出し番号」フィールドには、Agile BOM 内でのアイテムの検索に使用される社内番号が表示されます。 |
| 参照指示 | 「参照指示」フィールドには参照指示が表示されます。 |
| 拠点 | 「拠点」フィールドは、どの製造拠点にそのアイテムが関連付けられているかを表示します。複数の拠点に関連付けられているアイテムは、拠点ごとに BOM に一覧表示されます。 |
| BOM メモ | 「BOM メモ」フィールドには、アイテムについてのメモが表示されます。 |

注意 「開始日」の日付は、「タイトル・プロック」タブの「リビジョン・リリース日」フィールドの日付とは異なります。リビジョン・リリース日は、アイテムの現在のリビジョンをリリースした ECO (設計変更指示) がリリースされた日付です。

BOMの共通および拠点別の部分

会社が分散式製造を行っている場合、BOM テーブルには共通部分と拠点別部分の両方が含まれる場合があります。アイテムの「拠点」タブにリストされた拠点は、アイテムを BOM テーブルの共通または拠点別部分に追加できるかどうかを判断します。

BOM テーブルの共通部分に表示されるようにするために、アイテムの「拠点」タブに、親アイテム・アセンブリの「拠点」タブに表示されているすべての拠点が含まれている必要があります。たとえば、親アセンブリ 4444 は、その「拠点」タブに「インド」と「サン・ホゼ」という拠点を含んでいるとします。この場合、BOM テーブルの共通部分に追加されたアイテムも、その「拠点」タブに「インド」と「サン・ホゼ」が含まれている必要があります。これらのアイテムがそれぞれの「拠点」タブにその他の拠点を含んでいても、そのことが原因でアセンブリ 4444 BOM テーブルの「India」部分から禁じられることはできません。

同じように、BOM テーブルの拠点別部分に追加されたアイテムは、それぞれの「拠点」タブに最低限その拠点を含んでいる必要があります。たとえば、BOM テーブルの「India」拠点別部分に含まれるようにするには、アイテムの「拠点」タブに少なくとも「India」が含まれている必要があります。これらのアイテムがそれぞれの「拠点」タブにその他の拠点を含んでいても、そのことが原因でアセンブリ 4444 BOM テーブルの「India」部分から禁じられることはできません。

BOM のトップ・レベルに表示されるアイテムは、これらのルールに準拠している必要があります。サブアセンブリの BOM テーブルに表示されるアイテムは、それぞれの親アイテムの拠点リストに一致する必要がありますが、しかしトップ・アセンブリ・アイテムの拠点リストと一致する必要はありません。

重要 BOM テーブルを作成または変更しているとき（「検索」または「既知の番号の入力」による追加）、適切な拠点が追加または変更されたアイテムの「拠点」タブに関連付けられていない場合、そのアイテムに正しい拠点の関連付けがないことを告げる警告が表示されます。警告を受け入れ、アイテムを追加するかアクションをキャンセルしてください。

子アイテムの拠点関連付けを追加してから、アセンブリ・アイテムをリリースする必要があります。アセンブリがリリースされると、アイテムは BOM テーブルにおける適切な拠点関連性について検証されます。Agile システム・スマートルール設定によっては、拠点の関連性が正しくなければ、変更指示や拠点毎変更をリリースできなくなる可能性があります。132 ページの「[拠点別の有効日と破棄日](#)」も参照してください。

「追加」→「作成して追加」（Web クライアント）または「追加」→「作成」（Java クライアント）を使用する場合、適切な拠点の関連付けは作成プロセスの間に自動的に追加されます。

29 ページの「[拠点および分散型製造](#)」も参照してください。

拠点ごとにBOMを表示する

タブの上の「**拠点**」ドロップダウン・リストから拠点を選択すると、特定の製造拠点に対するBOMを表示できます。リストに表示される拠点は、そのアイテムの「**拠点**」タブで指定された拠点です。（製造拠点の詳細は、29ページの「[拠点および分散型製造](#)」を参照してください。）

拠点を選択すると、「**BOM**」タブには共通のBOMに加え、選択した拠点のBOMも表示されます。すべての拠点のBOMを一括で表示させるには、「**拠点**」リストの「すべて」を選択します。

拠点に色を割り当てるとき、BOMテーブルの行を異なる色で表示し、各拠点を別の拠点と区別できます。拠点の色は、拠点の「**一般情報**」タブで割り当てます。

BOMテーブルに表示されているアイテムについてのみ、アクションを実行できます。たとえば、「**拠点**」ドロップダウン・リストでサンフランシスコを選んだ場合、BOMの共通部分のアイテムと、BOMのサンフランシスコの部分のアイテムがすべて表示され、BOMの共通部分とBOMのサンフランシスコの部分を変更できます。ただし、BOMの香港の部分は、表示されていないため変更できません。

「**リビジョン**」ドロップダウン・リストと「**拠点**」ドロップダウン・リストは、独立して機能します。詳細は、10ページの「[アイテムのリビジョンを処理する](#)」を参照してください。

BOMのアイテムを開く

通常、BOMに一覧表示されているすべてのアイテムは、アイテム番号をクリックするか（Webクライアント）、またはその行をダブルクリックすると（Javaクライアント）開くことができます。アイテムを開くとアイテムのページが表示されます。

このセクションでは次のトピックについて説明します。

- [「BOM」タブから部品、アセンブリ、ドキュメントを開く](#) (80ページ)
- [アセンブリを展開、縮小する](#) (80ページ)
- [BOMジャンプを使用する](#) (82ページ)

「BOM」タブから部品、アセンブリ、ドキュメントを開く

Webクライアント：

- BOMにあるアイテムは、アイテム番号をクリックすると開きます。
- BOMに一覧表示されている任意のアイテムを「クイック・ビュー」パレットで表示できます。
 - a. アイテム番号のリンク上にカーソルを置きます。「クイック・ビュー」ツールチップが表示されます。
 - b. 「クイック・ビュー」ツールチップをクリックします。「クイック・ビュー」パレットが表示されます。
 - c. 「クイック・ビュー」パレットで「次」および「戻る」ボタンを使用して、BOMテーブルの次のアイテムまたは前のアイテムを表示します。
 - d. パレットの「閉じる」ボタンをクリックして、「クイック・ビュー」パレットを閉じます。

Javaクライアント：

BOMにあるアイテムは、その行をダブル・クリックすると開きます。

保留中のリビジョンの部品構成表（BOM）を表示するには、タブの上の「**リビジョン**」ドロップダウン・リストから、保留中のリビジョン（「リビジョン（B）」のように括弧でくくられているもの）を選択します。

同一アイテムの他のリビジョンの表示の詳細は、10ページの「[アイテムのリビジョンを処理する](#)」を参照してください。

アセンブリを展開、縮小する

80ページの「[BOMのアイテムを開く](#)」も参照してください。

BOMツリーの詳細、Webクライアント

アセンブリまたはサブアセンブリを展開するには、アイテム番号の前の▶をクリックします。

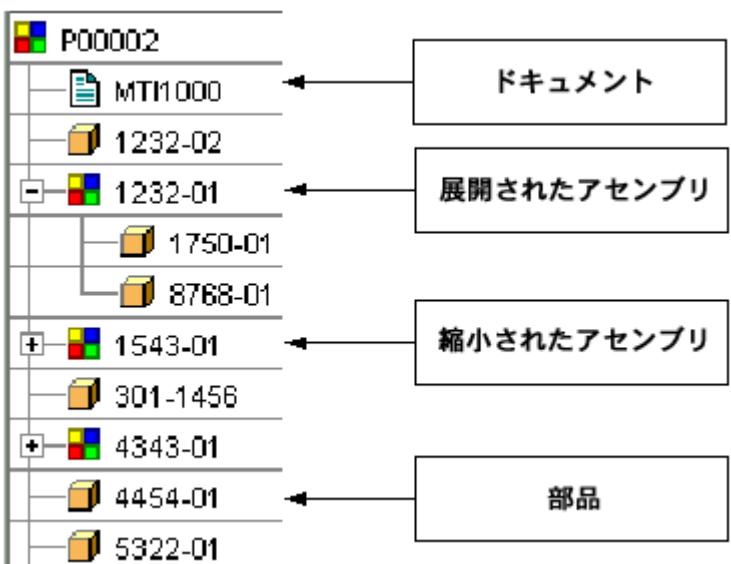
アセンブリまたはサブアセンブリを縮小するには、アイテム番号の前の▼をクリックします。



BOMツリーの詳細、Javaクライアント

アセンブリまたはサブアセンブリを展開するには、アイテム番号の前の田をクリックします。

アセンブリまたはサブアセンブリを縮小するには、アイテム番号の前の□をクリックします。



BOMジャンプを使用する

「BOM ジャンプ」機能により、BOM ツリーの特定アイテムを検索できます。

Webクライアントで「BOMジャンプ」機能を使用するには、

1. 「BOM」タブで「移動」ボタンをクリックします。

注意 「展開されたBOM表示」ウィンドウでBOMのジャンプ機能を使用することもできます。83ページの「[「展開されたBOM表示」ウィンドウ、Webクライアント](#)」も参照してください。

2. 「BOM のアイテムに移動」ダイアログ・ボックスで、検索を定義します。
 - a. 「検索」フィールドで、検索するテキストを入力します。「ジャンプ」検索は、その属性フィールドに指定したテキストを含む任意のアイテムを検出します。数字と句読点を含め、任意の文字の種類を使用できます。
 - b. ドロップダウン・リストで、検索したい BOM テーブルのカラムを選択します。すべてのカラムまたは 1 つの特定カラムを選択できます。
 - c. テキストの大文字小文字を区別して検索するには、「大文字小文字を区別する」にチェックマークを付けます。
 - d. 検索する BOM レベル数を選択します。数字を入力するか、または「すべてのレベル」チェック・ボックスを選択します。
3. 検索を開始するには、「次を検索」をクリックします。検索条件に一致する最初のアイテムが BOM テーブルでハイライト表示されます。
4. 「次を検索」および「前を検索」ボタンを使って BOM テーブルをスクロールアップまたはスクロールダウンすると、検索条件に一致するアイテムがハイライト表示されます。
5. 目的のアイテムを見つけたら、「BOM のアイテムに移動」ダイアログ・ボックスで「閉じる」をクリックします。BOM テーブルでハイライト表示された最後のアイテムはハイライト表示されたままになっています。

Javaクライアントで「BOMジャンプ」機能を使用するには、

1. アイテムの「BOM」タブをクリックして表示します。
2. 特定のアセンブリに検索範囲を限定する場合は、必要に応じて BOM を展開し、「BOM」テーブルで目的のアセンブリを選択します。それ以外の場合は、次のステップに進みます。
3. 「ジャンプ」ボタンをクリックします。 
4. 「ジャンプ」ダイアログ・ボックスで、検索を定義します。
 - a. 検索したいテキストを入力します。「ジャンプ」検索は、その属性フィールドに指定したテキストを含む任意のアイテムを検出します。数字と句読点を含め、任意の文字の種類を使用できます。
 - b. ドロップダウン・リストで、検索したい BOM テーブルのカラムを選択します。すべてのカラムまたは 1 つの特定カラムを選択できます。
 - c. テキストの大文字小文字を区別して検索するには、「大文字小文字を区別する」にチェックマークを付けます。
 - d. 検索する BOM レベル数を選択します。数字を入力するか、または「すべてのレベル」チェック・ボックスを選択します。
 - e. ステップ 2 でアセンブリを選択した場合は、「レベルを制限して検索」を選択して検索範囲を選択したアセンブリに限定します。アセンブリを選択しなかった場合、このチェックボックスは無効化されています。
5. 検索を開始するには、「検索」をクリックします。

検索結果は、検索結果ダイアログ・ボックスに表示されます。まだ展開されていない場合、オブジェクト・ウィンドウの BOM テーブルは展開されて検索条件ダイアログ・ボックスで指定されたレベル数を表示します。

検索結果は次の方法でソートできます。

- カラム・ヘッダをドラッグ & ドロップして、カラムが表示される順序を変更します。
 - 利用可能なカラムの「追加」ドロップダウン・リストで、表示するカラムをさらに選択します。たとえば、拠点でアイテムをソートできるように結果テーブルに「拠点」カラムを追加します。
 - 表示されているカラムを削除するには、表示されているカラムの「削除」ドロップダウン・リストを使用します。
6. 検索条件を変更して検索を再び実行したい場合、「条件」をクリックします。検索結果ダイアログ・ボックスが閉じ、最後に指定した設定で検索条件ダイアログボックスが表示されます。検索を定義しなおすには、前述のステップ4に移動します。
7. 検索結果テーブルで目的のアイテムを検索します。「次へ」および「前へ」ボタンを使用して、検索結果リストをスクロールアップしたりスクロールダウンします。アイテムの行をクリックして選択することもできます。検索結果テーブルで選択したアイテムがハイライト表示されます。同時に、そのアイテムはオブジェクト・ウィンドウのBOMテーブルにもハイライト表示されます。検索結果テーブルで異なるアイテムを選択するときには常に、そのアイテムがBOMテーブルにハイライト表示されます。
8. 目的のアイテムを見つけたら、検索結果ダイアログボックスで「閉じる」をクリックします。検索結果テーブルで選択した最後のアイテムは、オブジェクト・ウィンドウのBOMテーブルでハイライト表示されたままになっています。

80ページの「[BOMのアイテムを開く](#)」も参照してください。

「展開されたBOM表示」ウィンドウ、Webクライアント

Webクライアントの「展開された表示」ボタンをクリックすると、「展開されたBOM表示」という別のウィンドウが開き、BOMが表示されます。「展開されたBOM表示」ウィンドウが開いている間、Webクライアントのコンテンツ・ウィンドウは引き続き表示されます。「展開されたBOM表示」ウィンドウのアイテム・リンクをクリックすると、そのアイテムがWebクライアントのコンテンツ・ウィンドウに開きます。コンテンツ・ウィンドウでは、任意のアイテム・タブをクリックして開くことができます。

Webクライアントの「展開されたBOM表示」機能を使用することによって、Webクライアントのコンテンツ・ウィンドウでオブジェクトを表示および編集すると同時に、「展開されたBOM表示」ウィンドウでBOM構造全体を表示できます。

さらに、同時に2つの「展開されたBOM表示」ウィンドウを開くこともできます。別のBOMアイテムに移動して「BOM」タブで「展開された表示」ボタンを使用すると、2つ目の「展開されたBOM表示」ウィンドウが開きます。

Webクライアントの展開された表示機能を使用する手順は次のとおりです。

- 「BOM」タブで「展開された表示」ボタンをクリックします。
- 「表示するレベルの選択」ダイアログで、表示するBOMレベル数を「すべて」または1~7レベルのうちから選択します。「表示」をクリックします。
- 「展開されたBOM表示」ウィンドウが開きます。「展開されたBOM表示」ウィンドウには、次のコントロールがあります。
 - 「移動」：このBOMの移動機能を使用して、「展開されたBOM表示」ウィンドウにおいて特定のBOMアイテムを検索します。82ページの「[BOMジャンプを使用する](#)」を参照してください。
 - 「レベルの表示」：このボタンをクリックして、「表示するレベルの選択」ダイアログを開きます。必要に応じて、異なるBOMレベルの表示を選択します。
 - 「詳細」メニュー：このメニューには、次のコマンドが含まれています。
 - 「印刷」：「詳細」→「印刷」を選択します。「印刷オプション」ダイアログでは、製造元を含

めるかどうかの選択、印刷ページのプレビュー、印刷またはキャンセルが可能です。

- 「コピー」：「展開された BOM 表示」ウィンドウのテーブルで 1 つ以上の行を選択およびハイライトします。「詳細」→「コピー」を選択します。コピーしたアイテムは、Web クライアントのコンテンツ・ウィンドウ内の適切なテーブルに貼り付けることができます。
 - 「更新」：「更新」をクリックして、BOM に対して実行されたすべての変更に応じて「展開された BOM 表示」ウィンドウの BOM 情報を更新します。
4. 「展開された BOM 表示」ウィンドウで、任意のアイテム・リンクをクリックします。そのアイテムが Web クライアントのコンテンツ・ウィンドウに表示されます。
 5. 「閉じる」ボタンをクリックして、「展開された BOM 表示」ウィンドウを閉じます。

BOMのリビジョン表示

BOMテーブルの「リビジョン」フィールドに表示されるリビジョン番号（または文字）は、親アイテムのリリース日（すでにリリースされている場合）を確認し、その日付以前の子アイテムの最新リビジョンを検索して分析することにより算出されます。親アイテムがリリースされていない場合、子アイテムの最新のリビジョンが検索されます。詳細は、202ページの「[BOM上のリビジョン表示の詳細](#)」を参照してください。

注意 子アイテムが未リリースかリリース済かによって、親アイテムのBOMに表示される子アイテムのリビジョンが異なることに注意してください。

ECOの影響を受けるアイテムのBOM

アイテムに対して ECO を作成する場合、Agile PLM では、その ECO の影響を受けるアイテムの新しいリビジョンが作成されます。新しいリビジョンには、レッドラインに基づいて更新された BOM があります。

たとえば、次のような操作を行う例を考慮してください。

1. 現在使用されている 1.0GB ディスクを 2.1GB ハード・ディスクで置き換えることにより部品#1000~02 を変更する ECO を作成します。
2. ECO をリリースします。
3. アイテム#1000~02 の BOM を確認します。

ECO がリリースされると、変更されたアイテムが、アイテム#1000~02 の新しいリビジョンとして表示されます。この新しいリビジョンには ECO による変更が適用されています。

115ページの「[変更](#)」と 137ページの「[変更の対象アイテム](#)」も参照してください。

BOMテーブルの変更について

アイテムがまだリリースされておらず保留中の変更がない場合、直接 BOM テーブルを変更（追加、削除、または編集）できます。

アイテムがリリース済の状態にあるか、またはアイテムに保留中のMCOがある場合、アイテムに対してECOを記述し、BOMをレッドラインする必要があります。（アイテムにすでに保留中のECOがある場合、別のECOを作成することなくBOMをレッドラインできます。）107ページの「[リリース済アイテムのBOMをレッドラインする](#)」を参照してください。

注意 SCO を使用して、リリース済アイテムの BOM の拠点別の部分を変更できます。

次の表に、アイテムの BOM テーブルをプレリミナリ・アイテムおよびリリース済量産アイテムとして変更する方法を示します。

| フェーズ1 | フェーズ2 | フェーズ3 | フェーズ4 |
|---|--|---|--|
| 部品_123 ライフサイクル = プレリミナリ リビジョン = 初版 ECO_001 | 部品_123 ライフサイクル = プレリミナリ リビジョン = (A) ECO_001 | 部品_123 ライフサイクル = 製造 リビジョン = A ECO_001 | 部品_123 ライフサイクル = 製造 リビジョン = (B) ECO_005 |
| 保留中の変更なし | 保留中の ECO_001 はまだリリースされていません。保留中リビジョン (A) を作成します。 | ECO_001 は部品_123 をリリースします。 | ECO_005 は部品_123 の保留中リビジョン (B) を作成します。 |
| 部品_123 はまだリリースされていません。BOMテーブルを 92ページの「 プレリミナリ・アイテムのBOMテーブルにアイテムを追加する 」の説明に基づいて変更できます。 | ECO_001 で BOM をレッドラインして部品_123 の BOM テーブルを変更します。 | 部品_123 はリリース済量産アイテムであるため、部品_123 の BOM テーブルは変更できません。 | 部品_123 はリリース済量産アイテムです。変更を作成し、BOM をレッドラインして、BOM にすべての変更を加える必要があります。 |

このセクションでは次のトピックについて説明します。

- [プレリミナリ・アイテムのBOMで拠点別の部分を変更する](#) (85ページ)
- [プレリミナリ・アイテムのBOMテーブルにアイテムを追加する](#) (92ページ)
- [プレリミナリ・アイテムのBOMテーブルを変更する](#) (97ページ)
- [アイテムをBOMテーブルから削除する](#) (98ページ)

プレリミナリ・アイテムのBOMで拠点別の部分を変更する

分散型の製造を行っている場合、BOMの各製造拠点の部分を個別に変更できます。BOMの拠点別のアイテムを変更するには、「**拠点**」ドロップダウン・リストから拠点を選択し、変更または編集する拠点別のアイテムを選択します。97ページの「[プレリミナリ・アイテムのBOMテーブルを変更する](#)」を参照してください。アイテムをBOMに追加する場合は、拠点を選択します。92ページの「[プレリミナリ・アイテムのBOMテーブルにアイテムを追加する](#)」を参照してください。

注意 リリース済アイテムのBOMの拠点別の部分を変更する場合、リビジョンの変更は必要なく、SCOで変更できます。リリース済アイテムのBOMの共通部分を変更する場合は、リビジョンの変更が必要で、ECOでのみ変更が可能です。リリース済アイテムのBOMの変更の詳細は、115ページの「[変更](#)」と137ページの「[変更の対象アイテム](#)」を参照してください。

Webクライアント、プレリミナリ・アイテムのBOMテーブルにアイテムを追加する

アイテムを **BOM** タブに追加するにはいくつか方法があります。次のいずれかを実行します。

- BOM テーブルの「**追加**」ボタンを使用して、次の処理を実行できます。
 - アイテムの番号を入力します。
86ページの「[Webクライアント、BOMテーブルに追加するアイテムの番号を入力する](#)」を参照してください。
 - パレットの  「**検索して追加**」ボタンをクリックして、簡易検索を実行します。
87ページの「[Webクライアント、簡易検索してBOMテーブルにアイテムを追加する](#)」を参照してください。
 - パレットの  「**作成して追加**」をクリックして、新しいアイテムを作成します。
88ページの「[Webクライアント、新規作成してBOMテーブルにアイテムを追加する](#)」を参照してください。
- 保存された検索を実行します。検索結果テーブルで、「**詳細**」メニューの「**コピー**」コマンドを使用するか、または  「**ナビゲータ**」ドローワーに移入し、ドラッグ・アンド・ドロップして BOM テーブルに追加できます。
88ページの「[Webクライアント、保存された検索を実行してプレリミナリ・アイテムのBOMテーブルにアイテムを追加する](#)」を参照してください。
- カスタム検索パレットを開き、検索（基本または詳細）を定義して、追加するアイテムを検索します。
89ページの「[Webクライアント、カスタム検索してBOMテーブルにアイテムを追加する](#)」を参照してください。
- 一時番号を持つプレースホルダ行を追加して、後でその行に対してアイテムを選択します。
90ページの「[Webクライアント、BOMテーブルにプレースホルダ行を追加する](#)」を参照してください。
 - 空の行を編集して、一時アイテム番号またはアイテムの説明などの BOM 行の詳細を入力します。
91ページの「[Webクライアント、プレースホルダ行を編集する](#)」を参照してください。
 - 使用したいアイテムを選択して、空の行を完成させます。
91ページの「[Webクライアント、BOMテーブルのプレースホルダ行を完成する](#)」を参照してください。

84ページの「[BOMテーブルの変更について](#)」も参照してください。

Webクライアント、BOMテーブルに追加するアイテムの番号を入力する

BOMテーブルに追加するアイテムの番号がわかっている場合、Webクライアントの「既知の番号の入力」オプションを使用できます。87ページの「[Webクライアント、簡易検索してBOMテーブルにアイテムを追加する](#)」および88ページの「[Webクライアント、新規作成してBOMテーブルにアイテムを追加する](#)」も参照してください。

注意 存在しないアイテム番号を入力すると、警告が表示されます。警告を受け入れると、存在しないアイテム番号のプレースホルダ行が追加されます。90ページの「[Webクライアント、BOMテーブルにプレースホルダ行を追加する](#)」も参照してください。

WebクライアントでBOMテーブルにアイテムを1つ、または複数追加する手順は次のとおりです。

1. 「**BOM**」タブをクリックします。

2. 抱点別アイテムを「BOM」タブに追加する場合は、アイテムの「**抱点**」ドロップダウン・リストで抱点を選択します。BOMの共通部分にアイテムを追加するには、「すべて」を選択します。
3. 「**追加**」ボタンをクリックします。オブジェクト追加パレットが表示されます。
4. テキスト入力フィールドに、追加するアイテム番号をセミコロンで区切って入力します。例:
P00487; P00259; P00264
5. または、Web クライアントの先行入力検索機能を使用することもできます。
 - a. アイテム番号の一部を入力すると、入力したテキストに一致するアイテムのリストが Agile PLM によって表示されます。
 - b. 上矢印キーおよび下矢印キーを使用して、必要なオブジェクトをハイライトします。
 - c. 右矢印キーを押して、オブジェクトを選択します。
 - d. ステップ a~c を繰り返して、追加するオブジェクトを複数選択します。
6. パレットのドロップダウン・リストで、希望の抱点を選択してください。BOM の共通部分にアイテムを追加するには、「**共通**」を選択します。
すでにアイテムの「**抱点**」ドロップダウン・リストで抱点を選択している場合、パレットでは事前に選択された状態となっています。
7. [Enter]キーを押して、選択したアイテムをテーブルに追加し、パレットを閉じます。
アイテムが BOM テーブル内に表示されます。
8. 別の抱点にアイテムを追加するには、アイテムの「**抱点**」ドロップダウン・リストで目的の抱点を選択して手順を繰り返します。

BOMテーブルにアイテムを追加する他の方法は、86ページの「[Web クライアント、プレリミナリ・アイテムの BOM テーブルにアイテムを追加する](#)」を参照してください。

Web クライアント、簡易検索してBOMテーブルにアイテムを追加する

簡易検索を実行して BOM テーブルに追加するアイテムを検索するには、Web クライアントの「**追加**」機能を使用します。

Web クライアントで、簡易検索を実行してBOMテーブルに追加する1つ以上のアイテムを検索する手順は次のとおりです。

1. 「**BOM**」タブをクリックします。
2. 抱点別アイテムを「**BOM**」タブに追加する場合は、アイテムの「**抱点**」ドロップダウン・リストで抱点を選択します。BOM の共通部分にアイテムを追加するには、「すべて」を選択します。
3. 「**追加**」ボタンをクリックします。オブジェクト追加パレットが表示されます。
4. パレットの  「**検索して追加**」ボタンをクリックします。「**アイテム検索**」パレットが表示されます。
5. 検索条件を入力し、 をクリックして、簡易検索を実行します。
6. 結果テーブルで、1つ以上のアイテムを選択して、次のいずれかを実行します。
 - キーボードの[Enter]キーを押して、選択したアイテムを BOM テーブルに追加します。
 - 選択したアイテムを BOM テーブルにドラッグ・アンド・ドロップします。
 BOM テーブルにアイテムが追加されます。
7. 抱点別アイテムを追加するには、「**アイテム検索**」パレットの「**抱点**」ドロップダウン・リストを使用し

て、必要な拠点を選択します。ステップ 6 を繰り返します。

8. 終了したら、キーボードの[Esc]キーを押して、「アイテム検索」パレットを閉じます。

Webクライアント、新規作成してBOMテーブルにアイテムを追加する

まだ作成されていないアイテムを BOM に追加できます。

Webクライアントを使用してBOMテーブルに存在しないアイテムを追加する手順は次のとおりです。

1. 「BOM」タブをクリックします。
2. 拠点別アイテムを「BOM」タブに追加する場合は、アイテムの「拠点」ドロップダウン・リストで拠点を選択します。BOM の共通部分にアイテムを追加するには、「すべて」を選択します。
3. 「追加」ボタンをクリックします。オブジェクト追加パレットが表示されます。
4. パレットの  「作成して追加」ボタンをクリックします。
「新規作成」ダイアログが開きます。
5. 「新規作成」ダイアログで、「タイプ」ドロップダウン・リストを使用して、作成するアイテムのタイプ(サブクラス)を選択します。
6. 表示される番号を使用するか、「自動採番」ボタンをクリックするか、または番号を入力します。
7. 必要に応じて、「説明」フィールドに説明を入力します。
8. 「拠点へ追加」のドロップダウン・リストで、希望の拠点を選択してください。BOM の共通部分にアイテムを追加するには、「共通」を選択します。
すでにアイテムの「拠点」ドロップダウン・リストで拠点を選択している場合、ダイアログでは事前に選択された状態となっています。
9. 必須フィールドを入力します。
10. 「追加」をクリックします。

注意 新しいアイテムを作成した後でそのアイテムが必要でなくなった場合は、「アクション」メニューの「削除」コマンドを使用してデータベースからそのアイテムを削除する必要があります。BOMからのアイテムの削除の詳細は、98ページの「[アイテムをBOMテーブルから削除する](#)」を参照してください。

BOMテーブルにアイテムを追加する他の方法は、86ページの「[Webクライアント、プレリミナリ・アイテムのBOMテーブルにアイテムを追加する](#)」を参照してください。

Webクライアント、保存された検索を実行してBOMテーブルにアイテムを追加する

Agile PLM のテーブル追加機能では、保存された検索を使用して、BOM テーブルに追加するアイテムを検索できます。

Webクライアントで保存された検索を使用してBOMテーブルに追加するアイテムを検索する手順は次のとおりです。

1. 保存された検索を実行します。
2. 次のいずれかの方法を使用して、検索結果アイテムを BOM テーブルに追加します。
3. コピー・アンド・ペースト:
 - 「検索結果」テーブルで、1 つ以上のアイテム行を選択します。

- b. 「詳細」メニューで「コピー」を選択するか、またはキーボードの[Ctrl]キーを押しながら[C]キーを押して、アイテムをコピーします。
 - c. 必要なアイテムを開き、「BOM」タブをクリックして、BOM テーブルを表示します。
 - d. 「詳細」メニューで「貼付け」を選択するか、またはキーボードの[Ctrl]キーを押しながら[V]キーを押します。
4.  「ナビゲータ」ドローワー:
- a. 「検索結果」テーブルで、「ナビゲータ」ボタンをクリックします。左のナビゲーション・ウィンドウの 「ナビゲータ」ドローワーに、検索結果が移入されます。
 - b.  「ナビゲータ」ドローワーで、1つ以上のアイテムを選択します。アイテム・アイコンの左側をクリックしてハイライトし、 「ナビゲータ」リンクを選択します。
 - c. ハイライトしたアイテムを BOM テーブルにドラッグ・アンド・ドロップします。
 - d. または、 「ナビゲータ」のハイライトされたアイテムをコピー ([Ctrl]キーを押しながら[C]キーを押します) して、BOM テーブルに貼り付けることもできます（「詳細」メニューで「貼付け」を選択するか、またはキーボードの[Ctrl]キーを押しながら[V]キーを押します）。

Webクライアント、カスタム検索してBOMテーブルにアイテムを追加する

Web クライアントでは、カスタム検索を実行して、BOM テーブルに追加するアイテムを検索できます。検索した後、コピー・アンド・ペーストを使用して、アイテムを BOM テーブルに追加します。

コンテンツ・ウィンドウでカスタム検索を実行し、検索結果テーブル機能を使用して 「ナビゲータ」ドローワーに移入するか、または検索結果行をコピーしてBOMテーブルに貼り付けることができます。88ページの「[Web クライアント、保存された検索を実行してプレリミナリ・アイテムのBOMテーブルにアイテムを追加する](#)」を参照してください。

また、カスタム検索パレットを開き、そこで BOM テーブルを表示しながら追加するアイテムを検索および選択することもできます。

「カスタム検索」パレットを開き、BOMテーブルに追加するアイテムを検索する手順は次のとおりです。

1. 「BOM」タブをクリックして、BOM テーブルを表示します。
2. キーボードで、[Ctrl]キーと[Shift]キーを押しながら[X]キーを押します。カスタム検索パレットが表示されます。BOM テーブルは、パレットの後ろに引き続き表示されます。
3. 検索パレットで、基本検索または詳細検索を定義します。検索を実行します。検索の定義の詳細は、『Agile PLM スタート・ガイド』を参照してください。

注意 カスタム検索パレットの左上隅で、 をクリックするとパレット全体が縮小し、 をクリックするとパレットが再度展開されます。

4. 1つ以上の検索結果行を選択します。
5. 「コピー」ボタンをクリックします。
6. コンテンツ・ウィンドウ内をクリックするか、または BOM テーブル行を選択して、BOM テーブルにフォーカスを置き、「詳細」メニューで「貼付け」を選択します。
7. BOM アイテムに拠点がある場合は、Agile PLM によって、貼り付けた BOM 行の拠点設定を選択するよう求めるメッセージが表示されます。プロンプトのドロップダウン・リストで、希望の拠点を選択してください。BOM の共通部分にアイテムを追加するには、「共通」を選択します。

他のアイテムを検索および選択するために、複数の検索を実行できます。

8. キーボードの[Esc]キーを押して、カスタム検索パレットを閉じます。

注意 アイテムが、拠点別の BOM プロパティで「不可」に設定されたサブクラスに属している場合、そのアイテムの BOM テーブルに拠点別の行は追加できません。質問がある場合は、Agile 管理者にお問い合わせください。

BOM テーブルにアイテムを追加する他の方法は、86ページの「[Web クライアント、プレリミナリ・アイテムの BOM テーブルにアイテムを追加する](#)」を参照してください。

Web クライアント、BOM テーブルにプレースホルダ行を追加する

Web クライアントでは、後で追加するアイテムのプレースホルダとして、BOM テーブルにプレースホルダ行を追加できます。プレースホルダ行の「**BOM メモ**」フィールドを編集して、後で追加するオブジェクトのタイプを指定できます。

たとえば、あるユーザーがコンピュータに関する BOM を作成していると仮定します。しかし、そのユーザーはどの電源コードを使用すれば良いかわかりません。その場合、BOM にプレースホルダ行を追加して、そのプレースホルダ行のフィールドを編集します。彼は見出し番号、参照指示、数量を指定します。「**BOM メモ**」フィールドに、BOM に入れる必要がある電源コードのタイプについてメモを入力します。後で、BOM を再び表示したユーザーはプレースホルダ行に気づきます。そこで BOM の行に必要な情報の入力を完了するには、適切なアイテム番号を選択しなければならないことを思い出します。「Web クライアント、BOM テーブルのプレースホルダ行を完成する」も参照してください。

Web クライアントで BOM テーブルにプレースホルダ行を追加する手順は次のとおりです。

1. 「**BOM**」タブをクリックします。
2. BOM の拠点別の部分にプレースホルダ行を追加するには、アイテムの「**拠点**」ドロップダウン・リストから拠点を選択します。BOM の共通部分にプレースホルダ行を追加するには、アイテムの「**拠点**」ドロップダウン・リストから「すべて」を選択します。（アイテムまたはプレースホルダ行は、それらを追加する拠点と関連付けられている必要があります。詳細は、40ページの「[拠点をアイテムに関連付ける](#)」を参照してください）。

注意 アイテムが、拠点別の BOM プロパティで「不可」に設定されたサブクラスに属している場合、そのアイテムの BOM テーブルに拠点別の行は追加できません。質問がある場合は、Agile 管理者にお問い合わせください。

3. 「**追加**」ボタンをクリックします。オブジェクト追加パレットが表示されます。
 4. テキスト入力フィールドに、既存のアイテム番号とは異なるテキスト文字列を入力します。例:
xyz-456
 5. [Enter]キーを押します。
アイテム xyz-456 が存在しないことを示す警告が表示されます。
- 注意** 前述のステップ 4 で既存のアイテムの番号を入力した場合、警告は表示されず、そのアイテムが BOM に追加されます。
6. 警告で「**続行**」オプションが選択されていることを確認して、「**完了**」をクリックします。
- BOM テーブルの該当するセクションに、デフォルトの見出し番号と数量でプレースホルダ行が追加されます。デフォルトの見出し番号は 0 です。デフォルトの数量は Agile 管理者により設定されます。

赤い疑問符アイコン  がプレースホルダ番号の前に表示され、この行で情報が不足していることが示されます。例：

 xyz-456

BOMテーブルにアイテムを追加する他の方法は、86ページの「[Webクライアント、プレリミナリ・アイテムのBOMテーブルにアイテムを追加する](#)」を参照してください。

Webクライアント、プレースホルダ行を編集する

BOM行を編集するのと同じ方法でプレースホルダ行を編集することも可能で、これにより一部のBOMテーブル・フィールドを入力してから追加するオブジェクトを指定します。たとえば、数量、見出し番号、参照指示、およびAgile管理者が定義した追加カスタム・フィールドを入力できます。

次の指示に従うことによって、一時アイテム番号またはアイテムの一時説明も表示できます。

Webクライアントを使用してプレースホルダ行を編集するには（一時アイテム番号またはアイテム説明の入力または編集を含む）

1. BOMテーブルの編集を開始するには、任意の編集可能なセルをダブルクリックします。
テーブルが編集モードになり、「**保存**」ボタンと「**キャンセル**」ボタンがアクティブになります（グレーアウトされません）。
2. 各フィールドで必要な変更を行います。フィールドをクリックするか、[Tab]キーを押すか、または矢印キーを使用して、他のフィールドに移動します。
3. 入力が完了したら、「**保存**」をクリックします。

一時アイテム番号を変更すると、Agile PLMはアイテム番号が存在しないという警告を含む「警告」ダイアログを表示します。一時アイテム番号を指定し終わったら、「**この警告を無視**」チェック・ボックスを選択し、「**完了**」をクリックします。

BOMテーブルにアイテムを追加する方法の詳細は、86ページの「[Webクライアント、プレリミナリ・アイテムのBOMテーブルにアイテムを追加する](#)」を参照してください。

Webクライアント、BOMテーブルのプレースホルダ行を完成する

Webクライアントでは、次の手順を使用してBOMテーブルの空の行を完成できます。次の条件が適用されます。

- アイテムに保留中の変更がない場合にのみ、BOMテーブルを編集してプレースホルダBOM行を削除できます。
- 変更指示がリリースされていない場合にのみ、変更指示の「**BOM**のレッドライン」タブでプレースホルダBOM行のレッドライン削除を実行できます。
- BOMテーブルの編集プロセス外で、一時的なBOM行置換（名前の付けられている空白のBOM行）を実行できます。
 - メイン・メニューの「作成」などから、プレースホルダBOM行の名前でアイテムを作成する場合
 - 既存のアイテムの名前をプレースホルダBOMアイテムと同じ名前に変更する場合
 - 「名前を付けて保存」機能を使用して、既存のアイテムにプレースホルダBOMアイテムと同じ名前を付けて新規アイテムを作成する場合

Webクライアントを使用してBOMテーブルのプレースホルダ行を完成するには

1. BOM テーブルで、プレースホルダ行の「アイテム番号」セルのプレースホルダ番号をダブルクリックします。たとえば、次のプレースホルダ行を完成するには、「xyz-456」リンクをクリックします。

 xyz-456

アイテムの追加パレットが表示されます。テキスト入力フィールドに、あらかじめプレースホルダ番号が移入されており、選択およびハイライトされています。

2. アイテム番号の入力を開始して、プレースホルダ番号を置換します。86ページの「[Webクライアント、BOM テーブルに追加するアイテムの番号を入力する](#)」を参照してください。

または、別のパレット・オプションを選択します。

- パレットの  「検索して追加」ボタンをクリックして、必要なアイテムの簡易検索を実行します。87ページの「[Webクライアント、簡易検索してBOMテーブルにアイテムを追加する](#)」を参照してください。
- パレットの  「作成して追加」ボタンをクリックして、新しいアイテムを作成します。88ページの「[Webクライアント、新規作成してBOMテーブルにアイテムを追加する](#)」を参照してください。

3. キーボードの[Enter]キーを押してアイテムを追加し、アイテムの追加パレットを閉じます。

BOM テーブル内のプレースホルダ・アイテム番号が置換されます。

BOMテーブルにアイテムを追加する方法の詳細は、86ページの「[Webクライアント、プレリミナリ・アイテムのBOMテーブルにアイテムを追加する](#)」を参照してください。

Javaクライアント、プレリミナリ・アイテムのBOMテーブルにアイテムを追加する

Java クライアントでは、「**BOM**」タブにアイテムを追加する複数の方法があります。次のいずれかを実行します。

- アイテムの番号を入力します。92ページの「[Javaクライアント、BOMテーブルに追加するアイテムの番号を入力する](#)」を参照してください。
- 利用可能な検索方法を使用し、追加するアイテムを検索します。93ページの「[Javaクライアント、BOMテーブルに追加するアイテムの検索](#)」を参照してください。
- 新規アイテムを作成します。97ページの「[Javaクライアント、存在しないアイテムをBOMテーブルに追加する](#)」を参照してください。
- 空白の行を追加し、後からこの行に対しアイテムを選択します。94ページの「[Javaクライアント、BOMテーブルに空の行を追加する](#)」を参照してください。
 - 空の行を編集して、一時アイテム番号またはアイテムの説明などのBOM行の詳細を入力します。95ページの「[Javaクライアント、空の行を編集する](#)」を参照してください。
 - 使用したいアイテムを選択して、空の行を完成させます。96ページの「[Javaクライアント、BOMテーブルの空の行を完成する](#)」を参照してください。

84ページの「[BOMテーブルの変更について](#)」も参照してください。

Javaクライアント、BOMテーブルに追加するアイテムの番号を入力する

BOM テーブルに追加するアイテムの番号がわかっている場合、Java クライアントの「既知の番号の入力」オプションを使用できます。

注意 存在しないアイテム番号を入力すると、警告が表示されます。警告を受け入れると、存在しないアイテム番号のプレースホルダ行が追加されます。94ページの「[Javaクライアント、BOMテーブルに空の行を追加する](#)」も参照してください。

JavaクライアントでBOMテーブルにアイテムを1つ、または複数追加する手順は次のとおりです。

1. 「**BOM**」タブをクリックします。
 2. 拠点別アイテムを「**BOM**」タブに追加する場合は、アイテムの「**拠点**」ドロップダウン・リストで拠点を選択します。BOMの共通部分にアイテムを追加するには、「**すべて**」を選択します。
 3. 「**追加**」ボタンをクリックします。オブジェクト追加パレットが表示されます。
 4. テキスト入力フィールドに、追加するアイテムの番号または名前を入力します。
 5. アイテム番号の一部を入力すると、入力したテキストに一致するアイテムのリストが Agile PLM によって表示されます。
 6. 上矢印キーおよび下矢印キーを使用して、必要なオブジェクトをハイライトします。
 7. 右矢印キーを押して、オブジェクトを選択します。
 8. ステップ 4~7 を繰り返して、追加するオブジェクトを複数選択します。
 9. パレットのドロップダウン・リストで、希望の拠点を選択してください。BOMの共通部分にアイテムを追加するには、「**共通**」を選択します。
- すでにアイテムの「**拠点**」ドロップダウン・リストで拠点を選択している場合、パレットでは事前に選択された状態となっています。
10. [Enter]キーを押して、選択したアイテムをテーブルに追加し、パレットを閉じます。
- アイテムが BOM テーブル内に表示されます。
11. 別の拠点にアイテムを追加するには、アイテムの「**拠点**」ドロップダウン・リストで目的の拠点を選択して手順を繰り返します。

BOMテーブルにアイテムを追加する他の方法は、92ページの「[Javaクライアント、プレリミナリ・アイテムのBOMテーブルにアイテムを追加する](#)」を参照してください。

Javaクライアント、BOMテーブルに追加するアイテムの検索

保存された検索を使用するか、または簡易検索や詳細検索を定義し、BOM テーブルに追加するアイテムを検索できます。また、「ブックマーク」フォルダや「最近訪れたところ」フォルダでアイテムを選択できます。

1つまたは複数のアイテムを検索し、JavaクライアントのBOMテーブル追加する手順は次のとおりです。

アイテムを BOM に追加すると、選択したアイテムの下に追加されます。

1. 「**BOM**」タブをクリックします。
2. 拠点別アイテムを「**BOM**」タブに追加する場合は、アイテムの「**拠点**」ドロップダウン・リストで拠点を選択します。BOMの共通部分にアイテムを追加するには、「**すべて**」を選択します。
3. 「**追加**」ドロップダウン・メニュー・ボタンをクリックし、「**検索**」オプションを選択します。「**BOM の追加**」ダイアログが表示されます。
4. アイテムを追加した後、すぐにアイテム情報を編集するには、「**追加後、行を編集**」がチェックされていることを確認します。

5. 既存のアイテムを1つまたは複数検索します。「BOMを追加」ダイアログ・ボックスで、検索方法を選択します。簡易検索を実行する場合は、検索する値を入力し、「検索」をクリックします。さらに、詳細検索を設定したり、保存された検索を実行したり、ブックマークや最近開いたアイテム（ショートカット）も選択できます。（検索の詳細は、『Agile PLM スタート・ガイド』を参照してください。）
6. これらの検索結果で、アイテムを「選択されたアイテム」リストへ移動し、アイテムを選択します。他のアイテムを検索および選択するために、複数の検索を実行できます。
7. 「拠点」フィールドでまだ拠点を選択していない場合は、選択します。BOMの共通部分に選択されたアイテムを追加するには、「共通」を選択します。すでにアイテムの「拠点」ドロップダウン・リストで拠点を選択している場合、ダイアログでは拠点が事前に選択された状態となっています。
8. 「OK」をクリックします。
9. 「追加後、行を編集」がチェックされている場合、「追加された行の編集」ダイアログでアイテム情報を編集し、「OK」をクリックします。

「選択されたアイテム」リストのすべてのアイテムは、BOMに追加されます。「BOM」タブの「拠点」欄には、関連拠点として、選択された拠点が自動的に入力されます。BOMの「共通」部分にアイテムを追加した場合、「拠点」欄は空欄となり、アイテムが拠点別ではなく、すべての拠点に対して共通であることを意味します。
10. 別の拠点にアイテムを追加するには、アイテムの「拠点」ドロップダウン・リストで目的の拠点を選択して手順を繰り返します。

注意 アイテムが、拠点別のBOMプロパティで「不可」に設定されたサブクラスに属している場合、そのアイテムのBOMテーブルに拠点別の行は追加できません。質問がある場合は、Agile管理者にお問い合わせください。

BOMテーブルにアイテムを追加する他の方法は、92ページの「[Javaクライアント、プレリミナリ・アイテムのBOMテーブルにアイテムを追加する](#)」を参照してください。

Javaクライアント、BOMテーブルに空の行を追加する

プレース・ホルダーとして、BOMテーブルに空の行を追加し、後で追加するオブジェクトのタイプを指定して、「BOMメモ」フィールドを編集します。

たとえば、あるユーザーがコンピュータに関するBOMを作成していると仮定します。しかし、そのユーザーはどの電源コードを使用すれば良いかわかりません。BOMに空の行を追加して、空の行を編集することにします。彼は見出し番号、参照指示、数量を指定します。「BOMメモ」フィールドに、BOMに入れる必要がある電源コードのタイプについてメモを入力します。後で、BOMを再び表示したユーザーは空の行に気づきます。そこでBOMの行に必要な情報の入力を完了するには、適切なアイテム番号を選択しなければならないことを思い出します。96ページの「[Javaクライアント、BOMテーブルの空の行を完成する](#)」も参照してください。

JavaクライアントのBOMテーブルに空の行を追加する手順は次のとおりです。

BOMに空の行を追加する場合、選択した行の上に追加されます。

1. 「BOM」タブをクリックします。
2. BOMの拠点別の部分に空の行を追加するには、アイテムの「拠点」ドロップダウン・リストから拠点を選択します。BOMの共通部分に空の行を追加するには、アイテムの「拠点」ドロップダウン・リストから「すべて」を選択します。（アイテムまたは空の行は、追加する拠点に関連付けてください。詳細は、40ページの「[拠点をアイテムに関連付ける](#)」を参照してください。）

注意 アイテムが、拠点別の BOM プロパティで「不可」に設定されたサブクラスに属している場合、そのアイテムの BOM テーブルに拠点別の行は追加できません。質問がある場合は、Agile 管理者にお問い合わせください。

3. 「追加」 ドロップダウン・メニュー・ボタンをクリックし、「空の行の追加」 オプションを選択します。

BOM テーブルの該当するセクションに、デフォルトの見出し番号と数量で空の行が追加されます。デフォルトの見出し番号は 0 です。デフォルトの数量は Agile 管理者により設定されます。

Web クライアントの BOM テーブルに空の行を追加する手順は次のとおりです。

1. 「BOM」 タブをクリックします。
2. BOM の拠点別の部分に空の行を追加するには、アイテムの「拠点」 ドロップダウン・リストから拠点を選択します。BOM の共通部分に空の行を追加するには、アイテムの「拠点」 ドロップダウン・リストから「すべて」 を選択します。（アイテムまたは空の行は、追加する拠点に関連付けてください。詳細は、40 ページの「[拠点をアイテムに関連付ける](#)」を参照してください）。

注意 アイテムが、拠点別の BOM プロパティで「不可」に設定されたサブクラスに属している場合、そのアイテムの BOM テーブルに拠点別の行は追加できません。質問がある場合は、Agile 管理者にお問い合わせください。

3. 「追加」 ドロップダウン・メニュー・ボタンをクリックし、「空の行」 オプションを選択します。
- BOM テーブルの該当するセクションに空の行が追加されます。デフォルトでは、見出し番号は 0、数量は 1 です。

BOM テーブルにアイテムを追加する他の方法は、92 ページの「[Java クライアント、プレリミナリ・アイテムの BOM テーブルにアイテムを追加する](#)」を参照してください。

Java クライアント、空の行を編集する

BOM 行を編集するのと同じ方法で空の行を編集することも可能で、これにより一部の BOM テーブル・フィールドを入力してから追加したいオブジェクトを指定します。たとえば、数量、見出し番号、参照指示、および Agile 管理者が定義した追加カスタム・フィールドを入力できます。

次の指示に従うことによって、一時アイテム番号またはアイテムの一時説明も表示できます。

Java クライアントを使用して空の行を編集するには（一時アイテム番号またはアイテム説明の入力または編集を含む）

1. 変更する空の行を含む 1 つ以上の BOM 行を選択し、「編集」 ボタン  をクリックします。
 2. 「編集」 ウィンドウが表示されます。
 3. テーブルで変更を加えます。
 4. 空の行に一時説明を入力するには、「BOM 説明」 フィールド・フィールドに、一時アイテム説明として使用したいテキストを入力します。
- 空の行の「アイテム説明」 フィールドは編集できません。ただし、Agile は変更を保存するときアイテムの一時説明として「BOM 説明」 のテキストを使用します。
5. 一時アイテム番号を入力するには、「アイテム番号」 フィールドに、Agile データベースに存在しない番号を入力します。

- 完了したら、「OK」をクリックします。

一時アイテム番号を入力すると、Agile はアイテム番号が存在しないという警告を含む「警告とエラー」ダイアログ・ボックスを表示します。一時アイテム番号を指定し終わったら、「受諾」チェックボックスをチェックし、「OK」をクリックします。

BOM 説明フィールドに一時説明のテキストを入力した場合、そのテキストは空の行の「アイテム説明」フィールドにも表示されます。

BOM テーブルにアイテムを追加する方法の詳細は、92 ページの「[Java クライアント、プレリミナリ・アイテムの BOM テーブルにアイテムを追加する](#)」を参照してください。

Java クライアント、BOM テーブルの空の行を完成する

Java クライアントでは、次の手順を使用して BOM テーブルの空の行を完成できます。次の条件が適用されます。

- アイテムに保留中の変更がない場合は、アイテムの BOM テーブルで BOM 空白行置換を実行できます。
- 変更指示がリリースされていない場合は、変更指示の「**BOM のレッドライン**」タブで BOM 空白行置換を実行できます。
- BOM テーブルの編集プロセス外で、一時的な BOM 行置換（名前の付けられている空白の BOM 行）を実行できます。
 - メイン・メニューの「作成」などから、一時的な名前でアイテムを作成する場合
 - 既存のアイテムの名前を、一時 BOM アイテムと同じ名前に変更する場合
 - 「名前を付けて保存」機能を使用して、既存のアイテムに一時 BOM アイテムと同じ名前を付けて新規アイテムを作成する場合

Java クライアントを使用して BOM テーブルの空の行を完成する手順は次のとおりです。

- BOM テーブルで空の行をダブルクリックすると、この記号  が表示されます。
- 「一時アイテムの置換」ダイアログ・ボックスで、使用する方法を選択します。

新しいアイテムを作成する

- 「一時アイテムの置換」ダイアログ・ボックスで、「**新規アイテムの作成**」を選択し、「OK」をクリックします。
- 「新規」ダイアログ・ボックスで、「**タイプ**」ドロップダウン・リストのアイテム・タイプを選択し、必須フィールドに入力し、「OK」をクリックします。自動採番が必要ない場合、新規ダイアログ「番号」フィールドに一時番号が保存されます。この一時番号を使用することも、置換することもできます。自動採番が必要な場合、一時番号が自動採番で自動的に置換されます。

アイテムを検索する

- 「一時アイテムの置換」ダイアログボックスで、「**アイテムの検索**」を選択し、「OK」をクリックします。
 - 「オブジェクトの選択」ダイアログ・ボックスで、検索方法を選択します。簡易検索を実行する場合は、検索する値を入力し、「**検索**」をクリックします。さらに、詳細検索を設定したり、保存された検索を実行したり、ブックマークや最近開いたアイテム（ショートカット）も選択できます。（検索の詳細は、『Agile PLM スタート・ガイド』を参照してください。）
- 望むアイテムが見つかるまで、複数の検索を実行できます。
- これらの検索結果で、アイテムを「**選択されたオブジェクト**」リストへ移動し、1 つのアイテムを選択したら「OK」をクリックします。

アイテムと置換する

- a. 「一時アイテムの置換」ダイアログ・ボックスで、「アイテムと置換」を選択します。
- b. 既存アイテムのアイテム番号を入力し、「OK」をクリックします。

BOMテーブルにアイテムを追加する方法の詳細は、92ページの「[Javaクライアント、プレリミナリ・アイテムのBOMテーブルにアイテムを追加する](#)」を参照してください。

Javaクライアント、存在しないアイテムをBOMテーブルに追加する

まだ作成されていないアイテムを BOM に追加できます。

Javaクライアントを使用してBOMテーブルに存在しないアイテムを追加する手順は次のとおりです。

1. 「BOM」タブをクリックします。
2. 拠点別アイテムを「BOM」タブに追加する場合は、アイテムの「拠点」ドロップダウン・リストで拠点を選択します。BOM の共通部分にアイテムを追加するには、「すべて」を選択します。
3. 「追加」ドロップダウン・メニュー・ボタンをクリックし、「作成」オプションを選択します。「新規作成」ダイアログが開きます。
4. 「新規作成」ダイアログ・ボックスで、「タイプ」ドロップダウン・リストを使用して、作成するアイテムのタイプ（サブクラス）を選択します。
5. アイテムに番号を割り当てます。これには、提供された自動採番号を使用するか、または「自動採番」ボタン    を押して次の番号を使用するか、または番号を入力します。
6. 「拠点へ追加」のドロップダウン・リストで、希望の拠点を選択してください。BOM の共通部分にアイテムを追加するには、「共通」を選択します。
すでにアイテムの「拠点」ドロップダウン・リストで拠点を選択している場合、ダイアログでは事前に選択された状態となっています。
7. 必須フィールドを入力します。
8. 「OK」をクリックします。

注意 新しいアイテムを作成した後でそのアイテムが必要でなくなった場合は、「オブジェクト」ウィンドウの「削除」ボタン  を使用してデータベースからそのアイテムを削除する必要があります。BOMからのアイテムの削除の詳細は、98ページの「[アイテムをBOMテーブルから削除する](#)」を参照してください。

BOMテーブルにアイテムを追加する他の方法は、92ページの「[Javaクライアント、プレリミナリ・アイテムのBOMテーブルにアイテムを追加する](#)」を参照してください。

プレリミナリ・アイテムのBOMテーブルを変更する

リリースされておらず、保留中の変更のないアイテムの BOM テーブルは直接変更できます。

新しいアイテムを作成して「BOM」タブをクリックすると、Agile PLM によって空白の「BOM」タブが表示されます。

Webクライアントのプレリミナリ・アイテムのBOMテーブルにあるアイテムを変更する手順は次のとおりです。

1. 未リリース・アイテム（まだリリースされておらず、保留中の変更もないアイテム）を開きます。
2. 「BOM」タブをクリックします。
3. BOM の拠点別の部分にある BOM 情報が必要な場合、「拠点」ドロップダウン・リストから拠点を選択します。
4. BOM テーブルの編集を開始するには、任意の編集可能なセルをダブルクリックします。
テーブルが編集モードになり、「保存」ボタンと「キャンセル」ボタンがアクティブになります（グレー アウトされません）。
5. 各フィールドで必要な変更を行います。フィールドをクリックするか、[Tab]キーを押すか、または矢印キーを使用して、他のフィールドに移動します。
6. 入力が完了したら、「保存」をクリックします。

Javaクライアントのプレリミナリ・アイテムのBOMテーブルにあるアイテムを変更する手順は次のとおりです。

1. 未リリース・アイテム（まだリリースされておらず、保留中の変更もないアイテム）を開きます。
2. 「BOM」タブをクリックします。
3. BOM の拠点別の部分にある BOM 情報が必要な場合、「拠点」ドロップダウン・リストから拠点を選択します。
4. 変更するアイテムを 1 つまたは複数選択します。
「編集」ボタンをクリックします。
「編集」ウィンドウが表示されます。
5. テーブルで変更を加えます。
6. 完了したら、「OK」をクリックします。

92ページの「[プレリミナリ・アイテムのBOMテーブルにアイテムを追加する](#)」も参照してください。

アイテムをBOMテーブルから削除する

WebクライアントでBOMテーブルからアイテムを削除する手順は次のとおりです。

1. 現在表示されていない BOM の拠点別の部分からアイテムを削除するには、「拠点」ドロップダウン・リストから拠点（または「すべて」）を選択して、拠点別の行を表示します。
2. BOM テーブルから削除するアイテムを 1 つまたは複数選択します。
3. 「BOM」タブで「削除」ボタンをクリックするか、またはキーボードの[Del]キーを押します。
BOM テーブルからアイテムが削除されます。

JavaクライアントでBOMテーブルからアイテムを削除する手順は次のとおりです。

1. 現在表示されていない BOM の拠点別の部分からアイテムを削除するには、「拠点」ドロップダウン・リストから拠点（または「すべて」）を選択して、拠点別の行を表示します。
2. BOM テーブルから削除するアイテムを 1 つまたは複数選択します。
3. 「BOM」タブで「削除」ボタンをクリックします。
BOM テーブルからアイテムが削除されます。

注意 必ず「BOM」タブの  「削除」ボタンを使用します。「アイテム」ウィンドウの  「削除」ボタンは使用しないでください。ウィンドウの  「削除」ボタンを使用すると、アイテム全体が削除されます。

92ページの「[プレリミナリ・アイテムのBOMテーブルにアイテムを追加する](#)」も参照してください。

参照指示を使用する

参照指示は、コンポーネントを指すラベル・システムとしてコンピュータ産業で広く使用されています。企業で参照指示を使用している場合、Agile BOM で参照指示を割り当て、編集できます。

このセクションでは次のトピックについて説明します。

- [参照指示を表示する](#) (99ページ)
- [参照指示を追加する](#) (100ページ)
- [参照指示を削除する](#) (105ページ)
- [参照指示を変更する](#) (106ページ)

参照指示を表示する

参照指示は、展開表示 (R1, R2, R3) または縮小表示 (R1-R3) で「BOM」テーブルに表示されます。Agile 管理者は、Agile システムで使用される参照指示の表示方法を選択するために、次のシステム・プリファレンスを設定します。

このセクションでは次のトピックについて説明します。

- [「参照指示の範囲の展開縮小を許可する」プリファレンス設定](#) (99ページ)
- [Webクライアントで参照指示を表示する](#) (100ページ)
- [Javaクライアントで参照指示を表示する](#) (100ページ)

「参照指示の範囲の展開縮小を許可する」プリファレンス設定

「参照指示の範囲の展開縮小を許可する」システム・プリファレンスにより、「参照指示」フィールドで表示される参照指示の範囲は、展開または縮小のいずれかとなります。たとえば、参照指示 R1、R2、R3、R4、R5 の範囲は次のように表示されます。

▫ 展開: R1, R2, R3, R4, R5

各参照指示は、「参照指示」フィールドに表示されます。

▫ 縮小: R1-R5

3つ、またはそれ以上の参照指示は、シーケンス (R1) の最初の参照指示で表され、その後に参照指示範囲のインジケータ文字 (- ハイフン文字) およびシーケンスの最後の参照指示 (R5) で表されます。ハイフン文字はデフォルトの参照指示文字ですが、Agile 管理者は適宜別の文字も起用できます。

参照指示に先行ゼロが含まれる場合、縮小モードでは、参照指示は先行ゼロの数に基づいてグループにまとめて表示されます。たとえば、次の 100 個の参照指示は、

R0001, R0002, R0003, R0004, ...R0099, R0100

縮小モードでは次のように表示されます。

R0001-R0009, R0010-R0099, R0100

100ページの「[参照指示を追加する](#)」および99ページの「[参照指示を表示する](#)」も参照してください。

Webクライアントで参照指示を表示する

数多くの表示する参照指示がある場合、Web クライアントでは、リストの先頭が「[参照指示](#)」セルに表示されます。「[参照指示](#)」カラムの幅のサイズを変更したり、「[参照指示](#)」セルを展開してスクロール・バーとともに表示できます。

Webクライアントで「[参照指示](#)」フィールドにすべての参照指示を表示する手順は次のとおりです。

1. 「[参照指示](#)」セルをクリックして、選択します。セルがハイライトされます。
2. ハイライトされたセルを1回右クリックします。

セルが展開され、スクロール・バーが付いた展開されたセルが表示されます。展開されたセルには、複数行の参照指示が表示されます。

3. 「BOM」テーブルの展開された「[参照指示](#)」セルでスクロール・バーを使用し、上下にスクロールして参照指示を表示します。

システム・プリファレンスの「展開/閉じる」設定にかかわらず、展開されたセルでは参照指示が展開モードで表示されます。すべての参照指示が展開されたセルに表示されます。

73ページの「[部品構成表 \(BOM\)](#)」および100ページの「[参照指示を追加する](#)」も参照してください。

Javaクライアントで参照指示を表示する

たくさんの参照指示を表示する場合、Java クライアントは1行の参照指示を表示し、次に省略記号 (...) を表示し、「[参照指示](#)」フィールドにその他の参照指示があることを示します。

「[参照指示](#)」フィールドにすべての参照指示を表示する手順は次のとおりです。

「BOM」テーブルで「[参照指示](#)」フィールド・セルをクリックします。

ドロップダウン・ウィンドウが表示されます。参照指示の全リストはこのウィンドウに表示されます。必要に応じて、ページにスクロール・バーが表示されます。

システム・プリファレンスの「展開/閉じる」設定にかかわらず、このウィンドウでは参照指示が展開モードで表示されます。各参照指示はウィンドウに表示されます。

73ページの「[部品構成表 \(BOM\)](#)」および100ページの「[参照指示を追加する](#)」も参照してください。

参照指示を追加する

このセクションでは次のトピックについて説明します。

- [参照指示入力形式のガイドライン](#) (101ページ)
- [参照指示の先行ゼロ](#) (102ページ)
- [複数セグメントの参照指示入力形式のガイドライン](#) (102ページ)
- [参照指示フィールドを編集する](#) (104ページ)
- [重複した参照指示と拠点](#) (105ページ)

参照指示は個別に、または複数を一度に入力、削除、変更できます。参照指示の数が少ない場合は、個別に入力できます（たとえば R1, R2, R3）。多数の参照指示を入力する必要がある場合は、Rx-Ry というフォーマットを使用できます。ここで x と y は任意の数字ですが、その差は 5000 以下である必要があります（たとえば、R6-R2055）。

参照指示は BOM 行につき 5000 に制限されています。5000 以上の参照指示が必要な場合、別の見出し番号（同じアイテム番号）で BOM に重複アイテムを追加し、追加参照指示を定義してください。

参照指示は、現在のアイテムへの編集が完了するまでは並べ替えられません。

「**数量**」フィールドの数字が参照指示の数字と一致しない場合、参照指示と数量が一致しないという内容のメッセージが表示されます。

「**数量**」が空白（null）の場合、Agile では、「**数量**」フィールドの内容が 0（ゼロ）であると見なされ、参照指示の数が一致するかどうか、つまり参照指示の数も 0（ゼロ）であるかが確認されます。「**参照指示**」フィールドに参照指示が存在し、「**数量**」が空白の場合は、参照指示と数量が一致しないことを示すメッセージが表示されます。

「**数量**」が整数でない場合、「**数量**」フィールドの値はテキスト文字として扱われ、「**数量**」と参照指示の数字が一致するかどうかは検証されません。小数（7.8 など）は整数でないため、テキスト・エントリと見なされます。

各参照指示に指定できる長さは、最小 1 文字、最大 19 文字です。

参照指示の重複は、同じ固有の BOM 行では許可されません。同じ参照指示を 2 回入力すると（A1, A1 など）、1 つの参照指示 A1 として解決されます。

固有の BOM 行は、固有の見出し番号によって定義されます。BOM テーブルの複数の行に同じ見出し番号が付けられている場合、このような BOM テーブル行に対して「**参照指示の重複**」スマートルールは無視されます。ただし、複数の BOM 行で「見出し番号」が空白の場合、これらの行はすべて見出し番号が 0 であるものとして「**参照指示の重複**」スマートルールが検証されます。「**参照指示の重複**」スマートルールの詳細は、『管理者ガイド』を参照してください。

105ページの「[参照指示を削除する](#)」および 106ページの「[参照指示を変更する](#)」も参照してください。

参照指示入力形式のガイドライン

参照指示を入力する際は、次のルールが適用されます。

- **範囲の入力** - 参照指示を入力するときは、システム・プリファレンスの「**参照指示の範囲の展開縮小を許可**」設定にかかわらず、常に範囲を使用できます。プリファレンスが「展開」に設定されている場合、編集を保存した後、参照指示は展開形式で表示されます。例:

入力: **R1-R5**

展開表示: **R1, R2, R3, R4, R5**

縮小表示: **R1-R5**

注意 参照指示フィールドを編集するときは、既存の参照指示は常に「展開」形式で表示され、BOM テーブル行が編集モードになります。同じ編集セッションで、「[参照指示](#)」編集フィールドから離れ、再度「[参照指示](#)」編集フィールドに戻った場合、前に入力した範囲は「展開」形式で表示されます。

詳細は、99ページの「[「参照指示の範囲の展開縮小を許可する」プリファレンス設定](#)」を参照してください。

- 異なる文字で始まる参照指示のグループを追加するには、各文字グループをカンマで区切ります。たとえば、A1、A2、A3、B4、B5、B6、B7、C8、C9、C10 という 10 個の指示を入力する場合、次のように入力します。

A1-A3, B4-B7, C8-C10

99ページの「[参照指示を使用する](#)」および 100 ページの「[参照指示を追加する](#)」も参照してください。

参照指示の先行ゼロ

個別の参照指示や参照指示の範囲を入力する際は、先行ゼロを使用できます。たとえば、次のようにになります。

R001, R002, R010

B001-B100

- 範囲内の各セグメントに含まれる数字の数は一致する必要がありません。例:

R0001-R100

- 範囲の各セグメントに含まれる数字の数が一致しない場合、最初のセグメントの数字の数がその範囲のすべての参照指示に使用されます。前述の例では、範囲は次のように保存されます。

R0001, R0002, R0003, R0004, ...R0099, R0100

編集モードを終了すると、参照指示は「[参照指示の範囲の展開縮小を許可する](#)」システム・プリファレンス設定に基づいて表示されます。詳細は、99ページの「[「参照指示の範囲の展開縮小を許可する」プリファレンス設定](#)」を参照してください。

99ページの「[参照指示を使用する](#)」および 100 ページの「[参照指示を追加する](#)」も参照してください。

複数セグメントの参照指示入力形式のガイドライン

注意 これらのルールは、次のように接尾辞を使用する場合に適用されます。

参照指示は最大3つの部分に分割されます。

<接頭辞> <数字> <接尾辞>

- 接頭辞 - 範囲インジケータ（たとえば、デフォルトの範囲インジケータである[-ハイフン]）や区切り文字（たとえば、参照指示リストを区切るために使用する[,カンマ]）として定義されていないすべての文字を使用できます。
- 数字 - 数字以外は使用できません（0～9）。
- 接尾辞 - 範囲インジケータや区切り文字として設計されていないすべての文字で、"0"（ゼロ）で始まらないものを使用できます。

最後の文字列のみが参照指示の<番号>として認められます。たとえば、次のようにになります。

A10B30D

<接頭辞> = **A10B** <番号> = **30** <接尾辞> = **D**

前述の条件を満たしていることを前提とし、セグメント化された参照指示には、セグメントを分ける文字が含まれていることもあります。Agile管理者がハイフン以外の文字を範囲インジケータとして選択した場合、ハイフンも使用できます。どの文字がセグメント化された参照指示で使用できるのか、Agile管理者にお問い合わせください。例：

A*10*B30D

<接頭辞> = **A*10*B** <番号> = **30** <接尾辞> = **D**

注意 Agile管理者がハイフン以外の文字を範囲インジケータとして選択した場合、ハイフンも使用できます。どの文字がセグメント化された参照指示で使用できるのか、Agile管理者にお問い合わせください。

99ページの「[参照指示を使用する](#)」および100ページの「[参照指示を追加する](#)」も参照してください。

複数セグメントの参照指示の範囲を入力する

範囲を入力する際、開始範囲指示と終了範囲指示の形式が評価され、形式に互換性があり、範囲が有効であることが確認されます。

複数セグメントの範囲を入力する場合、開始範囲指示と終了範囲指示における接頭辞と接尾辞はともに同じである必要があります。（詳細は、次のステップ3を参照してください。）

数字セグメントは、102ページの「[参照指示の先行ゼロ](#)」で説明されているように、先行ゼロを使用する場合があります。

Agileでは、次のルールを使用して、複数セグメントの範囲の数字部分と入力された範囲の有効性を評価します。

1. Agileでは、右から左にスキャンして開始範囲指示と終了範囲指示の両方における最初の整数を検索することで、数字セグメントを特定します。
2. 開始範囲の数字と終了範囲の数字を検証して、両者の形式が同じであることを確認します。
 - a. 両者の数字は、最後の指示と桁数（文字数）が同じです。
 - b. 終了範囲指示の数字は開始範囲指示の数字よりも大きくなります。

3. Agile では、接頭辞と接尾辞が一致することを確認します。

- a. 整数の右の文字列（接尾辞）は、開始範囲指示と終了範囲指示で同じになります。
- b. 整数の左の文字列（接頭辞）は、開始範囲指示と終了範囲指示で同じになります。

オプションで、終了範囲指示の接頭辞を省略できます。この場合、開始範囲指示と同じ接頭辞が使用されます。これにより、両方の接頭辞が同じでなくてはならないというルールをクリアします。次の 2 つの範囲は同じです。

A1B1C - A1B3C

<接頭辞> = A1B <番号> = 1 <接尾辞> = C

-

<接頭辞> = A1B <番号> = 3 <接尾辞> = C

A1B1C - 3C

<接頭辞> = A1B <番号> = 1 <接尾辞> = C

-

<接頭辞> = <開始範囲指示の接頭辞を使用> <番号> = 3 <接尾辞> = C

次の表に、有効な複数セグメントの参照指示の範囲を例示します。範囲インジケータはハイフン記号です。

| 入力された範囲: | 保存された参照指示: |
|-------------------|------------------------------------|
| A1B*A3B | A1B*A3B |
| A*07*FG - A*10*FG | A*07*FG, A*08*FG, A*09*FG, A*10*FG |
| A*001*TT - A*3*TT | A*001*TT、A*002*TT、A*003*TT |
| A*07 - A*10 | A*07、A*08、A*09、A*10 |
| A*001 - A*3 | A*001、A*002、A*003 |
| A1B1 - A1B3 | A1B1、A1B2、A1B3 |
| A1B1C - A1B3C | A1B1C、A1B2C、A1B3C |
| A1B1C - 3C | A1B1C、A1B2C、A1B3C |
| A1B1CD - A1B3CD | A1B1CD、A1B2CD、A1B3CD |
| A1B1CD - 3CD | A1B1CD、A1B2CD、A1B3CD |
| A1B1C1 - A1B1C3 | A1B1C1、A1B1C2、A1B1C3 |

99ページの「[参照指示を使用する](#)」および 100ページの「[参照指示を追加する](#)」も参照してください。

参照指示フィールドを編集する

Webクライアントで参照指示を追加する手順は次のとおりです。

1. 「BOM のレッドライン」テーブルで編集を開始するには、変更する「参照指示」フィールドをダブルクリックします。

テーブルが編集モードになり、「保存」ボタンと「キャンセル」ボタンがアクティブになります（グレーアウトされません）。

注意 任意の編集可能なフィールドをダブルクリックして、編集モードを開始できます。フィールドをクリックするか、[Tab]キーを押すか、または矢印キーを使用して、変更するフィールドに移動します。

2. 「参照指示」フィールドに参照指示を入力します。行に必要な変更を加えます。

注意 必要に応じて、「数量」フィールドの数値を変更します。

3. 編集が完了したら、「保存」をクリックします。

Javaクライアントで参照指示を追加する手順は次のとおりです。

1. 次の手順に従って変更するアイテムを選択します。複数のアイテムを選択できます。
2. 「編集」ボタンをクリックします。
「編集」ウィンドウが表示されます。
3. 変更する「参照指示」フィールドをクリックします。ドロップダウン編集ウィンドウが表示されます。
4. このウィンドウに参照指示を入力します。行に必要な変更を加えます。

注意 必要に応じて、「数量」フィールドの数値を変更します。

5. 完了したら、「OK」をクリックします。

99ページの「[参照指示を使用する](#)」および100ページの「[参照指示を追加する](#)」も参照してください。

重複した参照指示と拠点

同じ参照指示は、「参照指示の重複」スマートルールの設定にかかわらず、BOM の拠点別の部分では複数で使用できます。（『管理者ガイド』を参照してください。）たとえば、参照指示 B22 は、BOM の「インド」部分の部品 123 に使用でき、また、BOM の「サン・ホゼ」部分の部品 556 にも使用できます。

スマートルールが「不可」に設定されている場合、同じ参照指示を BOM の共通部分および拠点別部分で使用することはできません。たとえば、参照指示 C55 を BOM の共通部分の部品 333 と BOM の「Milpitas」部分の部品 678 で使用することはできません。また、同じ参照指示を BOM の同じ拠点別部分で 2 度以上使用することはできません。たとえば、参照指示 D46 を BOM の「ミルピタス」部分の部品 989 と、同じく BOM 「ミルピタス」部分の部品 765 で使用することはできません。

99ページの「[参照指示を使用する](#)」および100ページの「[参照指示を追加する](#)」も参照してください。

参照指示を削除する

参照指示は個別に、または一度に複数を削除できます。

Webクライアントで参照指示を削除する手順は次のとおりです。

1. 「BOM のレッドライン」テーブルで編集を開始するには、変更する「参照指示」フィールドをダブルクリックします。

テーブルが編集モードになり、「保存」ボタンと「キャンセル」ボタンがアクティブになります（グレーアウトされません）。

注意 任意の編集可能なフィールドをダブルクリックして、編集モードを開始できます。フィールドをクリックするか、[Tab]キーを押すか、または矢印キーを使用して、変更するフィールドに移動します。

2. 参照指示を選択します。

1つの参照指示を選択するには、その参照指示をダブルクリックするか、Shiftキーと矢印キーを使用します。隣接する複数の参照指示を選択するには、Ctrl+Shiftキーと矢印キーを使用します。

3. キーボードのDeleteキーを押します。
4. 編集が完了したら、「保存」をクリックします。

Javaクライアントで参照指示を削除する手順は次のとおりです。

1. 行をクリックして変更するアイテムを選択します。

2. 「編集」ボタンをクリックします。

「編集」ウィンドウが表示されます。

3. 変更する「参照指示」フィールドをクリックします。ドロップダウン編集ウィンドウが表示されます。
4. 参照指示を選択します。

1つの参照指示を選択するには、Shiftキーと矢印キーを使用します。隣接する複数の参照指示を選択するには、Ctrl+Shiftキーと矢印キーを使用します。

5. キーボードのDeleteキーを押します。
6. 編集が完了したら、「OK」をクリックします。

注意 必ずキーボードのDeleteキーを使用するようにして、「BOM」タブの「削除」ボタンは使用しないでください。BOMの「削除」ボタンをクリックすると、アイテム全体がBOMから削除されます。

99ページの「[参照指示を使用する](#)」および100ページの「[参照指示を追加する](#)」も参照してください。

参照指示を変更する

参照指示は個別に、または複数を一度に変更できます。

Webクライアントで参照指示を変更する手順は次のとおりです。

1. 「BOM のレッドライン」テーブルで編集を開始するには、変更する「参照指示」フィールドをダブルクリックします。

テーブルが編集モードになり、「保存」ボタンと「キャンセル」ボタンがアクティブになります（グレーアウトされません）。

注意 任意の編集可能なフィールドをダブルクリックして、編集モードを開始できます。フィールドをクリックするか、[Tab]キーを押すか、または矢印キーを使用して、変更するフィールドに移動します。

2. 編集可能な「参照指示」セルで、適切な参照指示を選択します。

- 1つの参照指示を選択するには、その参照指示をダブルクリックするか、Shiftキーと矢印キーを使用します。
- 隣接する複数の参照指示を選択するには、Ctrl+Shiftキーと矢印キーを使用します。
- 参照指示を追加するには、カーソルを参照指示リストの最後に合わせます。

注意 参照指示を追加する場合に、カーソルはリストの任意の場所に置くことができます。リストは変更が保存された後で並び替えられるため参照指示をリストの特定の場所に挿入する必要はありません。

3. 変更した参照指示を入力します。

4. 「**保存**」をクリックします。

Javaクライアントで参照指示を変更する手順は次のとおりです。

1. 変更するアイテムを1つまたは複数選択します。

2. 「**編集**」ボタンをクリックします。

「BOMの編集」ダイアログ・ボックスが表示されます。

3. 変更する「**参照指示**」フィールドをクリックします。ドロップダウン編集ウィンドウが表示されます。

4. 参照指示を選択します。

- 1つの参照指示を選択するには、参照指示のリストにカーソルを置いてShiftキーと矢印キーを使用します。
- 隣接する複数の参照指示を選択するには、Ctrl+Shiftキーと矢印キーを使用します。
- 参照指示を追加するには、ポインタを参照指示リストの最後に合わせます。

注意 参照指示を追加する場合に、カーソルはリストの任意の場所に置くことができます。リストは変更が保存された後で並び替えられるため参照指示をリストの特定の場所に挿入する必要はありません。

5. 変更した参照指示を入力します。

6. 完了したら、「**OK**」をクリックします。

99ページの「[参照指示を使用する](#)」および100ページの「[参照指示を追加する](#)」も参照してください。

リリース済アイテムのBOMをレッドラインする

このセクションでは次のトピックについて説明します。

- [BOMレッドラインの概要](#) (108ページ)
- [「BOMのレッドライン」タブ](#) (108ページ)

- [レッドラインBOMテーブルにアイテムを追加する](#) (111ページ)
- [レッドラインBOMテーブルからアイテムを削除する](#) (111ページ)
- [レッドラインBOMテーブルのアイテム情報を編集する](#) (112ページ)
- [「BOMのレッドライン」テーブルの変更を取り消す](#) (113ページ)

BOMレッドラインの概要

次の場合に BOM テーブルを変更するには、アイテムの変更を作成する必要があります。

- アイテムがリリースされている場合
- アイテムがリリースされておらず、保留中の MCO がある場合

BOM のレッドラインには、ECO または SCO を使用します。

- アイテムの最新リリース済リビジョンの BOM の共通部分または拠点別の部分を変更するには、ECO を使用します。ECO を使用するとアイテムの新しいリビジョンが作成されます。
- 最新リリース済リビジョンのBOMの拠点別の部分を変更するには、SCOを使用します。SCOを使用した場合、アイテムの新しいリビジョンは作成されません。SCOの詳細は、131ページの「[拠点毎変更](#)」を参照してください。

保留中の変更があるアイテムを「対象アイテム」タブに追加する場合、Agile PLM はそのアイテムに別の保留中の変更があることを示し、その変更を「対象アイテム」タブに追加するかどうかを確認するメッセージが表示されます。変更アイテムを追加することを選択した場合、「対象アイテム」テーブルからアイテムを開くことができます。保留中の変更を表示するには「変更」タブをクリックします。

注意 BOM テーブルのアイテムにディスカバリ権限がない場合、そのアイテムはレッドラインできません。BOM テーブルのアイテムを検出できないアイテムで置き換えることはできません。

適切な権限があれば、レッドラインされた BOM を変更できます。詳細は、次のセクションを参照してください。

- [レッドラインBOMテーブルのアイテム情報を編集する](#) (112ページ)
- [レッドラインBOMテーブルにアイテムを追加する](#) (111ページ)

注意 「BOMのレッドライン」テーブルに存在しないアイテムを追加できます。92ページの「[「リミニナリ・アイテムのBOM」テーブルにアイテムを追加する](#)」を参照してください。

- [レッドラインBOMテーブルからアイテムを削除する](#) (111ページ)

「BOMのレッドライン」タブ

ECO または SCO の「対象アイテム」タブから「BOM のレッドライン」タブを開きます。「対象アイテム」テーブルでアイテム行を選択すると、対応する BOM が「BOM のレッドライン」タブに表示されます。

レッドラインの「BOM」タブの表示は次のとおりです。

- テーブルの行の各セルに赤いラインがある場合、これは BOM からアイテムが削除されたことを示します。

- 数個のセルに表示される短い赤いラインは、アイテムは変更されたが、削除はされていないことを示します。たとえば、「数量」と「見出し番号」セルのみのレッドラインされている場合は、BOM アイテムの「数量」と「見出し番号」が変更され、他の値はそのままであることを意味します。
- 変更されたセルには古い値の上に赤いラインが引かれ、新しい値が赤で表示されています。たとえば、「数量」セルで、レッドラインのある数字 7 (7) と数字 10 (10) は、古い数量は 7 で、新しい数量は 10 であることを示します。

他のBOMレッドライン作業については、107ページの「[リリース済アイテムのBOMをレッドラインする](#)」を参照してください。

Webクライアントでアイテムのレッドラインの「BOM」を開く手順は次のとおりです。

1. アイテムの BOM をレッドラインする ECO または SCO を開きます。
2. 変更の「対象アイテム」タブをクリックします。
3. 「対象アイテム」テーブルで、レッドラインを表示または作成するアイテムの行をクリックして選択します。アイテムがすでにレッドラインされている場合は、その行の「レッドライン済」カラム  にドット・アイコン  が表示されます。

「対象アイテム」テーブルの下のレッドライン・ウィンドウに、次のレッドライン・タブが表示されます (Agile PLM システムで有効化されている場合)。

「タイトル・ロック」：アイテムに対して定義された、変更制御下のアイテム属性が表示されます。

「BOM」：アイテムの BOM データが表示されます。

「製造元」：製造データが表示されます。

「添付ファイル」：(ECO のみ) アイテムの添付ファイルが表示されます。

注意 使用中の Agile PLM システムで「製造元」タブを使用していない場合、またはドキュメントに「BOM」タブがない場合、それらの「レッドライン」タブはレッドライン・ウィンドウに表示されません。ECO レッドラインの「タイトル・ロック」タブは、変更制御下のアイテム属性が有効である場合にのみ、ECO で表示されます。

4. 表示されていない場合は、レッドラインの「BOM」タブをクリックして表示させてください。

Javaクライアントでアイテムの「BOMのレッドライン」タブを開く手順は次のとおりです。

1. アイテムの BOM をレッドラインする ECO または SCO を開きます。
2. 変更の「対象アイテム」タブをクリックします。
3. 「対象アイテム」テーブルで、レッドラインを表示または作成するアイテムの行をクリックします。

「対象アイテム」テーブルのレッドライン・ウィンドウに「BOM のレッドライン」タブ、「製造元のレッドライン」タブ、「添付ファイルのレッドライン」タブ (ECO) のみが表示され、それぞれにアイテムの BOM データ、製造元データ、添付ファイルが表示されます。

注意 使用中の Agile PLM システムで「製造元」タブを使用していない場合、またはドキュメントに「BOM」タブがない場合、それらの「レッドライン」タブはレッドライン・ウィンドウに表示されません。ECO レッドラインの「タイトル・ロック」レッドライン・タブは、Java クライアントでは表示されません。

4. 表示されていない場合は、「BOM のレッドライン」タブをクリックして表示させてください。

「BOMのレッドライン」タブのボタン

次の表では、Web クライアントに表示される「BOM のレッドライン」タブの機能とボタンについて説明します。

| ボタンまたは機能 | 使用方法 |
|-----------|--|
| 編集モード | テーブルの任意の編集可能なセルをダブルクリックして、編集モードを開始します。フィールドをクリックするか、[Tab]キーを押すか、または矢印キーを押して、編集可能なフィールド間を移動します。 各フィールドで必要な変更を行い、終了したら「保存」をクリックします。 |
| 追加 | 「追加」ボタンをクリックすると、追加パレットが開きます。ここで、既知の番号の入力（先行入力検索の提案を使用）、  「検索して追加」のクリックまたは  「作成して追加」のクリックのいずれかの Web クライアントにおける追加オプションを使用できます。 アイテム行またはプレースホルダ行を「BOM のレッドライン」テーブルに追加できます。デフォルトでは、新しいアイテムまたは行の見出し番号は 0、数量は 1 です。 92 ページの「 プレリミナリ・アイテムのBOMテーブルにアイテムを追加する 」を参照してください。 |
| 削除 | 「削除」ボタンを使用すると、選択した行が「BOM のレッドライン」テーブルから削除されます。 |
| レッドライン取消し | 「レッドライン取消し」ボタンを使用すると、レッドラインが選択した行から消去されます。113 ページの「 「BOM のレッドライン」テーブルの変更を取り消す 」を参照してください。 |
| 詳細 | 「詳細」メニュー・ボタンでは、次のような「BOM のレッドライン」テーブルの編集機能が提供されます。 <ul style="list-style-type: none"> ▫ コピー ▫ 貼付け ▫ 下方へコピー ▫ 下方へコピー(選択されたセル) ▫ 上方へコピー ▫ 上方へコピー(選択されたセル) ▫ 「全面表示モード」と「標準表示モード」（トグル設定） |

次の表では、Java クライアントに表示される「BOM のレッドライン」タブのボタンについて説明します。

| ボタン | 使用方法 |
|---|---|
|  | 「BOM のレッドライン」 - 「BOM のレッドライン」 ウィンドウに選択した行が表示され、編集可能なフィールドを変更できます。 |

| ボタン | 使用方法 |
|---|--|
|  | 「追加」 - 「BOM のレッドライン」テーブルにアイテムまたは空白の行を追加します。選択したオプションに基づき、以下が表示されます。 |
|  | 「作成」追加する際にアイテムを作成します。 |
|  | 「検索」既存のアイテムを検索します。 |
|  | 「既知の番号の入力」既存のアイテムの既知の番号を1つ、または複数入力します。 |
|  | 「空の行の追加」 - 「BOM のレッドライン」テーブルに空の行が追加され、この行を後から入力できます。 デフォルトでは、新しいアイテムまたは行の見出し番号は0、数量は1です。 92ページの「 プレリミナリ・アイテムのBOMテーブルにアイテムを追加する 」を参照してください。 |
|  | 「削除」 - 選択した行を「BOM のレッドライン」テーブルから削除します。 |
|  | 「レッドライン取消し」 - 選択した行からレッドラインを削除します。113ページの「 [BOM]のレッドライン] テーブルの変更を取り消す 」を参照してください。 |

BOMのレッドライン作業の詳細は、107ページの「[リリース済アイテムのBOMをレッドラインする](#)」を参照してください。

レッドラインBOMテーブルからアイテムを削除する

行およびアイテムを削除するには、「BOM のレッドライン」タブのボタンを使用します。

- 選択した行の文字色が赤い(その行がBOMでレッドラインされていることを示す)場合は削除されます。
- 選択した行の文字色が黒い場合は、赤いラインが追加され、BOMからレッドライン削除されます。

Webクライアントの「BOMのレッドライン」テーブルからアイテムを削除する手順は次のとおりです。

1. 削除する1つまたは複数の行を選択します。
2. レッドラインの「BOM」タブの「削除」ボタンをクリックします。

Javaクライアントの「BOMのレッドライン」テーブルからアイテムを削除するには

1. 削除する1つまたは複数の行を選択します。
2. 「BOM のレッドライン」タブで「削除」ボタンをクリックします。

他のBOMレッドライン作業については、107ページの「[リリース済アイテムのBOMをレッドラインする](#)」を参照してください。

レッドラインBOMテーブルにアイテムを追加する

Webクライアントの「BOMのレッドライン」テーブルにアイテムを追加する手順は次のとおりです。

1. 「追加」ボタンをクリックします。

2. 既知の番号の入力（先行入力検索の提案を使用）、「検索して追加」のクリックまたは「作成して追加」のクリックのいずれかの Web クライアントにおける追加オプションを使用します。
3. 「BOM のレッドライン」テーブルにアイテムを追加することは、BOM テーブルにアイテムを追加することと似ています。ダイアログの入力方法の詳細は、次を参照してください。
 - [Web クライアント、新規作成して BOM テーブルにアイテムを追加する](#) (88 ページ)
 - [Web クライアント、BOM テーブルに追加するアイテムの番号を入力する](#) (86 ページ)
 - [Web クライアント、簡易検索して BOM テーブルにアイテムを追加する](#) (87 ページ)
 - [Web クライアント、保存された検索を実行して BOM テーブルにアイテムを追加する](#) (88 ページ)
 - [Web クライアント、カスタム検索して BOM テーブルにアイテムを追加する](#) (89 ページ)
 - [Web クライアント、BOM テーブルにプレースホルダ行を追加する](#) (90 ページ) および [Web クライアント、BOM テーブルのプレースホルダ行を完成する](#) (91 ページ)

Java クライアントの「BOM のレッドライン」テーブルにアイテムを追加する手順は次のとおりです。

1. 「追加」ドロップダウン・メニュー・ボタンをクリックして、「作成」、「既知の番号の入力」、「検索」または「空白行の追加」のいずれかの追加オプションを選択します。
2. 「BOM のレッドライン」テーブルにアイテムを追加することは、BOM テーブルにアイテムを追加することと似ています。ダイアログの入力方法の詳細は、次を参照してください。
 - [Java クライアント、存在しないアイテムを BOM テーブルに追加する](#) (97 ページ)
 - [Java クライアント、BOM テーブルに追加するアイテムの番号を入力する](#) (92 ページ)
 - [Java クライアント、BOM テーブルに追加するアイテムの検索](#) (93 ページ)
 - [Java クライアント、BOM テーブルに空の行を追加する](#) (94 ページ) および [Java クライアント、BOM テーブルの空の行を完成する](#) (96 ページ)

他の BOM レッドライン作業については、107 ページの「[リリース済アイテムの BOM をレッドラインする](#)」を参照してください。

レッドライン BOM テーブルのアイテム情報を編集する

「BOM のレッドライン」タブで、Agile 管理者が有効にした編集可能なカスタム・フィールドを含め、編集可能な「BOM」タブ・フィールドを変更できます。編集可能な「BOM」フィールドは通常、親アイテム（レッドラインしているアイテム BOM）と子アイテム（BOM テーブルに表示されるアイテム）間の関係を説明し定義します。たとえば、「数量」、「見出し番号」、および「参照指示」フィールドはアセンブリ（親アイテム）と BOM アイテム（子アイテム）間の関係を定義します。

「BOM のレッドライン」タブの情報を変更するとき、Agile PLM は新しい情報を古い情報の下に、赤で表示します。

「BOM メモ」フィールドをレッドラインすると、テキストの追加、置換、または編集ができます。「BOM メモ」フィールドに新しいテキストとレッドラインされたテキストが表示されます。

「BOM のレッドライン」テーブルは、「拠点」、「アイテムの説明」、「アイテムのリビジョン」フィールドを変更できません。

「BOM のレッドライン」テーブルの参照指示のレッドラインは、BOM テーブルの参照指示の編集と同じです。詳細は、99 ページの「[参照指示を使用する](#)」を参照してください。新しい参照指示は赤で表示されます。削除された参照指示には赤い線が付けられています。

注意 「BOMのレッドライン」タブを使って、BOMテーブルに一覧表示されたアイテムの属性は変更できません。「BOMのレッドライン」タブを使って、編集不能なBOMテーブル・フィールドは変更できません。

Agile管理者が有効にしている場合、アイテム「BOM」タブは読み取りフィールドを含めることも可能で、それによりBOMテーブル、たとえば子アイテムの「ページ2」フィールドに一覧表示されたアイテムから作成された追加情報を表示できます。読み取りフィールドには、子アイテムからの属性データの読み取り専用コピーが含まれます。「BOM」タブの読み取りフィールドは「BOM」タブで編集することも、「BOMのレッドライン」タブで編集することもできません。

BOMテーブルに一覧表示されたアイテムの属性を変更するには、それが保留中リビジョンがないプレリミナリ・アイテムである場合、そのアイテムを開き「編集」機能を使用して変更できます。20ページの「[未リリース・アイテムを編集する](#)」を参照してください。BOMテーブルに一覧表示されたアイテムがリリースされている場合、変更指示を使ってアイテムを変更する必要があります。21ページの「[リリース済アイテムを編集する](#)」を参照してください。

読み取りフィールドおよび「BOM」タブの編集可能なフィールドの詳細は、『Agile PLM管理者ガイド』を参照してください。

割り当てられた役割と権限は、どの属性を編集許可されているかをも決定します。

Webクライアントの「BOMのレッドライン」テーブルのフィールドを編集する手順は次のとおりです。

1. 「BOMのレッドライン」テーブルの編集を開始するには、任意の編集可能なセルをダブルクリックします。テーブルが編集モードになり、「保存」ボタンと「キャンセル」ボタンがアクティブになります（グレーアウトされません）。
2. 各フィールドで必要な変更を行います。フィールドをクリックするか、[Tab]キーを押すか、または矢印キーを使用して、他のフィールドに移動します。
3. 完了したら、「保存」をクリックします。

Javaクライアントの「BOMのレッドライン」テーブルのフィールドを編集する手順は次のとおりです。

1. 編集する行を選択して「編集」ボタンをクリックします。「BOMのレッドライン」ダイアログ・ボックスが表示されます。
2. 変更を行います。
3. 完了したら、「OK」をクリックします。

他のBOMレッドライン作業については、107ページの「[リリース済アイテムのBOMをレッドラインする](#)」を参照してください。

「BOMのレッドライン」テーブルの変更を取り消す

「レッドライン取消し」ボタンを使用すると、「BOMのレッドライン」タブの変更を元に戻すことができます。赤いエレメントが選択した行から削除されます。

注意 Javaクライアントでは、「レッドライン取消し」ボタンはのアイコンで示されます。

削除（全体に赤いラインが引かれている行）を取り消す手順は次のとおりです。

1. 削除された行を選択します。複数の行を選択できます。
2. 「レッドライン取消し」をクリックします。

変更（Agile PLMで短い赤いラインが引かれた変更された値）を取り消す手順は次のとおりです。

1. 変更された行を選択します。
2. 「レッドライン取消し」をクリックします。

新しく追加されたアイテムを元に戻す（「BOMのレッドライン」テーブルから削除する）手順は次のとおりです。

1. 追加された行を選択します。
2. 「レッドライン取消し」をクリックします。

他のBOMレッドライン作業については、107ページの「[リリース済アイテムのBOMをレッドラインする](#)」を参照してください。

BOMデータを印刷する

Agile PLM システムから、オブジェクトのタブやその他のデータを印刷できます。現在のタブまたはすべてのタブを印刷できます。添付ファイルは、ファイルが作成されたアプリケーションまたは AutoVue for Agile ビュアから印刷します。

Web クライアントでは、オブジェクトを開いた状態で、「アクション」→「印刷」を選択します。

Java クライアントでは、オブジェクトを開いた状態で「印刷」ボタンを使用します。

オブジェクトの印刷の詳細は、『Agile PLM スタート・ガイド』を参照してください。

Web クライアントで、Web ブラウザから BOM 情報を印刷できます。アイテムの「BOM」タブに移動して、「アクション」→「印刷」を選択します。現在の「BOM」タブまたはすべてのタブを印刷できます。BOM を印刷する際、印刷する BOM レベルや AML を含めるかどうかなど、必要な「BOM の印刷オプション」を選択します。

Java クライアントでは、「BOM」タブのデータのみを印刷するには、「印刷」ボタン・ドロップダウン・メニューから「BOM」を選択します。印刷する BOM レベルや AML を含めるかどうかなど、「BOM の印刷オプション」ダイアログへの入力を完了します。

167ページの「[製品レポートとプロセス・レポートを使用する](#)」も参照してください。

変更

この章のトピック

| | |
|--|-----|
| ■ 変更クラス | 115 |
| ■ 変更オブジェクト | 117 |
| ■ ワークフロー・ルーティング受信トレイ | 129 |
| ■ 変更と製造拠点 | 129 |
| ■ 変更とアイテムのリビジョンとの関係 | 132 |
| ■ 変更を作成する | 132 |
| ■ 変更を修正する | 133 |
| ■ Agile変更管理ワークフロー | 134 |
| ■ ECO、MCO、SCOによってレッドラインする | 134 |
| ■ 変更を削除する | 135 |
| ■ 変更のタブを印刷する | 135 |
| ■ ルーティング管理者: 変更分析者とコンポーネント・エンジニア | 136 |

変更クラス

Agile PLM では、次のクラスまたはタイプの変更を使用できます。

- ECO (設計変更指示) などの変更指示クラス
- ECR (設計変更要求) などの変更要求クラス
- MCO (製造元変更) などの製造元依頼クラス
- SCO (拠点毎変更) などの拠点毎変更クラス
- 期限付き変更指示クラス
- 出荷停止クラス

変更サブクラス

各 Agile クラスには、少なくとも 1 つのデフォルト・サブクラスがあります。Agile 管理者はこれらの変更クラスおよびサブクラスの一部、またはすべての使用を決定し、追加のサブクラスを新規に作成できます。たとえば、変更指示クラスに ECO、機械系 ECO、ソフトウェア系 ECO などを設定できます。

各変更サブクラスの目的を次の表に示します。対応する変更アイコンも一覧表示されています。これらのアイコンは「変更」タブの変更番号の横と、検索結果の各変更の横に表示されます。

| 変更タイプ | 目的 |
|---|--|
| ECO  (Web クライアント)  (Java クライアント) | <p>ECO (設計変更指示) は、特定のアイテムに対する変更が必要であり、その変更を行うために必要な作業を行うことをユーザーに通知します。</p> <p>ECO によって、アイテムの新しい追跡可能なリビジョンが作成されます。</p> <p>ECO は、BOM と AML の共通部分と拠点別の部分に影響します。</p> <p>ECO を使用して、次の処理を実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▫ 新規アイテムのリリース ▫ リビジョン固有のレッドライン変更 BOM、製造元データおよび添付ファイルの作成 ▫ 変更制御下のアイテム属性に対するレッドラインの作成 <p>134ページの「ECOによってレッドラインする」を参照してください。</p> |
| ECR  (Web クライアント)  (Java クライアント) | <p>ECR (設計変更要求) はアイテムに対する変更を依頼する際に使用します。アイテムについて最新でないリリース済のリビジョンに対する ECR を作成できます。ECR にはレッドライン機能はありません。</p> |
| MCO  (Web クライアント)  (Java クライアント) | <p>MCO (製造元変更) は特定のアイテムの製造データに変更が必要であるということをユーザーに通知します。</p> <p>MCO は、AML の共通部分と拠点別の部分に影響します。</p> <p>MCO を使用して、次の処理を実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▫ 新規アイテムのリリース ▫ アイテムの製造元データのレッドライン ▫ アイテムのライフサイクル・フェーズの変更 ▫ 変更制御下のアイテム属性に対するレッドラインの作成 <p>134ページの「MCOによってレッドラインする」を参照してください。</p> |
| SCO  (Web クライアント)  (Java クライアント) | <p>SCO (拠点毎変更) は、特定のアイテムに対する変更が必要であり、その変更を行うために必要な作業を行うことをユーザーに通知します。SCO は、BOM と AML の拠点別の部分のみに影響し、共通部分には影響しません。アイテムについて最新でないリリース済のリビジョンに対する SCO を作成できます。SCO では、BOM や AML のレッドラインを行うことができます。</p> |
| 期限付き変更指示  (Web クライアント)  (Java クライアント) | <p>期限付き変更指示はある部品から別の部品に一定期間切り替える際に使用します。アイテムについて最新でないリリース済のリビジョンに対する期限付き変更指示を作成できます。期限付き変更指示にはレッドライン機能はありません。</p> |
| 出荷停止  (Web クライアント)  (Java クライアント) | <p>出荷停止はアイテムの出荷または使用を停止するようユーザーに警告します。最新でないリリース済リビジョンのアイテムに対して出荷停止を作成できます。出荷停止にはレッドライン機能はありません。</p> |

変更のサブクラスを変更する方法の詳細は、『Agile PLM スタート・ガイド』のワークフローの章を参照してください。

変更オブジェクト

このセクションでは次のトピックについて説明します。

- [「カバー・ページ」タブ](#) (118ページ)
- [「対象アイテム」タブ](#) (121ページ)
- [「ワークフロー」タブ](#) (122ページ)
- [「関係」タブ](#) (126ページ)
- [「添付ファイル」タブ](#) (127ページ)
- [「履歴」タブ](#) (127ページ)

Web クライアントで変更を表示した場合、変更に関する情報が右側のウィンドウ（コンテンツ・ウィンドウ）のタブに表示されます。

Java クライアントで変更を表示した場合、変更に関する情報がオブジェクト・ウィンドウ内のタブに表示されます。

次の表に変更のタブとデフォルトのフィールドを示します。

Agile 管理者はタブやセクションを追加できます。これらは、デフォルトでは「**ページ 2**」、「**ページ 3**」という名前になっています。（Agile 管理者が、Agile PLM システムでこれらのタブの名前を変更している場合があります。）これらのタブやセクションには、管理者が定義したカスタム・フィールドが含まれています。

| タブ名 | タブ情報の内容 |
|---------|---|
| カバー・ページ | 変更の一般情報、Agile 管理者が定義した固有のフィールド。 |
| 対象アイテム | 変更の対象となるアイテム。ECO にはレッドラインされた BOM、AML、ファイル・フォルダが含まれます。SCO には、レッドラインされた拠点の BOM と AML が含まれます。MCO には、レッドラインされた AML が含まれます。 ECO および MCO では、変更制御下のレッドラインされたアイテム属性も含まれます。 |
| ワークフロー | 変更の承認者とオブザーバ、そのレビュー結果。 ワークフローのステータス。 |
| 関係 | 「関係」タブを使用すると、現在の変更オブジェクトと他の Agile オブジェクト（ルーティング可能なオブジェクトとライフサイクル・オブジェクト）の間に関係と依存を作成できます。関係の詳細は、『Agile PLM スタート・ガイド』を参照してください。 |
| 添付ファイル | 添付ファイルと URL |
| 履歴 | 変更で実行されたアクションの記録。 |

「カバー・ページ」タブ

変更の「カバー・ページ」タブには、従来の一般的な ECO フォームに記載されていたような情報が表示されます。フィールドには Agile PLM によって入力されるものと、ユーザーが入力するものがあります。

このセクションでは次のトピックについて説明します。

- [「カバー・ページ」タブのフィールド](#) (118ページ)
- [「カバー・ページ」タブのステータス](#) (120ページ)

Webクライアントで「カバー・ページ」タブのフィールドを編集する手順は次のとおりです。

「**編集**」ボタンをクリックし、フィールドを変更し、「**保存**」ボタンをクリックします。

Javaクライアントで「カバー・ページ」タブのフィールドを編集する手順は次のとおりです。

フィールドを変更し、「**保存**」をクリックします。

フィールドは、編集できないことがあります。次の 3 つの場合には、フィールドの編集はできません。

- フィールドを変更するための十分な権限がない。
- 「**ステータス**」、「**リリース日**」、「**最終完成日**」などのワークフロー・ステータスで変更が実施される過程で、フィールドへの自動入力が行われる。
- 特定のイベントが発生した場合にフィールドを編集できないことがあります。たとえば、「**ワークフロー**」フィールドは、ワークフローが「保留中」ステータスでなくなると編集できなくなります。

変更オブジェクトのすべてのタブの詳細は、117ページの「[変更オブジェクト](#)」を参照してください。

「カバー・ページ」タブのフィールド

次の表に「カバー・ページ」タブのフィールドと表示される情報をまとめます。「カバー・ページ」タブのフィールドは、変更のタイプによって異なります。

Web クライアントでは、「カバー・ページ」に「ページ 2」と「ページ 3」と呼ばれるセクションをデフォルトで追加できます。Java クライアントでは、これらは別々のタブとなります。Agile 管理者は、これらのセクションを有効化するかどうか、何と呼ぶかを決定します。

| フィールド | 入力方法 | 目次 |
|--------|-----------------------------|---|
| 番号 | 通常は作成時に自動入力、手動入力の設定も可能 | 変更の作成時に割り当てられる番号 |
| ステータス | 作成時に自動入力、変更がワークフローを通過する間に更新 | 変更のステータス。120ページの「 「カバー・ページ」タブのステータス 」を参照してください。ワークフローが選択されていない場合、このフィールドの値は「未割当」です。 |
| 変更タイプ | 作成時に自動入力 | 変更の作成時に選択した変更のタイプ。 |
| 変更カテゴリ | 通常は手動入力（デフォルト値の設定が可能）。 | Agile 管理者により定義されたカテゴリ（ドロップダウン・リストから選択可能）。 |

| フィールド | 入力方法 | 目次 |
|---------------------------|---|--|
| 変更の説明 | 通常は手動入力（デフォルト値の設定が可能）。 | 最大バイト数はAgile管理者が設定します。スペースと改行（2バイト）を含め、4000バイトまでの入力が可能です。英語以外では、1文字で2、3または4バイトの場合があります。 |
| 変更の理由 | 通常は手動入力（デフォルト値の設定が可能）。 | 最大バイト数はAgile管理者が設定します。スペースと改行（2バイト）を含め、4000バイトまでの入力が可能です。英語以外では、1文字で2、3または4バイトの場合があります。 |
| 理由コード | 通常は手動入力（デフォルト値の設定が可能）。 | Agile管理者により定義されたコード（ドロップダウン・リストから選択可能）。 |
| ワークフロー | 変更が未割当ステータスから次のステータスに切り替えられたとき、自動入力（1つのワークフローのみが変更に適用されている場合） 変更に複数のワークフローが適用されている場合は、手動でワークフローを選択する。ワークフローは、変更のステータス・タイプが「保留」であるかぎりいつでも変更が可能。 「ワークフロー」ドロップダウン・リストで空白のフィールドを選択すると、変更は「未割当」のステータスに切り替わる。 | この変更を、変更管理プロセスで処理をするために使用するワークフローの名前 |
| 「変更分析者」または「コンポーネント・エンジニア」 | ワークフローによる自動入力が可能。変更分析者またはコンポーネント・エンジニアのアドレス帳から手動での選択も可能。 | デフォルトのルーティング管理者。 デフォルトの変更分析者またはコンポーネント・エンジニアに通知を送るようにワークフローが定義されている場合、このフィールドのユーザーが変更に関する通知を受信します。このフィールドを空白のままになると、リストのすべての変更分析者に通知が送信されます。ワークフローの通知定義が空白の場合、通知は送信されません。 |
| 作成者 | 通常は作成時に自動入力（Agile管理者が設定するデフォルト値） | 変更を作成したユーザー（ドロップダウン・リストからの選択が可能） |
| 作成日 | 通常は作成時に自動入力 | 変更が作成された日付 |
| リリース日 | リリース時に自動入力 | 変更がリリースされた日付 |
| 最終完了日 | 変更のステータスが「完了」タイプに移行した際に自動入力 | 変更のステータスが「完了」タイプに移行した日付。 |
| 製品ライン | 通常は手動入力（デフォルト値の設定が可能）。 | Agile管理者により定義された製品ライン（ドロップダウン・リストから選択可能）。 |
| 開始日 | 手動 | 期限付き変更指示のみ。期限付き変更指示が有効となる日付。 |

| フィールド | 入力方法 | 目次 |
|-------|------|--|
| 終了日 | 手動 | 期限付き変更指示のみ。期限付き変更指示が有効でなくなる日。 |
| 再開日 | 手動 | 出荷停止のみ。出荷停止が有効でなくなり、会社がアイテムの出荷を再開できる日。 |

期限付き変更指示の「カバー・ページ」タブには、「開始日」フィールドと「終了日」フィールドがあります。出荷停止の「カバー・ページ」タブには、「再開日」フィールドという独自のフィールドがあります。

MCO の「カバー・ページ」タブには、「変更分析者」フィールドのかわりに「コンポーネント・エンジニア」フィールドがあります。

変更オブジェクトのすべてのタブの詳細は、117ページの「[変更オブジェクト](#)」を参照してください。

「カバー・ページ」タブのステータス

変更の右上にあるラベルは、変更のステータスを示します。各ワークフローのステータス名は、Agile 管理者によって設定されます。

注意 企業のワークフローやステータスは、Agile 管理者によって作成されカスタマイズされている場合があります。次の表に、Agile のデフォルトのワークフロー・ステータスを 12 種類紹介します。

| ステータス名 | ステータスの定義 |
|-----------------------------|--|
| 未割当 (ステータス・タイプなし) | この変更に割り当てられているワークフローはありません。作成者は変更を作成中である可能性があります。「ワークフロー」タブにステータスは表示されません。 |
| 保留中 (「保留中」ステータス・タイプ) | 作成者は変更を作成中である可能性があります。この変更はまだ承認されていません（作成中の可能性もあります）。 |
| 提出済 (「提出済」ステータス・タイプ) | この変更は、変更分析者の間でルートされ、レビューおよび分析されています。 |
| CCB (「レビュー」ステータス・タイプ) | この変更は、承認を受けるために変更管理委員会（CCB）のメンバーにルートされています。 |
| リリース済 (「リリース済」ステータス・タイプ) | この変更は CCB メンバーによってサインオフされ、リリースされました。 |
| 終了 (「完了」ステータス・タイプ) | この ECR は、受諾および実施済です。 |
| 期限切れ (「完了」ステータス・タイプ) | この期限付き変更指示は期限を過ぎています。 |

| ステータス名 | ステータスの定義 |
|-----------------------------|--|
| 実施 (「完了」ステータス・タイプ) | このECOまたはSCOは新しい画面に導入されたか、組み込まれています。 |
| 中断 (「中断」ステータス・タイプ) | この変更は、コンポーネント・エンジニアが情報を収集している間、中断されています。 |
| 再開 (「完了」ステータス・タイプ) | この変更によって出荷停止状態が解除されます。対象アイテムの製造を再開できます。 |
| キャンセル (「キャンセル」ステータス・タイプ) | この変更は根本的な欠陥があったか、数人から却下されたため、キャンセルされました。 |
| 検収済 (「完了」ステータス・タイプ) | この製造元部品は外部検査に合格したか、品質保証を受けています。この部品は設計ドキュメントまたは仕様について検証済です(MCOのみ)。 |

「ワークフロー」タブには、変更が通過してきたすべてのステータスと、変更管理プロセスが完了するまでの残りのステータスが表示されます。122ページの「[「ワークフロー」タブ](#)」を参照してください。

適切な権限がある場合、「ワークフロー」タブまたは「次のステータス」ボタンで、変更を別のステータスに切り替えることができます。詳細は、『Agile PLM スタート・ガイド』のワークフローに関する章を参照してください。

変更オブジェクトのすべてのタブの詳細は、117ページの「[変更オブジェクト](#)」を参照してください。

「対象アイテム」タブ

「対象アイテム」タブには、変更の影響を受けるアイテムのリストが表示されます。十分な権限を持つユーザーは、「対象アイテム」タブに入力し、BOM、製造データ、添付ファイルのレッドラインに使用できます。また、ECOおよびMCOの「対象アイテム」タブでは、変更制御下のアイテム属性に対してレッドラインを作成できます。

注意 アイテムのディスカバリ権限および読み取り権限がない場合、アイテムは「対象アイテム」タブには表示されません。表示されないアイテムの数を示すメッセージが表示されます。

「対象アイテム」タブのアイテムを開く手順は次のとおりです。

- Web クライアントで、アイテム番号リンクをクリックします。アイテムが開き、「タイトル・ロック」タブが手前に表示されます。または、「クイック・ビュー」機能を使用して、アイテムの「タイトル・ロック」属性および添付ファイル情報を表示することもできます。カーソルをアイテム・リンクの上に置きます。「クイック・ビュー」ツールチップが表示されたら、ツールチップをクリックして、「クイック・ビュー」パレットを開きます。
- Java クライアントで、対象アイテム行をダブルクリックします。アイテムが開き、「タイトル・ロック」タブが手前に表示されます。
 - または、アイテム行を右クリックして「開く」を選択し、タブを選択します。アイテムが開き、選択したタブが最前面に表示されます。

変更に関連するリビジョンは、「リビジョン」のドロップダウン・メニューで選択します。

変更オブジェクトのすべてのタブの詳細は、117ページの「[変更オブジェクト](#)」を参照してください。

「対象アイテム」タブの取扱いの詳細は、137ページの「[変更の対象アイテム](#)」を参照してください。

「ワークフロー」タブ

「ワークフロー」タブには、変更が通過してきたすべてのステータスと、完了するまでの残りのステータスが表示されます。また、各承認プロセスで行われた承認と却下もすべて表示されます。

たとえば、変更が作成者に戻され、修正の後で2度目の承認プロセスに再提出されたとすると、「ワークフロー」タブには、変更に対して最初の承認プロセスと2度目の承認プロセスで行われた承認や却下が表示されます。

変更がワークフローのどの段階を進んでいるかによって、「ワークフロー」タブには最大で次の3つのセクションが表示されます。

- [「ワークフローの概要」セクション \(122ページ\)](#)
- [Webクライアントの「ワークフロー」タブ、「基本」ビュー \(123ページ\)](#)
- [Webクライアントの「現在のサインオフ・ステータス」ビュー \(123ページ\)](#)
- [Javaクライアントの「ワークフロー」タブの「要約」テーブル \(124ページ\)](#)
- [Javaクライアントの「ワークフロー」タブの「サインオフ履歴」テーブル \(124ページ\)](#)

変更オブジェクトのすべてのタブの詳細は、117ページの「[変更オブジェクト](#)」を参照してください。

「ワークフローの概要」セクション

「ワークフロー」タブの上部のセクション（ワークフローが割り当てられているすべての変更に対して表示可能）には、割り当てられているワークフローの名前およびワークフローのフローチャートが、変更の現在のステータスがハイライトされた状態で表示されます。

フローチャートの一部のステータスはリンクになっています。リンクには下線が引かれています。変更のステータスをこれらのいずれかに切り替えるには、そのリンクをクリックして「通知」フィールドにデータを入力します。この操作を行うには適切な権限が必要です。

Web クライアントでは、オレンジの背景色のステータスが現在のステータスを示します。「要約」フローチャート・ウィンドウの上部で、 をクリックするとフローチャートが非表示になり、 をクリックすると非表示のフローチャートが表示されます。

Java クライアントでは、黄色の背景色のステータスが現在のステータスを示します。フローチャート・ウィンドウの上部で、 「非表示/表示 ワークフロー・チャート」ボタンをクリックして、フローチャートを非表示にしたり、非表示のフローチャートを表示できます。

承認者やオブザーバを追加または削除できるかどうかは、各ワークフローの「アドホック承認者/オブザーバ」プロパティ設定によって制御されます。さらに、承認者およびオブザーバを追加または削除するための適切な権限が必要です。Agile 管理者から適切な権限を与えられていない場合、「ワークフロー」タブのボタンは使用できず、アクションは実行できません。

Web クライアントでは、「ワークフロー」テーブルの左上に、「レビュアの追加」ボタンと「レビュアの削除」ボタンが表示されます。実行するアクションのボタンをクリックし、ダイアログの指示に従います。

Java クライアントでは、「承認者/オブザーバの追加」 ボタンと「承認者/オブザーバの削除」 ボタン

は「ワークフロー」タブの左上に表示されます。承認者やオブザーバを追加するには、ダイアログで  をクリックして必要なワークフロー・ステータスを選択します。承認者やオブザーバを削除するには、ダイアログで  をクリックして必要なステータスを選択します。

Webクライアントの「ワークフロー」タブ、「基本」ビュー

Webクライアントのワークフロー・テーブルには、過去、現在および将来のサインオフ・ステータスのサインオフ情報を含む、変更のステータス情報が表示されます。このテーブルにはデフォルトで次の欄が表示されます。Agile管理者によってテーブルが変更されている場合があります。

- 「ステータス・コード」 - ステータス・テーブル行のアクションまたは状態を示すアイコン。
 -  : 「将来」。変更ワークフローはまだこのステータスに移行していません。
 -  : 「現在」。変更のワークフロー・ステータスを示します。ワークフローは現在このステータスとなっています。
 -  : 「前」。変更は、ワークフローの次のステータスに移動しました。
 -  : 「後」。変更は、ワークフローのステータスリストの前のステータスに移動しました。たとえば、変更分析者が変更を作成者に差し戻した場合、変更はワークフローの前のステータスに移行します。
 -  : 「スキップ」。変更のワークフローを進めるときに、ステータスがスキップされました。
- 「ワークフロー」 - 変更が使用するワークフローの名前。
- 「ワークフロー・ステータス」 - ステータスの名前。
- 「アクション」 - レビュアにより実行されたアクション。
- 「必須」 - レビュアが必須レビュー（承認者）かそうでないか（オブザーバ）を示します。
- 「レビュア」 - 変更をレビューしたユーザー。これは承認者またはオブザーバのいずれかで、個々のユーザー、またはユーザー・グループを指定できます。
- 「サインオフ・ユーザー」 - 変更を実際に承認または却下したユーザーの名前。
- 「ステータス変更者」 - ステータスを切り替えたユーザーの名前。
- 「クライアント現地時間」 - アクションの日時。
- 「サインオフ・コメント」 - レビュア（承認者とオブザーバ）によるコメント。
- 「サインオフ期間」 - そのステータスの変更をサインオフするのに承認者が要した日数。

122ページの「[「ワークフロー」タブ](#)」、125ページの「[ユーザー・アクション・タイムスタンプ](#)」および125ページの「[サインオフ期間](#)」も参照してください。

Webクライアントの「現在のサインオフ・ステータス」ビュー

現在の「レビュー」タイプのステータスまたは「リリース」タイプのステータスのサインオフ情報をのみを表示するには、「表示」ドロップダウン・リストで「現在のサインオフ・ステータス」を選択します。現在のステータスがレビューまたはリリースのステータスでない場合、このビューにはデータは表示されません。

「現在のサインオフ・ステータス」ビューにはデフォルトで次の欄が表示されます。Agile 管理者によってテーブルが変更されている場合があります。

- 「ステータス・コード」 - そのテーブル行のアクションまたは状態を示すアイコン。「現在のサインオフ・ステータス」ビューでは使用されません。
- 「ワークフロー」 - 変更が使用するワークフローの名前。
- 「ワークフロー・ステータス」 - ステータスの名前。「現在のサインオフ・ステータス」ビューでは使用されません。
- 「アクション」 - レビューアにより実行されたアクション。
- 「必須」 - レビューアが必須レビューア（承認者）かそうでないか（オブザーバ）を示します。
- 「レビューア」 - 変更をレビューしたユーザー。これは承認者またはオブザーバのいずれかで、個々のユーザー、またはユーザー・グループを指定できます。
- 「サインオフ・ユーザー」 - 変更を実際に承認または却下したユーザーの名前。
- 「ステータス変更者」 - ステータスを切り替えたユーザーの名前。
- 「クライアント現地時間」 - アクションの日時。
- 「サインオフ・コメント」 - レビューア（承認者とオブザーバ）によるコメント。
- 「サインオフ期間」 - そのステータスの変更をサインオフするのに承認者が要した日数。

122ページの「[「ワークフロー」タブ](#)」、125ページの「[ユーザー・アクション・タイムスタンプ](#)」および125ページの「[サインオフ期間](#)」も参照してください。

Javaクライアントの「ワークフロー」タブの「要約」テーブル

「要約」テーブルには、変更のワークフロー・ステータスの変遷、および各レビュー・タイプまたはリリース・タイプのステータスのサインオフ情報が記録されます。このテーブルにはデフォルトで次の欄が表示されます。Agile 管理者によってテーブルが変更されている場合があります。

- 「アクション」 - レビューアにより実行されたアクション。
- 「必須」 - レビューアが必須レビューア（承認者）かそうでないか（オブザーバ）を示します。
- 「レビューア」 - 変更をレビューしたユーザー。これは承認者またはオブザーバのいずれかで、個々のユーザー、またはユーザー・グループを指定できます。
- 「サインオフ・ユーザー」 - 変更を実際に承認または却下したユーザーの名前。
- 「クライアント現地時間」 - アクションの日時。
- 「サインオフ・コメント」 - レビューア（承認者とオブザーバ）によるコメント。
- 「サインオフ期間」 - そのステータスの変更をサインオフするのに承認者が要した日数。

122ページの「[「ワークフロー」タブ](#)」、125ページの「[ユーザー・アクション・タイムスタンプ](#)」および125ページの「[サインオフ期間](#)」も参照してください。

Javaクライアントの「ワークフロー」タブの「サインオフ履歴」テーブル

「ワークフロー」タブの「サインオフ履歴」テーブルには、現在の「レビュー」タイプのステータスまたは「リリース」タイプのステータスのリストおよびサインオフ情報が表示されます。現在のステータスがレビューまたはリリースのステータスでない場合、「サインオフ履歴」テーブルは表示されません。

「サインオフ履歴」テーブルにはデフォルトで次の欄が表示されます。Agile管理者によってテーブルが変更されている場合があります。

- 「ワークフロー」 - 変更が使用するワークフローの名前。
- 「ワークフロー・ステータス」 - ステータスの名前。
- 「アクション」 - レビュアにより実行されたアクション。
- 「必須」 - レビュアが必須レビュア（承認者）かそうでないか（オブザーバ）を示します。
- 「レビュア」 - 変更をレビューしたユーザー。これは承認者またはオブザーバのいずれかで、個々のユーザー、またはユーザー・グループを指定できます。
- 「サインオフ・ユーザー」 - 変更を実際に承認または却下したユーザーの名前。
- 「ステータス変更者」 - ステータスを切り替えたユーザーの名前。
- 「クライアント現地時間」 - アクションの日時。
- 「サインオフ・コメント」 - レビュア（承認者とオブザーバ）によるコメント。
- 「サインオフ期間」 - そのステータスの変更をサインオフするのに承認者が要した日数。

122ページの「[「ワークフロー」タブ](#)」、125ページの「[ユーザー・アクション・タイムスタンプ](#)」および125ページの「[サインオフ期間](#)」も参照してください。

サインオフ期間

サインオフ期間データは、レビュアがいるステータス（「レビュー」タイプのステータスおよび「リリース」タイプのステータス）に対して記録されます。サインオフ期間では、時間はストップ・ウォッチまたはタイマーのような形式で記録されます。記録された時間は、各レビュアがそのステータスの変更をサインオフできるようになった後でサインオフしなかった期間、またはレビュアがそのステータスの変更をサインオフするのに実際にかかった日数を表しています。

サインオフ期間は、ユーザーごとに日数単位で記録されます。次のいずれか短いほうの時間となります。

- 変更がワークフロー・ステータスに移行してからの時間。時間は、直近にそのステータスに移行したときから記録されます。
- ユーザーが最後にこのワークフロー・ステータスに追加されてからの時間。

サインオフ期間タイマーは、ユーザーがレビュアとなったとき（変更がサインオフ・ステータスに移行したとき、またはユーザーがレビュアとしてサインオフ・ステータスに追加されたとき）から期間の記録を開始します。

サインオフ期間タイマーは、一度に1日ずつ期間を加算します。次の場合にタイマーは停止します。

- レビュアがそのステータスの変更をサインオフした場合
- 変更がそのステータスから移行した場合

変更が特定のサインオフ・ステータスに複数回移行した場合は、変更がそのステータスに移行するたびに、別々の期間が記録されます。

サインオフ期間の時間は日数単位で記録されます。変更がサインオフ・ステータスに移行し、レビュー者が最初の 24 時間以内にサインオフした場合、サインオフ期間の時間は 0 (ゼロ) と記録されます。

ユーザー・アクション・タイムスタンプ

Agile PLM では、変更に対して実行されたアクションの日付と時刻が 2 種類の方法で記録されます。

- 「クライアント現地時間」 - タイム・スタンプを表示しているユーザーのローカル・クライアント・コンピュータに表示されている日付と時刻です。クライアント現地時間はタイム・スタンプ表示のデフォルトの方法です。

たとえば、ある承認者がニューヨーク（東部標準時）で正午に変更を承認した場合、別のユーザーがカリフォルニアでその変更の「ワークフロー」タブを表示すると、変更が承認された時刻は午前 9 時（太平洋標準時）と表示されます。

- 「ユーザー・アクション・タイム」 - アクションが実行されたコンピュータの日付と時刻です。「ユーザー・アクション・タイム」はオプションです。

ある承認者がニューヨークで正午に変更を承認した場合、別のユーザーがカリフォルニアでその変更の「ワークフロー」タブを表示すると次のように表示されます。

- 「クライアント現地時間」のカラムでは、承認者は午前 9 時（太平洋標準時）に変更を承認しています。
- 「ユーザー・アクション・タイム」のカラムでは、承認者は正午（東部標準時）に変更を承認しています。

承認者がその変更の「ワークフロー」タブを表示すると、次のように表示されます。

- 「クライアント現地時間」のカラムでは、承認者は正午（東部標準時）に変更を承認しています。
- 「ユーザー・アクション・タイム」のカラムでは、承認者は正午（東部標準時）に変更を承認しています。

「クライアント現地時間」は、「ワークフロー」タブおよび「履歴」タブに常に表示されます。「ユーザー・アクション・タイム」はオプションです。Agile 管理者が指定している場合のみ、変更の「ワークフロー」タブと Agile オブジェクトの「履歴」タブに表示されます。

122 ページの「[「ワークフロー」タブ](#)」も参照してください。

「関係」タブ

アイテム・オブジェクトの「関係」タブでは、他のビジネス・オブジェクト（ライフサイクル・オブジェクトとルーティング可能なオブジェクトの両方）との関係を作成できます。関連オブジェクトがルーティング可能なオブジェクトの場合、関係にルールを指定して、現在のアイテムとルーティング可能なオブジェクトとの間の依存関係を作成できます。関係にルールが指定されている場合、ルーティング可能なオブジェクトのワークフローの進捗は、現在のアイテム・オブジェクトのライフサイクル・フェーズの影響を受けます。

関係にルールが指定されていない場合、関連するルーティング可能なオブジェクトのワークフローの進捗が制限されたり、影響を受けたりすることはありません。ルールが指定されていない関係を使用すると、現在のアイテムと関連はあるが、依存関係はないオブジェクトを記録できます。

注意 他のライフサイクル・フェーズ（非ルーティング可能）オブジェクトとのアイテム関係にルールは指定できません。

関係およびこのタブの使用方法の詳細は、『Agile PLM スタート・ガイド』のビジネス・オブジェクトの使用に関する章を参照してください。

「添付ファイル」タブ

「添付ファイル」タブはすべてのオブジェクトにあります。「添付ファイル」タブでは、ファイル・フォルダ・オブジェクト内のファイルと URL を参照することによって、ファイルと URL をオブジェクトに添付できます。「添付ファイル」タブでは、適切な権限があれば、添付ファイルの表示、コピー（取出し）、または印刷が可能です。

添付された個々のファイルは、ファイル・フォルダ・オブジェクトに保存され、複数のオブジェクトに添付できます。ファイル・フォルダ・オブジェクトのファイルには、図面、スキャンした画像、ドキュメント、表示できないファイル、圧縮ファイルなどがあります。

フォルダ・オブジェクトの使用、および「添付ファイル」タブの詳細は、『Agile PLM スタート・ガイド』を参照してください。

注意 アイテムに関連するファイルは、そのアイテムに影響を与える変更の「添付ファイル」タブではなく、そのアイテムの「添付ファイル」タブで参照してください。

変更オブジェクトのすべてのタブの詳細は、117ページの「[変更オブジェクト](#)」を参照してください。

サムネイルの使用の詳細は、『Agile PLM スタート・ガイド』を参照してください。

「履歴」タブ

「履歴」タブには、そのオブジェクトに対して実行されたアクションの要約（アクションの説明、アクションを実行したユーザー、日付、その他）が表示されます。

注意 オブジェクトの読み取り権限がない場合、「履歴」タブのフィールドの内容は表示できません。197ページの「[「ディスカバリ」権限と「読み取り」権限の詳細について](#)」を参照してください。

「履歴」タブには、変更に対して実行されたアクションの要約が表示されます。以下はその内容です。

- 変更の現在のステータス
- 変更の次のステータス
- アクションの説明
- アクションを実行したユーザー
- アクションを実行した日時（クライアント現地時間）
- ユーザー・アクション・タイム（オプション。125ページの「[ユーザー・アクション・タイムスタンプ](#)」を参照）
- アクションの対象オブジェクト
- 対象アイテムのコンポーネントの見出し番号

- アクションの詳細
- ユーザーからのコメント
- 通知ユーザー

変更のステータスが「未割当」または「保留中」の場合、次のアクションが「履歴」タブに記録されます。

- 変更の作成
- サブクラスの変更
- 「関係」タブおよび「添付ファイル」タブでのアクション
- コメント
- 送信
- 印刷
- 確認通知
- 名前を付けて保存
- 共有
- エクスポート
- 削除
- 削除取消

注意 「保留中」ステータスに留まっている変更へのアクションは、「関係」タブおよび「添付ファイル」タブへの変更についてのみ記録されます。「履歴」タブへの記録には、変更は「提出済」や「レビュー」などの「保留中」以外のステータスである必要があります。

変更が「保留中」ステータス以外のステータスになると、次のタイプのアクションが記録されます。

- 「対象アイテム」タブでのアイテムの変更または削除
- 「対象アイテム」タブの「レッドライン」タブにおけるアイテムのレッドライン
- 変更の「添付ファイル」タブでの添付ファイルの追加、取り出し、チェックイン、またはチェックアウト
- 承認者の追加または削除
- 承認および却下
- 催促の通知
- エスカレーションの通知
- タブでのフィールドの変更
- ステータスの変更
- 自動昇格の失敗
- ステータスの検索条件を満たさないステータス変更の試行

- サブクラス変更
- コメント
- 送信
- 印刷
- 確認通知
- 名前を付けて保存
- 共有
- エクスポート
- 削除
- 削除取消

変更が「保留中」タイプのステータスを終了した後に変更の日付フィールドを変更すると、「履歴」タブの「詳細」欄には、Agile アプリケーション・サーバーがインストールされているコンピュータのローカルの日付と時刻が記録されます。Agile PLM では、たとえば **2003/08/02 15:00:23 (GMT - 07:00) (yyyy/MM/dd)** (グリニッジ標準時) のような形式を使用します。

「履歴」タブと「ワークフロー」タブのコメントは異なります。「ワークフロー」タブの「コメント」には、オンライン承認プロセスでの承認者とオブザーバからのコメントが入力されます。「履歴」タブの「コメント」には、適切な権限のあるユーザーはいつでもコメントを入力できます。

変更オブジェクトのすべてのタブの詳細は、117ページの「[変更オブジェクト](#)」を参照してください。

ワークフロー・ルーティング受信トレイ

Agile ワークフロー・ルーティング受信トレイで、提出された Agile の変更を表示できます。

Webクライアントでワークフロー・ルーティング受信トレイを表示する手順は次のとおりです。

メニュー・バーで、「ホーム」ボタンをクリックします（または[Ctrl]キーと[Shift]キーを押しながら[H]キーを押します）。ユーザー・プロファイルの「推奨される受信トレイ・ビュー」の設定により、「ワークフロー・ルーティング」タブが表示されるか、または「ワークフロー・ルーティング」タブをクリックしてこれを表示します。

Javaクライアントでワークフロー・ルーティング受信トレイを表示する手順は次のとおりです。

メニュー・バーで、「受信トレイ」ボタンの下の小さな下矢印をクリックし、「ワークフロー・ルーティング」を選択します。

136ページの「[ルーティング管理者: 変更分析者とコンポーネント・エンジニア](#)」も参照してください。

ルーティング可能なオブジェクトの使用の詳細は、『Agile PLM スタート・ガイド』を参照してください。

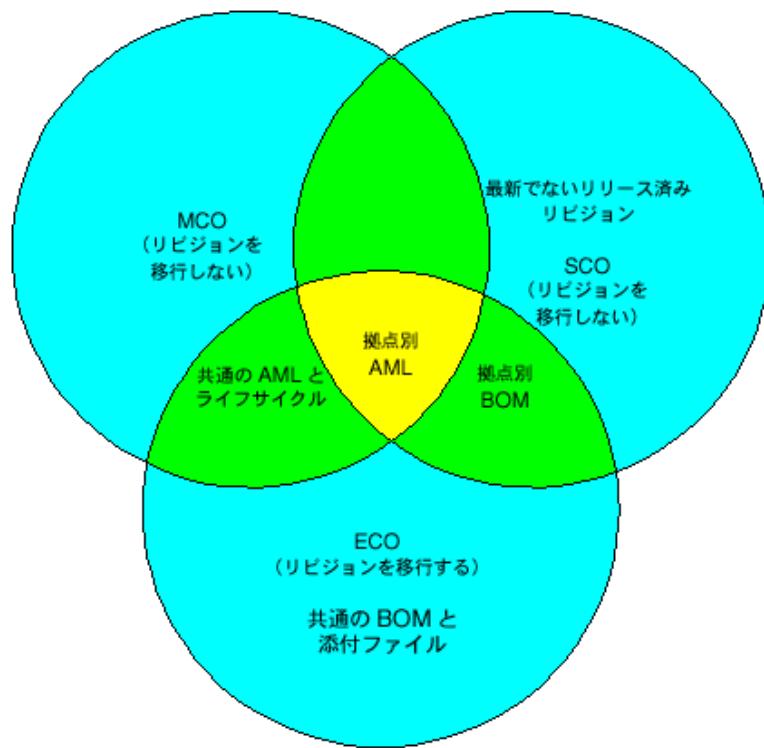
変更と製造拠点

変更は拠点別の情報に影響します。変更に対象アイテムを追加する前に、変更を適用する製造拠点を指定してください。拠点に関する一般情報は、29ページの「[拠点および分散型製造](#)」を参照してください。

このセクションでは次のトピックについて説明します。

- [変更によって影響を受ける拠点の情報](#) (130ページ)
- [拠点とECO](#) (131ページ)
- [拠点とMCO](#) (131ページ)
- [拠点毎変更](#) (131ページ)

「対象アイテム」タブの取扱いの詳細は、137ページの「[変更の対象アイテム](#)」を参照してください。



変更によって影響を受ける拠点の情報

変更管理の影響を受けるデータは次のとおりです。

- BOM の拠点別の部分
- AML の拠点別の部分
- 対応策
- 有効日
- アイテムのリリース後にリリースされた拠点の関連付け

前述のすべてのデータは、アイテムがリリースされる前に直接編集できます。データがリリースされた後では、BOM データと AML データは、ECO、MCO、または SCO を通じてレッドラインできます。新しいアイテムのリビジョンは必要ありませんが、その変更が ECO を使用して行われている場合は作成されます。

129 ページの「[変更と製造拠点](#)」も参照してください。

拠点とECO

ECO は拠点に関連する次のアクションの実行に使用できます。

- アイテムの共通または拠点別の BOM を変更します。
- アイテムの共通または拠点別の AML を変更します。
- 拠点別対応策を変更します。
- 拠点別アイテムの有効日と破棄日を変更します。

129 ページの「[変更と製造拠点](#)」も参照してください。

拠点とMCO

MCO は、アイテムの共通または拠点別の AML の変更、またはアイテムのライフサイクル・フェーズの変更に使用できます。

MCO はすべての拠点で使用できます。たとえば、拠点別の情報について、矛盾する 2 つの MCO があると仮定します。最初の MCO がリリースされたとき、保留中の MCO は新しくリリースされた MCO に対してリベースされます。同様に、保留中 MCO に保留中 MCO または SCO について、矛盾する拠点別レッドラインがある場合、ECO または SCO がリリースされると、保留中 MCO は新たにリリースされた ECO または SCO にリベースされます。

129 ページの「[変更と製造拠点](#)」も参照してください。

拠点毎変更

SCO（拠点毎変更）を使用すると、親アイテムのリビジョンを変更せずに、アイテムの拠点別の変更を行うことができます。

また SCO では、有効日と破棄日、アイテムの以前のリビジョンの対応策を拠点ごとに変更できます。これにより、有効日の変更の提案、レビュー、承認のための明確なプロセスを使用して、有効日が変更された理由を記録することができます。

注意 SCO を使用して、アイテムの以前のリビジョンに対する変更はレッドラインできません。すべてのレッドライン変更は、アイテムの最新のリリース済リビジョンに対して行う必要があります。

SCO を使って、次のことを実行できます。

- 最新のリビジョンに対するアイテムの拠点別 BOM の変更。
- 最新のリビジョンに対するアイテムの拠点別 AML の変更。
- 拠点別対応策の変更。この変更には最新のリビジョンと最新でないリビジョンが含まれます。
- 拠点別アイテムの有効日と破棄日を変更します。この変更には最新のリビジョンと最新でないリビジョンが含まれます。

SCO で複数の拠点を対象にすることはできますが、「**対象アイテム**」タブの各行は 1 つの拠点のみに適用されます。アイテムが重複することはできません。たとえば、拠点 A にアイテム P001 を追加する場合、拠点 B に

P001 は追加できません。BOM または AML の拠点共通の部分の変更に SCO は使用できません。また、ECO によってリリースされていないアイテムの BOM の変更に SCO は使用できません。つまり、SCO はプレリミナリ BOM の変更には使用できません。

129ページの「[変更と製造拠点](#)」も参照してください。

拠点別の有効日と破棄日

特定の拠点の有効日および破棄日を変更または設定する場合、その ECO に対して他の処理が行われていなければ、アイテムを「**対象アイテム**」タブに追加して新しいリビジョンを作成します。その変更のためだけに新しいリビジョンを作成したくない場合は、SCO を作成してから、その SCO の「**対象アイテム**」タブで拠点の有効日および破棄日を変更します。

変更とアイテムのリビジョンとの関係

このセクションでは、アイテムのどのリビジョンが変更による影響を受けるかについて Agile PLM が決定に使用するルールを説明し、追加のガイドラインを提供します。アイテム・リビジョンの詳細は、10ページの「[アイテムのリビジョンを処理する](#)」を参照してください。

ECOのリビジョンのみのアイテム

- 保留中またはリリース済の SCO は、リリース済 ECO によって作成されたリビジョンのみに基づきます。
- その ECO に基づく保留中またはリリース済の SCO がある場合、ECO は未リリースにできません。

ECOリビジョンのあるアイテムに関するMCO

- 新規 ECO を作成し、リリースした際に、そのアイテムの以前のリビジョンに対して保留中の MCO が存在する場合、その MCO は新しい ECO のリビジョンに基づいて変更され、新しいリビジョンからの内容を継承します。
- その MCO に基づくリリース済の SCO がある場合、MCO は未リリースにできません。

初期MCOリビジョンのみのアイテム

アイテムが ECO によりリリースされる前に、アイテムに対して MCO がリリースされると（初期 MCO リビジョン、または空白リビジョンとも呼ばれます）、保留中の SCO は空白リビジョンに基づくことができません。

変更を作成する

変更を作成するには、適切な権限が必要です。

Web クライアントでは、「**新規作成**」→「**変更**」コマンド、または「**アクション**」→「**名前を付けて保存**」コマンドによって、アイテムを作成できます。

Java クライアントでは、「**ファイル**」→「**新規作成**」→「**変更**」コマンド、または「**新規オブジェクト**」ボタン  を使用して変更を作成できます。または、「**その他のアクション**」メニュー（オブジェクト・ウィンドウ上部で「**その他**」ボタン  をクリック）およびショートカット・メニューを右クリックして、「**名前を付けて**」コマンドから作成することもできます。

注意 拠点毎変更 (SCO) については、「対象アイテム」テーブルにアイテムを追加する際に、選択された拠点がアイテムの「拠点」タブに一覧表示されていない場合は、そのアイテムの「拠点」タブに追加するよう求めるメッセージが表示されます。後で SCO をキャンセル、またはそのアイテムを「対象アイテム」テーブルから削除する場合、新しい拠点の割当では、そのアイテムの「拠点」タブに残ります。

変更とその他のオブジェクトの作成方法の詳細は、『Agile PLM スタート・ガイド』を参照してください。

注意 一度変更を作成すると、その変更は削除するまで残ります。変更を新しく作成し、後で必要なくなつた場合は必ず削除（ソフト削除してからハード削除）してください。削除しないと、その変更がデータベースに残り、番号が再利用できません。詳細は、135ページの「[変更を削除する](#)」を参照してください。

133ページの「[変更を修正する](#)」も参照してください。

拠点毎変更 (SCO) での名前を付けて保存

SCO オブジェクトを作成するために拠点毎変更 (SCO) 以外の変更オブジェクトから「名前を付けて保存」を実行したり、SCO 以外の変更オブジェクトを作成するために SCO オブジェクトから「名前を付けて保存」は実行できません。拠点毎変更 (SCO) は拠点固有情報にのみ影響し、他のタイプの変更 (ECO や MCO など) は拠点固有情報には制限されないため、SCO を「名前を付けて保存」によって作成できるのは他の SCO からのみになります。拠点毎変更は拠点固有でのみ使用可能であるため、「名前を付けて保存」機能を使用する際、他の変更タイプとは非互換になります。

変更を修正する

適切な権限があれば、編集可能フィールドを修正できます。ただし、修正が可能なのは Agile 管理者によって編集可能に設定されたフィールドのみです。

変更を編集するには

1. 「カバー・ページ」タブでは、次の操作を行います。
 - Web クライアントでは、「[編集](#)」をクリックして、「カバー・ページ」タブを編集モードにします。適切なフィールドを修正します。完了したら、「[保存](#)」をクリックします。
 - Java クライアントでは、適切なフィールドを修正します。「カバー・ページ」タブの入力が完了したら、「[保存](#)」をクリックします。
2. 「対象アイテム」タブでは、対象アイテムの削除、追加、および行の編集ができます。（詳細は、145ページの「[対象アイテム](#) タブにアイテムを追加する」を参照してください。）
3. 「関係」タブでは、関係の追加、編集または削除、および関係ルールの追加、編集または削除を行うことができます。（詳細は、『Agile PLM スタート・ガイド』を参照してください。）
4. 「添付ファイル」タブでは、ファイル・フォルダ・オブジェクトでファイルと URL への参照を追加および削除できます。（詳細は、『Agile PLM スタート・ガイド』を参照してください。）

「ワークフロー」タブまたは「履歴」タブの情報は、自動的に入力されるため編集できません。

132ページの「[変更を作成する](#)」も参照してください。

Agile変更管理ワークフロー

Agile ワークフローは、変更管理プロセスを通して変更が使用するステータスの順序です。ワークフローの名前、ステータスの数と名前、各ステータスを定義するプロパティは、Agile 管理者が指定します。

136ページの「[ルーティング管理者: 変更分析者とコンポーネント・エンジニア](#)」も参照してください。

変更とその他の Agile オブジェクトをワークフローを通して送付する方法の詳細は、『Agile PLM スタート・ガイド』を参照してください。

ECO、MCO、SCOによってレッドラインする

レッドラインを行うと、オブジェクトに対して加えられた変更が赤で表示されます。ECO、MCO、SCOはレッドライン機能を持つ唯一の変更です。これらの変更は、リリース済アイテムを修正する場合に作成します。これらの変更タイプの機能の詳細は、115の「[変更クラス](#)」を参照してください。

このセクションでは次のトピックについて説明します。

- [ECOによってレッドラインする](#) (134ページ)
- [MCOによってレッドラインする](#) (134ページ)
- [SCOによってレッドラインする](#) (135ページ)

製造データのレッドラインに際しては、企業の方針により、ECO を使用してアイテムのリビジョンを先に進める場合と、MCO を使用してアイテムのリビジョンを先に進めない場合があります。

BOMのレッドラインの詳細は、107ページの「[リリース済アイテムのBOMをレッドラインする](#)」を参照してください。

AMLのレッドラインの詳細は、67ページの「[「レッドライン」タブから製造データを変更する](#)」を参照してください。

添付ファイルのレッドラインの詳細は、『Agile PLM スタート・ガイド』を参照してください。

ECOによってレッドラインする

ECO を使用して BOM と AML のデータと添付ファイルをレッドラインできます。また、変更制御下のアイテム属性に対してレッドラインを作成できます。

ECO では、新規アイテムのリリースや以前リリースしたアイテムの変更を行います。ECO（設計変更指示）を作成すると、変更によって修正されるアイテムの保留中アイテム・リビジョンが作成されます（「[対象アイテム](#)」タブにリストされるアイテム）。ECO がリリースされると、修正されたアイテムの保留中アイテム・リビジョンがリリース済のリビジョンに変換されます。

226ページの「[変更制御下の属性とは](#)」も参照してください。

MCOをレッドラインする

MCO を使用して AML データをレッドラインできます。また、変更制御下のアイテム属性に対してレッドラインを作成できます。

MCO は体裁も機能も ECO と同様です。ただし、MCO では ECO とは異なり、アイテムのリビジョンは変更されません。その代わり、「リビジョン」ドロップダウン・リストの対応するリビジョン番号の横に MCO 番号が表示されます。たとえば、アイテムのリビジョン B に対して保留中の MCO、M12345 がある場合、「リビジョン」ドロップダウン・リストにそのリビジョンが「(B) M12345」と表示されます。

MCO は次の目的で使用できます。

- リビジョンを付けずに新しいアイテムをリリースする（ライフサイクル・フェーズは選択可能）
- リビジョンを変更せずにアイテムのライフサイクル・フェーズを変更する
- アイテムの製造データをレッドライン（追加、変更、または削除）する（「製造元」タブ）

SCOによってレッドラインする

SCO を使用して、最新のリリース済リビジョンについてのみ、拠点別の BOM と AML をレッドラインできます。

SCO は体裁も機能も ECO と同様です。ただし、SCO では ECO とは異なり、アイテムのリビジョンは変更されません。その代わり、「リビジョン」ドロップダウン・リストの対応するリビジョン番号の横に SCO 番号が表示されます。たとえば、アイテムのリビジョン B に対して保留中の SCO、S12345 がある場合、「リビジョン」ドロップダウン・リストにそのリビジョンが「(B) S12345」と表示されます。

変更を削除する

変更オブジェクトの削除、および変更オブジェクトの削除取消の詳細は、207ページの「[Agileオブジェクトを削除する](#)」を参照してください。

変更のタブを印刷する

Agile PLM システムから、オブジェクトのタブやその他のデータを印刷できます。現在のタブまたはすべてのタブを印刷できます。添付ファイルは、ファイルが作成されたアプリケーションまたは AutoVue for Agile ビューアから印刷します。

Web クライアントでは、オブジェクトを開いた状態で、「**アクション**」→「**印刷**」を選択します。

Java クライアントでは、オブジェクトを開いた状態で「**印刷**」ボタンを使用します。

オブジェクトの印刷の詳細は、『Agile PLM スタート・ガイド』を参照してください。

「**対象アイテム**」タブを印刷すると、レッドライン情報も含められます。

ルーティング管理者: 変更分析者とコンポーネント・エンジニア

注意 ルーティング管理者タスクの実行方法は、『Agile PLM スタート・ガイド』の「ワークフローを使用してオブジェクトをルートする」の章を参照してください。

変更のルーティングと承認の処理を監視するユーザーは、ルーティング管理者と呼ばれます。さらに、変更に関するルーティング管理者は変更分析者と呼ばれ、MCO(製造元変更)に関するルーティング管理者はコンポーネント・エンジニアと呼ばれます。変更の「カバー・ページ」タブの「**変更分析者**」フィールド、または「**コンポーネント・エンジニア**」フィールドには、その変更に関するルーティング管理者が一覧表示されます。これらのフィールドは(ワークフロー設定で Agile 管理者によって指定されたとおり)、自動的に入力されるか、またはユーザーによってドロップダウン・リストから手動で選択されます。

ルーティング管理者は、変更を評価して割り当て、割り当てられた変更オブジェクトに関する電子メールによる通知を受信します。ルーティング管理者のタスクを実行するには、特定の役割と権限が必要です。役割の割当てについて質問がある場合は、Agile 管理者にお問い合わせください。

次に、デフォルトの Agile ワークフローを使用した変更に対する変更管理プロセスの一般的な例を示します。

1. 変更 (ECO、MCO など) が作成され、ワークフローが選択されます。
2. 変更が変更分析者 (ECO の場合) またはコンポーネント・エンジニア (MCO の場合) に提出されます。
3. 変更分析者またはコンポーネント・エンジニアは、変更を次のステータスに切り替え、指定の承認者 (変更管理委員会のメンバー) とオブザーバに変更をルーティングします。
4. 変更管理委員会 (CCB) のメンバーが変更を承認または却下し、その承認または却下は、変更の「ワークフロー」タブに記録されます。
5. すべての承認者が変更を承認した場合、変更は「リリース済」ステータスに自動的に昇格します (次のステータス)。

注意 変更をいつ自動昇格するかは、ワークフローの設定やスマートルールの設定などの Agile 管理者設定によって制御されます。これらの設定によって、入力が必要な必須フィールド、承認者の必須アクション、自動昇格するために満たすべきその他の条件が決定されます。

変更を却下した承認者が存在する場合、変更分析者またはコンポーネント・エンジニアに通知され、次のいずれかのアクションが実行されます。

- ステータスを「キャンセル」に切り替えて、変更をキャンセルする。
- ステータスを「保留」に切り替えて、変更を作成者に差し戻す。
- 却下の意見がある場合でも変更をリリースする。

ワークフローの設定によっては、承認者が変更を却下したときに、変更を指定のステータスに自動的に切り替えることができます。

変更の使用と管理方法の詳細は、『Agile PLM スタート・ガイド』の「ワークフローを使用してオブジェクトをルートする」の章を参照してください。

134ページの「[Agile 変更管理ワークフロー](#)」も参照してください。

変更の対象アイテム

この章のトピック

| | |
|---|-----|
| ■ 「対象アイテム」タブ | 137 |
| ■ 製造拠点別の対象アイテム | 144 |
| ■ ECO（設計変更指示）またはSCO（拠点毎変更）の部品の処分を表示する | 145 |
| ■ 「対象アイテム」タブにアイテムを追加する | 145 |
| ■ 対象アイテム・テーブルを使用する | 157 |
| ■ 「対象アイテム」タブからアイテムを削除する | 163 |
| ■ 「対象アイテム」タブの行を編集する | 163 |
| ■ 対象アイテムのレッドラインを表示する | 166 |

「対象アイテム」タブ

このセクションでは次のトピックについて説明します。

- [「対象アイテム」タブのボタン](#) (138ページ)
- [「対象アイテム」タブのフィールド](#) (140ページ)

変更の「対象アイテム」タブには、変更により影響されるアイテムのリストが表示されます。1つのアイテムが複数の製造拠点に属する場合は、デフォルトの対象アイテム行の値が各拠点の行のデフォルト値になります。十分な権限を付与されているユーザーが「対象アイテム」タブで実行できるアクションは次のとおりです。

- 変更の影響を受けるアイテムをリストに表示し、保留時のリビジョンを設定する (ECO)
 - 変更によって影響されるアイテムのリビジョンを指定する (SCO、ECR、期限付き変更指示、出荷停止)
-
- 注意** ECO と MCO はアイテムの最新リリースのリビジョンにのみ影響を与えます。
- 「対象アイテム」タブのアイテムを表示する
 - 対象アイテムの「**BOM のレッドライン**」タブ・データを作成、表示、変更する (ECO および SCO)
 - 対象アイテムの「**製造元のレッドライン**」タブを作成、表示、変更する (SCO および MCO、スマートルールで許可するように設定されている場合は ECO)
 - 「**添付ファイルのレッドライン**」タブを使用してアイテムの添付ファイルにレッドラインを追加する (ECOのみ)
 - 既存部品の処分を指定する (ECO、MCO、SCO、ECR、期限付き変更指示、および出荷停止)

読み取り権限を持つユーザーは、次の操作を行うことができます。

- 対象アイテムを開く
- 対象アイテムをレッドラインする (ECO、MCO、および SCO)
- 既存部品の処分を表示する (ECO、MCO、および SCO) (既存部品フィールドが表示されるまで右側にスクロールする必要があります)

| | |
|-----------|---|
| 注意 | アイテムのディスカバリ権限がない場合、アイテムは「対象アイテム」タブには表示されません。表示されないアイテムの数を示すメッセージが表示されます。読み取り権限によっては、「対象アイテム」タブのすべてのフィールドを表示できない場合があります。 |
|-----------|---|

「対象アイテム」タブのアイテムを開く手順は次のとおりです。

- Web クライアントで、アイテム番号をクリックします。アイテムが開き、「タイトル・ロック」タブが手前に表示されます。
 - Java クライアントで、対象アイテム行をダブルクリックします。アイテムが開き、「タイトル・ロック」タブが手前に表示されます。
- または、アイテム行を右クリックして「開く」を選択し、タブを選択します。アイテムが開き、選択したタブが最前面に表示されます。

変更に関連するリビジョンは、「リビジョン」のドロップダウン・メニューで選択します。

「対象アイテム」タブのボタン

以下に示す Web クライアントの「対象アイテム」タブのボタンは、権限や使用状況によって、有効になったり無効になりました。

| ボタンまたはモード | 説明 |
|-----------|---|
| (編集モード) | 対象アイテム・テーブルの任意の編集可能なセルをダブルクリックします。対象アイテム・テーブルが編集モードになり、「保存」ボタンと「キャンセル」ボタンがアクティブになります。 |
| 削除 | 「対象アイテム」テーブルから選択したアイテムを削除します。 |
| 追加 | <p>追加 - 選択したアイテムの下にアイテムを追加します。選択したオプションに基づき、以下が表示されます。</p> <p>「作成」追加する際にアイテムを作成します。</p> <p>「検索」既存のアイテムを検索します。</p> <p>「既知の番号の入力」既存のアイテムの既知の番号を 1 つ、または複数入力します。</p> |
| 一括変更 | あるアイテムの変更を、そのアイテムを使用する複数の BOM または AML に適用します。 |
| 詳細 | <p>「詳細」メニューのボタン</p> <p>次のアクションにアクセスできます。</p> <p>「コピー」：異なるテーブルに貼り付けるために、選択したアイテム行をコピーします。</p> <p>「貼付け」：以前にコピーしたアイテム行を対象アイテム・テーブルに貼り付けます。</p> <p>「下方へコピー」：ハイライトされたセルの内容を、そのセルの下にあるすべてのセルにコピーします。</p> <p>「下方へコピー(選択されたセル)」：連続しないセルが選択（ハイライト）されている場合に、ハイライトされているセルのうち最も下のセルの内容をハイライトされた上方のセルにコピーします。</p> <p>「上方へコピー」：ハイライトされたセルの内容を、そのセルの上にあるすべてのセルにコピーします。</p> <p>「上方へコピー(選択されたセル)」：連続しないセルが選択（ハイライト）されている場合に、ハイライトされているセルのうち最も上のセルの内容をハイライトされた下方のセルにコピーします。</p> |

| ボタンまたはモード | 説明 |
|---------------------|---|
| | <p>「全面表示モード」: レッドライン・タブを非表示にし、コンテンツ・ウィンドウ全体を使用して対象アイテム・テーブルを表示します。</p> <p>「標準表示モード」: 以前に非表示になっていたレッドライン・タブを表示し、コンテンツ・ウィンドウを使用して対象アイテム・テーブルとレッドライン・タブの両方を表示します。</p> <p>(「編集」モードでのみ表示されます。上へコピー、または下へコピーできる各属性のとなりに表示されます。)</p> <p>ボタンがクリックされたフィールドの値を、選択した行の列の上（「上方へコピー」）または下（「下方へコピー」）のフィールドへコピーします。</p> <p>164ページの「Webクライアントで「対象アイテム」タブの行を編集する」を参照してください。</p> |
| 保存 キャンセル | <p>テーブル編集モードでのみアクティブになります。</p> <p>適切なボタンをクリックして、対象アイテム・テーブルの編集内容を保存またはキャンセルします。</p> |
| 「表示」ドロップ ダウン・リスト | <p>「拠点を非表示行」ビューや「基本」ビューなどの必要なビューを選択します。</p> <p>「基本」ビューを選択すると、各対象アイテムの拠点固有の情報を表示できます。各アイテムは、テーブル内の複数の行に表示されます。アイテムのデフォルトまたは一般的な表示として一度（「拠点」フィールドは空白）、アイテムに関連付けられた拠点ごとに一度（「拠点」フィールドには適切な拠点名）、それぞれ表示されます。</p> <p>「拠点を非表示行」を選択すると、アイテムのデフォルトまたは一般情報のみを表示できます。各アイテムはテーブル内に一度のみ表示され、「拠点」フィールドは空白になります。</p> <p>Agile管理者がグローバルなビューを定義している場合や、ユーザーが個人用ビューを定義している場合は、他のビューを選択できます。個人用ビューの詳細は、『Agile PLM スタート・ガイド』を参照してください。</p> |

以下に示す Java クライアントの「対象アイテム」タブのボタンは、権限や使用状況によって、有効になったり無効になりました。

| ボタン | 説明 |
|-----|--|
| | 編集モードで選択した（チェックした）アイテムを表示します。 |
| | 「対象アイテム」テーブルから選択したアイテムを削除します。 |
| | <p>追加 - 選択したアイテムの下にアイテムを追加します。選択したオプションに基づき、以下が表示されます。</p> <p>「作成」追加する際にアイテムを作成します。</p> <p>「検索」既存のアイテムを検索します。</p> <p>「既知の番号の入力」既存のアイテムの既知の番号を1つ、または複数入力します。</p> |
| | 選択した最初の行（「行を下方へコピー」の場合）または最後の行（「行を上方へコピー」の場合）の各カラムの値をコピーし、選択した他の全行の対応するセルに値を貼り付けます。165ページの「 Javaクライアントの「行を上方へコピー」ボタンおよび「行を下方へコピー」ボタン 」を参照してください。 |

| ボタン | 説明 |
|--|---|
| BOM 一括変更  | あるアイテムの変更を、そのアイテムを使用する複数の BOM に適用します。 |
| 製造元部品一括変更  | あるアイテムの変更を、そのアイテムを使用する複数の AML に適用します。 |
| 「表示」ドロップダウン・リスト | <p>「拠点を表示」を選択すると、各対象アイテムの拠点固有の情報を表示できます。各アイテムは、テーブル内の複数の行に表示されます。アイテムのデフォルトまたは一般的な表示として一度（「拠点」フィールドは空白）、アイテムに関連付けられた拠点ごとに一度（「拠点」フィールドには適切な拠点名）、それぞれ表示されます。</p> <p>「拠点を非表示」を選択すると、アイテムのデフォルトまたは一般情報のみを表示できます。各アイテムはテーブル内に一度のみ表示され、「拠点」フィールドは空白になります。</p> |

「対象アイテム」タブのフィールド

次の表に、各変更クラスにおける「対象アイテム」タブのフィールドを示します。

| 「対象アイテム」タブの フィールド | ECO | MCO | SCO | ECR | 出荷停止 | 期限付き 変更指示 |
|------------------------------|-----|-----|-----|-----|------|--------------|
| 拠点 | ✓ | ✓ | ✓ | | | |
| アイテム番号 | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ |
| 旧リビジョン | ✓ | | | | | |
| 旧ライフサイクル・フェーズ | ✓ | ✓ | | | | |
| 破棄日 | ✓ | | ✓ | | | |
| 新規リビジョン | ✓ | | | | | |
| リビジョン | | | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ |
| 有効日 | ✓ | | ✓ | | | |
| ライフサイクル・フェーズ | ✓ | ✓ | | ✓ | ✓ | ✓ |
| 機能の変更 | ✓ | | | | | |
| 古いアイテムの説明 (有効な場合のみ表示されます) | ✓ | | | | | |

| 「対象アイテム」タブの フィールド | ECO | MCO | SCO | ECR | 出荷停止 | 期限付き 変更指示 |
|----------------------|-----|-----|-----|-----|------|--------------|
| アイテムの説明 | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ |
| 注文中 | ✓ | | ✓ | | | |
| 在庫 | ✓ | | ✓ | | | |
| 作業進行中 | ✓ | | ✓ | | | |
| 完了した製品 | ✓ | | ✓ | | | |
| フィールド | ✓ | | | | | |

注意 必須フィールドへの入力は、変更がリリースされる前に完了する必要があります。（「オーバーライド」権限を持つユーザーは、必須フィールドに入力せずに変更をリリースできます。）必須フィールドは Agile 管理者が決定しますが、ECO の「新規リビジョン」フィールドは常に必須フィールドであり、オーバーライドできません。ステータス検証またはリリースの検証を実行すると、すべての必須フィールドへの入力が完了しているかどうかを確認できます。検証の詳細は、『Agile PLM スタート・ガイド』のワークフローに関する章を参照してください。必須フィールドについて質問がある場合は、システム管理者に問い合わせてください。

「対象アイテム」テーブルの「拠点」フィールド

「拠点」フィールドには、対象アイテムが追加された製造拠点が表示されます。「拠点」フィールドが空白の場合、行に表示されるアイテムの情報は、そのアイテムに割り当てられた全拠点間で共通の情報になります。

古いアイテムの説明とアイテムの説明

リリース済アイテムの「説明」フィールドが、変更指示の「対象アイテム」タブでのみ変更可能となるよう Agile 管理者により設定されている場合、対象アイテムのテーブルには「古いアイテムの説明」フィールドと「アイテムの説明」フィールド（「新しいアイテムの説明」という名前がついている場合もあります）の両方が表示されます。

お使いの Agile システムが、アイテムの「説明」フィールドの変更指示の修正向けに設定されている場合、「古いアイテムの説明」フィールドは、「対象アイテム」タブにアイテムが追加されると、自動的に入力されます。

「対象アイテム」タブの「古いアイテムの説明」フィールドは変更できません。ただし、適切な権限があれば、対象アイテムのテーブル（「新規」）の「アイテムの説明」フィールドに新しい説明を入力できます。この説明は、アイテムの保留中リビジョンの「説明」フィールドに表示されます。

リリース済変更指示の「アイテムの説明」フィールド（または「新しいアイテムの説明」フィールド）を使用してアイテムの「説明」フィールドは変更できません。リリース済アイテム「説明」フィールドの変更は、適切な変更アイテム権限でアイテムの「タイトル・ロック」タブを使用してのみ行うことができます。「対象アイテム」タブのアイテムの変更指示がリリースされた後は、リリース済変更指示の変更権限を持っている場合でもリリース済変更指示の「アイテムの説明」フィールドは変更できないため、このフィールドを使用してアイテムの「説明」フィールドは変更できません。

アイテムの「説明」フィールドの変更の詳細は、21ページの「[リリース済アイテムの「説明」フィールドを編集する](#)」を参照してください。

重要 アイテムの「説明」フィールドはMCOからは変更できません。MCOは新規アイテム・リビジョンを作成しません。MCOはECOリビジョンまたは初版リビジョンから、そのベースとなっている「説明」フィールドを使用します。

リビジョン

「リビジョン」フィールドは、アイテムのどのリビジョンが変更によって影響を受けるかを示します。次の表は、それぞれの種類の Agile の変更によってどのアイテム・リビジョンが影響を受けるかを説明します。

| 変更クラス | 編集可否 | アイテムが「対象アイテム」テーブルに追加されたときのデフォルトのリビジョン |
|----------------|------|--|
| 変更指示 (ECO) | いいえ | <p>アイテムが変更指示の「対象アイテム」テーブルに追加されるとき、アイテムの最新リリースのリビジョンが「旧リビジョン」フィールドに表示されます。</p> <p>「ECO 対象アイテム」テーブルの「旧リビジョン」フィールドは編集できません。</p> <p>変更指示はアイテムの最新リリースのリビジョンに常に影響を与えます。アイテムがリリースされていない場合、変更指示はアイテムの初版リビジョンに影響を与えます。ECO はアイテムの新しいリビジョンを作成するため、「対象アイテム」テーブルの「新規リビジョン」フィールドの新しいリビジョン番号や文字を指定する必要があります。</p> <p>注意: 変更指示は、新しいアイテム・リビジョンを作成できる唯一の Agile 変更指示オブジェクトです。</p> <p>ECOの詳細は、158ページの「ECO (設計変更指示) に関する特記事項」を参照してください。</p> |
| 製造元変更 (MCO) | — | <p>製造元変更はアイテムの最新リリースのリビジョンに常に影響を与えます。アイテムがリリースされていない場合、MCO はアイテムの初版リビジョンに影響を与えます。</p> <p>MCO の場合、MCO の基準となるアイテム・リビジョン番号は「対象アイテム」タブに表示されません。</p> <p>MCOの詳細は、159ページの「MCO (製造元変更) に関する特記事項」を参照してください。</p> |
| 拠点毎変更 (SCO) | はい | <p>アイテムが拠点毎変更の「対象アイテム」テーブルに追加されるとき、アイテムの最新リリースのリビジョンが「リビジョン」フィールドに表示されます。</p> <p>「SCO 対象アイテム」テーブル「リビジョン」フィールドを編集して、異なるアイテム・リビジョンを選択できます。</p> <p>SCO はアイテムのどのリリースされたリビジョンにも影響を与えることがあります。SCO はアイテムの初版リビジョンに影響を与えることはできません。</p> <p>SCO の「対象アイテム」テーブルに含めることのできるアイテム・リビジョンは 1 つのみです。</p> |

| 変更クラス | 編集可否 | アイテムが「対象アイテム」テーブルに追加されたときのデフォルトのリビジョン |
|--------------|------|---|
| 設計変更要求 (ECR) | はい | <p>アイテムが設計変更要求の「対象アイテム」テーブルに追加されているとき、「リビジョン」フィールドは空になります。「リビジョン」フィールドが空のとき、ECRはもっとも最近リリースされたリビジョンに影響を与えます。このフィールドで選択できるのは、リリース済リビジョンのみです。保留中リビジョンはフィールドに表示されません。アイテムがリリースされていない場合、設計変更要求はアイテムの初版リビジョンに影響を与えます。</p> <p>ECRの「対象アイテム」テーブルの「リビジョン」フィールドを編集して、異なるアイテム・リビジョンを選択できます。</p> |
| 期限付き変更指示 | はい | <p>アイテムが期限付き変更指示の「対象アイテム」テーブルに追加されているとき、「リビジョン」フィールドは空になります。「リビジョン」フィールドが空のとき、期限付き変更指示はアイテムの最新リリースのリビジョンに影響を与えます。アイテムがリリースされていない場合、期限付き変更指示はアイテムの初版リビジョンに影響を与えます。</p> <p>期限付き変更指示の「対象アイテム」テーブルの「リビジョン」フィールドを編集して、異なるアイテム・リビジョンを選択できます。</p> |
| 出荷停止 | はい | <p>アイテムが出荷停止の「対象アイテム」テーブルに追加されているとき、「リビジョン」フィールドは空になります。「リビジョン」フィールドが空のとき、出荷停止はアイテムの最新リリースのリビジョンに影響を与えます。アイテムがリリースされていない場合、出荷停止はアイテムの初版リビジョンに影響を与えます。</p> <p>出荷停止の「対象アイテム」テーブルの「リビジョン」フィールドを編集して、異なるアイテム・リビジョンを選択できます。</p> |

破棄日および有効日

「破棄日」フィールドは、対象アイテムの新しいリビジョンではなく、前のリビジョンに適用されます。破棄日は旧リビジョンが破棄される日付です。

「有効日」フィールドは、新しいリビジョンに適用され、新しいリビジョンが有効になる日付が反映されます。

ライフサイクル・フェーズおよび旧ライフサイクル・フェーズ

「ライフサイクル・フェーズ」には、デフォルトで次のエントリがあります (Agile 管理者により追加できます)。

- 「停止」 - 一時的に使用されておらず、再開される可能性がある状態。
- 「破棄」 - 永久的に廃止となったアイテム。
- 「パイロット」 - 量産準備プロジェクトとして、限られた数量のみ初回生産されている状態。
- 「製造」 - 通常の生産用にリリースされた状態。
- 「試作品」 - 試験用に非常に限られた数量のみ生産されている状態。

「旧ライフサイクル・フェーズ」フィールドは、アイテムを「対象アイテム」タブに追加すると、自動的に入力されます。「対象アイテム」タブの「旧ライフサイクル・フェーズ」フィールドは変更できません。

アイテムがリリースされると、これを「対象アイテム」タブに追加したときに、「ライフサイクル・フェーズ」フィールドにはアイテムの現在のライフサイクル・フェーズが自動的に入力されます。この後、「ライフサイクル・フェーズ」フィールドを変更できます。アイテムがリリースされなかった場合、これを「対象アイテム」タブに追加すると、最初は「旧ライフサイクル・フェーズ」フィールドと「ライフサイクル・フェーズ」フィールドは空欄となっています。この後、「ライフサイクル・フェーズ」フィールドを変更できます。

注意 「対象アイテム」テーブルの「ライフサイクル・フェーズ」フィールドを空欄にして変更指示をリリースすると、「旧ライフサイクル・フェーズ」を使用してリリース済オブジェクトのライフサイクル・フェーズが決定されます。

製造拠点別の対象アイテム

変更指示 (ECO など) では、次の方法で、特定の製造拠点の対象アイテムを表示および使用できます。

- Web クライアント: 「対象アイテム」タブの「表示」ドロップダウン・リストで「基本ビュー」を選択します。
- Java クライアント: 「対象アイテム」タブの「表示」ドロップダウン・リストで「拠点を表示」を選択します。

テーブルの各アイテムは展開され、そのアイテムに関連付けられた拠点ごとに 1 行が表示されます。表示されるのは、アクセスできる拠点です。

たとえば、香港拠点向けの部品番号 P345 を使用するには、「拠点」フィールドの拠点名が「Hong Kong」になっている部品 P345 の行を選択します。

拠点毎変更 (SCO) の場合、「対象アイテム」テーブルにアイテムを追加する際に適切な拠点を選択すると、特定の製造拠点のアイテムを表示および使用できます。SCO に対して指定した変更は、そのアイテム用に選択した拠点のみに適用されます。

拠点別の値が許可されるフィールド

「対象アイテム」テーブルの次のフィールドには、拠点ごとに異なる値を含むことができます。

- 「対応策」フィールド: 注文中、作業進行中、完了した製品、在庫、フィールド
- 有効日
- 破棄日

「対象アイテム」テーブルの次のフィールドには、拠点ごとに異なる値を含めることができません。

- アイテムの説明
- 古いアイテムの説明
- ライフサイクル・フェーズ
- 旧ライフサイクル・フェーズ
- 旧リビジョン
- 新規リビジョン

Agile管理者は、「拠点別のフィールド」プロパティを使用して、拠点ごとに異なる値を「対象アイテム」テーブル内の他のフィールドに含めるかどうかを指定します。

拠点別の有効日と破棄日

特定の拠点の有効日および破棄日を変更または設定する場合、その ECO に対して他の処理が行われていなければ、アイテムを「対象アイテム」タブに追加して新しいリビジョンを作成します。その変更のためだけに新しいリビジョンを作成したくない場合は、SCO を作成してから、その SCO の「対象アイテム」タブで拠点の有効日および破棄日を変更します。

ECO (設計変更指示) またはSCO (拠点毎変更) の部品の処分を表示する

「対象アイテム」テーブルの ECO (設計変更指示) および SCO (拠点毎変更) には、変更によって影響を受ける既存部品の取扱いを指定する「注文中」、「在庫」、「作業進行中」、「完了した製品」のフィールドがあります。ECO には、「フィールド」（「フィールド内」用に）もあります。これらの各フィールドには、Agile管理者によって定義された処分タイプのリストが表示されることがあります。処分とは、使用、廃棄、手直しなどです。

「対象アイテム」タブにアイテムを追加する

「対象アイテム」タブにアイテムを追加するには、「追加」ボタンを使用します。

Web クライアントでは、「アクション」→「新規作成」→「変更」を使用し、開いているアイテムから変更を作成すると、そのアイテムは自動的に「対象アイテム」タブに追加されます。

Java クライアントで、「その他のアクション」メニューの「変更を作成」コマンドを使って開いているアイテムから変更を作成し（オブジェクト・ウィンドウの「その他」ボタン  をクリック）、ショートカット・メニューを右クリックするとします。すると、「対象アイテム」タブに自動的にこのアイテムが追加されます。

このセクションでは次のトピックについて説明します。

- [Web クライアント、「対象アイテム」テーブルにアイテムを追加する](#) (146 ページ)
- [Java クライアント、対象アイテムの追加ウィザードを使用する](#) (149 ページ)
- [一括変更を実行する](#) (150 ページ)
- [ECO \(設計変更指示\) に関する特記事項](#) (158 ページ)
- [MCO \(製造元変更\) に関する特記事項](#) (159 ページ)
- [「対象アイテム」タブからアイテムを削除する](#) (163 ページ)

注意 別のユーザーによってロックされているアイテムは追加できません。ユーザーによってアイテムが変更されたが、その変更が保存されていない場合、そのアイテムはロックされます。この場合、アイテムを保存すればロックは解除されます。

Webクライアント、「対象アイテム」テーブルにアイテムを追加する

アイテムを「対象アイテム」タブに追加するにはいくつか方法があります。次のいずれかを実行します。

- 「対象アイテム」テーブルの「追加」ボタンを使用して、次の処理を実行できます。
 - アイテムの番号を入力します。
146ページの「[Webクライアント、「対象アイテム」テーブルに追加するアイテムの番号を入力する](#)」を参照してください。
 - パレットの  「検索して追加」ボタンをクリックして、簡易検索を実行します。
148ページの「[Webクライアント、簡易検索して「対象アイテム」テーブルにアイテムを追加する](#)」を参照してください。
 - パレットの  「作成して追加」をクリックして、新しいアイテムを作成します。
147ページの「[Webクライアント、新規作成して「対象アイテム」テーブルにアイテムを追加する](#)」を参照してください。
- 保存された検索を実行します。検索結果テーブルで、「詳細」メニューの「コピー」コマンドを使用するか、または  「ナビゲータ」ドローワーに移入し、ドラッグ・アンド・ドロップして「対象アイテム」テーブルに追加できます。
148ページの「[Webクライアント、保存された検索を実行して「対象アイテム」テーブルにアイテムを追加する](#)」を参照してください。
- カスタム検索パレットを開き、検索（基本または詳細）を定義して、追加するアイテムを検索します。
148ページの「[Webクライアント、カスタム検索して「対象アイテム」テーブルにアイテムを追加する](#)」を参照してください。

Webクライアント、「対象アイテム」テーブルに追加するアイテムの番号を入力する

BOMテーブルに追加するアイテムの番号がわかっている場合、Webクライアントの「既知の番号の入力」オプションを使用できます。148ページの「[Webクライアント、簡易検索して「対象アイテム」テーブルにアイテムを追加する](#)」および147ページの「[Webクライアント、新規作成して「対象アイテム」テーブルにアイテムを追加する](#)」も参照してください。

Webクライアントで「対象アイテム」テーブルにアイテムを1つ、または複数追加する手順は次のとおりです。

1. 「対象アイテム」タブをクリックします。
2. 「追加」ボタンをクリックします。オブジェクト追加パレットが表示されます。
3. テキスト入力フィールドに、追加するアイテム番号をセミコロンで区切って入力します。例:
P00487; P00259; P00264
4. または、Web クライアントの先行入力検索機能を使用することもできます。
 - a. アイテム番号の一部を入力すると、入力したテキストに一致するアイテムのリストが Agile PLM によって表示されます。
 - b. 上矢印キーおよび下矢印キーを使用して、必要なオブジェクトをハイライトします。
 - c. 右矢印キーを押して、オブジェクトを選択します。
 - d. ステップ a~c を繰り返して、追加するオブジェクトを複数選択します。

注意 SCOについては、パレットのドロップダウン・リストで、希望の拠点を選択してください。

- [Enter]キーを押して、選択したアイテムをテーブルに追加し、パレットを閉じます。

アイテムが「対象アイテム」テーブル内に表示されます。

「対象アイテム」テーブルにアイテムを追加する他の方法は、146ページの「[Webクライアント、「対象アイテム」テーブルにアイテムを追加する](#)」を参照してください。

Webクライアント、簡易検索して「対象アイテム」テーブルにアイテムを追加する

簡易検索を実行して「対象アイテム」テーブルに追加するアイテムを検索するには、Webクライアントの「追加」機能を使用します。

Webクライアントで、簡易検索を実行して「対象アイテム」テーブルに追加する1つ以上のアイテムを検索する手順は次のとおりです。

- 「対象アイテム」タブをクリックします。
- 「追加」ボタンをクリックします。オブジェクト追加パレットが表示されます。
- パレットの  「検索して追加」ボタンをクリックします。「アイテム検索」パレットが表示されます。
- 検索条件を入力し、 をクリックして、簡易検索を実行します。
- 結果テーブルで、1つ以上のアイテムを選択して、次のいずれかを実行します。
 - キーボードの[Enter]キーを押して、選択したアイテムを「対象アイテム」テーブルに追加します。
 - 選択したアイテムを「対象アイテム」テーブルにドラッグ・アンド・ドロップします。

「対象アイテム」テーブルにアイテムが追加されます。

注意 SCOについては、パレットのドロップダウン・リストで、希望の拠点を選択してください。

- 終了したら、キーボードの[Esc]キーを押して、「アイテム検索」パレットを閉じます。

Webクライアント、新規作成して「対象アイテム」テーブルにアイテムを追加する

まだ作成されていないアイテムを「対象アイテム」テーブルに追加できます。

Webクライアントを使用して「対象アイテム」テーブルに存在しないアイテムを追加する手順は次のとおりです。

- 「対象アイテム」タブをクリックします。
- 「追加」ボタンをクリックします。オブジェクト追加パレットが表示されます。
- パレットの  「作成して追加」ボタンをクリックします。「新規作成」ダイアログが開きます。
- 「新規作成」ダイアログで、「タイプ」ドロップダウン・リストを使用して、作成するアイテムのタイプ(サブクラス)を選択します。
- 表示される番号を使用するか、「自動採番」ボタンをクリックするか、または番号を入力します。
- 必要に応じて、「説明」フィールドに説明を入力します。
- 必須フィールドを入力します。
- 「追加」をクリックします。

注意 新しいアイテムを作成した後でそのアイテムが必要でなくなった場合は、「アクション」メニューの「削除」コマンドを使用してデータベースからそのアイテムを削除する必要があります。「対象アイテム」テーブルからのアイテムの削除の詳細は、163ページの「[アイテムを「対象アイテム」タブから削除する](#)」を参照してください。

「対象アイテム」テーブルにアイテムを追加する他の方法は、146ページの「[Webクライアント、対象アイテム](#)」テーブルにアイテムを追加する」を参照してください。

Webクライアント、保存された検索を実行して「対象アイテム」テーブルにアイテムを追加する

Agile PLM のテーブル追加機能では、保存された検索を使用して、「対象アイテム」テーブルに追加するアイテムを検索できます。

Webクライアントで保存された検索を使用して「対象アイテム」テーブルに追加するアイテムを検索する手順は次のとおりです。

1. 保存された検索を実行します。
2. 次のいずれかの方法を使用して、検索結果アイテムを「対象アイテム」テーブルに追加します。
3. コピー・アンド・ペースト:
 - a. 「検索結果」テーブルで、1つ以上のアイテム行を選択します。
 - b. 「詳細」メニューで「コピー」を選択するか、またはキーボードの[Ctrl]キーを押しながら[C]キーを押して、アイテムをコピーします。
 - c. 必要なアイテムを開き、「対象アイテム」タブをクリックして、「対象アイテム」テーブルを表示します。
 - d. 「詳細」メニューで「貼付け」を選択するか、またはキーボードの[Ctrl]キーを押しながら[V]キーを押します。
4.  「ナビゲータ」ドローワ:
 - a. 「検索結果」テーブルで、「ナビゲータ」ボタンをクリックします。左のナビゲーション・ウィンドウの  「ナビゲータ」ドローワに、検索結果が移入されます。
 - b.  「ナビゲータ」ドローワで、1つ以上のアイテムを選択します。アイテム・アイコンの左側をクリックしてハイライトし、 「ナビゲータ」リンクを選択します。
 - c. ハイライトしたアイテムを「対象アイテム」テーブルにドラッグ・アンド・ドロップします。
 - d. または、 「ナビゲータ」のハイライトされたアイテムをコピーして ([Ctrl]キーを押しながら[C]キーを押します)、それらを「対象アイテム」テーブルに貼り付けることもできます（「詳細」メニューで「貼付け」を選択するか、またはキーボードの[Ctrl]キーを押しながら[V]キーを押します）。

Webクライアント、カスタム検索して「対象アイテム」テーブルにアイテムを追加する

Web クライアントでは、カスタム検索を実行して、「対象アイテム」テーブルに追加するアイテムを検索できます。検索した後、コピー・アンド・ペーストを使用して、アイテムを「対象アイテム」テーブルに追加します。

コンテンツ・ウィンドウでカスタム検索を実行し、検索結果テーブル機能を使用して  「ナビゲータ」ドローワに移入するか、または検索結果行をコピーして「対象アイテム」テーブルに貼り付けることができます。148ページの「[Webクライアント、保存された検索を実行して「対象アイテム」テーブルにアイテムを追加する](#)」を参照してください。

また、カスタム検索パレットを開き、そこで「対象アイテム」テーブルを表示しながら追加するアイテムを検索および選択することもできます。

「カスタム検索」パレットを開き、「対象アイテム」テーブルに追加するアイテムを検索する手順は次のとおりです。

1. 「対象アイテム」タブをクリックして、「対象アイテム」テーブルを表示します。
2. キーボードで、[Ctrl]キーと[Shift]キーを押しながら[X]キーを押します。カスタム検索パレットが表示されます。「対象アイテム」テーブルは、パレットの後ろに引き続き表示されます。
3. 検索パレットで、基本検索または詳細検索を定義します。検索を実行します。検索の定義の詳細は、『Agile PLM スタート・ガイド』を参照してください。

注意 カスタム検索パレットの左上隅で、 をクリックするとパレット全体が縮小し、 をクリックするとパレットが再度展開されます。

4. 1つ以上の検索結果行を選択します。
 5. 「コピー」ボタンをクリックします。
 6. 「対象アイテム」テーブル行を選択して「対象アイテム」テーブルにフォーカスを置き、「詳細」メニューで「貼付け」を選択します。
- 他のアイテムを検索および選択するために、複数の検索を実行できます。
7. キーボードの[Esc]キーを押して、カスタム検索パレットを閉じます。

「対象アイテム」テーブルにアイテムを追加する他の方法は、146ページの「[Webクライアント、「対象アイテム」テーブルにアイテムを追加する](#)」を参照してください。

対象アイテム追加ウィザードを使用する

注意 ヒント: Java クライアントで「対象アイテム」タブの「追加」ボタンを使用する簡単な方法は、1回クリックするだけです。ダイアログ・ボックスが表示され、分かればアイテム番号を入力します。このダイアログ・ボックスで、「作成」または「検索」リンクをクリックし、これらのアイテム方法を使用します。SCO に対象アイテムを追加する場合は、「作成」リンクは使用できません。

Java クライアントで「対象アイテム」タブにアイテムを追加する手順は次のとおりです。

1. 変更を開き、「対象アイテム」タブを選択します。
2. 「追加」ドロップダウン・メニュー・ボタンをクリックして、「検索」、「既知の番号の入力」または「作成」のいずれかの追加オプションを選択します。

注意 SCO に対象アイテムを追加する場合は、「作成」オプションは使用できません。

3. 選択したメニューに基づき、次のいずれかを実行します。
 - **検索** - 1つ以上の既存アイテムを検索します。「対象アイテムの追加」ダイアログ・ボックスで、検索方法を選択します。簡易検索を実行する場合は、検索する値を入力し、「検索」をクリックします。さらに、詳細検索を設定したり、保存された検索を実行したり、ブックマークや最近開いたアイテム（ショートカット）も選択できます。（検索の詳細は、『Agile PLM スタート・ガイド』を参照してください。）検索結果で目的のアイテムをクリックし、「OK」をクリックします。「検索された対象アイテム」リストのすべてのアイテムは、「対象アイテム」テーブルに追加されます。
 - **既知の番号の入力** - 1つ以上の番号を入力し、「追加」をクリックします。
 - **作成** - 「タイプ」ドロップ・ダウン・リストからタイプを選択します。適切な場合は、オブジェクトの番号を入力してください。「OK」をクリックします。

注意 SCO に対象アイテムを追加する場合は、「**拠点に追加**」ドロップダウン・リストから拠点を選択します。

アイテムを「対象アイテム」テーブルに追加することは、BOMテーブルにアイテムを追加すること似ています。ダイアログの入力方法の詳細は、93ページの「[Javaクライアント、BOMテーブルに追加するアイテムの検索](#)」、92ページの「[Javaクライアント、BOMテーブルに追加するアイテムの番号を入力する](#)」および97ページの「[Javaクライアント、存在しないアイテムをBOMテーブルに追加する](#)」を参照してください。

一括変更を実行する

複数の BOM にあるアセンブリのアイテムを、自動的に一度で追加、置換または削除できる ECO を作成できます。同様に、複数のアセンブリの AML（「**製造元**」タブ）にある製造元部品を、自動的に一度で置換、削除できる ECO または MCO を作成できます。一括変更と呼ばれるこれらの変更は、一括変更ウィザードを利用して作成します。

次のセクションは、一括変更機能の使い方を説明しています。

- [BOM一括変更の概要](#) (150ページ)
- [WebクライアントBOM一括変更ウィザード](#) (150ページ)
- [JavaクライアントBOM一括変更ウィザード](#) (150ページ)
- [製造元部品 \(AML\) 一括変更の概要](#) (154ページ)
- [Webクライアント製造元部品一括変更ウィザード](#) (155ページ)
- [Javaクライアント製造元部品一括変更ウィザード](#) (156ページ)

BOM一括変更の概要

BOM 一括変更は、BOM 一括変更ウィザードを使用して、ECO からのみ使用できます。BOM 一括変更プロセスでは、次のオプションを使用できます。

- アイテムを複数のアセンブリに追加する。
- 特定のアイテムを使用するアセンブリのすべて、または一部から、そのアイテムを削除し、その結果影響を受けるアセンブリの BOM を一括変更によって自動的にレッドラインする。
- 特定のアイテムを使用するアセンブリのすべて、または一部で、そのアイテムを他のアイテムに入れ替え、その結果影響を受けるアセンブリの BOM を一括変更によって自動的にレッドラインする。
- 特定のアイテムに関連するアセンブリを検索して、「**対象アイテム**」タブに追加する。BOM の一括レッドラインは実行されません。アイテムが「対象アイテム」テーブルに追加された後、手動で BOM をレッドラインします。

WebクライアントBOM一括変更ウィザード

Web クライアント BOM 一括変更ウィザードを使用すると、複数のアセンブリに対する変更を一度に指定できます。次の BOM 一括変更オプションがあります。

- アイテムを複数のアセンブリに追加する。
- 複数のアセンブリでアイテムを置換する。
- 複数のアセンブリからアイテムを削除する。

- アイテムに関連するアセンブリを検索して、対象アイテムとして追加する。

これらの手順は多少異なりますが、各ウィザード手順でプロセスが段階的に指示されます。次に、すべての手順について説明します。

アイテムを複数のアセンブリに追加するには (Webクライアント) :

1. 保留中または未割当の変更から、「対象アイテム」タブをクリックして前面に表示します。 (既存の変更を使用するか、新しい変更を作成します。)
2. 「一括変更」ボタンをクリックし、メニューから **BOM** を選択します。BOM一括変更ウィザードが開きます。
3. 「一括変更オプションの選択」 ウィザード手順で、「アイテムを複数のアセンブリに追加」を選択して、「次」をクリックします。
4. 「追加するアイテムの選択」 ウィザード手順で、複数のアセンブリに追加するアイテムを指定します。アイテム番号を入力するか、または  をクリックしてアイテムの簡易検索を実行します。アイテム番号を選択したら、「次へ」をクリックします。
5. 「追加するアセンブリの識別」 ウィザード手順で、この一括変更で影響のあるアセンブリを指定します。
 - 「追加」ボタンをクリックし、アイテム番号のリストをセミコロンで区切って入力して、[Return]キーを押します。
 - または、「追加」ボタンをクリックし、 をクリックして、アセンブリの簡易検索を実行します。パレットの簡易検索結果の行をダブルクリックして、必要なアイテムを選択します。
6. ステップ 4 で選択したアイテムを追加するアセンブリを特定したら、「完了」をクリックします。

レッドラインされたアセンブリが「対象アイテム」テーブルに追加されます。「BOM のレッドライン」タブで変更を確認できます。

複数のアセンブリでアイテムを置換するには (Webクライアント) :

1. 保留中または未割当の変更から、「対象アイテム」タブをクリックして前面に表示します。 (既存の変更を使用するか、新しい変更を作成します。)
2. 「一括変更」ボタンをクリックし、メニューから **BOM** を選択します。BOM一括変更ウィザードが開きます。
3. 「一括変更オプションの選択」 ウィザード手順で、「複数のアセンブリでアイテムを置換」を選択して、「次」をクリックします。
4. 「置換するアイテムの選択」 ウィザード手順で、使用されているアセンブリからレッドライン削除するアイテム、および削除したアイテムを置換するアイテムの両方を指定します。「削除するアイテム」フィールドに、アイテム番号を入力するか、または  をクリックしてアイテムの簡易検索を実行します。
5. 「置換アイテム」フィールドに、アイテム番号を入力するか、または  をクリックしてアイテムの簡易検索を実行します。新しいアイテムを作成するには、 をクリックします。削除するアイテムとそれを置換するアイテムの両方を指定したら、「次」をクリックします。
6. 「アイテムを置換するアセンブリの選択」 ウィザード手順で、この一括変更で影響のあるアセンブリを指定します。ステップ 4 で指定されたアイテムを使用するアセンブリ・リストから、対象とするアセンブリを選択し、「完了」をクリックします。

レッドラインされたアセンブリ (ステップ 6 で選択した) がまだ「対象アイテム」テーブルにない場合は、「対象アイテム」テーブルに追加されます。「BOM のレッドライン」タブで変更内容を表示できます。

複数のアセンブリからアイテムを削除するには (Webクライアント) :

1. 保留中または未割当の変更から、「対象アイテム」タブをクリックして前面に表示します。(既存の変更を使用するか、新しい変更を作成します。)
2. 「一括変更」ボタンをクリックし、メニューから BOM を選択します。BOM 一括変更ウィザードが開きます。
3. 「一括変更オプションの選択」ウィザード手順で、「複数のアセンブリからアイテムを削除」を選択して、「次」をクリックします。
4. 「削除するアイテムの選択」ウィザード手順で、使用されているアセンブリからレッドライン削除するアイテムを指定します。「削除するアイテム」フィールドに、アイテム番号を入力するか、または  をクリックしてアイテムの簡易検索を実行します。アイテムを選択したら、「次へ」をクリックします。
5. 「アイテムを置換するアセンブリの選択」ウィザード手順で、この一括変更で影響のあるアセンブリを指定します。ステップ 4 で指定されたアイテムを使用するアセンブリ・リストから、対象とするアセンブリを選択し、「完了」をクリックします。
6. レッドラインされたアセンブリ (ステップ 6 で選択した) がまだ「対象アイテム」テーブルにない場合は、「対象アイテム」テーブルに追加されます。「BOM のレッドライン」タブで変更内容を表示できます。

アセンブリに対するレッドラインBOMの変更を行うことなく、特定のアイテムに関連するアセンブリを検索して、それらのアセンブリを対象アイテム・テーブルに追加するには (Webクライアント) :

1. 保留中または未割当の変更から、「対象アイテム」タブをクリックして前面に表示します。(既存の変更を使用するか、新しい変更を作成します。)
2. 「一括変更」ボタンをクリックし、メニューから BOM を選択します。BOM 一括変更ウィザードが開きます。
3. 「一括変更オプションの選択」ウィザード手順で、「アイテムに関連するアセンブリを検索し、それらを対象アイテムとして追加」を選択して、「次」をクリックします。
4. 「アイテムの選択」ウィザード手順で、対象アイテム・テーブルに追加するアセンブリの BOM で使用されているアイテムを指定します。「アイテム」フィールドに、アイテム番号を入力するか、または  をクリックしてアイテムの簡易検索を実行します。アイテムを選択したら、「次へ」をクリックします。
5. 「対象アイテム・テーブルに追加するアセンブリの選択」ウィザード手順で、この一括変更で影響のあるアセンブリを指定します。ステップ 4 で指定されたアイテムを使用するアセンブリ・リストから、対象とするアセンブリを選択し、「完了」をクリックします。
6. アセンブリ (ステップ 4 で選択した) は「対象アイテム」テーブルに追加され、アセンブリに対するレッドライン変更は行われません。「対象アイテム」テーブルでアセンブリを選択し、「BOM のレッドライン」タブでレッドラインを変更します。

JavaクライアントBOM一括変更ウィザード

Java クライアント BOM 一括変更ウィザードを使用すると、複数のアセンブリに対する変更を一度に指定できます。次の 2 つの BOM 一括変更オプションがあります。

- アイテムを複数のアセンブリに追加する。
- 複数のアセンブリからアイテムを置換または削除する。

2 つの手順は多少異なりますが、ウィザードの各ダイアログでプロセスが段階的に指示されます。両方の手順について以下で説明します。

アイテムを複数のアセンブリに追加するには (Javaクライアント) :

1. 保留中または未割当の変更から、「対象アイテム」タブをクリックして前面に表示します。(既存の変更を使用するか、新しい変更を作成します。)
 2. 「BOM一括変更」ボタンをクリックします。
- BOM一括変更ウィザードが開きます。
3. 「アイテムを複数のアセンブリに追加する」オプションを選択し、「次へ」をクリックします。
 4. 次のウィザードのダイアログでは、複数のアセンブリに追加するアイテムを指定します。アイテム番号を入力するか、をクリックしてアイテムを検索します。「オブジェクトを選択」のダイアログ・ボックスで、「作成」リンクをクリックし、新規アイテムを作成します。アイテム番号を指定したら、「次へ」をクリックします。
 5. 次のウィザード・ダイアログでは、この一括変更を適用するアセンブリを指定します。「追加」ボタンをクリックして、ステップ4で選択したアイテムを追加するアセンブリを検索します。アセンブリを指定したら、「完了」をクリックします。

レッドラインされたアセンブリが「対象アイテム」テーブルに追加されます。「BOMのレッドライン」タブで変更を確認できます。

複数のアセンブリからアイテムを置換または削除するには (Javaクライアント) :

1. 保留中または未割当の変更から、「対象アイテム」タブをクリックして前面に表示します。(既存の変更を使用するか、新しい変更を作成します。)
 2. 「BOM一括変更」ボタンをクリックします。
- BOM一括変更ウィザードが開きます。
3. 「複数のアセンブリからアイテムを置換または削除」を選択し、「次へ」をクリックします。
 4. 次のウィザード・ダイアログでは、レッドライン(置換、削除、または変更)するアイテムをそのアイテムを使用するアセンブリで指定します。アイテム番号を入力するか、をクリックしてアイテムを検索します。アイテム番号を指定したら、「次へ」をクリックします。
 5. 次のウィザード・ダイアログでは、この一括変更を適用するアセンブリを指定します。ステップ4で指定されたアイテムを使用するアセンブリ・リストから、対象とするアセンブリを選択し、「次へ」をクリックします。
 6. 次のウィザード・ダイアログで、実行するアクションを指定します。オプションは次のとおりです。
 - 選択したすべてのアセンブリの <アイテム> を、<アイテム> に置換する。

つまり、ステップ5で選択したアセンブリで、ステップ4で選択したアイテムをここで指定するアイテムに置換します。アイテム番号を入力するか、をクリックしてアイテムを検索します。

入力後、「次へ」をクリックします。

レッドラインされたアセンブリ(ステップ5で選択した)が「対象アイテム」テーブルに追加されます。「BOMのレッドライン」タブで変更内容を表示できます。
 - 選択したすべてのアセンブリから <アイテム> を削除する。

つまり、ステップ4で選択したアイテムを、ステップ5で選択したアセンブリから削除します。

「次へ」をクリックします。

レッドラインされたアセンブリ（ステップ 5 で選択した）がまだ「対象アイテム」テーブルにない場合は、「対象アイテム」テーブルに追加されます。「BOM のレッドライン」タブで変更内容を表示できます。

- 選択したアセンブリを「対象アイテム」テーブルに追加し、BOM を自分でレッドラインする。
ステップ 5 で選択したアセンブリを「対象アイテム」テーブルに追加しますが（まだ「対象アイテム」テーブルにない場合）、アセンブリに対するレッドライン変更は行いません。

「完了」をクリックします。

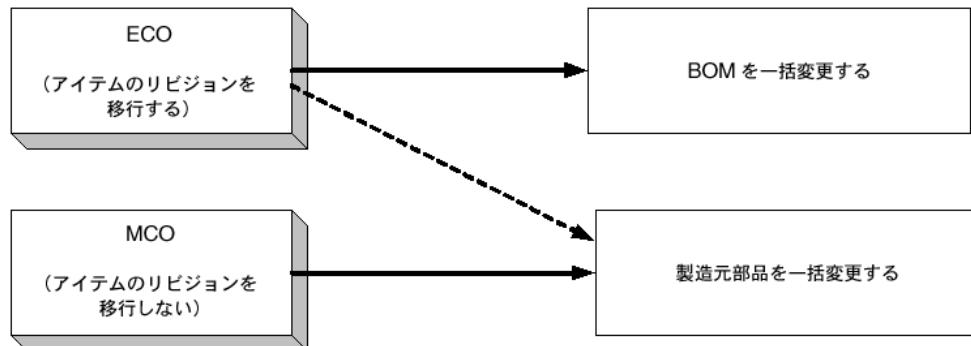
レッドラインされたアセンブリ（ステップ 5 で選択した）がまだ「対象アイテム」テーブルにない場合は、「対象アイテム」テーブルに追加されます。アセンブリに対するレッドライン変更は行われません。「対象アイテム」テーブルでアセンブリを選択し、「BOM のレッドライン」タブでレッドラインを変更します。

アセンブリは、前述のステップ 6 で選択されたオプションに基づき、「対象アイテム」テーブルに追加されます。

製造元部品 (AML) 一括変更の概要

製造元部品一括変更は、ECO (AML 機能付) または MCO から実行できます。これによって自動的に複数のアイテムの「製造元」タブの製造元部品が一度に置換または削除されます。製造元部品一括変更は、「製造元部品の一括変更」ウィザードで作成されます。

MCO では、リビジョンを移行せずに製造データを一括変更する際に使用できます。ECO は、リビジョンを移行して製造データを一括変更する際に使用できます。企業の方針に従って、製造データをレッドラインする際にアイテムのリビジョンを展開するかどうかに応じて ECO (設計変更指示) と MCO (製造元変更) を使い分けてください。



ECO または MCO から製造元部品一括変更ウィザードを使用すると、次を実行できます。

- 製造元部品が使用されているすべてまたは一部の部品から製造元部品を削除し、製造元部品一括変更により影響されるアセンブリの「製造元」タブを自動的にレッドラインする。

- 製造元部品が使用されているすべてまたは一部の部品の製造元部品を置換し、製造元部品一括変更により影響されるアセンブリの「**製造元**」タブを自動的にレッドラインする。
- 単に選択した製造元部品を「**製造元**」タブに追加し、後から手動でレッドラインする。

Webクライアント製造元部品一括変更ウィザード

複数のアイテムから製造元部品を置換または削除するには (Webクライアント) :

1. リリースされていない変更から、「**対象アイテム**」タブをクリックして前面に表示します。（既存の変更を使用するか、新しい変更を作成します。）
2. 「**一括変更**」ボタンをクリックし、メニューから「**製造元部品**」を選択します。
製造元部品一括変更ウィザードが開きます。
3. 「一括変更オプションの選択」ウィザード手順で、「**複数のアイテムで製造元部品を置換**」を選択します。「**次へ**」をクリックします。
4. 「**置換する製造元部品の選択**」ウィザード手順で、使用されているアイテム内でレッドライン置換する製造元部品を指定し、置換製造元部品も選択します。「**削除する製造元部品**」フィールドで、製造元部品番号の入力を開始し、表示されるリストから適切な番号と製造元の組合せを選択するか、または  をクリックして、製造元部品の簡易検索を実行します。
5. 「**置換製造元部品**」フィールドで、製造元部品番号の入力を開始し、表示されるリストから適切な番号と製造元の組合せを選択するか、または  をクリックして、製造元部品の簡易検索を実行します。新しい製造元部品を作成するには、 をクリックします。削除する製造元部品とそれを置換する製造元部品の両方を指定したら、「**次**」をクリックします。
6. 「**製造元部品を置換するアイテムの選択**」ウィザード手順で、この一括変更で影響のあるアイテムを指定します。ステップ3で指定された製造元部品を使用するアイテム・リストから、対象とするアイテムを選択し、「**完了**」をクリックします。
7. レッドラインされたアイテム（ステップ6で選択した）がまだ「**対象アイテム**」テーブルにない場合は、「**対象アイテム**」テーブルに追加されます。レッドラインの「**製造元**」タブで変更内容を確認できます。

複数のアイテムから製造元部品を削除するには:

1. リリースされていない変更から、「**対象アイテム**」タブをクリックして前面に表示します。（既存の変更を使用するか、新しい変更を作成します。）
2. 「**一括変更**」ボタンをクリックし、メニューから「**製造元部品**」を選択します。
製造元部品一括変更ウィザードが開きます。
3. 「一括変更オプションの選択」ウィザード手順で、「**複数のアイテムから製造元部品を削除**」を選択します。「**次へ**」をクリックします。
4. 「**削除する製造元部品の選択**」ウィザード手順で、使用されているアイテムからレッドライン削除する製造元部品を指定します。「**削除する製造元部品**」フィールドで、製造元部品番号の入力を開始し、表示されるリストから適切な番号と製造元の組合せを選択するか、または  をクリックして、製造元部品の簡易検索を実行します。「**次へ**」をクリックします。

- 「製造元部品を置換するアイテムの選択」 ウィザード手順で、この一括変更で影響のあるアイテムを指定します。ステップ 3 で指定された製造元部品を使用するアイテム・リストから、対象とするアイテムを選択し、「完了」をクリックします。

レッドラインされたアイテム（ステップ 5 で選択した）がまだ「対象アイテム」テーブルにない場合は、「対象アイテム」テーブルに追加されます。レッドラインの「製造元」タブで変更内容を確認できます。

アイテムに対してレッドライン製造元の変更を行わずに、特定の製造元部品に関連するアイテムを検索して、それらのアイテムを対象アイテム・テーブルに追加するには（Web クライアント）：

- リリースされていない変更から、「対象アイテム」タブをクリックして前面に表示します。（既存の変更を使用するか、新しい変更を作成します。）

- 「一括変更」ボタンをクリックし、メニューから「製造元部品」を選択します。

製造元部品一括変更 ウィザードが開きます。

- 「一括変更オプションの選択」 ウィザード手順で、「製造元部品に関連するアイテムを検索し、それらを対象アイテムとして追加」を選択します。「次へ」をクリックします。

- 「製造元部品の選択」 ウィザード手順で、使用されているアイテム内の目的の製造元部品を指定します。「製造元部品」フィールドで、製造元部品番号の入力を開始し、表示されるリストから適切な番号と製造元の組合せを選択するか、または  をクリックして、製造元部品の簡易検索を実行します。「次へ」をクリックします。

- 「製造元部品を置換するアイテムの選択」 ウィザード手順で、この一括変更で影響のあるアイテムを指定します。ステップ 3 で指定された製造元部品を使用するアイテム・リストから、対象とするアイテムを選択し、「完了」をクリックします。

アイテム（ステップ 5 で選択した）は「対象アイテム」テーブルに追加され、アイテムに対するレッドライン変更は行われません。「対象アイテム」テーブルでアイテムを選択し、レッドラインの「製造元」タブでレッドラインを変更します。

Java クライアント 製造元部品一括変更 ウィザード

複数のアイテムから製造元部品を置換または削除するには（Java クライアント）：

- リリースされていない変更から、「対象アイテム」タブをクリックして前面に表示します。（既存の変更を使用するか、新しい変更を作成します。）

- 「製造元部品一括変更」ボタン  をクリックします。

製造元部品一括変更 ウィザードが開きます。

- ウィザードの最初のダイアログでは、レッドライン（置換、削除、または変更）する製造元部品をその製造元部品を使用するアイテムで指定します。製造元名と製造元部品番号を入力するか、 をクリックして必要な製造元部品を検索します。製造元部品を指定したら、「次へ」をクリックします。

- 次の ウィザード・ダイアログでは、この一括変更を適用するアイテムを指定します。ステップ 3 で指定された製造元部品を使用するアイテム・リストから、対象とするアイテムを選択し、「次へ」をクリックします。

- 次の ウィザード・ダイアログで、実行するアクションを指定します。オプションは次のとおりです。

- 選択したすべてのアセンブリの <製造元部品> を指定する <製造元部品> に置換する。

つまり、ステップ 4 で選択したアイテムで、ステップ 3 で選択した製造元部品をここで指定する製造元部品に置換します。製造元名と製造元部品番号を入力するか、 をクリックして必要な製造元部品を検索します。

製造元名の選択の詳細は、57ページの「[製造元名の自動検証の使用方法](#)」を参照してください。

入力後、「次へ」をクリックします。

レッドラインされたアイテム（ステップ4で選択した）がまだ「対象アイテム」テーブルにない場合は、「対象アイテム」テーブルに追加されます。「[製造元のレッドライン](#)」タブで変更内容を確認できます。

- 選択したすべてのアセンブリから <製造元部品> を削除する。

つまり、ステップ3で選択した製造元部品を、ステップ4で選択したアイテムから削除します。

「次へ」をクリックします。

レッドラインされたアイテム（ステップ4で選択した）がまだ「対象アイテム」テーブルにない場合は、「対象アイテム」テーブルに追加されます。「[製造元のレッドライン](#)」タブで変更内容を確認できます。

- 対象アイテム・テーブルに選択したアセンブリを追加する。

ステップ4で選択したアイテムを「対象アイテム」テーブルに追加しますが（まだ「対象アイテム」テーブルにない場合）、アイテムに対するレッドライン変更は行いません。

「完了」をクリックします。

アイテム（ステップ4で選択した）は「対象アイテム」テーブルに追加され、アイテムに対するレッドライン変更は行われません。「対象アイテム」テーブルでアイテムを選択し、「[製造元のレッドライン](#)」タブでレッドラインを変更します。

アイテムは、前述のステップ5で選択したオプションに基づき、「対象アイテム」テーブルに追加されます。

対象アイテム・テーブルを使用する

アイテムが「対象アイテム」テーブルに追加されると、Agile 変更の各タイプを完了するために追加ステップが必要となります。次のセクションでは、これらのステップをまとめています。

- [ECOおよびMCOの「タイトル・ロック」レッドライン・タブ](#) (158ページ)
- [ECO \(設計変更指示\) に関する特記事項](#) (158ページ)
- [MCO \(製造元変更\) に関する特記事項](#) (159ページ)
- [SCO \(拠点毎変更\) に関する特記事項](#) (160ページ)
- [ECR \(設計変更要求\) に関する特記事項](#) (161ページ)
- [期限付き変更指示に関する特記事項](#) (162ページ)
- [出荷停止に関する特記事項](#) (162ページ)

ECOおよびMCOの「タイトル・ロック」レッドライン・タブ

重要 変更制御下のタイトル・ロック属性用の「対象アイテム」レッドライン・タブは、Webクライアントでのみ使用できます。

変更制御下の属性が有効になっている場合は、ECO および MCO の「対象アイテム」タブに「タイトル・ロック」レッドライン・タブが表示されます。変更制御下の属性を変更するには、「タイトル・ロック」レッドライン・タブを使用します。

変更が承認されるまでの間、新しい属性値は使用されません。変更がキャンセルされた場合、新しい値は破棄され、使用されることはありません。

異なるアイテム・リビジョンの属性を表示および比較するには、176ページの「[アイテム属性比較レポート](#)」および183ページの「[アイテム属性履歴レポート](#)」を使用します。

変更制御下の属性

Agile PLM の変更制御下の属性の機能を使用すると、Agile PLM システムでは、変更オブジェクトを使用して、アイテム属性値の変更方法を制御できます。

Agile 管理者は、どのアイテム属性を変更制御下に置くかを定義するために、Agile PLM システム設定を使用します。変更制御下でないアイテム属性は、適切な変更権限を持っている場合に変更できます。一方、変更制御下の属性は、変更（ECO または MCO）を使用してのみ変更できます。

詳細は、226ページの「[変更制御下の属性とは](#)」を参照してください。

ECO（設計変更指示）に関する特記事項

ECOを完了する基本ステップは、次のとおりです。

1. 「対象アイテム」タブに対して変更したいアイテムを追加します。

145ページの「[「対象アイテム」タブにアイテムを追加する](#)」を参照してください。

注意 保留中の変更を含むリリース済アイテムを追加する場合、Agile PLM はアイテムに保留中の変更があるというメッセージを表示します。

2. 159ページの「[ECO（設計変更指示）のリリースに必要なフィールド](#)」で説明したように、必須フィールドを含め、「対象アイテム」タブ・フィールドを編集します。

163ページの「[「対象アイテム」タブの行を編集する](#)」を参照してください。

3. BOM データまたは製造データを含むリリース済アイテムを追加する場合、「対象アイテム」タブのレッドライン・ウィンドウにアイテムの BOM データ、製造データ、および添付ファイル（ファイル・フォルダ・オブジェクト内で参照）をレッドラインできます。

- 107ページの「[リリース済アイテムのBOMをレッドラインする](#)」を参照してください。
- 67ページの「[「レッドライン」タブから製造データを変更する](#)」を参照してください。
- 添付ファイルのレッドラインの詳細は、『Viewer の補足』を参照してください。添付ファイルの詳細は、『Agile PLM スタート・ガイド』を参照してください。

4. Webクライアントでは、Agile管理者がアイテムの変更制御下の属性を設定している場合、これらの変更制御下の属性に対してレッドライン編集を実行できます（226ページの「[変更制御下の属性とは](#)」を参照）。

注意 「変更の作成」コマンドを使用して開いているアイテムから ECO を作成する場合、Agile PLM はアイテムを「対象アイテム」テーブルに追加し、リリースされたアイテムの場合、BOM または製造元データをレッドラインするように自動的に指示します。

Java クライアントで、「変更の作成」コマンドは「その他のアクション」メニュー（オブジェクト・ウィンドウ上部の「詳細」ボタン  をクリック）および右クリック・ショートカット・メニューで利用できます。Web クライアントで、アイテム「アクション」メニューから「アクション」→「変更の作成」を使用します。

ECO（設計変更指示）のリリースに必要なフィールド

必須フィールドは、ワークフローのステータスごとに設定します。検証機能を使用すると、必須フィールドへの入力が完了しているかどうかを確認できます。

ワークフローで定義される必須フィールドだけでなく、次の「対象アイテム」タブのフィールドも、Agile PLM で ECO をリリースする前に入力を完了している必要があります。

- 新規リビジョン（「対象アイテム」テーブルの各アイテム）
- アイテム番号

注意 「アイテム番号」フィールドは、「対象アイテム」タブにアイテムを追加すると、自動的に入力されます。

ECOのリリースに必要なフィールドの入力を完了する手順は次のとおりです。

「新規リビジョン」フィールドに新しいリビジョンの番号を入力します。

「新規リビジョン」フィールドを空白のままにすると、Agile PLM はアイテムの「リビジョン」フィールドに疑問符 (?) を表示します。

対象アイテムの「リビジョン」フィールドが空白の ECO はリリースできません。

注意 他のタブにも入力の必要な必須フィールドがあります。ワークフローの設定により、システムでのフィールドは異なります。

Web クライアントでは、「アクション」メニューの「リリースの検証」コマンドを使用すると、すべての必須フィールドへの入力が完了しているかどうかを確認できます。「アクション」メニューの「ステータスの検証」コマンドを使用すると、ステータスの必須フィールドへの入力が完了しているかどうかを確認できます。

Java クライアントでは、オブジェクト・ウィンドウ・ツールバーの「リリースの検証」ボタン  を使用すると、すべての必須フィールドへの入力が完了しているかどうかを確認できます。「ステータスの検証」ボタン  を使用すると、ステータスの必須フィールドへの入力が完了しているかどうかを確認できます。

リリース済の変更の「対象アイテム」タブの「新規リビジョン」フィールドは、適切な変更権限があっても変更できません。リリース済変更の「対象アイテム」タブの「ライフサイクル・フェーズ」を変更する適切な権限がない場合、MCO を使ってそのリビジョン・レベルを変更せずにアイテムのライフサイクル・フェーズを変更できます。詳細は、134ページの「[MCOによってレッドラインする](#)」を参照してください。

MCO (製造元変更) に関する特記事項

MCOを完了する基本ステップは、次のとおりです。

1. 「対象アイテム」タブに対して変更したいアイテムを追加します。
145ページの「[\[対象アイテム\] タブにアイテムを追加する](#)」を参照してください。
2. 必須フィールドを含め、「対象アイテム」タブ・フィールドを編集します。MCOにより、新しいライフサイクル・フェーズを選択できます。
163ページの「[\[対象アイテム\] タブの行を編集する](#)」を参照してください。
3. 製造データのあるリリース済アイテムを追加した場合、製造データをレッドラインします。
67ページの「[\[レッドライン\] タブから製造データを変更する](#)」を参照してください。

注意 アイテム・オブジェクトの「変更の作成」コマンドを使用して開いているアイテムから MCO を作成する場合、Agile PLM はアイテムを「対象アイテム」テーブルに追加し、リリースされたアイテムの場合、製造元データをレッドラインするように自動的に指示します。

Web クライアントでは、「アクション」→「新規作成」→「変更」を使用します。

Java クライアントで、「変更の作成」コマンドは「その他のアクション」メニュー（オブジェクト・ウィンドウ上部の「詳細」ボタン  をクリック）および右クリック・ショートカット・メニューで利用できます。

ワークフローで定義される必須フィールドだけでなく、「対象アイテム」タブの「アイテム番号」フィールドも、Agile PLM で ECO をリリースする前に入力を完了している必要があります。このフィールドは、「対象アイテム」タブにアイテムを追加すると、自動的に入力されます。

注意 他のタブにも入力の必要な必須フィールドがあります。ワークフローの設定により、システムでのフィールドは異なります。

Web クライアントでは、「アクション」メニューの「リリースの検証」コマンドを使用すると、すべての必須フィールドへの入力が完了しているかどうかを確認できます。

Java クライアントでは、オブジェクト・ウィンドウ・ツールバーの「リリースの検証」ボタン  を使用すると、すべての必須フィールドへの入力が完了しているかどうかを確認できます。

SCO (設計変更) に関する特記事項

SCOを完了する基本ステップは、次のとおりです。

1. 「対象アイテム」タブに対して変更したいアイテムを追加します。
145ページの「[\[対象アイテム\] タブにアイテムを追加する](#)」を参照してください。
2. 必須フィールドを含め、「対象アイテム」タブ・フィールドを編集します。最新および最新でないリビジョンの両方に対して、拠点別対応策および拠点別アイテムの有効日と破棄日を変更できます。
131ページの「[拠点毎変更](#)」を参照してください。

3. アイテムの最新リリースのリビジョンを SCO に追加した場合、最新リリースされたリビジョンに対してのみ、拠点別 BOM と AML データをレッドラインできます。
 - 134ページの「[ECO、MCO、SCOによってレッドラインする](#)」を参照してください。
 - 107ページの「[リリース済アイテムのBOMをレッドラインする](#)」を参照してください。
 - 67ページの「[「レッドライン」タブから製造データを変更する](#)」を参照してください。

注意 アイテムの最新リリースのリビジョンのみが、SCO でレッドラインできます。

他のタブにも入力の必要な必須フィールドがあります。ワークフローの設定により、システムでのフィールドは異なります。

Web クライアントでは、「アクション」メニューの「リリースの検証」コマンドを使用すると、すべての必須フィールドへの入力が完了しているかどうかを確認できます。「アクション」メニューの「ステータスの検証」コマンドを使用すると、ステータスの必須フィールドへの入力が完了しているかどうかを確認できます。

Java クライアントでは、オブジェクト・ウィンドウ・ツールバーの「リリースの検証」ボタン  を使用すると、すべての必須フィールドへの入力が完了しているかどうかを確認できます。「ステータスの検証」ボタン  を使用すると、ステータスの必須フィールドへの入力が完了しているかどうかを確認できます。

ECR (設計変更要求) に関する特記事項

ECRを完了する基本ステップは、次のとおりです。

1. 「対象アイテム」タブにアイテムを追加します。

145ページの「[「対象アイテム」タブにアイテムを追加する](#)」を参照してください。

既知の番号の入力によって追加しているとき、番号を入力するとき、スペースの後にリビジョンを入力できます。例:

**1000-02 A
P003872 D**

注意 保留中の変更を含むリリース済アイテムを追加する場合、Agile PLM はアイテムに保留中の変更があるというメッセージを表示します。

2. 「対象アイテム」タブの、Agile システムで定義されたリビジョン・フィールドとカスタム・フィールドを編集します。

163ページの「[「対象アイテム」タブの行を編集する](#)」を参照してください。

注意 他のタブにも入力の必要な必須フィールドがあります。ワークフローの設定により、システムでのフィールドは異なります。

Java クライアントでは、オブジェクト・ウィンドウ・ツールバーの「リリースの検証」ボタン  を使用すると、すべての必須フィールドへの入力が完了しているかどうかを確認できます。

Web クライアントでは、「アクション」メニューの「リリースの検証」コマンドを使用すると、すべての必須フィールドへの入力が完了しているかどうかを確認できます。

期限付き変更指示に関する特記事項

期限付き変更指示を完了する基本ステップは、次のとおりです。

1. 「対象アイテム」タブにアイテムを追加します。

145ページの「[「対象アイテム」タブにアイテムを追加する](#)」を参照してください。

既知の番号の入力によって追加しているとき、番号を入力するとき、スペースの後にリビジョンを入力できます。例:

1000-02 A
P003872 D

注意 保留中の変更を含むリリース済アイテムを追加する場合、Agile PLM はアイテムに保留中の変更があるというメッセージを表示します。

2. 「対象アイテム」タブの、Agile システムで定義されたリビジョン・フィールドとカスタム・フィールドを編集します。

163ページの「[「対象アイテム」タブの行を編集する](#)」を参照してください。

注意 他のタブにも入力の必要な必須フィールドがあります。ワークフローの設定により、システムでのフィールドは異なります。

Java クライアントでは、オブジェクト・ウィンドウ・ツールバーの「リリースの検証」ボタンを使用すると、すべての必須フィールドへの入力が完了しているかどうかを確認できます。

Web クライアントでは、「アクション」メニューの「リリースの検証」コマンドを使用すると、すべての必須フィールドへの入力が完了しているかどうかを確認できます。

出荷停止に関する特記事項

出荷停止を完了する基本ステップは、次のとおりです。

1. 「対象アイテム」タブにアイテムを追加します。

145ページの「[「対象アイテム」タブにアイテムを追加する](#)」を参照してください。

既知の番号の入力によって追加しているとき、番号を入力するとき、スペースの後にリビジョンを入力できます。例:

1000-02 A
P003872 D

注意 保留中の変更を含むリリース済アイテムを追加する場合、Agile PLM はアイテムに保留中の変更があるというメッセージを表示します。

2. 「対象アイテム」タブの、Agile システムで定義されたリビジョン・フィールドとカスタム・フィールドを編集します。

163ページの「[「対象アイテム」タブの行を編集する](#)」を参照してください。

注意 他のタブにも入力の必要な必須フィールドがあります。ワークフローの設定により、システムでのフィールドは異なります。

Java クライアントでは、オブジェクト・ウィンドウ・ツールバーの「リリースの検証」ボタンを使用すると、すべての必須フィールドへの入力が完了しているかどうかを確認できます。

Web クライアントでは、「アクション」メニューの「リリースの検証」コマンドを使用すると、すべての必須フィールドへの入力が完了しているかどうかを確認できます。

「対象アイテム」タブからアイテムを削除する

「対象アイテム」タブからアイテムを削除する場合、その変更で定義された保留中の変更リビジョンのアイテムの添付ファイルはすべて失われます。これは、リリースされていないアイテムや、一度変更されたアイテムなどを含め、すべての保留中リビジョンで適用されます。アイテムに保留ステータスの変更が1つのみある場合、その変更からアイテムを削除すると、アイテムは変更のないプレリミナリ・アイテムに戻り、最新の変更で追加された添付ファイルは失われます。

「対象アイテム」タブからアイテムを削除すると、その変更で作成されたアイテムのレッドラインはすべて削除および廃棄されます。その変更で作成された保留中リビジョンに追加された添付ファイルはすべて、アイテムから削除されます。Agile PLM では、レッドラインまたは添付ファイルを削除する前に警告が表示されます。アイテムの削除を完了するには、警告を受け入れてください。

Web クライアントで「対象アイテム」タブからアイテムを削除する手順は次のとおりです。

- 必要に応じて、「表示」ドロップダウン・リストの「基本ビュー」を選択してテーブルを開き、アイテムに割り当てられた各拠点の行を表示します。
- テーブルの1つ以上の行を選択します。選択した行がハイライトされます。
- 「削除」ボタンをクリックします。

Java クライアントで「対象アイテム」タブからアイテムを削除する手順は次のとおりです。

- 必要に応じて、「表示」ドロップダウン・リストの「拠点を表示」を選択してテーブルを開き、アイテムに割り当てられた各拠点のアイテム行を表示します。
- 削除するアイテムの行をクリックして選択します。（複数のアイテムを選択できます。）
- 「削除」ボタンをクリックします。

注意 「対象アイテム」タブからアイテムを削除するには、「対象アイテム」タブの「削除」ボタンを使用してください。オブジェクト・ウィンドウ・ツールバー（Java クライアント）の「削除」ボタンまたはオブジェクトの「アクション」メニューの削除コマンド（Web クライアント）を使用すると、変更全体が削除されます。

「対象アイテム」タブの行を編集する

特定の拠点に関連付けられた行などの、「対象アイテム」テーブルの行を編集できます。また、行と行の間で情報をコピーして貼り付けることができます。

注意 MCO、ECR、期限付き変更指示、出荷停止からアイテムの説明は編集できません。アイテムの説明は、最新のリリース済 ECO から継承されます。

このセクションでは次のトピックについて説明します。

- [Webクライアントで「対象アイテム」タブの行を編集する](#) (164ページ)
- [Javaクライアントで「対象アイテム」タブの行を編集する](#) (165ページ)

Webクライアントで「対象アイテム」タブの行を編集する

Webクライアントで対象アイテムの情報を編集する手順は次のとおりです。

1. 必要に応じて、「表示」ドロップダウン・リストの「基本ビュー」を選択してテーブルを展開し、アイテムに割り当てられた各拠点の行を表示します。
2. 対象アイテム・テーブルの任意の編集可能なセルをダブルクリックします。
対象アイテム・テーブルが編集モードになり、「保存」ボタンと「キャンセル」ボタンがアクティブになります。[Tab]キーを押して次の編集可能なフィールドに移動するか、矢印キーを使用するか、またはセルをクリックします。
3. 変更を加え、「保存」をクリックして変更を保存するか、または「キャンセル」をクリックして変更をキャンセルします。

Webクライアントのテーブルでの上方へコピーと下方へコピーの使用

Web クライアントには、「詳細」メニュー・ボタンに次の上方へコピーおよび下方へコピーのテーブル編集コマンドが用意されています。

- 下方へコピー
- 下方へコピー(選択されたセル)
- 上方へコピー
- 上方へコピー(選択されたセル)

下方または上方へコピーするには:

1. テーブルがまだ編集モードでない場合は、テーブル編集モードを開始します。
テーブルの任意の編集可能なセルをダブルクリックします。テーブルが編集モードになり、「保存」ボタンと「キャンセル」ボタンがアクティブになります。セル間を移動するには、[Tab]キーを押して次の編集可能なフィールドに移動するか、矢印キーを使用するか、またはセルをクリックします。

2. カラムのセルを 1 つ選択します。選択したセルがハイライトされます。
 - 下方へコピーするには、タブ・メニューで「詳細」→「下方へコピー」を選択するか、またはキーボードの[Ctrl]キーと[Shift]キーを押しながら[D]キーを押します。
ハイライトされたセルの内容が、カラム内でそのセルの下にある、すべてのセルにコピーされます。
 - 上方へコピーするには、タブ・メニューで「詳細」→「上方へコピー」を選択するか、またはキーボードの[Ctrl]キーと[Shift]キーを押しながら[U]キーを押します。
ハイライトされたセルの内容が、同じカラムのハイライトされたセルの上方にあるすべてのセルにコピーされます。

選択されたセルに対してのみ下方または上方へコピーするには:

1. テーブルがまだ編集モードでない場合は、テーブル編集モードを開始します。
テーブルの任意の編集可能なセルをダブルクリックします。テーブルが編集モードになり、「保存」ボタンと「キャンセル」ボタンがアクティブになります。セル間を移動するには、[Tab]キーを押して次の編集

可能なフィールドに移動するか、矢印キーを使用するか、またはセルをクリックします。

- カラムで、2つ以上のセルを選択します。連続したセルを選択するには、[Shift]キーを押しながらクリックします。連続していないセルを選択するには、[Ctrl]キーを押しながらクリックします。選択したセルがハイライトされます。

- 下方へコピーするには、タブ・メニューで「詳細」→「下方へコピー(選択されたセル)」を選択するか、またはキーボードの[Ctrl]キーと[Shift]キーを押しながら[D]キーを押します。

ハイライトされた一番上のセルの内容が、カラム内でそのセルの下にある、ハイライトされたセルにのみコピーされます。

- 上方へコピーするには、タブ・メニューで「詳細」→「上方へコピー(選択されたセル)」を選択するか、またはキーボードの[Ctrl]キーと[Shift]キーを押しながら[U]キーを押します。

ハイライトされているセルのうち最も下のセルの内容が、同じカラムの上方にあるハイライトされたセルにのみコピーされます。

Javaクライアントで「対象アイテム」タブの行を編集する

Javaクライアントで対象アイテムの情報を編集する手順は次のとおりです。

- 必要に応じて、「表示」ドロップダウン・リストの「拠点を表示」を選択してテーブルを展開し、アイテムに割り当てられた各拠点の行を表示します。
- 編集する行をクリックして選択します。複数の行を選択するには、CtrlキーまたはShiftキーを押しながらクリックします。
- 「編集」ボタンをクリックします。
「対象アイテムの編集」ダイアログ・ボックスが表示されます。
- 必要な変更を加えます。
- 完了したら、「OK」をクリックします。

Javaクライアントの「行を上方へコピー」ボタンおよび「行を下方へコピー」ボタン

1つの列内でフィールドのグループを選択した場合、「行を上方へコピー」ボタンを使用すると、選択したフィールドの中で最下部にあるフィールドの内容を、その上部に選択してあるすべてのフィールドにコピーできます。「行を下方へコピー」ボタンを使用すると、選択したフィールドの中で最上部にあるフィールドの内容を、その下部に選択してあるすべてのフィールドにコピーできます。Ctrlキーを押しながらクリックすると、隣接していないフィールドを選択できます。Shiftキーを押しながらクリックすると、隣接したフィールドを選択できます。

一度に複数の列で上方および下方へのコピーを実行できます。ある列のフィールドを選択した後に、Ctrlキー(隣接していない列の場合)やShiftキー(隣接した列の場合)を押しながらクリックして、複数の追加の列を選択できます。「行を上方へコピー」ボタンは、各列で選択されているフィールドの中で最下部にあるフィールドの内容を、各列で選択されているすべてのフィールドにコピーします。「行を上方へコピー」ボタンは、各列で選択されているフィールドの中で最上部にあるフィールドの内容を、各列で選択されているすべてのフィールドにコピーします。

注意 編集可能なすべてのテーブルでは、編集モードで「上方へコピー」および「下方へコピー」を使用できます。固有な識別子データまたは他の固有データを必要とする属性には、「上方へコピー」および「下方へコピー」機能はありません。例として、「対象アイテム」タブの「アイテム番号」、「アイテム製造元」タブの「製造元名」と「製造元部品番号」、アイテムの「BOM」タブの「アイテム番号」と「見出し番号」があります。

Javaクライアントで行と行の間で情報をコピーする手順は次のとおりです。

1. 必要に応じて、「表示」ドロップダウン・リストの「拠点を表示」を選択してテーブルを展開し、アイテムに割り当てられた各拠点の行を表示します。
2. 編集する行をクリックして選択します。複数の行を選択するには、CtrlキーまたはShiftキーを押しながらクリックします。
3. 「編集」ボタンをクリックします。

「対象アイテムの編集」ダイアログ・ボックスが表示されます。

4. 入力するフィールドをクリックして選択します。ShiftキーやCtrlキーを押しながらクリックすると、入力する各列のフィールドを選択したり追加のカラムを選択したりできます。「行を上方へコピー」および「行を下方へコピー」アクションは、「対象アイテム」テーブル内の各列で選択されている（ハイライト表示されている）フィールドによって定義されます。

ソース行とターゲット行の両方をハイライトする必要があります。最上行または最下行はソース行です。

「対象アイテム」テーブルの最上行または最下行を編集する場合は、「行を上方へコピー」ボタンおよび「行を下方へコピー」ボタンを使用して、テーブル内の残りの行を完成させることもできます。

5. 「行を上方へコピー」または「行を下方へコピー」ボタンをクリックして、選択した「対象アイテム」テーブルのフィールドに入力します。
6. 完了したら、「OK」をクリックします。

対象アイテムのレッドラインを表示する

Web クライアントでは、対象アイテムに BOM、AML または添付ファイルがあり、アイテムにレッドラインがあることを示す「レッドラインあり」アイコンが「対象アイテム」テーブルに表示されている場合は、「対象アイテム」テーブルの行を選択して、「レッドライン」タブを表示できます（行をハイライトするには、行セレクタをクリックします）。選択したアイテムの「レッドライン」タブは、「対象アイテム」タブ内の下部に表示されます。

Java クライアントでは、対象アイテムに BOM、AML または添付ファイルがある場合、「対象アイテム」テーブル内の該当する行をクリックすると、その「レッドライン」タブを表示できます。選択したアイテムの「レッドライン」タブは、「対象アイテム」タブ内の下部に表示されます。

- 「BOMのレッドライン」タブの詳細は、107ページの「[リリース済アイテムのBOMをレッドラインする](#)」を参照してください。
- 「製造元のレッドライン」タブの詳細は、67ページの「[「レッドライン」タブから製造データを変更する](#)」を参照してください。
- 「添付ファイルのレッドライン」タブの詳細は、『Agile PLM スタート・ガイド』を参照してください。

製品レポートとプロセス・レポートを使用する

この章のトピック

| | |
|------------------------------|-----|
| ▪ Agile レポートについて | 167 |
| ▪ 製品レポートとプロセス・レポートについて | 168 |
| ▪ 製品レポート | 170 |
| ▪ プロセス・レポート | 185 |

Agile レポートについて

レポートには、プロダクト・レコードの値を表示できます。レポートは、これらの情報を取り出して有意義な形にまとめることで、ビジネス・プロセスに関するヒントを提供し、情報に基づく意思決定を促進します。Agile PLM の堅牢なレポート・プラットフォームでは、次の処理を実行できます。

- ビジネスのパフォーマンスを、標準のデフォルト・レポートを使用して評価し監視する。この標準レポートによって、製品ライフサイクル管理のビジネス・プロセスにおける最善の処理が明らかになります。
- Agile のカスタム・レポート機能を利用してレポートを設定し、自分のニーズに合った情報を取得する。
- Agile PLM アプリケーション以外で作成されたものも含め、すべての関連レポートを、Agile の外部レポート機能を利用して 1箇所からアクセスする。

すべてのタイプ、または Agile レポートの使用の詳細は、『Agile PLM スタート・ガイド』の「Agile レポートを使用する」を参照してください。次の情報が含まれます。

- 役割と権限のレポートに対する影響
- レポート・オブジェクト・タブ
- レポート・レイアウトの作成と変更
- カスタムおよび外部レポートの作成
- レポートの実行、スケジューリング、保存、削除
- レポート出力ウィンドウ

この章では、Agile Product Collaboration に含まれる Agile 標準レポートである製品レポートとプロセス・レポートについて説明します。

製品レポートとプロセス・レポートについて

標準レポートには、ビジネス・プロセスの解析に通常必要となる情報が提供されます。製品レポートとプロセス・レポートは、Product Collaboration のデフォルトの標準レポートです。検索条件を選択し、結果として表示する項目を指定します。標準レポートはそのまま実行できますが、デフォルトのレイアウトを変更したり自分専用のレイアウトを作成したりすることもできます。Agile 製品レポートおよびプロセス・レポートは、Agile Web クライアントまたは Java クライアントから実行できます。

製品レポートとプロセス・レポートにアクセスする

Web クライアントで製品レポートにアクセスする手順は次のとおりです。

1. 左のウィンドウの  「レポート」 ドローワーをクリックして、レポート・フォルダを表示します。
2. 「レポートと分析」 フォルダを開きます。
3. 「標準レポート」 フォルダを開き、「製品レポート」 フォルダまたは「プロセス・レポート」 フォルダを見つけます。
4. 「製品レポート」 フォルダまたは「プロセス・レポート」 フォルダを開き、希望のレポートをクリックします。レポート・ページが右側のコンテンツ・ウィンドウに表示されます。

Java クライアントで製品レポートにアクセスする手順は次のとおりです。

1. 左のウィンドウの「分析とレポート」 タブを選択し、レポート・フォルダを表示します。
2. 「標準レポート」 フォルダを開き、「製品レポート」 フォルダまたは「プロセス・レポート」 フォルダを見つけます。
3. 「製品レポート」 フォルダまたは「プロセス・レポート」 フォルダを開き、希望のレポートをダブルクリックします。Web クライアントが開き、選択したレポート・ページを開きます。

Agile 製品レポート概要

ナビゲーション・ウィンドウの「標準レポート」の下にある「製品レポート」 フォルダには、Product Collaboration レポートが表示されます。

| レポート | 表示内容... |
|--------------------------------------|---|
| 部品構成表 (BOM) レポート | |
| アセンブリ・コスト (アイテム・マスター) レポート (170 ページ) | アセンブリ・コスト・レポートは、指定されたアセンブリの部品構成表 (BOM) に基づいて、BOM と各サブアセンブリのコストを算出します。 |
| BOM 展開レポート (172 ページ) | BOM 展開レポートは、指定されたアセンブリの部品構成表 (BOM) を、指定された階層まで表示します。BOM スナップショット日付を選択します。 |
| 統合 BOM レポート (173 ページ) | 統合 BOM レポートは、指定されたアセンブリの部品構成表 (BOM) を単階層の部品表にまとめ、各アイテムの合計数量を算出します。 |
| 有効な BOM 展開レポート (174 ページ) | 有効な BOM 展開レポートは、ある一定期間中に有効な指定アセンブリの部品構成表 (BOM) を表示します。 |

| レポート | 表示内容... |
|---------------------------------|---|
| アイテムの状況レポート (175ページ) | アイテム状況レポートは、一定期間中に処理されたアイテムを表示します。 |
| アイテム属性比較レポート (176ページ) | 2つ以上のアイテム間の属性の違いを表示します。 |
| 使用箇所レポート (179ページ) | 使用箇所レポートは、コンポーネントまたはサブアセンブリの使用箇所を、指定された階層まで表示します。 |
| BOM比較レポート (180ページ) | BOM 比較レポートは、2つの部品構成表 (BOM) の比較結果を表示します。比較する BOM レベル数および BOM スナップショット日付を選択します。 |
| 単一レベルのみのレガシー BOM比較レポート (182ページ) | レガシー BOM 比較レポートは、最初の BOM レベルを使用して、2つまたはそれ以上の部品構成表 (BOM) の比較結果を表示します。 |
| アイテム属性履歴レポート (183ページ) | 変更指示または製造元変更によって特定期間内にアイテム属性値がどのように変更されたかを表示します。 |
| 製造元レポート | |
| アイテム製造元レポート (184ページ) | アイテム製造元レポートは、検索条件と一致するすべてのアイテムをリストで表示し、各アイテムの製造元を示します。 (AML サーバー・ライセンスが必要です。) |
| 製造元BOMレポート (177ページ) | 製造元 BOM レポートは、BOM 展開レポートを実行し、部品構成表 (BOM) の各アイテムの製造元を表示します。 (AML サーバー・ライセンスが必要です。) |

Agile プロセス・レポート概要

Agile プロセス・レポートでは、変更と転送に関する情報が提供されます。ナビゲーション・ウィンドウの「標準レポート」の下にある「プロセス・レポート」ノード・フォルダには、次のレポートが表示されます。

| レポート | 表示内容... |
|---------------------------|--|
| 変更プロセス・レポート | |
| 変更状況レポート (186ページ) | 変更状況レポートは、一定期間中に処理された変更を表示します。 |
| 変更バックログ・レポート (187ページ) | 変更バックログ・レポートには、一定期間中に、指定ステータスから別の指定ステータスに移行しなかった変更の記録が表示されます。 |
| 変更サイクル時間レポート (189ページ) | 変更サイクル時間レポートでは、指定した変更が、ある期間内に、あるステータスから別のステータスに移行する際に要した時間が計算されます。たとえば、この1年間に変更が「提出済」から「リリース済」に移行する際に要した平均時間が、月ごとに製品ライン別にまとめて表示されます。 |
| ユーザー・サインオフ期間レポート (191ページ) | ユーザー・サインオフ期間レポートでは、ユーザーの承認が必要なルーティング可能なオブジェクトのサインオフを行う必要があったにもかかわらずサインオフをしていなかった期間が計算されます。 |

| レポート | 表示内容... |
|---------------------------|--|
| 変更メトリックス・レポート (194ページ) | 変更メトリックス・レポートには、指定期間中に指定ステータスに移行した変更の記録が表示されます。 |
| 変更パッケージ・レポート (192ページ) | 変更パッケージ・レポートには、変更に関する情報が見やすい形式で表示されます。 |
| IP 転送レポート | |
| IP転送レポート (193ページ) | IP 転送レポートには、Agile 転送命令により指定された宛先に送られたオブジェクトと、その送信日時が表示されます。 (Agile Content Service サーバー・ライセンスが必要です。) |

製品レポート

「製品レポート」フォルダには次のレポートがあります。

- [アセンブリ・コスト \(アイテム・マスター\) レポート](#) (170ページ)
- [BOM展開レポート](#) (172ページ)
- [統合BOMレポート](#) (173ページ)
- [有効なBOM展開レポート](#) (174ページ)
- [アイテムの状況レポート](#) (175ページ)
- [アイテム属性比較レポート](#) (176ページ)
- [製造元BOMレポート](#) (177ページ)
- [使用箇所レポート](#) (179ページ)
- [BOM比較レポート](#) (180ページ)
- [単一レベルのみのレガシーBOM比較レポート](#) (182ページ)
- [アイテム属性履歴レポート](#) (183ページ)
- [アイテム製造元レポート](#) (184ページ)

特定の製品レポートの詳細は、168ページの「[Agile製品レポート](#)」を参照してください。

アセンブリ・コスト (アイテム・マスター) レポート

このレポートでは、各コンポーネントとアセンブリのコストと数量が確認され、コストの合計を計算してコスト・ロールアップが生成されます。このレポートには、BOM 展開レポートのデータに加えて、次の 3 つの列も表示されます。

- 単品コスト
- 合計コスト
- アセンブリ・コスト

アセンブリ・コスト・レポートを実行するには

1. 「製品レポート」フォルダにある「アセンブリ・コスト・レポート」を選択します。「アセンブリ・コスト・レポート」ページが表示されます。
2.  「実行」ボタンをクリックします。「レイアウトと環境設定の選択」ウィザード手順が表示されます。
3. ドロップダウン・リストから必要なレイアウトを選択するか、 「編集」ボタンを使用して既存のレイアウトを編集するか、または  「作成」ボタンを使用して新しいレイアウトを作成します。
レイアウトに関する詳細情報は、『Agile PLM スタート・ガイド』の「Agile レポートを使用する」の章を参照してください。
4. レポートの出力形式を PDF、WORD、EXCEL、HTML または標準から選択します。
5. 「次へ」をクリックします。「レポートのアイテムを選択する」ウィザード手順が表示されます。
6. レポートに記載するアイテムを選択します。
 - テーブルの「追加」ボタンを使用します。必要なアイテム番号を入力するか、または  「検索で追加」パレット・ボタンを使用します。
 - 「詳細」→「貼付け」を使用して、他のテーブル、 「フォルダ」ナビゲーション・ドローワまたは「最近訪れたところ」リストからコピーしたアイテム行を貼り付けます。
 - 「カスタム検索」をクリックして、クエリーを定義します。検索結果テーブルから行をコピーして、それらを「レポートのアイテムを選択する」ウィザード・テーブルに貼り付けます。
7. デフォルトでは、最近リリースされたアイテム・リビジョンがレポート・ウィザードの「レポートのアイテムを選択する」手順で選択されています。異なるリビジョンを選択するには、テーブルの「リビジョン」カラムを編集します。
8. アイテムの複数のリビジョンを選択するには、次の手順で行います。
 - a. アイテムの「リビジョン」フィールドを編集して、最近リリースされたリビジョン以外のリビジョンを選択します。キーボードの[Enter]キーを押して、編集内容を保存します。
 - b. 「追加」ボタンをクリックします。追加パレットで、アイテム番号を入力して、再度テーブルに追加します。最近リリースされたリビジョンが選択されます。
 - c. ステップ a および b を繰り返して、必要な数のアイテム・リビジョンを選択します。
9. 「次へ」をクリックします。「追加のパラメータを選択」手順が表示されます。
10. 必要なアイテム・タイプを指定します。アイテム・タイプを削除するには、小さい「x」ボタンをクリックします。パレットを起動して、追加のアイテム・タイプを選択するには、 をクリックします。
11. 「次へ」をクリックします。「コスト・フィールドとコスト・オプションの選択」ウィザード手順が表示されます。
12. 「コスト・フィールド」および「オプション」ドロップダウン・リストから値を選択します。選択肢には、「部品コストのみ」、「アセンブリ・レベル・コストのみ」、および「アセンブリ・レベル・コストとロールアップ・コスト」があります。
13. 「完了」をクリックし、レポートを実行して表示します。

標準形式以外の形式を選択した場合は、選択した形式でレポートをダウンロードするよう求めるメッセージが表示されます。

| レポート・レイアウト・フィールド | 説明 |
|----------------------------|---|
| レベル | BOM レベル、たとえば 0、1、2、3。 |
| 単品コスト | レポート・ウィザードの「コスト・フィールド」で選択された部品コスト。 |
| 合計コスト | 個別コスト * この行の合計数量（数量） |
| アセンブリ・コスト | アセンブリのコスト。 |
| 選択されたレイアウトで指定されたアイテム・フィールド | <p>レイアウトにより、レポートには選択されたアイテムの「タイトル・ブロック」、「ページ 2」または「BOM」タブからの任意の属性を含むことができます。</p> <p>レイアウトに関する詳細情報は、『Agile PLM スタート・ガイド』の「Agile レポートを使用する」の章を参照してください。</p> |

BOM展開レポート

BOM 展開レポートは、指定されたアセンブリの部品構成表 (BOM) のアイテムを、指定された階層まで表示します。

BOM展開レポートを実行するには

1. 「製品レポート」フォルダにある「BOM 展開レポート」を選択します。「BOM 比較レポート」ページが表示されます。
2.  「実行」ボタンをクリックします。「レイアウトと環境設定の選択」ウィザード手順が表示されます。
3. ドロップダウン・リストから必要なレイアウトを選択するか、 「編集」ボタンを使用して既存のレイアウトを編集するか、または  「作成」ボタンを使用して新しいレイアウトを作成します。

レイアウトに関する詳細情報は、『Agile PLM スタート・ガイド』の「Agile レポートを使用する」の章を参照してください。

4. レポートの出力形式を PDF、WORD、EXCEL、HTML または標準から選択します。
5. 「次へ」をクリックします。「レポートのアイテムを選択する」ウィザード手順が表示されます。
6. レポートに記載するアイテムを選択します。
 - テーブルの「追加」ボタンを使用します。必要なアイテム番号を入力するか、または  「検索で追加」パレット・ボタンを使用します。
 - 「詳細」→「貼付け」を使用して、他のテーブル、 「フォルダ」ナビゲーション・ドローワまたは「最近訪れたところ」リストからコピーしたアイテム行を貼り付けます。
 - 「カスタム検索」をクリックして、クエリーを定義します。検索結果テーブルから行をコピーして、それらを「レポートのアイテムを選択する」ウィザード・テーブルに貼り付けます。
7. デフォルトでは、最近リリースされたアイテム・リビジョンがレポート・ウィザードの「レポートのアイテムを選択する」手順で選択されています。異なるリビジョンを選択するには、テーブルの「リビジョン」カラムを編集します。
8. 特定の日時の展開された BOM のスナップショットを表示するには、「現在日」フィールドをダブルクリックして、必要な日時を選択します。

9. アイテムの複数のリビジョンを選択するには、次の手順で行います。
 - a. アイテムの「リビジョン」フィールドを編集して、最近リリースされたリビジョン以外のリビジョンを選択します。キーボードの[Enter]キーを押して、編集内容を保存します。
 - b. 「追加」ボタンをクリックします。追加パレットで、アイテム番号を入力して、再度テーブルに追加します。最近リリースされたリビジョンが選択されます。
 - c. ステップ a および b を繰り返して、必要な数のアイテム・リビジョンを選択します。
10. 「次へ」をクリックします。「追加レポート・パラメータの選択」手順が表示されます。
11. 対象とする BOM 階層の深さ（階層数）を指定します。
12. 必要なアイテム・タイプを指定します。アイテム・タイプを削除するには、小さい「x」ボタンをクリックします。パレットを起動して、追加のアイテム・タイプを選択するには、をクリックします。
13. 「完了」をクリックし、レポートを実行して表示します。

標準形式以外の形式を選択した場合は、選択した形式でレポートをダウンロードするよう求めるメッセージが表示されます。

| レポート・レイアウト・フィールド | 説明 |
|----------------------------|---|
| レベル | BOM レベル、たとえば 0、1、2、3。 |
| 選択されたレイアウトで指定されたアイテム・フィールド | <p>レイアウトにより、レポートには選択されたアイテムの「タイトル・ブロック」、「ページ 2」または「BOM」タブからの任意の属性を含むことができます。</p> <p>レイアウトに関する詳細情報は、『Agile PLM スタート・ガイド』の「Agile レポートを使用する」の章を参照してください。</p> |

統合BOMレポート

統合 BOM レポートは、指定されたアセンブリの部品構成表 (BOM) を単階層の部品表にまとめ、各アイテムの合計数量を算出します。このレポートには、指定したアセンブリのすべての部品の要約が、すべての階層について表示されます。また、アセンブリ全体での合計数量も表示されます。

統合BOMレポートを実行するには

1. 「製品レポート」フォルダにある「統合 BOM レポート」を選択します。「統合 BOM レポート」ページが表示されます。
 2.  「実行」ボタンをクリックします。「レイアウトと環境設定の選択」ウィザード手順が表示されます。
 3. ドロップダウン・リストから必要なレイアウトを選択するか、 「編集」ボタンを使用して既存のレイアウトを編集するか、または  「作成」ボタンを使用して新しいレイアウトを作成します。
- レイアウトに関する詳細情報は、『Agile PLM スタート・ガイド』の「Agile レポートを使用する」の章を参照してください。
4. レポートの出力形式を PDF、WORD、EXCEL、HTML または標準から選択します。
 5. 「次へ」をクリックします。「レポートのアイテムを選択する」ウィザード手順が表示されます。
 6. レポートに記載するアイテムを選択します。

- テーブルの「**追加**」ボタンを使用します。必要なアイテム番号を入力するか、または  「**検索で追加**」 パレット・ボタンを使用します。
 - 「**詳細**」 → 「**貼付け**」を使用して、他のテーブル、 「**フォルダ**」ナビゲーション・ドローワまたは「**最近訪れたところ**」リストからコピーしたアイテム行を貼り付けます。
 - 「**カスタム検索**」をクリックして、クエリーを定義します。検索結果テーブルから行をコピーして、それらを「**レポートのアイテムを選択する**」 ウィザード・テーブルに貼り付けます。
7. デフォルトでは、最近リリースされたアイテム・リビジョンがレポート・ウィザードの「**レポートのアイテムを選択する**」手順で選択されています。異なるリビジョンを選択するには、テーブルの「**リビジョン**」カラムを編集します。
8. アイテムの複数のリビジョンを選択するには、次の手順で行います。
- アイテムの「**リビジョン**」フィールドを編集して、最近リリースされたリビジョン以外のリビジョンを選択します。キーボードの[Enter]キーを押して、編集内容を保存します。
 - 「**追加**」ボタンをクリックします。追加パレットで、アイテム番号を入力して、再度テーブルに追加します。最近リリースされたリビジョンが選択されます。
 - ステップ a および b を繰り返して、必要な数のアイテム・リビジョンを選択します。
9. 「**次へ**」をクリックします。
10. 対象とする BOM 階層の深さ（階層数）を指定します。
11. 必要なアイテム・タイプを指定します。アイテム・タイプを削除するには、小さい「**x**」ボタンをクリックします。パレットを起動して、追加のアイテム・タイプを選択するには、 をクリックします。
12. 「**完了**」をクリックし、レポートを実行して表示します。

標準形式以外の形式を選択した場合は、選択した形式でレポートをダウンロードするよう求めるメッセージが表示されます。

| レポート・レイアウト・フィールド | 説明 |
|----------------------------|--|
| 合計数量 | アセンブリ全体の各特定アイテムの合計数量 (BOM) |
| 選択されたレイアウトで指定されたアイテム・フィールド | レイアウトにより、レポートには選択されたアイテムの「 タイトル・ブロック 」、「 ページ 2 」または「 BOM 」タブからの任意の属性を含むことができます。 レイアウトに関する詳細情報は、『Agile PLM スタート・ガイド』の「 Agile レポートを使用する 」の章を参照してください。 |

有効なBOM展開レポート

有効な BOM 展開レポートでは、BOM に記載された部品の「**リビジョン・リリース日**」およびレポート期間として選択された日付に基づいてデータが表示されます。

有効なBOM展開レポートを実行するには

- 「**製品レポート**」フォルダにある「**有効な BOM 展開レポート**」を選択します。「**有効な BOM 展開レポート**」ページが表示されます。
- ➡ 「**実行**」ボタンをクリックします。「**レイアウトと環境設定の選択**」 ウィザード手順が表示されます。

3. ドロップダウン・リストから必要なレイアウトを選択するか、 「編集」ボタンを使用して既存のレイアウトを編集するか、または  「作成」ボタンを使用して新しいレイアウトを作成します。
レイアウトに関する詳細情報は、『Agile PLM スタート・ガイド』の「Agile レポートを使用する」の章を参照してください。
4. レポートの出力形式を PDF、WORD、EXCEL、HTML または標準から選択します。
5. 「次へ」をクリックします。「レポートのアイテムを選択する」ウィザード手順が表示されます。
6. レポートに記載するアイテムを選択します。
 - テーブルの「追加」ボタンを使用します。必要なアイテム番号を入力するか、または  「検索で追加」パレット・ボタンを使用します。
 - 「詳細」→「貼付け」を使用して、他のテーブル、 「フォルダ」ナビゲーション・ドローワまたは「最近訪れたところ」リストからコピーしたアイテム行を貼り付けます。
 - 「カスタム検索」をクリックして、クエリーを定義します。検索結果テーブルから行をコピーして、それらを「レポートのアイテムを選択する」ウィザード・テーブルに貼り付けます。
7. 「次へ」をクリックします。「追加レポート・パラメータの選択」手順が表示されます。
8. 対象とする BOM 階層の深さ（階層数）を指定します。
9. 必要なアイテム・タイプを指定します。アイテム・タイプを削除するには、小さい「x」ボタンをクリックします。パレットを起動して、追加のアイテム・タイプを選択するには、 をクリックします。
10. 「BOM 構造の保持」または「アイテム番号で分類」のいずれかの並べ替えタイプを選択します。「次へ」をクリックします。
11. 「日付範囲の選択」手順で、開始日と終了日を選択します。
レポートには、開始日から終了日までの間にリリースされたすべての BOM コンポーネントが表示されます。
12. 「完了」をクリックし、レポートを実行して表示します。

標準形式以外の形式を選択した場合は、選択した形式でレポートをダウンロードするよう求めるメッセージが表示されます。

| デフォルトのフィールド | 説明 |
|----------------------------|--|
| レベル | BOM レベル、たとえば 0、1、2、3。 |
| 選択されたレイアウトで指定されたアイテム・フィールド | レイアウトにより、レポートには選択されたアイテムの「タイトル・ロック」、「ページ 2」、「変更」または「BOM」タブからの任意の属性を含むことができます。 レイアウトに関する詳細情報は、『Agile PLM スタート・ガイド』の「Agile レポートを使用する」の章を参照してください。 |

アイテムの状況レポート

アイテム状況レポートは、一定期間中に処理されたアイテムを表示します。

アイテムの状況レポートを実行するには

1. 「製品レポート」フォルダにある「アイテムの状況レポート」を選択します。「アイテムの状況レポート」ページが表示されます。

2.  「実行」ボタンをクリックします。「レイアウトと環境設定の選択」ウィザード手順が表示されます。
3. ドロップダウン・リストから必要なレイアウトを選択するか、 「編集」ボタンを使用して既存のレイアウトを編集するか、または  「作成」ボタンを使用して新しいレイアウトを作成します。
レイアウトに関する詳細情報は、『Agile PLM スタート・ガイド』の「Agile レポートを使用する」の章を参照してください。
4. レポートの出力形式を PDF、WORD、EXCEL、HTML または標準から選択します。
5. 「次へ」をクリックします。「期間の選択」手順が表示されます。
6. 開始日と終了日を選択して、日付の範囲を指定します。
7. 「次へ」をクリックします。「追加レポート・パラメータの選択」手順が表示されます。
8. 「アイテム・ライフサイクル・フェーズ」フィールドで、組み込むライフサイクルを選択します。パレットを起動して、ライフサイクルを選択するには、 をクリックします。ライフサイクルを削除するには、小さい「x」ボタンをクリックします。
9. 「拠点」フィールドで、拠点を指定できます。パレットを起動して、必要な拠点を選択するには、 をクリックします。拠点を削除するには、小さい「x」ボタンをクリックします。
10. 「完了」をクリックし、レポートを実行して表示します。

標準形式以外の形式を選択した場合は、選択した形式でレポートをダウンロードするよう求めるメッセージが表示されます。

| レポート・レイアウト・フィールド | 説明 |
|----------------------------|--|
| 拠点 | <p>リストされたアイテムに関する拠点名です。</p> <p>リストされた拠点は、レポート・ウィザードで選択された拠点により決定されます。</p> |
| 選択されたレイアウトで指定されたアイテム・フィールド | <p>レイアウトにより、レポートにはリストされたアイテムの「タイトル・ロック」または「ページ2」タブからの任意の属性を含むことができます。</p> <p>レイアウトに関する詳細情報は、『Agile PLM スタート・ガイド』の「Agile レポートを使用する」の章を参照してください。</p> |

アイテム属性比較レポート

アイテム属性比較レポートを使用すると、複数のアイテムまたはアイテム・リビジョンのアイテム属性値を比較できます。

レポートされる属性には、変更制御下の属性およびリビジョン管理された属性が含まれます。

アイテム属性比較レポートを実行するには

1. 「製品レポート」フォルダにある「アイテム属性比較レポート」を選択します。「アイテム属性比較レポート」ページが表示されます。
2.  「実行」ボタンをクリックします。「レイアウトと環境設定の選択」ウィザード手順が表示されます。
3. ドロップダウン・リストから必要なレイアウトを選択するか、 「編集」ボタンを使用して既存のレイア

ウトを編集するか、または  「作成」ボタンを使用して新しいレイアウトを作成します。

レイアウトに関する詳細情報は、『Agile PLM スタート・ガイド』の「Agile レポートを使用する」の章を参照してください。

4. レポートの出力形式を PDF、WORD、EXCEL または HTML から選択します。
5. 「次へ」をクリックします。「レポートのアイテムを選択する」手順が表示されます。
6. レポートに記載するアイテムを選択します。
 - テーブルの「追加」ボタンを使用します。必要なアイテム番号を入力するか、または  「検索で追加」パレット・ボタンを使用します。
 - 「詳細」→「貼付け」を使用して、他のテーブル、 「フォルダ」ナビゲーション・ドローワまたは「最近訪れたところ」リストからコピーしたアイテム行を貼り付けます。
 - 「カスタム検索」をクリックして、クエリーを定義します。検索結果テーブルから行をコピーして、それらを「レポートのアイテムを選択する」ウィザード・テーブルに貼り付けます。
7. デフォルトでは、最近リリースされたアイテム・リビジョンがレポート・ウィザードの「レポートのアイテムを選択する」手順で選択されています。異なるリビジョンを選択するには、テーブルの「リビジョン」カラムを編集します。
8. アイテムの複数のリビジョンを選択するには、次の手順で行います。
 - a. アイテムの「リビジョン」フィールドを編集して、最近リリースされたリビジョン以外のリビジョンを選択します。キーボードの[Enter]キーを押して、編集内容を保存します。
 - b. 「追加」ボタンをクリックします。追加パレットで、アイテム番号を入力して、再度テーブルに追加します。最近リリースされたリビジョンが選択されます。
9. 「完了」をクリックし、レポートを実行して表示します。

選択した形式でレポートをダウンロードするよう求めるメッセージが表示されます。

| レポート・レイアウト・フィールド | 説明 |
|----------------------------|---|
| アイテム | リストされたアイテムは、レポート・ウィザードで選択されたアイテムにより決定されます。 |
| 選択されたレイアウトで指定されたアイテム・フィールド | レイアウトにより、レポートにはリストされたアイテムの「タイトル・ロック」、「ページ2」または「ページ3」タブからの属性を含むことができます。 レイアウトに関する詳細情報は、『Agile PLM スタート・ガイド』の「Agile レポートを使用する」の章を参照してください。 |

製造元BOMレポート

製造元 BOM レポートは、BOM 展開レポートを実行し、部品構成表 (BOM) の各アイテムの製造元を表示します。製造元データは、製造元のライフサイクル・ステータスまたは製造元部品のライフサイクル・ステータスでフィルタできます。

製造元BOMレポートを実行するには

1. 「製品レポート」フォルダにある「製造元 BOM レポート」を選択します。「製造元 BOM レポート」ページが表示されます。

2.  「実行」ボタンをクリックします。「レイアウトと環境設定の選択」ウィザード手順が表示されます。
3. ドロップダウン・リストから必要なレイアウトを選択するか、 「編集」ボタンを使用して既存のレイアウトを編集するか、または  「作成」ボタンを使用して新しいレイアウトを作成します。
レイアウトに関する詳細情報は、『Agile PLM スタート・ガイド』の「Agile レポートを使用する」の章を参照してください。
4. レポートの出力形式を PDF、WORD、EXCEL、HTML または標準から選択します。
5. 「次へ」をクリックします。「レポートのアイテムを選択する」ウィザード手順が表示されます。
6. レポートに記載するアイテムを選択します。
 - テーブルの「追加」ボタンを使用します。必要なアイテム番号を入力するか、または  「検索で追加」パレット・ボタンを使用します。
 - 「詳細」→「貼付け」を使用して、他のテーブル、 「フォルダ」ナビゲーション・ドローフまたは「最近訪れたところ」リストからコピーしたアイテム行を貼り付けます。
 - 「カスタム検索」をクリックして、クエリーを定義します。検索結果テーブルから行をコピーして、それらを「レポートのアイテムを選択する」ウィザード・テーブルに貼り付けます。
7. 「次へ」をクリックします。「追加レポート・パラメータの選択」手順が表示されます。
8. 対象とする BOM 階層の深さ（階層数）を指定します。
9. 必要なアイテム・タイプを指定します。アイテム・タイプを削除するには、小さい「x」ボタンをクリックします。パレットを起動して、追加のアイテム・タイプを選択するには、 をクリックします。
10. レポート・ウィザードで「次」をクリックします。「AML の情報を選択」手順が表示されます。必須フィールドを入力します。
 - a. 1つ以上の製造元部品の「推奨ステータス」を選択します。テキスト・フィールドに入力するか、または  をクリックしてパレットを起動します。
 - b. 1つ以上の「製造元部品ライフサイクル・フェーズ」を選択します。テキスト・フィールドに入力するか、または  をクリックしてパレットを起動します。
11. 「完了」をクリックし、レポートを実行して表示します。

標準形式以外の形式を選択した場合は、選択した形式でレポートをダウンロードするよう求めるメッセージが表示されます。

| レポート・レイアウト・フィールド | 説明 |
|---|---|
| アイテム属性 | |
| レベル | BOM レベル、たとえば 0、1、2、3。 |
| レポートにリストされた各アイテムについて、選択されたレイアウトで指定されたアイテム・フィールド | レイアウトにより、レポートにはリストされたアイテムの「タイトル・ブロック」、「ページ 2」または「BOM」タブからの任意の属性を含むことができます。 レイアウトに関する詳細情報は、『Agile PLM スタート・ガイド』の「Agile レポートを使用する」の章を参照してください。 |
| 製造元部品の属性 | |

| レポート・レイアウト・フィールド | 説明 |
|---|--|
| リストされた各アイテムにおいて、製造元部品情報は選択されたレイアウトが示すとおりです。 | <p>レイアウトにより、各アイテムの製造元部品情報には、リストされたアイテムの「製造元」タブ、製造元部品の「一般情報」タブの属性、製造元の「一般情報」タブの属性などを含むことができます。</p> <p>レイアウトに関する詳細情報は、『Agile PLM スタート・ガイド』の「Agile レポートを使用する」の章を参照してください。</p> |

使用箇所レポート

使用箇所レポートには、コンポーネントまたはサブアセンブリの使用箇所が、指定した階層まで表示されます。このレポートには、アセンブリの最上位階層、すべての階層、または中間の任意の階層を表示できます。

注意 レポートに記載されるアイテムは、指定したコンポーネントまたはサブアセンブリが、最新のリリース済リビジョンの BOM に含まれているアイテムのみです。

使用箇所レポートを実行するには

1. 「製品レポート」フォルダにある「使用箇所レポート」を選択します。「使用箇所レポート」ページが表示されます。

2.  「実行」ボタンをクリックします。「レイアウトと環境設定の選択」ウィザード手順が表示されます。

3. ドロップダウン・リストから必要なレイアウトを選択するか、 「編集」ボタンを使用して既存のレイアウトを編集するか、または  「作成」ボタンを使用して新しいレイアウトを作成します。

レイアウトに関する詳細情報は、『Agile PLM スタート・ガイド』の「Agile レポートを使用する」の章を参照してください。

4. レポートの出力形式を PDF、WORD、EXCEL、HTML または標準から選択します。

5. 「次へ」をクリックします。「レポートのアイテムを選択する」ウィザード手順が表示されます。

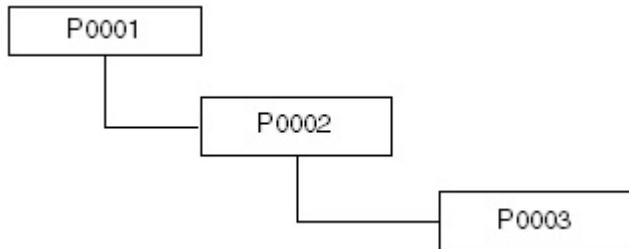
6. レポートに記載するアイテムを選択します。

- テーブルの「追加」ボタンを使用します。必要なアイテム番号を入力するか、または  「検索で追加」パレット・ボタンを使用します。
- 「詳細」→「貼付け」を使用して、他のテーブル、 「フォルダ」ナビゲーション・ドローフまたは「最近訪れたところ」リストからコピーしたアイテム行を貼り付けます。
- 「カスタム検索」をクリックして、クエリーを定義します。検索結果テーブルから行をコピーして、それらを「レポートのアイテムを選択する」ウィザード・テーブルに貼り付けます。

7. 「次へ」をクリックします。「追加のパラメータを選択」手順が表示されます。

8. 対象とする BOM 階層の深さ（階層数）を指定します。デフォルトの「すべてのレベル」設定を変更するには、「トップ・レベル・アセンブリのみ」チェック・ボックスの選択を解除します。

「トップ・レベル・アセンブリのみ」チェック・ボックスは、指定されたアイテムを含むアイテムが複数ある場合に、どのアイテムをレポートに記載するかを決定します。下図のアイテム P0003 に関する使用箇所レポートでは、チェックボックスをオンにすると P0001 のみが記載され、オフにすると P0001 と P0002 が記載されます。



9. 必要なアイテム・タイプを指定します。アイテム・タイプを削除するには、小さい「**x**」ボタンをクリックします。パレットを起動して、追加のアイテム・タイプを選択するには、**≡**をクリックします。
10. 「完了」をクリックし、レポートを実行して表示します。

標準形式以外の形式を選択した場合は、選択した形式でレポートをダウンロードするよう求めるメッセージが表示されます。

| デフォルトのフィールド | 説明 |
|----------------------------|---|
| レベル | BOM レベル、たとえば 0、1、2、3。 |
| 選択されたレイアウトで指定されたアイテム・フィールド | レイアウトにより、レポートにはリストされたアイテムの「タイトル・ブロック」、「ページ 2」または「BOM」タブからの任意の属性を含むことができます。 レイアウトに関する詳細情報は、『Agile PLM スタート・ガイド』の「Agile レポートを使用する」の章を参照してください。 |

BOM比較レポート

BOM (部品構成表) 比較レポートは、2 つの部品構成表 (BOM) の比較結果を表示します。このレポートでは、選択されたあるアイテムの複数レベルの BOM と、レポート内の他のアイテムの BOM が比較され、双方に共通しないコンポーネントが表示されます。

比較の結果、違いのあったアイテムのみがレポートにリスト表示されます。共通するコンポーネントはリストに表示されません。見出し番号と参照指示情報の違いを示すため、1 つのアイテムが複数回表示されることもあります。

BOM はアイテム番号ごと、または見出し番号ごとに比較できます。比較結果は、アイテム番号順または見出し番号順に並べられます。

BOM比較レポートを実行するには

1. 「製品レポート」フォルダにある「BOM 比較レポート」を選択します。「BOM 比較レポート」ページが表示されます。
 2. 「実行」ボタンをクリックします。「レイアウトと環境設定の選択」ウィザード手順が表示されます。
 3. ドロップダウン・リストから必要なレイアウトを選択するか、 「編集」ボタンを使用して既存のレイアウトを編集するか、または 「作成」ボタンを使用して新しいレイアウトを作成します。
- レイアウトに関する詳細情報は、『Agile PLM スタート・ガイド』の「Agile レポートを使用する」の章を参照してください。

4. レポートの出力形式を PDF、WORD、EXCEL または HTML から選択します。
5. 「次へ」をクリックします。「比較パラメータの設定」手順が表示されます。
6. 対象とする BOM 階層の深さ（階層数）を指定します。
7. 使用する「比較構造」を選択します。デフォルトで、常に BOM 構造が選択されています。該当するチェック・ボックスを選択して、AML および添付ファイル情報を比較することもできます。
8. 必要なアイテム・タイプを指定します。アイテム・タイプを削除するには、小さい「x」ボタンをクリックします。パレットを起動して、追加のアイテム・タイプを選択するには、をクリックします。
 - AML 比較構造を選択した場合は、必要な AML 属性を指定します。アイテム・タイプを削除するには、小さい「x」ボタンをクリックします。パレットを起動して、追加の AML 属性を選択するには、をクリックします。
 - 添付ファイル比較構造を選択した場合は、必要な添付ファイル属性を指定します。アイテム・タイプを削除するには、小さい「x」ボタンをクリックします。パレットを起動して、追加の添付ファイル属性を選択するには、をクリックします。
9. レポートに記載する 2 つのアイテムを選択します。
 - テーブルの「追加」ボタンを使用します。必要なアイテム番号を入力するか、または 「検索で追加」パレット・ボタンを使用します。
 - 「詳細」→「貼付け」を使用して、他のテーブル、「フォルダ」ナビゲーション・ドローワまたは「最近訪れたところ」リストからコピーしたアイテム行を貼り付けます。
 - 「カスタム検索」をクリックして、クエリーを定義します。検索結果テーブルから行をコピーして、それらを「レポートのアイテムを選択する」ウィザード・テーブルに貼り付けます。
10. デフォルトでは、最近リリースされたアイテム・リビジョンがレポート・ウィザードの「レポートのアイテムを選択する」手順で選択されています。異なるリビジョンを選択するには、テーブルの「リビジョン」カラムを編集します。
11. 特定の日時の BOM のスナップショットを比較するには、「現在日」フィールドをダブルクリックして、必要な日時を選択します。
12. アイテムの複数のリビジョンを選択するには、次の手順で行います。
 - a. アイテムの「リビジョン」フィールドを編集して、最近リリースされたリビジョン以外のリビジョンを選択します。キーボードの[Enter]キーを押して、編集内容を保存します。
 - b. 「追加」ボタンをクリックします。追加パレットで、アイテム番号を入力して、再度テーブルに追加します。最近リリースされたリビジョンが選択されます。
13. 「完了」をクリックし、レポートを実行して表示します。

選択した形式でレポートをダウンロードするよう求めるメッセージが表示されます。

| レポート・レイアウト・フィールド | 説明 |
|----------------------------|--|
| 比較データ | レポートには、「レポートのアイテムを選択」ウィザード・ページで選択された各アイテム・リビジョンに対し、1 つの欄が含まれます。 |
| 選択されたレイアウトで指定されたアイテム・フィールド | レイアウトにより、レポートには選択されたアイテムの「タイトル・ロック」、「ページ 2」または「BOM」タブからの任意の属性を含むことができます。 |

| レポート・レイアウト・フィールド | 説明 |
|------------------|---|
| | レイアウトに関する詳細情報は、『Agile PLM スタート・ガイド』の「Agile レポートを使用する」の章を参照してください。 |

単一レベルのみのレガシーBOM比較レポート

BOM（部品構成表）比較レポートは、2つまたはそれ以上の部品構成表（BOM）の比較結果を表示します。このレポートでは、選択されたアイテムの第1レベルのBOMと、レポート内の他のアイテムのBOMが比較され、双方に共通しないコンポーネントが表示されます。

比較の結果、違いのあったアイテムのみがレポートにリスト表示されます。共通するコンポーネントはリストに表示されません。見出し番号と参照指示情報の違いを示すため、1つのアイテムが複数回表示されることもあります。

BOMはアイテム番号ごと、または見出し番号ごとに比較できます。比較結果は、アイテム番号順または見出し番号順に並べられます。

BOM比較レポートを実行するには

1. 「製品レポート」フォルダにある「BOM 比較レポート」を選択します。「BOM 比較レポート」ページが表示されます。
 2.  「実行」ボタンをクリックします。「レイアウトと環境設定の選択」ウィザード手順が表示されます。
 3. ドロップダウン・リストから必要なレイアウトを選択するか、 「編集」ボタンを使用して既存のレイアウトを編集するか、または  「作成」ボタンを使用して新しいレイアウトを作成します。
- レイアウトに関する詳細情報は、『Agile PLM スタート・ガイド』の「Agile レポートを使用する」の章を参照してください。
4. レポートの出力形式を PDF、WORD、EXCEL、HTML または標準から選択します。
 5. 「次へ」をクリックします。「レポートのアイテムを選択する」手順が表示されます。
 6. レポートに記載する2つのアイテムを選択します。
 - テーブルの「追加」ボタンを使用します。必要なアイテム番号を入力するか、または  「検索で追加」パレット・ボタンを使用します。
 - 「詳細」→「貼付け」を使用して、他のテーブル、 「フォルダ」ナビゲーション・ドローワまたは「最近訪れたところ」リストからコピーしたアイテム行を貼り付けます。
 - 「カスタム検索」をクリックして、クエリーを定義します。検索結果テーブルから行をコピーして、それらを「レポートのアイテムを選択する」ウィザード・テーブルに貼り付けます。
 7. デフォルトでは、最近リリースされたアイテム・リビジョンがレポート・ウィザードの「レポートのアイテムを選択する」手順で選択されています。異なるリビジョンを選択するには、テーブルの「リビジョン」カラムを編集します。
 8. アイテムの複数のリビジョンを選択するには、次の手順で行います。
 - a. アイテムの「リビジョン」フィールドを編集して、最近リリースされたリビジョン以外のリビジョンを選択します。キーボードの[Enter]キーを押して、編集内容を保存します。

- b. 「追加」ボタンをクリックします。追加パレットで、アイテム番号を入力して、再度テーブルに追加します。最近リリースされたリビジョンが選択されます。
9. 「次へ」をクリックします。「タイプの選択」手順が表示されます。
10. レポートに記載するアイテム・タイプを指定します。アイテム・タイプを削除するには、小さい「x」ボタンをクリックします。パレットを起動して、追加のアイテム・タイプを選択するには、をクリックします。
11. 「次へ」をクリックします。「比較する属性の選択」手順が表示されます。
12. 使用する「比較属性」を選択します。
 - a. 「次で比較」フィールドで、比較対象のアイテムの照合に使用する属性を「アイテム番号」または「見出し番号」のうちから選択します。
 - b. 追加の比較属性を使用する場合は、「第 2 条件」フィールドで選択します。
 - c. 「比較に使用するその他の属性を選択」セクションにおいて、「表示」フィールドでアイテム・タイプを選択し、矢印ボタンを使用して「選択された値」リストに値を設定または削除します。
13. 「完了」をクリックし、レポートを実行して表示します。

標準形式以外の形式を選択した場合は、選択した形式でレポートをダウンロードするよう求めるメッセージが表示されます。

| レポート・レイアウト・フィールド | 説明 |
|----------------------------|---|
| 比較データ | レポートには、「レポートのアイテムを選択」ウィザード・ページで選択された各アイテム・リビジョンに対し、1 つの欄が含まれます。 |
| 選択されたレイアウトで指定されたアイテム・フィールド | レイアウトにより、レポートには選択されたアイテムの「タイトル・ロック」、「ページ 2」または「BOM」タブからの任意の属性を含むことができます。 レイアウトに関する詳細情報は、『Agile PLM スタート・ガイド』の「Agile レポートを使用する」の章を参照してください。 |

アイテム属性履歴レポート

アイテム属性履歴レポートを使用すると、ECO (変更指示) または MCO (製造元変更) によって、時間とともにアイテム属性値がどのように変化したかを表示できます。

レポートされる属性には、変更制御下の属性およびリビジョン管理された属性が含まれます。レポートに含まれる属性は、レポート・レイアウトで定義されます。必要な属性を含むレポート・レイアウトを作成できます。

アイテム属性履歴レポートを実行するには

1. 「製品レポート」フォルダにある「アイテム属性履歴レポート」を選択します。「アイテム属性履歴レポート」ページが表示されます。
2.  「実行」ボタンをクリックします。「レイアウトと環境設定の選択」ウィザード手順が表示されます。
3. ドロップダウン・リストから必要なレイアウトを選択するか、 「編集」ボタンを使用して既存のレイアウトを編集するか、または  「作成」ボタンを使用して新しいレイアウトを作成します。

レイアウトに関する詳細情報は、『Agile PLM スタート・ガイド』の「Agile レポートを使用する」の章を参照してください。

4. レポートの出力形式を PDF、WORD、EXCEL または HTML から選択します。
5. 「次へ」をクリックします。「アイテムの選択」ウィザード手順が表示されます。
6. レポートに記載するアイテムを選択します。テキスト・フィールドに入力するか、または  をクリックして簡易検索を実行します。
7. 「変更タイプ」フィールドで、ドロップダウン・リストを使用してレポートに含める変更を「変更指示」、「製造元変更」または「両方」から選択します。
8. 「完了」をクリックし、レポートを実行して表示します。

選択した形式でレポートをダウンロードするよう求めるメッセージが表示されます。

| レポート・レイアウト・フィールド | 説明 |
|--|---|
| レポートにリストされたアイテムについて、選択されたレイアウトで指定されたアイテム・フィールド | <p>レイアウトによっては、リストされたアイテムの「タイトル・ブロック」または「ページ 2」タブからの任意のリビジョン管理された属性および変更制御下の属性をレポートに含めることができます。</p> <p>レイアウトに関する詳細情報は、『Agile PLM スタート・ガイド』の「Agile レポートを使用する」の章を参照してください。</p> |
| レポート・ウィザードで選択されたアイテムの変更 (ECO、MCO またはその両方) | <p>各変更リビジョンの各フィールドに対してアイテム・フィールドの内容が表示されます。</p> <p>変更されたフィールドはハイライトされます。</p> |

アイテム製造元レポート

アイテム製造元レポートは、検索条件と一致するすべてのアイテムをリストで表示し、各アイテムの製造元を示します。

アイテム製造元レポートを実行するには

1. 「製品レポート」フォルダにある「アイテム製造元レポート」を選択します。「アイテム製造元レポート」ページが表示されます。
2.  「実行」ボタンをクリックします。「レイアウトと環境設定の選択」ウィザード手順が表示されます。
3. ドロップダウン・リストから必要なレイアウトを選択するか、 「編集」ボタンを使用して既存のレイアウトを編集するか、または  「作成」ボタンを使用して新しいレイアウトを作成します。
4. レポートの出力形式を PDF、WORD、EXCEL、HTML または標準から選択します。
5. 「次へ」をクリックします。「検索の選択または作成」ウィザード手順が表示されます。
6. 保存された検索を選択する手順は次のとおりです。
 - a. 「保存された検索」ラジオ・ボタンを選択します。

- b. 「 「検索で追加」」ボタンをクリックして、「保存された検索」パレットを開きます。
 - c. 使用する保存された検索に移動します。
 - d. ダブルクリックするか、またはキーボードの[Enter]キーを押して、検索を選択します。
 - e. キーボードの[Esc]キーを押して、パレットを閉じます。
7. 詳細検索を定義する手順は次のとおりです。
- a. 「**詳細検索**」ラジオ・ボタンを選択します。
 - b. 「**クエリーの定義**」ボタンをクリックして、「レポート検索」定義パレットを開きます。
 - c. 使用するクエリーを定義して、「**完了**」をクリックします。詳細検索の詳細は、『Agile PLM スタート・ガイド』を参照してください。
8. レポート・ウィザードで「**次**」をクリックします。「AML の情報を選択」手順が表示されます。必須フィールドを入力します。
- a. 1つ以上の製造元部品の「**推奨ステータス**」を選択します。テキスト・フィールドに入力するか、または  をクリックしてパレットを起動します。
 - b. 1つ以上の「**製造元部品ライフサイクル・フェーズ**」を選択します。テキスト・フィールドに入力するか、または  をクリックしてパレットを起動します。
 - c. 「**拠点**」の選択はオプションです。1つ以上の拠点を選択します。テキスト・フィールドに入力するか、または  をクリックして簡易検索を実行します。
9. 「**完了**」をクリックし、レポートを実行して表示します。

標準形式以外の形式を選択した場合は、選択した形式でレポートをダウンロードするよう求めるメッセージが表示されます。

| レポート・レイアウト・フィールド | 説明 |
|---|---|
| アイテム属性 | |
| レポートにリストされた各アイテムについて、選択されたレイアウトで指定されたアイテム・フィールド | <p>レイアウトにより、レポートにはリストされたアイテムの「タイトル・ブロック」または「ページ 2」タブからの任意の属性を含むことができます。</p> <p>レイアウトに関する詳細情報は、『Agile PLM スタート・ガイド』の「Agile レポートを使用する」の章を参照してください。</p> |
| 製造元部品の属性 | |
| リストされた各アイテムにおいて、製造元部品情報は選択されたレイアウトが示すとおりです。 | <p>レイアウトにより、各アイテムの製造元部品情報には、リストされたアイテムの「製造元」タブ、製造元部品の「一般情報」タブの属性、製造元の「一般情報」タブの属性などを含むことができます。</p> <p>レイアウトに関する詳細情報は、『Agile PLM スタート・ガイド』の「Agile レポートを使用する」の章を参照してください。</p> |

プロセス・レポート

「プロセス・レポート」フォルダには次のレポートがあります。

- [変更状況レポート](#) (186ページ)
- [変更バックログ・レポート](#) (187ページ)
- [変更サイクル時間レポート](#) (189ページ)
- [ユーザー・サインオフ期間レポート](#) (191ページ)
- [変更パッケージ・レポート](#) (192ページ)
- [IP転送レポート](#) (193ページ)
- [変更メトリックス・レポート](#) (194ページ)

特定の製品レポートの詳細は、169ページの「[Agileプロセス・レポート](#)」を参照してください。

変更状況レポート

変更状況レポートは、一定期間中に処理された変更を表示します。レポートに記載するワークフローを選択します（たとえば、「デフォルトの変更指示」または「すべての変更ワークフロー」）。また、レポートに記載するステータス移行を選択します。たとえば、「デフォルトの変更指示」ワークフローと「リリース済」ステータス・タイプを選択した場合、レポートには「デフォルトの変更指示」ワークフローを使用したすべての変更指示、および特定期間中に「リリース済」ステータス・タイプに移行された変更指示がリストされます。

変更状況レポートを実行するには

1. 「プロセス・レポート」フォルダにある「変更状況レポート」を選択します。「変更状況レポート」ページが表示されます。
2.  「実行」ボタンをクリックします。「レイアウトと環境設定の選択」ウィザード手順が表示されます。
3. ドロップダウン・リストから必要なレイアウトを選択するか、 「編集」ボタンを使用して既存のレイアウトを編集するか、または  「作成」ボタンを使用して新しいレイアウトを作成します。
レイアウトに関する詳細情報は、『Agile PLM スタート・ガイド』の「Agile レポートを使用する」の章を参照してください。
4. レポートの出力形式を PDF、WORD、EXCEL、HTML または標準から選択します。
5. 「次へ」をクリックします。「期間の選択」ウィザード手順が表示されます。
6. 対象とする期間の開始日と終了日を指定します。「次へ」をクリックします。
7. ドロップダウン・リストからワークフロー・タイプを選択します。
8. 1つ以上の「変更後のステータス」オプションを選択します。テキスト・フィールドに入力するか、または  をクリックしてパレットを起動します。

注意 「すべての選択ワークフロー」を選択した場合、ステータス・タイプは「ステータス変更」選択のダイアログ・ボックスに表示されます。このため、ワークフローに適用するステータス・タイプを選択できます（たとえば、「リリース済」ステータス・タイプ）。ただし、特定のワークフロー（たとえば、「すべての変更指示」）を選択した場合、このワークフローに適用される特定のステータス名は、「ステータス変更」選択ダイアログ・ボックスに表示されます。

9. 「完了」をクリックして、レポートを表示します。

標準形式以外の形式を選択した場合は、選択した形式でレポートをダウンロードするよう求めるメッセージが表示されます。

| レポート・レイアウト・フィールド | 説明 |
|--|--|
| メイン・ヘッダの属性 | |
| ステータス | ステータスは、ウィザードの「ステータス変更」での選択に基づいています。 |
| ステータス日 | 選択されたステータスに変更が入力された日。 |
| レポートにリストされた各変更について、選択されたレイアウトで指定された変更フィールド | レイアウトにより、レポートにはリストされた変更の「カバー・ページ」または「ページ2」タブからの任意の属性を含むことができます。 レイアウトに関する詳細情報は、『Agile PLM スタート・ガイド』の「Agile レポートを使用する」の章を参照してください。 |
| 「対象アイテム」の属性 | |
| 各変更オブジェクトのステータス移行の行で、選択されたレイアウトで指定されたとおりの、変更の「対象アイテム」タブからのアイテム情報 | レイアウトにより、レポートにはリストされた変更の「対象アイテム」タブからの任意の属性を含むことができます。 レイアウトに関する詳細情報は、『Agile PLM スタート・ガイド』の「Agile レポートを使用する」の章を参照してください。 |

変更バックログ・レポート

変更バックログ・レポートには、一定期間中に、指定ステータスから別の指定ステータスに移行しなかった変更の記録が表示されます。

注意 Oracle Business Intelligence Publisher (BI Publisher) を使用するオプションは、このレポートでは使用できません。

変更バックログ・レポートを実行するには

- 「プロセス・レポート」フォルダにある「変更バックログ」を選択します。「変更バックログ・レポート」ページが表示されます。
- ➡ 「実行」ボタンをクリックします。「レイアウトと環境設定の選択」ウィザード手順が表示されます。
- ドロップダウン・リストから必要なレイアウトを選択するか、 「編集」ボタンを使用して既存のレイアウトを編集するか、または  「作成」ボタンを使用して新しいレイアウトを作成します。

注意 レイアウトに関する詳細情報は、『Agile PLM スタート・ガイド』の「Agile レポートを使用する」の章を参照してください。価格変更に対してこのレポートを実行するには、価格変更に適用できるレイアウトを選択します。(Agile が提供するデフォルトのレイアウトは、「変更用デフォルト・レイアウト」と「PCO 用デフォルト・レイアウト」です。) このレポートに対して新しいレイアウトを作成する場合、「変更」または「価格変更」のいずれかの「レイアウト・タイプ」を選択できます。新規レイアウトに対して選択する名前は、レイアウトが変更に適用されるか、価格変更に適用されるかを示すものにしてください。

- 「次へ」をクリックします。「検索の選択または作成」ウィザード手順が表示されます。
- レポートにすべての変更を含める場合は、「すべての変更」ラジオ・ボタンを選択します。

6. 保存された検索を選択する手順は次のとおりです。
 - a. 「保存された検索」ラジオ・ボタンを選択します。
 - b.  「検索で追加」ボタンをクリックして、「保存された検索」パレットを開きます。
 - c. 使用する保存された検索に移動します。
 - d. ダブルクリックするか、またはキーボードの[Enter]キーを押して、検索を選択します。
 - e. キーボードの[Esc]キーを押して、パレットを閉じます。
7. 詳細検索を定義する手順は次のとおりです。
 - a. 「詳細検索」ラジオ・ボタンを選択します。
 - b. 「クエリーの定義」ボタンをクリックして、「レポート検索」定義パレットを開きます。
 - c. 使用するクエリーを定義して、「完了」をクリックします。詳細検索の詳細は、『Agile PLM スタート・ガイド』を参照してください。
8. レポート・ウィザードで「次」をクリックします。「レポートの定義」ウィザード手順が表示されます。
9. レポートに関する他の設定を指定します。
 - 対象とする期間
 - レポートで使用する時間単位
 - ワークフロー
 - 開始ステータス（指定期間内にこのステータスにあったか、このステータスに移行した変更が含まれます）と、終了ステータス（指定期間内にこのステータスに移行していなかった変更が含まれます）
たとえば、開始ステータス＝「保留中」、終了ステータス＝「リリース済」と選択した場合、レポートは特定された期間内に「保留中」ステータスにある、または「保留中」ステータスに移行した変更をカウントしますが、これらの変更は「リリース済」ステータスには移行されません。これらの変更は、「提出」タイプまたは「レビュー」タイプのステータスの可能性がありますが、ワークフローを通して「リリース済」ステータスへ移行されていません。
 - データをグループ化してトレンドを評価する方法

変更または価格変更を表示して空の列を除外するには、チェックボックスをオンにします。
10. 「完了」をクリックして、レポートを表示します。

標準形式以外の形式を選択した場合は、選択した形式でレポートをダウンロードするよう求めるメッセージが表示されます。

| レポート・レイアウト・フィールド | 説明 |
|--|--|
| メイン・ヘッダの属性 | |
| 提出日からの日数 | 「提出」タイプ・ステータスに変更が入力されてからの日数 |
| 現在のステータスである日数 | 変更が現在のステータスになってからの日数 |
| 中断日 | 「中断」タイプ・ステータスに変更が入力された日。 |
| 提出日 | 「提出」タイプ・ステータスに変更が入力された日。 |
| レポートにリストされた各変更について、選択されたレイアウトで指定された変更フィールド | レイアウトにより、レポートにはリストされた変更の「カバー・ページ」または「ページ2」タブからの任意の属性を含むことができます。 レイアウトに関する詳細情報は、『Agile PLM スタート・ガイド』の「Agile レポートを使用する」の章を参照してください。 |

| レポート・レイアウト・フィールド | 説明 |
|---|--|
| 「対象アイテム」の属性 各変更オブジェクトのステータス 移行の行で、選択されたレイアウトで指定されたとおりの、変更の 「対象アイテム」タブからのアイテム情報 | レイアウトにより、レポートにはリストされた変更の「対象アイテム」タブからの任意の属性を含むことができます。 レイアウトに関する詳細情報は、『Agile PLM スタート・ガイド』の「Agile レポートを使用する」の章を参照してください。 |

変更サイクル時間レポート

変更サイクル時間レポートでは、指定した変更が、指定した期間内に、あるステータスから別のステータスに移行する際に要した時間が計算されます。たとえば、この1年間に変更が「提出済」から「リリース済」に移行する際に要した平均時間（日数）が、週ごとに製品ライン別にまとめて表示されます。

注意 Oracle Business Intelligence Publisher (BI Publisher) を使用するオプションは、このレポートでは使用できません。

変更サイクル時間レポートを実行するには

1. 「プロセス・レポート」フォルダにある「変更サイクル時間レポート」を選択します。「変更サイクル時間レポート」ページが表示されます。
2.  「実行」ボタンをクリックします。「レイアウトと環境設定の選択」ウィザード手順が表示されます。
3. ドロップダウン・リストから必要なレイアウトを選択するか、 「編集」ボタンを使用して既存のレイアウトを編集するか、または  「作成」ボタンを使用して新しいレイアウトを作成します。

注意 レイアウトに関する詳細情報は、『Agile PLM スタート・ガイド』の「Agile レポートを使用する」の章を参照してください。価格変更に対してこのレポートを実行するには、価格変更に適用できるレイアウトを選択します。(Agile が提供するデフォルトのレイアウトは、「変更用デフォルト・レイアウト」と「PCO 用デフォルト・レイアウト」です。) このレポートに対して新しいレイアウトを作成する場合、「変更」または「価格変更」のいずれかの「レイアウト・タイプ」を選択できます。新規レイアウトに対して選択する名前は、レイアウトが変更に適用されるか、価格変更に適用されるかを示すものにしてください。

4. 「次へ」をクリックします。「検索の選択または作成」ウィザード手順が表示されます。
5. レポートにすべての変更を含める場合は、「すべての変更」ラジオ・ボタンを選択します。
6. 保存された検索を選択する手順は次のとおりです。
 - 「保存された検索」ラジオ・ボタンを選択します。
 -  「検索で追加」ボタンをクリックして、「保存された検索」パレットを開きます。
 - 使用する保存された検索に移動します。
 - ダブルクリックするか、またはキーボードの[Enter]キーを押して、検索を選択します。
 - キーボードの[Esc]キーを押して、パレットを閉じます。

7. 詳細検索を定義する手順は次のとおりです。
 - a. 「詳細検索」ラジオ・ボタンを選択します。
 - b. 「クエリーの定義」ボタンをクリックして、「レポート検索」定義パレットを開きます。
 - c. 使用するクエリーを定義して、「完了」をクリックします。詳細検索の詳細は、『Agile PLM スタート・ガイド』を参照してください。
8. レポート・ウィザードで「次」をクリックします。「レポートの定義」ウィザード手順が表示されます。
9. レポートに関する他の設定を指定します。
 - 対象とする期間
 - レポートで使用する時間単位
 - ワークフロー
 - 開始ステータス（指定期間に内にこのステータスにあったか、このステータスに移行した変更が含まれます）と、終了ステータス（指定期間に内にこのステータスに移行していなかった変更が含まれます）
たとえば、開始ステータス＝「保留中」、終了ステータス＝「リリース済」と選択した場合、レポートは特定された期間内に「保留中」ステータスにある、または「保留中」ステータスに移行した変更をカウントしますが、これらの変更は「リリース済」ステータスには移行されません。これらの変更は、「提出」タイプまたは「レビュー」タイプのステータスの可能性がありますが、ワークフローを通して「リリース済」ステータスへ移行されていません。
 - データをグループ化してトレンドを評価する方法

変更または価格変更を表示して空の列を除外するには、チェックボックスをオンにします。

10. 「完了」をクリックして、レポートを表示します。

標準形式以外の形式を選択した場合は、選択した形式でレポートをダウンロードするよう求めるメッセージが表示されます。

| デフォルトのフィールド | 説明 |
|--|---|
| メイン・ヘッダの属性 | |
| 提出日からの日数 | 「提出」タイプ・ステータスに変更が入力されてからの日数 |
| 現在のステータスである日数 | 変更が現在のステータスになってからの日数 |
| ステータス開始日 | レポート・ウィザードで選択された開始ステータスに変更が入力された日。 |
| ステータス終了日 | レポート・ウィザードで選択された終了ステータスに変更が入力された日。 |
| 番号日 | 「ステータス開始日」と「ステータス終了日」の間の日数 |
| レポートにリストされた各変更について、選択されたレイアウトで指定された変更フィールド | レイアウトにより、レポートにはリストされた変更の「カバー・ページ」または「ページ 2」タブからの任意の属性を含むことができます。 レイアウトに関する詳細情報は、『Agile PLM スタート・ガイド』の「Agile レポートを使用する」の章を参照してください。 |
| 「対象アイテム」の属性 | |

| デフォルトのフィールド | 説明 |
|--|--|
| 各変更オブジェクトの行で、選択されたレイアウトで指定されたとおりの、変更の「対象アイテム」タブからのアイテム情報 | レイアウトにより、レポートにはリストされた変更の「対象アイテム」タブからの任意の属性を含むことができます。 レイアウトに関する詳細情報は、『Agile PLM スタート・ガイド』の「Agile レポートを使用する」の章を参照してください。 |

ユーザー・サインオフ期間レポート

ユーザー・サインオフ期間レポートでは、指定したユーザーが指定したステータスの指定した変更をサインオフするのにかかった時間が計算されます。期間は、日数単位で計算されます。

変更サイクル時間レポートを実行するには

1. 「プロセス・レポート」フォルダにある「ユーザー・サインオフ期間レポート」を選択します。「ユーザー・サインオフ期間レポート」ページが表示されます。
2.  「実行」ボタンをクリックします。「レイアウトと環境設定の選択」ウィザード手順が表示されます。
3. ドロップダウン・リストから必要なレイアウトを選択するか、 「編集」ボタンを使用して既存のレイアウトを編集するか、または  「作成」ボタンを使用して新しいレイアウトを作成します。
4. 「次へ」をクリックします。「レポートの変更を選択」手順が表示されます。
5. 必要な変更を選択します。次のいずれかを実行します。
 - テーブルの「追加」ボタンを使用します。必要なアイテム番号を入力するか、または  「検索で追加」パレット・ボタンを使用します。
 - 「詳細」→「貼付け」を使用して、他のテーブル、 「フォルダ」ナビゲーション・ドローワまたは「最近訪れたところ」リストからコピーしたアイテム行を貼り付けます。
 - 「カスタム検索」をクリックして、クエリーを定義します。検索結果テーブルから行をコピーして、それらを「レポートのアイテムを選択する」ウィザード・テーブルに貼り付けます。
6. 「次へ」をクリックします。「ユーザー・サインオフ期間」ウィザード手順が表示されます。
7. 期間の日数を選択します。
8. 「次へ」をクリックします。「他のパラメータの設定」ウィザード手順が表示されます。
9. レポートに関する他の設定を指定します。
 - 必要なワークフロー・ステータスを指定します。デフォルトは、ワークフローの現在のステータスです。
 - 「履歴ステータスを含める」チェック・ボックスを選択します。
 - すべてのユーザーを含める（デフォルト）か、または特定のユーザーを選択します。
 - 「ユーザーの役割」を、「承認者」、「オブザーバ」、「承認者またはオブザーバ」から選択します。
 - 「ユーザー・サインオフ・アクション」を、「すべて」、「保留中のサインオフのみ」、「サインオフ済のみ」から選択します。
 - ワークフロー
10. 「完了」をクリックして、レポートを表示します。

選択した形式でレポートをダウンロードするよう求めるメッセージが表示されます。

| デフォルトのフィールド | 説明 |
|-------------|-------------------------------|
| 変更番号 | 変更の番号 |
| ステータス | レポート・ウィザードで選択されたステータス |
| ステータス入力日 | 変更がレポート・ウィザードで選択したステータスになった日付 |
| ユーザー名 | サインオフ・ユーザーの名前 |
| ユーザーの役割 | レポート・ウィザードで選択されたユーザーの役割 |
| ユーザーの追加日 | 承認者またはオブザーバとしてユーザーが追加された日付 |
| ユーザー・サインオフ日 | ユーザーが変更をサインオフした日付 |
| サインオフ期間 | ステータス入力日とユーザー・サインオフ日の間の日数 |

変更パッケージ・レポート

変更パッケージ・レポートには、変更に関する情報が見やすい形式で表示されます。

注意 Oracle Business Intelligence Publisher (BI Publisher) を使用するオプションは、このレポートでは使用できません。

変更パッケージ・レポートを実行するには

- 「プロセス・レポート」フォルダにある「変更パッケージ・レポート」を選択します。「変更パッケージ・レポート」ページが表示されます。
 - ▶ 「実行」ボタンをクリックします。「レイアウトと環境設定の選択」ウィザード手順が表示されます。
 - ドロップダウン・リストから必要なレイアウトを選択するか、 「編集」ボタンを使用して既存のレイアウトを編集するか、または  「作成」ボタンを使用して新しいレイアウトを作成します。
- レイアウトに関する詳細情報は、『Agile PLM スタート・ガイド』の「Agile レポートを使用する」の章を参照してください。

注意 Agile PLM は、各変更タイプに対してデフォルトのレイアウトを用意しています。このレポートに対して新しいレイアウトを作成すると、「レイアウト・タイプ」を選択できます。レイアウト・タイプは、特定クラスのすべて変更に対して（たとえば、変更指示）選択することもでき、または変更のサブクラスの特定タイプ（たとえば ECO）に対して設定することもできます。判別しやすいように、新しいレイアウトに対して選択する名前は、選択されたレイアウト・タイプを表すようにしてください。

- 「次へ」をクリックします。「レポートの変更を選択」ウィザード手順が表示されます。
- レポートに記載する変更を選択します。
 - テーブルの「追加」ボタンを使用します。必要な変更番号を入力するか、または  「検索で追加」パレット・ボタンを使用します。

- 「詳細」→「貼付け」を使用して、他のテーブル、「フォルダ」ナビゲーション・ドローワまたは「最近訪れたところ」リストからコピーした変更行を貼り付けます。
 - 「カスタム検索」をクリックして、クエリーを定義します。検索結果テーブルから行をコピーして、それらを「レポートの変更を選択」ウィザード・テーブルに貼り付けます。
- 「次へ」をクリックします。「含めるテーブルの選択」ウィザード手順が表示されます。
 - レポートに含めるテーブルを指定します。テーブルを削除するには、小さい「x」ボタンをクリックします。パレットを起動して、追加のテーブルを選択するには、をクリックします。
 - 「完了」をクリックして、レポートを表示します。

標準形式以外の形式を選択した場合は、選択した形式でレポートをダウンロードするよう求めるメッセージが表示されます。

| レポート・レイアウト・ページ とフィールド | 説明 |
|--------------------------|--|
| カバー・ページ | レポート・レイアウトに含むことのできる変更オブジェクトのタブ。レイアウトにより、レポートには変更のタブからの任意の属性を含むことができます。 |
| 対象アイテム | レイアウトに関する詳細情報は、『Agile PLM スタート・ガイド』の「Agile レポートを使用する」の章を参照してください。 |
| ワークフロー | 「すべての変更パッケージ」レイアウトには、次のタブを含むことができます。一部の変更タイプは、追加情報を含むこともできます（下記の説明を参照）。 |
| 添付ファイル | |
| 履歴 | |
| 対象アイテム.BOM | 変更の対象アイテムの「BOM のレッドライン」タブで表示されるBOM レッドラインをリストします。レイアウトにより、レポートにはこのタブからの任意の属性を含むことができます。 変更指示および拠点毎変更でのみ使用可能です。 |
| 対象アイテム.製造元 | 変更の対象アイテムの「製造元のレッドライン」タブで表示される製造元レッドラインをリストします。レイアウトにより、レポートにはこのタブからの任意の属性を含むことができます。 変更指示、拠点毎変更、および製造元依頼でのみ使用可能です。 |
| 対象アイテム.添付ファイル | 変更の対象アイテムの「フォルダのレッドライン」タブに表示される添付ファイルをリストします。アイテムの保留中バージョンの添付ファイルのリストです。レイアウトにより、レポートにはこのタブからの任意の属性を含むことができます。 変更指示にのみ使用できます。 |

IP転送レポート

注意 Agile Content Service (ACS) と転送に関する情報は、『Agile Content Service User Guide』を参照してください。

このレポートには、転送依頼により指定された宛先に送られたオブジェクトと、その送信日時が表示されます。

このレポートの実行方法の詳細は、『Agile Content Service User Guide』の「転送依頼の操作」の章を参照してください。

変更メトリックス・レポート

変更メトリックス・レポートには、指定期間中に指定ステータスに移行した変更の記録が表示されます。

注意 Oracle Business Intelligence Publisher (BI Publisher) を使用するオプションは、このレポートでは使用できません。

変更メトリックス・レポートを実行するには

1. 「プロセス・レポート」フォルダにある「変更メトリックス・レポート」を選択します。「変更メトリックス・レポート」ページが表示されます。
2.  「実行」ボタンをクリックします。「レイアウトと環境設定の選択」ウィザード手順が表示されます。
3. ドロップダウン・リストから必要なレイアウトを選択するか、 「編集」ボタンを使用して既存のレイアウトを編集するか、または  「作成」ボタンを使用して新しいレイアウトを作成します。

注意 レイアウトに関する詳細情報は、『Agile PLM スタート・ガイド』の「Agile レポートを使用する」の章を参照してください。価格変更に対してこのレポートを実行するには、価格変更に適用できるレイアウトを選択します。(Agile が提供するデフォルトのレイアウトは、「変更用デフォルト・レイアウト」と「PCO 用デフォルト・レイアウト」です。) このレポートに対して新しいレイアウトを作成する場合、「変更」または「価格変更」のいずれかの「レイアウト・タイプ」を選択できます。新規レイアウトに対して選択する名前は、レイアウトが変更に適用されるか、価格変更に適用されるかを示すものにしてください。

4. 「次へ」をクリックします。「検索の選択または作成」ウィザード手順が表示されます。
5. レポートにすべての変更を含める場合は、「すべての変更」ラジオ・ボタンを選択します。
6. 保存された検索を選択する手順は次のとおりです。
 - a. 「保存された検索」ラジオ・ボタンを選択します。
 - b.  「検索で追加」ボタンをクリックして、「保存された検索」パレットを開きます。
 - c. 使用する保存された検索に移動します。
 - d. ダブルクリックするか、またはキーボードの[Enter]キーを押して、検索を選択します。
 - e. キーボードの[Esc]キーを押して、パレットを閉じます。
7. 詳細検索を定義する手順は次のとおりです。
 - a. 「詳細検索」ラジオ・ボタンを選択します。
 - b. 「クエリーの定義」ボタンをクリックして、「レポート検索」定義パレットを開きます。
 - c. 使用するクエリーを定義して、「完了」をクリックします。詳細検索の詳細は、『Agile PLM スタート・ガイド』を参照してください。
8. レポート・ウィザードで「次」をクリックします。「レポートの定義」ウィザード手順が表示されます。
9. レポートに関する他の設定を指定します。

- 対象とする期間
- レポートで使用する時間単位
- ワークフロー
- ステータスタイプ（ある一定期間中にこのステータスに移行した変更を含みます）
- データをグループ化してトレンドを評価する方法

変更または価格変更を表示して空の列を除外するには、チェックボックスをオンにします。

10. 「完了」をクリックして、レポートを表示します。

標準形式以外の形式を選択した場合は、選択した形式でレポートをダウンロードするよう求めるメッセージが表示されます。

| レポート・レイアウト・フィールド | 説明 |
|--|---|
| メイン・ヘッダの属性 | |
| 日付 | レポート・ウィザードで選択したステータスに変更が入力された日。 |
| レポートにリストされた各変更について、選択されたレイアウトで指定された変更フィールド | レイアウトにより、レポートにはリストされた変更の「カバー・ページ」または「ページ 2」タブからの任意の属性を含むことができます。 レイアウトに関する詳細情報は、『Agile PLM スタート・ガイド』の「Agile レポートを使用する」の章を参照してください。 |
| 「対象アイテム」の属性 | |
| 各変更オブジェクトの行で、選択されたレイアウトで指定されたとおりの、変更の「対象アイテム」タブからのアイテム情報 | レイアウトにより、レポートにはリストされた変更の「対象アイテム」タブからの任意の属性を含むことができます。 レイアウトに関する詳細情報は、『Agile PLM スタート・ガイド』の「Agile レポートを使用する」の章を参照してください。 |

パワー・ユーザーのためのヘルプ

この章のトピック

| | |
|--|-----|
| ■ 「ディスカバリ」権限と「読み取り」権限の詳細について | 197 |
| ■ 部品とドキュメントの区別 | 198 |
| ■ アイテムのサブクラスを変更する | 200 |
| ■ ワークフローの照合基準について | 201 |
| ■ BOM上のリビジョン表示の詳細 | 202 |
| ■ スマート・オブジェクトURLを使用したAgileオブジェクトへの簡易アクセス | 203 |

「ディスカバリ」権限と「読み取り」権限の詳細について

注意 ディスカバリ警告メッセージの詳細は、『管理者ガイド』を参照してください。

「ディスカバリ」権限によって、Agile管理者は次のような方法でオブジェクトのディスカバリを制限できます。

- あるグループのユーザーが検索できるオブジェクトを制限する。これらのオブジェクトは、検索条件を満たしても、結果テーブルに表示されません。Agile管理者は、検索結果ページの警告メッセージを表示するかどうかを選択できます。
- あるグループのユーザーが次のテーブルにあるオブジェクトを表示できないよう制限する。
- 対象アイテム
 - 使用箇所
 - 製造元
 - 変更
 - 抱点
 - ユーザーのアドレス帳

Agile管理者は警告メッセージを表示するかどうかを選択できます。

- あるグループのユーザーが「BOM」タブにあるオブジェクトを表示できないよう制限する。Agile管理者は警告メッセージを表示するかどうかを選択できます。「BOM」タブでは、Agile管理者はアイテム番号のみを表示するか、アイテムの説明のみを表示するかも選択できます。これにより、ユーザーに完全な BOM が表示されますが、ディスカバリ権限のないアイテムへのアクセスは認められません。
- レポートの実行を制限する。

一連のユーザーは特定のオブジェクトまたはフィールドを表示できなくなりますが、ディスカバリ権限や読み取り権限設定の異なる他のユーザーはこれらのオブジェクトやフィールドを表示できます。

ユーザーは、自分が作成したオブジェクトを表示するためには、作成するオブジェクトに対する適切なディスカバリ権限および読み取り権限を持っている必要があります（「自分が作成したオブジェクトの読み取りおよびディスカバリ」の役割の詳細は、『管理者ガイド』の「役割」、デフォルトの Agile PLM 役割リストに関するセクションを参照してください）。

ディスカバリ権限と読み取り権限は Agile 管理者が割り当てます。ディスカバリ権限と読み取り権限について質問がある場合は、Agile 管理者に問い合わせてください。

表示不可能なフィールドを表示する

注意 Agile 管理者は、特定のフィールドの読み取りを制限する読み取り権限マスクを作成できます。フィールド・レベルでの読み取り権限によって、フィールドレベルでの読み取り権限マスクを有効にするかどうかを決定します。フィールドレベルでの読み取り権限を含む役割を持っている場合、特定のフィールドの内容を表示できないことがあります。このセクションでは、表示できないフィールドを表示させる方法について説明します。詳細は、『管理者ガイド』を参照してください。

フィールドについて適切な読み取り権限がない場合、フィールドに「権限がありません」と表示されます。

読み取りできないフィールドのコピーが別のオブジェクトやテーブルに表示された場合、そこにも「権限がありません」と表示されます。たとえば、変更の「説明」フィールドに対する読み取り権限がない場合に、変更がテーブルに記載されていると、テーブルの「説明」フィールドに「権限がありません」と表示されます。以下に、オブジェクトが記載されるテーブルの例を示します。

- 検索結果
- 変更履歴
- 製造元
- 使用箇所
- 対象アイテム
- 検証の結果

「BOM」テーブルについては、ディスカバリ不可能なアイテムの「BOM」テーブルでの表示方法を決定するスマートルールが読み取り不可能なフィールドにも適用されます。74ページの「[Agile管理者が管理する内容について](#)」を参照してください。

部品とドキュメントの区別

一般に、ドキュメントが製品の一部として出荷されるか製品に関連するコストがある場合、部品オブジェクトとして作成します。ドキュメントが社内の文書、手順、または参考資料である場合、ドキュメントはドキュメント・オブジェクトとして作成します。

ただし、ドキュメントを部品として作成するほうが適している場合もあります。次の3つの例では、ドキュメントを部品オブジェクトとして作成する場合と、ドキュメント・オブジェクトとして作成する場合を示します。

例 1: ドキュメントが部品を管理するドキュメントである（部品と同じ番号が付いている）場合、部品オブジェクトとして作成します。

たとえば、設計図面番号 123 が部品番号 123 を規定、記述する（したがってドキュメントが部品を管理する）場合、部品 123 を作成し、設計図面は添付ファイルとして追加します。

部品番号がドキュメント番号と同じでなければならない場合に、この方法を使用します。この場合、Agile PLM データベースにおいてドキュメントは個別のドキュメント・オブジェクトとして存在しません。

前述の例に対し、図面番号と部品番号が同じでなくともかまわない場合、ドキュメント・オブジェクト（たとえばドキュメント番号 222）を作成し、設計図面をその「添付ファイル」タブに追加（適切なファイル・フォルダ・オブジェクト内で設計図面を参照）します。さらに部品オブジェクト（たとえば部品 444）を作成します。ドキュメント 222 を部品 444 の「BOM」タブに追加し、数量に 0 または REF を入力します。0 を見出し番号として入力します。これにより、ドキュメント・オブジェクトは「BOM」タブの一番上に表示され、参照しやすくなります。

例 2: ドキュメントに対して製品に関連するコストがある場合、または製品の一部として出荷される場合、部品オブジェクトとして作成します。

製品とともに出荷されるドキュメントの例としてマニュアルがあります。マニュアルには、バインダ、バインダのラベル、バインダのタブ、印刷ドキュメント自体が入った BOM が含まれる場合があります。

ドキュメントが製品とともに顧客に出荷される場合、BOM がない場合でも部品オブジェクトとして作成します。このようなドキュメントには、保証書、手順説明書、アセンブリ手順、印刷されたソフトウェア・ライセンス契約書などがあります。

印刷コストなど、ドキュメント自体に関連するコストがある場合、部品オブジェクトとして作成します。ドキュメント部品を「BOM」タブに追加し、数量 1 を入力すると、ドキュメント部品オブジェクトのコストは、コストを計算するすべてのレポートに入ります。（レポート実行の詳細は、『Agile PLM スタート・ガイド』を参照してください。）

例 3: ドキュメントについて次の条件に該当する場合、ドキュメント・オブジェクトとして作成します。

- ドキュメント番号を部品番号と同じにする必要がない。
- ドキュメントは製品の一部として出荷されない。
- ドキュメントに製品に関連するコストがない。

このようなドキュメントの例としては、製造プロセス（品質保証手順、試験手順、製造手順書）や参考資料（仕様書または設計図面）があります。

社内のドキュメント・オブジェクトはすべてドキュメントとして作成します。

注意 Agile PLM は柔軟性が高いため、ドキュメントを作成する際に必ずしもこれらの例で示されている方法を使用する必要はありません。ただし、ドキュメントを部品オブジェクトまたはドキュメント・オブジェクトとして作成する際には、必ず社内の規約やガイドラインに従ってください。質問がある場合は、Agile 管理者にお問い合わせください。

ドキュメント・オブジェクトを作成した後で部品オブジェクトに変更する場合、ドキュメント・オブジェクト（適切な権限がある場合）をハード削除して、データベースから削除しアイテム番号を解放します。これで、同じアイテム番号を使用して、アイテムを部品オブジェクトとして作成できます。詳細は、207ページの「[Agile オブジェクトを削除する](#)」を参照してください。

アイテムのサブクラスを変更する

Agile 管理者が追加サブクラスを作成した場合、適切な権限があれば、アイテムのサブクラスを変更できます。たとえば、あるドキュメントのサブクラスを含有基準からデータ・シートに変更できます。

注意 アイテムのサブクラスを変更すると、データ・フィールドも変更され、「ページ3」タブに関する以前の情報はクリアされます。

アイテムのサブクラスを変更する手順は次のとおりです。

1. 変更の「タイトル・ロック」タブで、「部品タイプ」ドロップダウン・リストから新規サブクラスを選択します。
 2. 「ページ3」が表示され、データがある場合、ページ3のデータがクリアされることを知らせる警告メッセージが表示されます。
 - Web クライアント：
 - サブクラスの変更を続行し、「ページ3」のクリアを許可するには、警告で「続行」を選択して、「完了」をクリックします。
 - サブクラスの変更プロセスをキャンセルし、アイテムを変更しない場合は、警告で「キャンセル」を選択して、「完了」をクリックします。オブジェクト・ウィンドウで、「キャンセル」をクリックし、変更内容を破棄して編集モードを終了します。
 - Java クライアント：
 - サブクラスの変更を続行し、「ページ3」のクリアを許可するには、「はい」をクリックします。
 - サブクラスの変更プロセスをキャンセルし、アイテムを変更しない場合は、「いいえ」をクリックします。オブジェクト・ウィンドウで、「キャンセル」をクリックし、変更内容を破棄して編集モードを終了します。
 3. Agile 管理者によって新規サブクラスに自動採番スキームが割り当てられている場合、Agile PLM では新規サブクラスに新規自動採番を選択するかを尋ねるメッセージが表示されます。
 - Web クライアント：
 - サブクラスの変更を続行し、同じ番号または名前の使用を許可するには、警告で「続行」を選択して、「完了」をクリックします。
 - サブクラスの変更プロセスをキャンセルし、アイテムを変更しない場合は、警告で「キャンセル」を選択して、「完了」をクリックします。オブジェクト・ウィンドウで、「キャンセル」をクリックし、変更内容を破棄して編集モードを終了します。
 - Java クライアント：
 - 「はい」をクリックすると、サブクラスは変更されますが、現在の番号は維持されます。
 - 既存の番号を使用しない場合は、「いいえ」をクリックします。手動で番号を選択または入力するには、オブジェクト・ページまたはウィンドウの「保存」をクリックします。
- 前述の Java クライアントのステップで既存の番号を拒否した場合、手動で新しい番号を選択する必要があります。設定したシステムに基づき、次のいずれかを実行します。
- 新規サブクラスに1つの自動採番ソースが指定されている場合、「自動採番」ボタンをクリックし、新規番号を割り当てます。オブジェクト・ウィンドウまたはページの「保存」をクリックし、プロセスを完了します。
 - 自動採番が不要な場合、番号を入力できます。オブジェクト・ウィンドウまたはページの「保存」をクリックし、プロセスを完了します。
 - 使用中のシステムに自動採番が必須で、新規サブクラスに対して複数の自動採番ソースが指定されている場合は、「自動採番」ボタンを使い、自動採番ソースの1つを選択します。オブジェ

クト・ウィンドウまたはページの「**保存**」をクリックし、プロセスを完了します。

注意 アイテムが使用中の場合、アイテムがロックされていることを知らせるダイアログ・ボックスが表示されることがあります。「**OK**」をクリックすると、サブクラスの変更プロセスがキャンセルされます。

4. Agile PLM では「**番号**」フィールドに新規番号が表示され、アイテムの「**履歴**」タブにイベントを入力します。

ワークフローの照合基準について

照合基準は、各変更に使用されるワークフローを検索するときに使用します。Agile PLM では、各変更とその有効なワークフロー・リストが照合されます。

Agile 管理者が再利用可能な条件リストから照合基準を選択します。再利用可能な条件は、詳細検索のようなデータベース・クエリです。再利用可能な条件は、Agile 管理者によって作成および定義されます。

再利用可能な条件の例は次のとおりです。

- **すべての MECO - MECO** (機械系 ECO) であるすべての変更を検索します。
- **Scorpio ECO -** 変更の「**製品ライン**」フィールドに「Scorpio」を含むすべての ECO を検索します。
- **Libra プロジェクト -** 「**製品ライン**」フィールドに「Libra」を含むアイテムが「**対象アイテム**」タブに存在するすべての変更指示を検索します。

各ワークフローに再利用可能な条件リストを指定することにより、Agile 管理者は特定のワークフローを使用できる変更を限定できます。たとえば、Agile 管理者が「一般用」というワークフローを作成し、その照合基準として前述の 3 つの再利用可能な条件 (すべての MECO、Scorpio ECO、Libra プロジェクト) を選択したとします。

例 1: MECO (機械系 ECO) である変更を作成した場合、一般用ワークフローの照合基準の 1 つ (すべての MECO) に一致します。変更の「カバー・ページ」タブの「ワークフロー」ドロップダウン・リストに一般用ワークフローが表示されます。

例 2: ECO の「**製品ライン**」フィールドに「Scorpio」を含む ECO で変更を作成した場合、一般用ワークフローの照合基準の 1 つ (Scorpio ECO) に一致します。変更の「カバー・ページ」タブの「ワークフロー」ドロップダウン・リストに一般用ワークフローが表示されます。

例 3: 変更指示を作成し、「**製品ライン**」フィールドに「Libra」を含むアイテムを「**対象アイテム**」タブに追加した場合、Agile PLM では各対象アイテムの「**対象アイテム**」タブにある「**製品ライン**」フィールドを確認します。ワークフローの条件基準タイプ設定に応じて、変更の「カバー・ページ」タブの「ワークフロー」ドロップダウン・リストに一般用ワークフローが表示されます。

- **一部** - 1 つまたは複数 (すべてではない) の対象アイテムが対象アイテムに基づいた再利用可能な条件 (この場合 Libra プロジェクト) に一致する必要があります。
- **すべて** - 照合基準として複数の対象アイテム・ベースの再利用可能な条件を使用する場合、各対象アイテムは少なくとも 1 つの再利用可能な条件に一致する必要があります。ただし、各対象アイテムが対応する再利用可能な条件に一致する必要があります。
- **同一** - すべての対象アイテムが対象アイテムに基づいた再利用可能な条件 (この場合 Libra プロジェクト) に一致する必要があります。

注意 「対象アイテム」タブにアイテムを追加し、変更のタブのフィールドにデータを入力する際、「カバー・ページ」タブの「ワークフロー」ドロップダウン・リストは、そのときに適用される照合基準によって異なります。ワークフローの照合基準について質問がある場合は、システム管理者にお問い合わせください。

Java クライアントで変更オブジェクトを編集する場合、「更新」ボタンをクリックして変更オブジェクトを保存および更新すると、「ワークフロー」ドロップダウン・リストにワークフローの正しいリストが表示されます。

Web クライアントで「カバー・ページ」タブを編集する場合、「検証」ボタンをクリックして変更オブジェクトを保存して更新すると、「ワークフロー」ドロップダウン・リストにワークフローの正しいリストが表示されます。

検索条件タイプ設定は、ワークフローの各ステータスにも適用されます。ワークフローと条件基準タイプの詳細は、『管理者ガイド』を参照してください。

BOM上のリビジョン表示の詳細

Agile PLM は、親アイテムのリリース日（すでにリリースされている場合）を確認し、その日付以前の子アイテムの最新リビジョンを検索して分析することにより、BOM テーブルの「リビジョン」フィールドに表示されるリビジョン番号（または文字）を算出します。親アイテムがリリースされていない場合、子アイテムの最新のリビジョンが検索されます。

子アイテムのリビジョンは、次の 3 つの基準に従って分析されます。

- ライフサイクル・フェーズ（プレリミナリまたはその他）
- 子アイテムのリリース済リビジョンがあるかどうか
- 子アイテムのリリース済リビジョンがないかどうか

注意 Agile PLM では、アイテムのリリース済バージョンがない場合（アイテムがリリースされなかった場合）、未リリース・アイテムの保留中リビジョンがあるかどうかにかかわらず、初版リビジョンが最新リビジョンと考えられます。11ページの「[初版リビジョン](#)」を参照してください。

選択した親アイテムのリビジョンによって、表示される子アイテムのリビジョンは最新リビジョンである場合とない場合があります。以下に子アイテムのどのリビジョンが表示されるかを説明します。

- 親アイテムのリビジョンが最新の場合、子アイテムの最新リビジョンが表示されます。つまり、親アイテムの BOM には、親アイテムのリビジョンのリリース以降に子アイテムに加えられた変更が反映されます。これは、親アイテムの次のリビジョンがリリースされるまで継続します。
 - 親アイテム・リビジョンが以前のリビジョンの場合、表示される子アイテムのリビジョンは、親アイテムの次のリビジョンの直前の時点における最新バージョンとなります。
 - 各子アイテムについて、表示されるリビジョンに該当するライフサイクル・フェーズが表示されます。
- 親リビジョンのリリースとしてのリビジョン番号がない場合、子アイテムの「リビジョン」フィールドが空白になっていることがあります。これには次の原因が考えられます。
- 子アイテムが現時点までにリリースされていない場合、最新の親リビジョンを表示している場合、または
 - 次の親バージョンまでの間にリリースされていない場合、過去の親アイテム・リビジョンを表示している場合。

注意 子アイテムが未リリースかリリース済かによって、親アイテムのBOMに表示される子アイテムのリビジョンが異なることに注意してください。

注意 子アイテムの保留中リビジョンは、親アイテム BOM テーブルに表示されません。ただし、保留変更を持つすべての子アイテムは、「BOM」テーブルの親アイテムの行で、 アイコンで表示されます。

表示されたリビジョンに関連する変更指示 (ECO) または製造元変更 (MCO) 番号は、BOM テーブルの「アイテム・リビジョン」列に表示されます。ECO 番号は、表示されたリビジョンをリリースした ECO です。MCO 番号は、もととなつたリビジョンとともに表示されます。

拠点毎変更 (SCO) は ECO リリース済リビジョンに基づいており、BOM テーブルに表示されるリビジョンには SCO で定義された内容を含めることができますが、SCO 番号は BOM テーブルには表示されません。

アイテム・リビジョンの詳細は、10ページの「[アイテムのリビジョンを処理する](#)」を参照してください。

スマート・オブジェクトURLを使用したAgileオブジェクトへの簡易アクセス

Agile オブジェクトまたは Agile 添付ファイルへのポインタとなる簡易アクセス URL を生成できます。

これらの簡易アクセス URL を他のアプリケーションまたはファイル（表計算ファイル、Word ファイル、会社のインターネット Web ページまたは WIKI ページ、あるいは電子メール）に貼り付けることができます。

このセクションでは次のトピックについて説明します。

- ▣ [Agile生成の簡易アクセス・オブジェクトURL](#) (203ページ)
- ▣ [ユーザー生成スマート・オブジェクトURLのフォーマット](#) (204ページ)
- ▣ [簡易アクセス・オブジェクトURLを使用する](#) (204ページ)

簡易アクセス URL を使用した添付ファイルへの簡易アクセスの詳細は、『Agile PLM スタート・ガイド』を参照してください。

Agile生成の簡易アクセス・オブジェクトURL

Web クライアントで、Web クライアントの「アクション」メニューから Agile PLM オブジェクトへの簡易アクセス URL を生成できます。

Agile PLMオブジェクトへの簡易アクセスURLを生成する手順は次のとおりです。

1. Agile PLM の Web クライアントにログインして、目的のオブジェクトを開きます。
2. 「アクション」メニューで「URL をクリップボードにコピー」を選択します。
3. URL がクリップボードにコピーされます。URL を他のアプリケーションまたはファイル (Word ファイル、表計算ファイル、電子メールなど) に貼り付けることができます。

ユーザー生成スマート・オブジェクトURLのフォーマット

Agile のスマート・オブジェクト URL 機能は、電子メール、表計算、文書、WIKI などを介した有効なコラボレーションを可能にするように設計されています。ユーザーが手動で、または自動ツールにより、Agile PLM の特定オブジェクトにポイントする読み取り可能な URL を生成できます。次のフォーマットを使用すると、Agile PLM にログインせずにオブジェクトの URL を生成できます。自動ツールでも、このフォーマットを使用してオブジェクトの URL を生成できます。

スマート・オブジェクト URL は Web クライアントから使用可能なオブジェクトに使用できます。

スマート・オブジェクトURLのフォーマット

Agile オブジェクトにポイントする URL は、次のフォーマットを使用します。

`http://server:port/VirtualPath/object/ObjectType/ObjectName`

次の表で、スマート・オブジェクト URL のパラメータを定義します。

| パラメータ | 説明 |
|--|--|
| <code>http://server:port/<VirtualPath>/object/<ObjectType>/<ObjectName></code> | |
| server | Server、port および VirtualPath は Agile PLM インスタンスを識別します。 |
| port | |
| VirtualPath | |
| object | テキスト "object" は URL がオブジェクト URL であることを示します。 |
| ObjectType | ObjectType は、ECO、部品、製造元、ファイル・フォルダ、プロジェクト、操作、ディスカッションなど、オブジェクトのサブクラス（タイプ）を指します。 |
| ObjectName | ObjectName はオブジェクトの固有な識別子を指します。オブジェクト・クラスにより、固有な識別子はオブジェクト番号または名前になります。 注意 製造元部品は、製造元名と製造元部品番号の 2 つのパラメータによって固有に識別されるオブジェクトの特別なクラスです。このため、特定の製造元部品を指す URL は次のフォーマットを使用します。 <code>http://server:port/VirtualPath/object/ObjectType/MfrName/MfrPart Number</code> |

Agile PLM は URL に追加されている特殊タグ（%20など）を識別および処理して、オブジェクトの固有な識別子の特殊文字（空白およびアスタリスク "*" などその他の特殊文字）を処理します。例:

`http://server:port/VirtualPath/object/Manufacturer/Philips%20Semiconductor`

この URL は、製造元 "Philips Semiconductor" として解決されます。

簡易アクセス・オブジェクトURLを使用する

ユーザーが簡易アクセス・オブジェクト URL をクリックする場合、URL が Agile 生成簡易アクセス URL またはユーザー生成スマート・オブジェクト URL のどちらであっても、ユーザーの操作は同じです。

1. ユーザーが URL をクリックすると、Agile PLM ログイン画面がブラウザに表示されます。
 2. ユーザーは各自のログイン情報を入力します。
 3. ログインに成功すると、リンクで指定されたオブジェクトが検索されます。
(オブジェクトが見つからない場合、エラーが表示され、ユーザーのホーム・ページに戻ります。)
- オブジェクトが見つかった場合、ユーザーにオブジェクトの読み取り権限があるかどうかが確認され、「タイトル・ページ」などオブジェクトの最初のタブが表示されます。

Agileオブジェクトを削除する

この章のトピック

| | |
|------------------------------------|-----|
| ■ オブジェクトをソフト削除する..... | 208 |
| ■ オブジェクトの削除を取り消す..... | 208 |
| ■ オブジェクトをハード削除する..... | 209 |
| ■ 特定のAgileオブジェクト・タイプの削除に関する注意..... | 209 |

このセクションでは次のトピックについて説明します。

- [オブジェクトをソフト削除する](#) (208ページ)
- [オブジェクトの削除を取り消す](#) (208ページ)
- [オブジェクトをハード削除する](#) (209ページ)
- [特定のAgileオブジェクト・タイプの削除に関する注意](#) (209ページ)

Java クライアントと Web クライアントでは、数多くの Agile オブジェクト・クラスに対して「ソフト」および「ハード」削除がサポートされています。クライアント上でオブジェクトをソフト削除しても、完全に削除されたわけではありません。ソフト削除されたオブジェクトはデータベースで「削除済」のマークが付けられ、オブジェクト番号または名前が保存されます。ソフト削除されたオブジェクトと同じタイプおよび同じ番号または名前の別のオブジェクトは作成できません。

検索を実行する場合、ソフト削除されたオブジェクトは検索結果テーブルに表示されません。ソフト削除されたオブジェクトを検索するには、「削除済オブジェクト検索」フォルダで、定義済の削除されたオブジェクトの検索を実行する必要があります。

注意 ユーザー・プロファイルの「検索」フィールドに「削除済オブジェクト検索」があれば、「削除済オブジェクト検索」フォルダへのアクセス権限が付与されています。適切な権限が付与されている場合、ユーザー・プロファイルを編集して「削除済オブジェクト検索」を「検索」フィールドの検索リストに追加できます。ユーザー・プロファイルの「検索」フィールドの変更権限がない場合は、Agile 管理者にユーザー・プロファイルの変更を依頼してください。

ハード削除されたオブジェクトは、データベースから完全に削除されます。

注意 ハード削除されたオブジェクトの削除を取り消すことはできません。

Agile オブジェクトに対してソフト削除、ハード削除または削除取消を実行するには

- そのオブジェクトに対する、適切な「削除」権限または「削除取消」権限が必要です。
- 関係および確認通知がすべて削除されている必要があります。
- オブジェクトは、削除または削除取消の可否を決定する追加条件をすべて満たしている必要があります。

一般的に、オブジェクトの削除または削除取消によってデータの整合性に悪影響が発生する場合、削除または削除取消のアクションは無効になります。

特定のオブジェクト・タイプの削除の詳細は、209ページの「[特定のAgileオブジェクト・タイプの削除に関する注意](#)」を参照してください。

オブジェクトをソフト削除する

オブジェクトはソフト削除されると使用できなくなります。ただし、オブジェクトの番号や名前は、オブジェクトがハード削除されるまでAgileデータベース内に保管されるため、他で使用することはできません。

Webクライアントでオブジェクトをソフト削除するには

1. 削除するオブジェクトを選択し開きます。
2. 「アクション」>「削除」の順に選択し、削除を確認するメッセージが表示されたら「OK」をクリックします。

オブジェクトがソフト削除されます。

Javaクライアントでオブジェクトをソフト削除するには

1. 削除するオブジェクトを選択し開きます。
 2. 「削除」ボタン~~X~~をクリックし、削除を確認するメッセージが表示されたら「はい」をクリックします。
- オブジェクトがソフト削除されます。

207ページの「[Agileオブジェクトを削除する](#)」、208ページの「[オブジェクトの削除を取り消す](#)」および209ページの「[オブジェクトをハード削除する](#)」も参照してください。

オブジェクトの削除を取り消す

適切な権限がある場合、ソフト削除されたオブジェクトの削除を取り消すことができます。

Javaクライアントでオブジェクトの削除を取り消すには

1. 「削除済オブジェクト検索」フォルダから、該当する「削除済」<オブジェクト>検索を実行します。
2. 削除されたオブジェクトの中で復元するものを開きます。
3. 「削除取消」ボタン~~X~~をクリックします。

Webクライアントでオブジェクトの削除を取り消すには

1. 「削除済オブジェクト検索」フォルダから、該当する「削除済」<オブジェクト>検索を実行します。
2. 削除されたオブジェクトの中で復元するものを開きます。
3. 「アクション」>「削除取消」の順に選択します。

注意 検索結果テーブルの「ナビゲータ」ボタンをクリックすると、左側のウィンドウの🔗「ナビゲータ」ドローワーに検索結果オブジェクトのリンクを表示できます。

207ページの「[Agileオブジェクトを削除する](#)」、208ページの「[オブジェクトをソフト削除する](#)」および209ページの「[オブジェクトをハード削除する](#)」も参照してください。

オブジェクトをハード削除する

オブジェクトは、ソフト削除してもデータベースに残っています。オブジェクトを完全に削除するには、ハード削除が必要があります。ソフト削除が適用されただけのオブジェクトは、削除を取り消すことができます。「削除済オブジェクト検索」フォルダから、該当する「削除済」オブジェクト検索を実行します。

ソフト削除されたオブジェクトをJavaクライアントでハード削除するには（適切な権限がある場合）

1. 「削除済オブジェクト検索」フォルダから、該当する「削除済」<オブジェクト>検索を実行します。
2. オブジェクトを開きます。
3. 「オブジェクトの削除」ボタン  をクリックし、削除を確認するメッセージが表示されたら「はい」をクリックします。

ソフト削除されたオブジェクトをWebクライアントでハード削除するには（適切な権限がある場合）

1. 「削除済オブジェクト検索」フォルダから、該当する「削除済」<オブジェクト>検索を実行します。
2. 検索結果テーブルでオブジェクトの行を1つ以上選択します。
3. 「削除」ボタンをクリックします。
4. 警告メッセージに応答して、「続行」を選択し、次に、「完了」をクリックします。
5. または、次のようにして、オブジェクトを一度に1つずつハード削除することもできます。
 - オブジェクトを開きます。
 - 「アクション」>「削除」の順に選択し、削除を確認するメッセージが表示されたら「OK」をクリックします。

注意 検索結果テーブルの「ナビゲータ」ボタンをクリックすると、左側のウィンドウの  「ナビゲータ」ドローワーに検索結果オブジェクトのリンクを表示できます。

207ページの「[Agileオブジェクトを削除する](#)」、208ページの「[オブジェクトの削除を取り消す](#)」および208ページの「[オブジェクトをソフト削除する](#)」も参照してください。

特定のAgileオブジェクト・タイプの削除に関する注意

アイテム・オブジェクトの削除に関する注意

アイテム・オブジェクトを削除するには、そのオブジェクトが次に示す条件を満たしている必要があります。

- Agile管理者が、ユーザーに対して適切な削除権限を持つ役割を割り当てていること。
- 関係および確認通知がすべて削除されていること。
- アイテムにリリース済の変更がないこと。
- アイテムが保留中の変更の「対象アイテム」タブに表示されていないこと。

アイテムを削除する前に、それぞれの保留中の変更の「対象アイテム」タブからアイテムを削除する必要があります。

- アイテムが PSR に追加されていないこと。
- アイテムが QCR に追加されていないこと。
- アイテムが「材料のデクラレーション」に追加されていないこと。
- アイテムが「価格」に追加されていないこと。
- アイテムの「BOM」タブに、現在のリビジョンまたは保留中リビジョンのコンテンツがありません。
- アイテムの「製造元」タブに、現在のリビジョンまたは保留中リビジョンのコンテンツがないこと。
- アイテムは他のアイテムの部品構成表 (BOM) では使用されていないこと。つまり、削除対象アイテムは親アイテムの最新リリース済リビジョン、以前のリリース済リビジョンまたは保留中リビジョンを含め、親アイテム・リビジョンの「BOM」タブの子アイテムではないこと。
- アイテムが「部品ファミリ」に関連付けられていないこと。つまり、アイテムが「部品ファミリ」オブジェクトの「部品」タブに表示されていないこと。削除対象アイテムのタイトル・ページで、「部品ファミリ」フィールドが空であること。「部品ファミリ」フィールドに値が入力されていると、「アクション」→「削除」コマンドが無効になります。

変更オブジェクトの削除に関する注意

変更オブジェクトを削除するには、そのオブジェクトが次に示す条件を満たしている必要があります。

- Agile 管理者が、ユーザーに対して適切な削除権限を持つ役割を割り当てていること。たとえば、Agile 管理者によって変更の削除権限が与えられた変更分析者またはコンポーネント・エンジニアであることが必要です。
- 関係および確認通知がすべて削除されていること。
- 変更が「保留」ステータスまたは「未割当」ステータスであること。
- 「対象アイテム」テーブルのアイテムに対する「ディスカバリ」権限と「読み取り」権限を持っていること。ない場合は、変更を削除できません。

注意 リリース済の変更を削除するには、まず未リリースの状態にする必要があります。「ワークフロー」タブで変更を別のステータスに切り替えて未リリースにするには、適切な権限が必要です。

- 「対象アイテム」タブにアイテムがある変更をソフト削除すると、その変更に関連付けられているすべてのレッドラインが破棄されます。データの整合性を保持するために、「対象アイテム」タブのアイテムについて、ソフト削除された変更に対する削除は取り消すことができません。つまり、ソフト削除された変更は、「対象アイテム」タブのアイテムを含まない場合にのみ削除を取り消すことができます。

注意 ソフト削除したルーティング可能なオブジェクトの削除を将来取り消す可能性がある場合は、削除する前に必ず「対象アイテム」タブをクリアしてください。削除を取り消すことができるには、「対象アイテム」タブにエントリのないルーティング可能なオブジェクトのみです。対象アイテムの記録を保持したまま変更オブジェクトを削除する場合は、「名前を付けて保存」コマンドを使用して別の変更オブジェクト番号にコピーしてから削除します。

転送オブジェクトの削除に関する注意

転送オブジェクトを削除するには、そのオブジェクトが次に示す条件を満たしている必要があります。

- Agile 管理者が、ユーザーに対して適切な削除権限を持つ役割を割り当てていること。
- 関係および確認通知がすべて削除されていること。
- 転送が「保留」ステータスまたは「未割当」ステータスであること。

PSRオブジェクトまたはQCRオブジェクトの削除に関する注意

製品サービス依頼（PSR）オブジェクトまたは品質変更要求（QCR）オブジェクトを削除するには、そのオブジェクトが次の条件を満たしている必要があります。

- Agile 管理者が、ユーザーに対して適切な削除権限を持つ役割を割り当てていること。
- 関係および確認通知がすべて削除されていること。
- PSR または QCR が「保留」ステータスまたは「未割当」ステータスであること。
- 「対象アイテム」テーブルのアイテムに対する「ディスカバリ」権限と「読み取り」権限を持っていること。
ない場合は、PSR または QCR を削除できません。

注意 リリース済の PSR または QCR を削除するには、まず未リリースの状態にする必要があります。「ワークフロー」タブで PSR や QCR を別のステータスに切り替えて未リリースにするには、適切な権限が必要です。

次の場合には、PSR を削除できません。

- QCR の「関係」タブに表示されている場合。
- 現在是正処置プロセス中である場合。PSR を QCR から削除してから、その PSR を削除します。
- 別の PSR の「関連 PSR」タブに表示されている場合。
- 現在、より重大な問題に関連している場合。この PSR を親 PSR から削除してから、その PSR を削除します。
- 「関連 PSR」タブに表示されている場合。
- 複数の問題を集約するために使用されている場合。関連する PSR を削除してから、その PSR を削除します。

次の場合には、QCR を削除できません。

- 「関係」タブに PSR がある場合。
- 是正処置プロセスに問題レポートが含まれている場合。PSR を QCR から削除してから、その QCR を削除します。
- 「関係」タブに変更がある場合。
- 是正処置プロセスがすでに設計変更にルートされている場合。QCR から変更を削除してから、その QCR を削除します。

ソーシング・プロジェクト、見積依頼オブジェクトおよび見積依頼回答オブジェクトの削除に関する注意

Agile Product Cost Management (PCM) オブジェクトには、ソーシング・プロジェクト、見積依頼および見積回答が含まれます。Agile PCM オブジェクトを削除するには、そのオブジェクトが次に示す条件を満たしている必要があります。

- Agile 管理者が、ユーザーに対して適切な削除権限を持つ役割を割り当てていること。
- 関係および確認通知がすべて削除されていること。
- ソーシング・プロジェクト
 - ソーシング・プロジェクトに見積依頼がないこと。
 - ソーシング・プロジェクトに見積依頼がある場合は、見積依頼が終了状態となっていること。

注意 ソーシング・プロジェクト・オブジェクトはソフト削除はできますが、ソフト削除されたソーシング・プロジェクト・オブジェクトは削除を取り消したりハード削除できません。

- 見積依頼
 - 見積依頼変更にリリース済の変更がないこと。
- 注意** 見積依頼オブジェクトはソフト削除はできますが、ソフト削除された見積依頼オブジェクトは削除を取り消したりハード削除できません。
- 見積回答
 - 見積回答オブジェクトでは、削除アクションはサポートされていません。

パッケージ・オブジェクトの削除に関する注意

パッケージ・オブジェクトを削除するには、そのオブジェクトが次に示す条件を満たしている必要があります。

- Agile 管理者が、ユーザーに対して適切な削除権限を持つ役割を割り当てていること。
- 関係および確認通知がすべて削除されていること。
- パッケージが「保留」ステータスまたは「未割当」ステータスであること。

製造元オブジェクトの削除に関する注意

製造元オブジェクトを削除するには、そのオブジェクトが次に示す条件を満たしている必要があります。

- Agile 管理者が、ユーザーに対して適切な削除権限を持つ役割を割り当てていること。
- 関係および確認通知がすべて削除されていること。
- アイテムの「製造元」タブに表示されていないこと。（製造オブジェクトの「使用箇所」タブを確認してください。）
- オブジェクトが製造元の場合、その製造元に製造元部品が関連付けられていないこと。

注意 製造元に関連付けられているすべての製造元部品が削除された場合、その製造元も削除できます。ただし、ソフト削除された製造元オブジェクトの削除が取り消されるまで、ソフト削除された製造元部品の削除を取り消すことはできません。

拠点オブジェクトの削除に関する注意

拠点オブジェクトを削除するには、そのオブジェクトが次に示す条件を満たしている必要があります。

注意 拠点オブジェクトはソフト削除はできますが、ソフト削除された拠点は削除を取り消したりハード削除できません。拠点をもはや使用しない場合、Agile ではその拠点を無効にするようにお薦めします。

- Agile 管理者が、ユーザーに対して適切な削除権限を持つ役割を割り当てていること。
- 関係および確認通知がすべて削除されていること。
- どのアイテムの「拠点」タブにも表示されていないこと。
- 他の Agile オブジェクトに関連付けられていないこと。
- 拠点のライフサイクルが「無効」であること。

注意 前述の条件を満たしていれば、ユーザーのプロファイルの「拠点」または「デフォルトの拠点」フィールドのリストに含まれている場合でも、無効の拠点をソフト削除できます。削除された拠点は、表示されているすべてのユーザー・プロファイルの「拠点」リストから自動的に削除されます。

拠点にアイテムを関連付けると、ステータスを「無効」には変更できますが、その拠点は削除できなくなります。

ユーザー・オブジェクトの削除に関する注意

ユーザー・オブジェクトを削除するには、そのオブジェクトが次に示す条件を満たしている必要があります。

- Agile 管理者が、ユーザーに対して適切な削除権限を持つ役割を割り当てていること。
- 関係および確認通知がすべて削除されていること。

注意 ユーザー・オブジェクトはハード削除できません。

Agile PLM へのユーザー・アクセスは、ユーザー・プロファイルの「ステータス」プロパティを使用して制御することもできます。たとえば、あるユーザーが退職したり、Agile PLM の使用を中止する場合、またはあるユーザーが Agile PLM システムにログインできないようにする必要がある場合は、「ステータス」プロパティを「停止」に設定してユーザー・オブジェクトを無効にします。このユーザーは、Java クライアント・アドミニストレータの「ユーザー」ノードおよび Web クライアント・アドレス帳の「ユーザー」タブに引き続き表示され、既存のワークフローやエスカレーションなどに名前が引き続き表示されますが、他のユーザーが選択するアドレス帳に表示されません。このユーザーのステータスは、いつでも「アクティブ」に再設定できます。

Java クライアント・アドミニストレータで削除されたユーザーのリストを表示するには、「削除されたユーザー」ノードまたは「削除済オブジェクト検索」の「削除されたユーザー」を使用できます。Agile Web クライアントで削除されたユーザーのリストを表示するには、「削除済オブジェクト検索」の「削除されたユーザー」を使用します。

Agile PLM ユーザーの管理の詳細は、『Agile PLM 管理者ガイド』を参照してください。

ユーザー・グループ・オブジェクトの削除に関する注意

不要となったユーザー・グループを削除できます。

ユーザー・グループ・オブジェクトを削除するには、そのオブジェクトが次に示す条件を満たしている必要があります。

- Agile 管理者が、ユーザーに対して適切な削除権限を持つ役割を割り当てていること。
- 関係および確認通知がすべて削除されていること。

注意 ユーザー・グループの「ステータス」を「停止」に設定している場合は、停止状態のグループが検索結果テーブルに表示されます。それに対して、ソフト削除されたユーザー・グループは検索結果テーブルに表示されません。

ユーザーが割り当てられているユーザー・グループを削除する場合、ユーザー・グループ内のユーザーを削除することなくユーザー・グループを削除できます。

- グローバル・ユーザー・グループ: グローバル・ユーザー・グループをソフト削除すると、削除されたグループは、グループ・メンバーのユーザー・プロファイルの「グループ」タブに停止状態のグループとして一覧表示されます。グローバル・ユーザー・グループをハード削除すると、そのグローバル・ユーザー・グループへのユーザーの割当ても削除され、ユーザー・プロファイルの「グループ」タブには表示されません。
- パーソナル・ユーザー・グループ: パーソナル・ユーザー・グループの場合には、アクティブか停止かに関係なく、割当てはグループ・メンバーのユーザー・プロファイルの「グループ」タブには一覧表示されません。

ユーザー・グループを削除すると、そのユーザー・グループは Agile PLM アドレス帳から削除されます。次のようにユーザー・グループが使用されている場合には、ユーザー・グループを削除できません。

- ルーティング可能なオブジェクトの「ワークフロー」タブのいずれかのルーティング可能なオブジェクト・サインオフ・リストに表示されている場合。
- いずれかのワークフロー定義の「通知」プロパティに表示されている場合。
- いずれかのユーザー、ユーザー・グループおよびパートナのエスカレーション担当者として指定されている場合。

Java クライアント・アドミニストレータで削除されたユーザー・グループのリストを表示するには、「削除されたユーザー・グループ」ノードまたは「削除済オブジェクト検索」の「削除されたユーザー・グループ」を使用できます。Agile Web クライアントで削除されたユーザーのリストを表示するには、「削除済オブジェクト検索」の「削除されたユーザー・グループ」を使用します。

PG&Cオブジェクトの削除に関する注意

Agile Product Governance & Compliance (PG&C) オブジェクトには、デクラレーション、含有基準、サブスタンスおよび部品グループが含まれます。Agile PG&C オブジェクトを削除するには、そのオブジェクトが次に示す条件を満たしている必要があります。

- Agile 管理者が、ユーザーに対して適切な削除権限を持つ役割を割り当てていること。
- 関係および確認通知がすべて削除されていること。
- サブスタンス、含有基準および部品グループ
 - サブスタンス、含有基準または部品グループ・オブジェクトが使用されている場合は、これらを削除できません。
- デクラレーション
 - デクラレーションが「保留」ステータスまたは「未割当」ステータスであること。

Agile管理者におけるProduct Collaboration の設定

この章のトピック

| | |
|--|-----|
| ▪ 参照指示のプリファレンス | 215 |
| ▪ アイテムの説明を改訂する | 218 |
| ▪ Product Collaborationオブジェクト・タブの設定についての注意事項 | 223 |
| ▪ Product Collaborationに影響するAgile PLM設定についての注意事項 | 223 |
| ▪ 抱点を設定する: 分散型製造 | 224 |
| ▪ 変更制御下の属性とは | 226 |

この章では、Product Collaboration の管理設定について説明します。

参照指示のプリファレンス

Agile PLM 9.3 には、参照指示に関する 2 つのシステム・プリファレンスがあります。1 つ目のプリファレンスでは、BOM テーブルでの参照指示の表示方法が定義されます。2 つ目のプリファレンスは、参照指示が Agile データベースに保存される形式を含む、個別の参照指示の形式の決定に役立ちます。

注意 Agile PLM を最初に導入した後に「参照指示範囲のインジケータ」プリファレンスを変更すると、ユーザー・データに影響がある場合があります。詳細は、後述の「参照指示範囲のインジケータ」を参照してください。

参照指示のプリファレンス設定を更新または変更する前に、この「参照指示のプリファレンス」のセクション全体を読んでください。

□ 参照指示範囲の展開縮小を許可する

BOM テーブルで、参照指示を順番にすべて表示するのではなく、範囲として表示することを許可します。たとえば、R1～R5 の参照指示範囲を次のいずれかの方法で表示できます。

□ 「展開」設定:

R1, R2, R3, R4, R5

□ 「縮小」設定:

R1-R5

□ 参照指示範囲のインジケータ

参照指示ステートメントで、範囲の下限と上限の値の間に表示される記号です。デフォルトの文字はハイフン (-) です。使用する参照指示番号形式の一部としてハイフン文字が含まれる場合には、この設定を使用して、範囲のインジケータとして異なる文字を選択できます。このプリファレンスを更新または変更する前に、「参照指示範囲のインジケータ」で詳細を確認してください。

参照指示範囲の展開縮小を許可する

この設定は、このリリースで編集可能になりました。「参照指示範囲の展開縮小を許可する」プリファレンスは、デフォルトで「縮小」に設定されています。つまり、RefDes01-03 のように、参照指示の範囲が縮小表示されています。「展開」に設定すると、RefDes01,02,03 のように、個別の各参照指示がカンマで区切って表示されます。

編集モード：参照指示の編集が「展開」、「縮小」の設定によって受ける影響

BOM 行が編集モードの場合、参照指示は、「参照指示範囲の展開縮小を許可する」プリファレンス設定に関係なく、常に展開モードで表示されます。これにより、ユーザーは、個別の参照指示を選択および削除できます。

ユーザーは、編集モードにおいて、「参照指示範囲の展開縮小を許可する」プリファレンス設定に関係なく、常に参照指示の範囲を入力できます。ユーザーが編集作業を簡単にするために R1-R99 と入力した場合、参照指示は「参照指示範囲の展開縮小を許可する」プリファレンス設定に従って表示されます。「展開」設定が選択されている場合には、BOM テーブルに個別の各参照指示が表示されます。

注意 最初に個別の数字として入力されたか、または範囲として入力されたかに関係なく、Agile PLM では、参照指示は個別の参照指示番号として保存されます。「参照指示範囲の展開縮小を許可する」プリファレンス設定では、BOM テーブルでの表示方法（展開または縮小）のみが決定されます。

参照指示範囲のインジケータ

このプリファレンスでは、参照指示の範囲を指定するために使用される文字が決定されます。デフォルトの参照指示範囲のインジケータはハイフン文字です。

「参照指示範囲の展開縮小を許可する」プリファレンスが「縮小」に設定されている場合は、範囲表示で省略されている参照指示を示すためにこの文字が使用されます。たとえば、範囲 R1-R5 は、この範囲が R1 から R5 までの参照指示で構成されていることを示します。R2, R3 および R4 は表示されていませんが、範囲インジケータ文字によって暗黙的にこれらの参照指示が範囲に含まれていることが示されます。

デフォルト以外の参照指示範囲のインジケータを選択する理由

参照指示番号の一部にハイフン文字が含まれる参照指示形式を使用する必要がある場合（たとえば、R3-AB46 のように内部的にハイフンで区切られた参照指示を使用する場合）は、このシステム・プリファレンスを使用して、「参照指示範囲のインジケータ」として使用する別の文字を選択できます。コロン文字（:）を参照指示範囲のインジケータとして選択し、「参照指示範囲の展開縮小を許可する」が「縮小」に設定されている場合、R3-AB44 で始まり R3-AB48 で終わる参照指示の範囲は次のように表示されます。

R3-AB44:R3-AB48

「参照指示範囲の展開縮小を許可する」が「展開」に設定されている場合、同じ R3-AB44 で始まり R3-AB48 で終わる参照指示の範囲は次のように表示されます。

R3-AB44, R3-AB45, R3-AB46, R3-AB47, R3-AB48

注意

参照指示範囲のインジケータ文字を変更すると、ユーザー・データに影響がある場合があります。Agileを最初に導入した後は、**慎重**に更新または変更を行う必要があります。以前に参照指示の内部区切り文字として使用されていた文字を範囲のインジケータ文字として選択すると、データの不一致の問題が発生する可能性があります。

たとえば、範囲のインジケータ文字としてコロン文字を選択し、参照指示の内部区切り文字としてハイフン文字を使用している場合に、後でハイフン文字を範囲のインジケータ文字として選択すると、R3-AB47 という参照指示の値の意味が変化します(ハイフンが参照指示の値の一部ではなく範囲を示すようになるため)。

先行ゼロを使用する参照指示

先行ゼロを使用する参照指示を BOM テーブルに入力する場合は、次のルールが適用されます。

- ユーザーは、「展開」および「縮小」の設定に関係なく、先行ゼロを使用する参照指示を入力できます。
(99ページの [「参照指示の範囲の展開縮小を許可する」プリファレンス設定](#) を参照してください。)
- 範囲として指定する 2 つの参照指示の値は、数字の桁数が一致している必要はありません。たとえば、**R0001-R100** のように入力できます。
- 数字の桁数が一致しない場合、参照指示の値は、最初の参照指示の数字の桁数を使用してデータベースに保存されます。たとえば、**R0001-R100** は **R0001**、**R0002**、... **R0100** のように保存されます。

複数セグメントの参照指示

複数セグメントの参照指示の形式（参照指示に接尾辞がある形式）では、次のルールが適用されます。

- 参照指示は最大 3 つの部分に分割されます。
 - 接頭辞 - 範囲のインジケータまたは区切り文字として指定されていない任意の文字を使用できます。
 - 番号 - 数字（0～9 の文字のみ）である必要があります。
 - 接尾辞 - 範囲インジケータや区切り文字として指定されていないすべての文字で、"0"（ゼロ）で始まらないものを使用できます。
- 最後の数字の文字列のみが番号として認められます。
たとえば、**A10B30D** という参照指示の値では、次のようになります。
 - 接頭辞=**A10B**
 - 番号=**30**
 - 接尾辞=**D**

アイテムの説明を改訂する

Agile PLM 9.3 には、アイテム・オブジェクトの「説明」フィールドの変更を管理および制御する方法がいくつか用意されています。

重要 リビジョン管理された「説明」フィールドの変更について: MCOでは新しいアイテム・リビジョンが作成されないため、アイテムの「説明」フィールドはMCOによって変更することはできません。MCOはECOリビジョンまたは初版リビジョンから、そのベースとなっている「説明」フィールドを使用します。

3 つの基本的な動作:

□ アイテム・オブジェクトの変更

エンド・ユーザーは、アイテム・オブジェクトの「説明」フィールドを変更します。この方法は、アイテムの「説明」フィールドに適用される、アイテム・オブジェクトの変更権限マスクによって制御されます。

注意 アイテムの説明は、特定のアイテム・リビジョンに関連付けられます。実際の変更はアイテム・オブジェクト自体に対して行われ、変更指示は必要ありませんが、結果として設定される説明は、リビジョン固有となります。

□ リビジョン管理: すべてのアイテム・オブジェクト

エンド・ユーザーは、アイテムの「リビジョン」属性および「ライフサイクル」属性がリビジョン管理されるのと同様に、つまり変更指示の「対象アイテム」テーブルで変更されるのと同様に、変更指示の「対象アイテム」テーブルでアイテムの「説明」フィールドを変更する必要があります。

この方法は、「対象アイテム」テーブルの「説明」フィールドに適用される変更指示オブジェクトの変更権限マスクによって制御されます。また、「アイテムの説明」フィールドが「対象アイテム」テーブルで有効である必要があります。

□ リビジョン管理: 選択されたアイテムのサブクラス

この方法は、前述の2つの方法を併用するものです。一部の選択されたアイテムのサブクラスではリビジョン管理された「説明」フィールドの変更が必要であり、他のアイテムのサブクラスではそのような変更が必要ない場合に使用します。

この方法は、前述の方法を組み合せて制御されます。

- アイテムの「説明」フィールドに適用されるアイテムのサブクラスの変更権限マスク（リビジョン管理された説明の変更が不要なサブクラスであるが、ユーザーがアイテム・オブジェクト自体の説明を編集することがある場合）。

「アイテムの説明」フィールドが「対象アイテム」テーブルで有効である必要があります。

- 「対象アイテム」テーブルの「アイテムの説明」フィールドに適用される変更指示オブジェクトの変更権限マスク（リビジョン管理された変更が必要なサブクラスの場合）。

さらに、変更指示オブジェクトの変更権限マスクでは、ワイルドカード\$AFFECTEDITEMTYPE を使用して、特定のアイテムのサブクラスの「説明」フィールドのリビジョン管理された変更がどのサブクラスで必要であるかを特定する必要があります。

変更指示オブジェクトを設定する

変更指示オブジェクト (ECO など) の「対象アイテム」タブには、次の 2 つの属性が含まれています。これらは、それぞれのアイテムの説明の変更方法に応じて、適切に有効化または無効化する必要があります。

□ 古いアイテムの説明

この「対象アイテム」属性には、アイテムが変更指示に追加されたときに既存の「アイテムの説明」フィールドの値が移入されます。この属性は、「対象アイテム」タブでは編集できません。デフォルトで、この属性は無効になっています。

変更指示のリビジョン管理された変更を必要とするアイテム・リビジョンの方法を使用する場合は、この属性を有効にする必要があります。

□ アイテムの説明

これは、デフォルトの「対象アイテム」テーブルのアイテムの説明属性です。変更指示オブジェクトに対する適切な変更権限マスクを持っている場合は、「対象アイテム」テーブルでこの属性を編集できます。

実質的に、この属性が新しいアイテムの説明となります。必要に応じて名前を変更できます。

これらの変更指示の「対象アイテム」テーブルの属性の両方が有効な場合、「古いアイテムの説明」では、自動的に(変更指示のベースとなる)最新のリリース済アイテムのアイテムの説明が表示されます。ユーザーは、(新しい)「アイテムの説明」フィールドを使用して、アイテムの保留中リビジョンに必要なアイテムの説明を入力できます。このシナリオでは、適切な変更指示の変更権限マスク、および(新しい)「アイテムの説明」フィールドの適切な「適用先」プロパティが必要です。

各方法に適切な変更権限マスクを設定する

次の表に、各方法において、Agile に用意されているデフォルトの権限マスクをどのように変更する必要があるかを示します。この表をガイドラインとして使用し、Agile PLM システムで必要な方法を設定します。Agile に用意されているデフォルトの役割および権限マスクを使用しない場合は、サンプルの権限マスクを調査して、それらを表に説明されているアクションと比較します。

アイテム・オブジェクトの「説明」フィールドの変更

目標: アイテム・オブジェクトの「アイテムの説明」フィールドのみを変更します。

| デフォルトのアイテム権限マスク | | デフォルトの変更権限マスク | | 変更指示、 「対象アイテム」テーブル、 「アイテムの説明」属性 |
|--|-------------------------|-----------------------------|--------------------------|--|
| 名前 | 「適用先」プロパティ | 名前 | 「適用先」プロパティ | |
| 変更(プレリミナリ・アイテム) (初版リビジョンまたは保留中リビジョンに適用) | 追加: アイテム.タイプ・ブロック.説明 | 変更オブジェクト・タイプのすべてのデフォルト権限マスク | 削除: 変更.対象アイテム.アイテムの説明 | 非表示(無効化): 古いアイテムの説明 有効化および名前変更: 新しいアイテムの説明の設定: アイテムの説明 |

| デフォルトのアイテム権限マスク | | デフォルトの変更権限マスク | | 変更指示、 「対象アイテム」テーブル、 「アイテムの説明」属性 |
|-----------------|-------------------------|-----------------------------|--------------------------|--|
| 名前 | 「適用先」プロパティ | 名前 | 「適用先」プロパティ | |
| 変更(リリース済アイテム) | 追加: アイテム.タイプ.ブロック.説明 | 変更オブジェクト・タイプのすべてのデフォルト権限マスク | 削除: 変更.対象アイテム.アイテムの説明 | 非表示(無効化): 古いアイテムの説明 有効化および名前変更: 新しいアイテムの説明の設定: アイテムの説明 |

リビジョン管理、すべてのアイテム

目標: 変更指示のアイテム・タイプ(サブクラス)の説明のみを変更します。

注意 変更指示によって変更される各アイテム・タイプ(サブクラス)にのみ、変更指示の変更権限マスク(\$AFFECTEDITEMTYPEの条件付き)が必要です。

| デフォルトのアイテム権限マスク | | デフォルトの変更権限マスク | | 変更指示、 「対象アイテム」テーブル、 「アイテムの説明」属性 |
|---|-------------------------|-----------------------------|---|--|
| 名前 | 「適用先」プロパティ | 名前 | 「適用先」プロパティ | |
| 変更(プレリミナリ・アイテム)(特定のアイテム・タイプ) (初版リビジョンまたは保留中リビジョンに適用) | 削除: アイテム.タイプ.ブロック.説明 | 変更オブジェクト・タイプのすべてのデフォルト権限マスク | 追加: 変更.対象アイテム.アイテムの説明 ここで、 変更.対象アイテム.アイテム・タイプ=(特定のアイテム・タイプ) 次の条件を使用: 変更. \$AFFECTEDITEMTYPE=(特定のアイテム・タイプ) | 表示(有効化): 古いアイテムの説明 および (新しい)アイテムの説明 |

| デフォルトのアイテム権限マスク | | デフォルトの変更権限マスク | | 変更指示、 「対象アイテム」テーブル、 「アイテムの説明」属性 |
|--|------------------------------|---|---|--|
| 名前 | 「適用先」プロパティ | 名前 | 「適用先」プロパティ | |
| 変更(リリース 済アイテム) (特定のアイテ ム・タイプ) | 削除: アイテム.タイト ル・ブロック.説明 | 変更オブ ジェクト・タ イプのすべ てのデフォ ルト権限マ スク | 追加: 変更.対象アイテム. アイテムの説明 ここで、 変更.対象アイテム. アイテム・タイプ= (特定のアイテ ム・タイプ) 次の条件を使用: 変更. \$AFFECTEDITEMT YPE=(特定のアイテ ム・タイプ) | 表示 (有効化) : 古いアイテムの説明 および (新しい)アイテムの説明 |

目標: アイテム・オブジェクトまたは変更指示のアイテムの説明を変更します。

注意 アイテムのサブクラスで変更される各アイテム・タイプ（サブクラス）に対して、変更権限マスク（タイトル・ブロック・部品タイプの条件付き）が必要です。

| デフォルトのアイテム権限マスク | | デフォルトの変更権限マスク | | 変更指示、 「対象アイテム」テーブル、 「アイテムの説明」属性 |
|---|-------------------------|-----------------------------|--------------------------|--|
| 名前 | 「適用先」プロパティ | 名前 | 「適用先」プロパティ | |
| 変更(プレリミナリ・アイテム) (特定のアイテム・タイプ) (初版リビジョンまたは保留中リビジョンに適用) | 追加: アイテム.タイトル・ロック.説明 | 変更オブジェクト・タイプのすべてのデフォルト権限マスク | 削除: 変更.対象アイテム.アイテムの説明 | 非表示 (無効化) : 古いアイテムの説明 有効化および名前変更: 新しいアイテムの説明の設定: アイテムの説明 |
| 変更(リリース済アイテム) (特定のアイテム・タイプ) | 追加: アイテム.タイトル・ロック.説明 | 変更オブジェクト・タイプのすべてのデフォルト権限マスク | 削除: 変更.対象アイテム.アイテムの説明 | 非表示 (無効化) : 古いアイテムの説明 有効化および名前変更: 新しいアイテムの説明の設定: アイテムの説明 |

リビジョン管理、すべてのアイテム

目標: 変更指示のアイテムの説明のみを変更します。

| デフォルトのアイテム権限マスク | | デフォルトの変更権限マスク | | 変更指示、 「対象アイテム」テーブル、 「アイテムの説明」属性 |
|--|-------------------------|-----------------------------|--------------------------|---|
| 名前 | 「適用先」プロパティ | 名前 | 「適用先」プロパティ | |
| 変更(プレリミナリ・アイテム) (初版リビジョンまたは保留中リビジョンに適用) | 削除: アイテム.タイトル・ロック.説明 | 変更オブジェクト・タイプのすべてのデフォルト権限マスク | 追加: 変更.対象アイテム.アイテムの説明 | 表示 (有効化) : 古いアイテムの説明 および (新しい) アイテムの説明 |
| 変更(リリース済アイテム) | 削除: アイテム.タイトル・ロック.説明 | 変更オブジェクト・タイプのすべてのデフォルト権限マスク | 追加: 変更.対象アイテム.アイテムの説明 | 表示 (有効化) : 古いアイテムの説明 および (新しい) アイテムの説明 |

目標: アイテム・オブジェクトまたは変更指示のアイテムの説明を変更します。

| デフォルトのアイテム権限マスク | | デフォルトの変更権限マスク | | 変更指示、 「対象アイテム」テーブル、 「アイテムの説明」属性 |
|--|-------------------------|-----------------------------|--------------------------|---|
| 名前 | 「適用先」プロパティ | 名前 | 「適用先」プロパティ | |
| 変更(プレリミナリ・アイテム) (初版リビジョンまたは保留中リビジョンに適用) | 追加: アイテム.タイトル・ロック.説明 | 変更オブジェクト・タイプのすべてのデフォルト権限マスク | 追加: 変更.対象アイテム.アイテムの説明 | 表示 (有効化) : 古いアイテムの説明 および (新しい) アイテムの説明 |
| 変更(リリース済アイテム) | 追加: アイテム.タイトル・ロック.説明 | 変更オブジェクト・タイプのすべてのデフォルト権限マスク | 追加: 変更.対象アイテム.アイテムの説明 | 表示 (有効化) : 古いアイテムの説明 および (新しい) アイテムの説明 |

Product Collaborationオブジェクト・タブの設定についての注意事項

- 「BOM」タブおよび「製造元」タブの編集可能な属性のみをレッドラインできます。詳細は、『Agile PLM 管理者ガイド』の「クラス」、読み取りフィールドに関するセクションを参照してください。
- BOM一括変更ウィザードでアセンブリからアイテムを置換または削除する場合に、ユーザーが一括置換または削除するアイテムを特定すると、そのアイテムが使用されているアセンブリのテーブルがウィザードに表示されます。このテーブルは、アイテムの「使用箇所」タブから取得されます。つまり、アイテム・オブジェクトの「使用箇所」タブに表示されるすべての属性は、BOM一括変更ウィザードにも表示されます。
たとえば、BOM一括変更ウィザードのテーブルにアセンブリ・リビジョンを表示する場合は、アイテム・オブジェクトの「使用箇所」タブで「リビジョン」属性を有効化(表示)する必要があります。詳細は、『Agile PLM 管理者ガイド』の「クラス」、タブの設定に関するセクションを参照してください。

Product Collaborationに影響するAgile PLM設定についての注意事項

- ユーザーが「名前を付けて保存」機能を使用してアイテムを作成する場合は、「製造元部品に複数アイテム」スマートルールが適用されます。つまり、元のアイテムに製造元部品がある場合に、ユーザーがそのアイテムを表示して「名前を付けて保存」を選択すると、新しいアイテムにこのスマートルールが適用されます。このスマートルールが「不可」に設定されている場合、ユーザーに対してエラー・メッセージが表示され、新しいアイテムを作成できません。このスマートルールが「警告」または「可」に設定されている場合は、エラー・メッセージは表示されず、新しいアイテムが作成されます。

拠点を設定する: 分散型製造

注意 Agile複数拠点製造の導入および設定の詳細は、『管理者ガイド』を参照してください。（Agile複数拠点製造の詳細は、29ページの「[拠点および分散型製造](#)」を参照してください。）

Agile管理者が Agile PLM 拠点ライセンスを有効にすると、Agile 拠点オブジェクトおよび Agile PLM 複数拠点製造機能が使用可能になります。Agile 複数拠点製造機能は、複数の場所で製品を製造する会社を支援するためには使用されます（分散型製造）。この機能を使用する前に、Agile PLM 複数拠点製造と ERP システムとの統合方法を決定および計画する必要があります。

警告 Agile PLM 複数拠点製造機能は、ERP の拠点とは異なる方法で構築されています。Agile 拠点オブジェクトと ERP の拠点は似ていますが、同じではありません。Agile 拠点ライセンスを有効にする前に、オラクル社コンサルティングの Agile 担当コンサルタントと協力して、Agile PLM と ERP の統合について計画する必要があります。Agile PLM で追跡する情報のタイプ、および Agile PLM でその情報を記録する方法は、ERP システムにどのように製品情報が保存されるかに応じて異なる場合があります。

Agile 複数拠点製造では、製造プロセスに固有の部品やドキュメントを複数の場所で使用できるため、複数の場所で製品を製造する会社にとって便利です。Agile PLM では、リビジョンはグローバルなアイテム属性です。ある部品が 2箇所の製造拠点で使用されている場合、その部品は同じリビジョン・レベルを共有している必要があります。ただし、有効日と対応策設定は異なる内容に設定できます。

Agile 複数拠点製造機能を使用すると、製品データに 3種類の拠点関係の注釈を設定できます。

□ **アイテム・オブジェクトと拠点の関係**

アイテムの「**拠点**」タブの「**拠点**」テーブルに拠点オブジェクトを追加することによって、1つのアイテムを1つ以上の拠点に関連付けることができます。アイテムと拠点の関係は、ERP におけるアイテムと拠点の関係と似ていますが、同じではありません。部品の「**拠点**」タブを表示することによって、いずれかの拠点で Agile 部品が有効になっているかどうかを確認できます。

- いずれの拠点でもリリースされていない部品には、グローバルなアイテムの有効日と対応策のみが設定されます。
- 拠点でリリースされている部品は、拠点別アイテムの有効日と対応策、およびグローバルなアイテムの有効日と対応策の両方を持つことができます。

□ **BOM の行と拠点の関係**

BOM の行と拠点の関係は、Agile PLM 固有の関係となります。子部品と親部品の関係は、拠点関係がない場合と、1つ以上の特定の拠点を経由する場合とがあります。BOM の各行には、拠点との関係がないか、または1つの拠点との関係があります。同じ子部品に対する複数の拠点関係を表現するには、複数の行を使用し、各行で1つの拠点を表現します。

- 親部品に属する子部品のうち、BOM の行と拠点の特定の関係が設定されているものは、共通部品と見なされます。つまり、すべての製造拠点に共通の部品であると見なされます。
- 親部品に属する子部品のうち、BOM の行と拠点の関係が設定されているものは、拠点別部品です。つまり、関係がある製造拠点に固有の部品です。

□ **AML テーブルの行と拠点の関係**

部品の「**製造元**」タブでは、拠点別 AML（承認済製造元リスト）を指定できます。部品製造元テーブルの行は、共通（拠点の指定なし）または拠点別（部品の「**拠点**」タブに表示された拠点との関連付けあり）にできます。BOM の行と拠点の関係および AML の行と拠点の関係は、相互に独立しています。

- AML の行と拠点の特定の関係を持たない製造元部品は共通製造元部品であり、任意の製造拠点で使用できます。
- AML の行と拠点の関係を持つ製造元部品は拠点別製造元部品であり、指定された製造拠点で使用できます。

他の重要な Agile PLM 拠点と ERP 拠点の違いは次のとおりです。

- 多くの ERP システムでは、部品は様々な拠点で表示され、そのリビジョンは独立しています。Agile では、リビジョンは部品のグローバル属性であると見なされます。したがって、Agile PLM では、拠点ベースのリビジョンはサポートされていません。このニーズに対応するには、SJC-P1000 や NYC-P100 のように、部品番号に一意の文字列を接頭辞または接尾辞として追加します。これらはグローバルなリビジョンを持つ一意の部品ですが、これらの部品は他の拠点では使用されないため、これらのリビジョンは拠点固有であるように見えます。
- アイテムと拠点の関係および BOM の行と拠点の関係は相互に独立しているため、最初に部品に拠点を追加することなく、拠点別 BOM 行として部品を BOM に追加できます。一般的な ERP システムとは異なり、Agile では、部品を拠点別 BOM 行に追加する前に拠点で部品をリリースしておく必要がありません。
- BOM に行を追加するとき、子にない拠点が親にある場合は、Agile PLM によって、子に拠点を追加するよう求められます。この操作は、オーサリング・モード（部品の直接編集）またはレッドライン・モード（レッドラインの変更による部品の変更）で、BOM 行を最初に追加するときにのみ求められます。ユーザーは、BOM に行を追加するとき、子に拠点を「**コピー**」することのみを選択できます。「**閉じる**」を選択すると、BOM 行は追加されません。後で追加の拠点が親に追加された場合、新しく追加された拠点は自動的には子にコピーされません。拠点が子から削除された場合、親と子の拠点の間の整合性チェックは行われません。
- 部品のリリース時に、リリース検証によって、スマートルール「アイテムを先にリリースする」が実行されます。親部品のリリース時に、このルールによって、BOM コンポーネントの拠点関連付けおよび BOM コンポーネントもリリースされているかどうかがチェックされます。リリース検証によって、拠点の追加後にアイテムが変更または製造元変更によってリリースされているかどうかが検証されます。このスマートルールをパスするには、拠点の追加後にアイテムがリリースされている必要があります。

変更制御下の属性とは

重要な用語と概念:

□ 変更制御下の属性

この用語は、変更で制御でき（変更指示または製造元変更でレッドラインでき）、Agile 管理者で変更制御下の属性であると設定された属性を表すために使用します。

□ リベース

リベースは、アイテムに対して複数の保留中の変更がある場合に、値を適切に変更するプロセスです。たとえば、2 つの ECO によって同じ BOM がレッドラインされている場合、最初の ECO がリリースされると、Agile PLM では 2 つ目の ECO を更新（リベース）する必要があります。

□ 「保留中の変更」

Agile PLM において、保留中の変更とは、ワークフローの最初のリリース済ステータスに到達していない変更を指します。

□ 変更

変更制御下の属性において、変更とは、変更指示（ECO）または製造元変更（MCO）を意味します。

Agile PLM の変更制御下の属性機能を使用すると、アイテム属性の変更方法を制御できます。Agile 管理者の「データ設定」ノードでアイテム属性の変更制御下プロパティを「はい」に設定すると、その属性は、変更指示（ECO）または製造元変更（MCO）を使用し、変更オブジェクトの「対象アイテム」タブと「タイトル・ロック」レッドライン・タブで属性をレッドライン編集することによってのみ変更できます。

注意 「タイトル・ロック」レッドライン・タブは、Web クライアントでのみ使用できます。

「タイトル・ロック」レッドライン属性の変更は、変更承認プロセスによって制御されます。提案された新しい属性値は、変更がリリースされるまでは使用されません。変更がキャンセルされた場合、提案された新しい値は破棄され、使用されません。

変更制御下の属性は、アイテム・オブジェクトではリビジョンごとに表示されません。ユーザーが「リビジョン」ドロップダウン・リストで異なるリビジョンを選択すると、各リビジョンに対してリビジョン管理された適切な属性（「説明」など）がアイテムに表示されます。変更制御下の属性では、「リビジョン」の選択内容に関係なく、その属性の最新の値が表示されます。

アイテム属性の履歴値を表示および比較するために、Agile PLM 9.3 にはアイテム属性履歴レポートが用意されています。このレポートを使用すると、各リビジョンで行われた属性の変更を表示できます。リビジョン管理された属性と変更制御下の属性の両方をレポートに含めることができます。183 ページの「[アイテム属性履歴レポート](#)」も参照してください。

変更制御下の属性には、「タイトル・ロック」属性、「ページ 2」属性、「ページ 3」属性が含まれます。変更制御下の各属性に対して、変更制御下属性プロパティを「はい」に設定します。アイテムが変更指示（ECO）または製造元変更（MCO）に追加されると、Web クライアントでは変更の「対象アイテム」タブに「タイトル・ロック」レッドライン・タブが表示されます。

変更制御下の属性を設定する

変更制御下のアイテム属性を設定する手順は次のとおりです。

1. Java クライアントの Agile 管理者にログインして、設定するオブジェクト・タブに移動します。
2. 「属性」タブで、必要な属性をダブルクリックします。
3. 「変更制御下」を「はい」に設定して、「保存」をクリックします。

次の属性を変更制御下の属性として定義できます。

- リビジョン管理されていない「タイトル・ブロック」属性。リビジョン管理された属性では、「属性」テーブルの「変更制御下」カラムに「該当なし」と表示されます。
- 「ページ 2」属性（「作成者」属性を除く）。
- 「ページ 3」属性

